

とくしまの青少年に関する意識調査 報告書

令和3年（2021年）9月
徳島県

目次

I 調査の設計	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の事項	1
3. 調査の対象	1
4. 対象者の抽出方法	1
5. 調査の方法	1
6. 調査の期間	1
7. 調査票配布数と回収状況	1
8. 抽出の詳細	2
9. 報告書の見方について	3
II 回答者の属性	4
1. 年齢	4
2. 居住地域	4
3. 世帯構成	5
4. 就学別	5
5. 通学の有無	6
6. 職業別	6
III 調査の結果	7
1. 人生観・充実度について	7
(1) 生活の充実度	7
(2) 悩みや心配なこと	9
(3) 自分自身にあてはまること	12
(4) 人生観	21
(5) 居場所	26
(6) 夢や希望	30
(7) 結婚への考え	31
2. 家庭・家族について	36
(1) 家族・親族とのかかわり	36
3. 学校生活について	44
(1) 学校で勉強する理由	44
(2) 学校で出会った友人とのかかわり	47
4. 地域づくり・地域への愛着について	55
(1) 地域の人とのかかわり	55
(2) 地域・社会活動への参加	63
(3) 地域への愛着	73
(4) 将来の居住意向	81

(5) 徳島県に期待する展望	83
5. 国際交流について	86
(1) 国際交流の経験	86
(2) 国際交流への考え	89
6. 就労への意識について	92
(1) 仕事選びで重視すること	92
(2) 将来つきたい職業	95
(3) 仕事関係の人とのかかわり	98
7. インターネットについて	103
(1) インターネット上での人とかかわり	103
(2) ネット上での誹謗中傷やいじめ	108
(3) インターネットの危険性に関する学習	109
8. 青少年の健全育成について	114
(1) 自身の世代の特徴	114
(2) 各種活動への興味関心	119
9. 生きづらさについて	121
(1) 現在と過去の外出頻度	121
(2) 外出しなくなった経緯や状況	123
(3) 相談機関への相談意向	131
(4) 格差を感じる場面	134
10. R1 国調査「子供・若者インデックスボード」との比較	135
(1) 自己について	135
(2) 周囲について	136
11. 自由意見	143
IV 調査票	147

I 調査の設計

1. 調査の目的

徳島県の青少年の生活の実態、社会や生き方等についての考えを把握し、今後の青少年施策のあり方を検討するとともに、「とくしま青少年プラン」の次期プランを策定する際の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の事項

- (1) ご自身について
- (2) 家庭・家族について
- (3) 学校生活について
- (4) 地域づくり・地域への愛着について
- (5) 国際交流について
- (6) 就労への意識について
- (7) インターネットについて
- (8) 青少年の健全育成について
- (9) 生きづらさについて

3. 調査の対象

徳島県内在住の青少年（12～39 歳）：4,100 人

4. 対象者の抽出方法

- ①中学・高校・大学生：県内の中学校、高等学校、大学より、無作為に抽出。
- ②その他の青少年：各市町村の選挙人名簿から層化二段無作為抽出法により抽出。

5. 調査の方法

- ①中学・高校・大学生：各学校を通じて配布・回収
- ②その他の青少年：郵送法

6. 調査の期間

令和3年6月上旬～8月上旬まで

7. 調査票配布数と回収状況

有効回収数 2,864 票（有効回収率 69.9%）

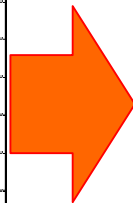
8. 抽出の詳細

【標本数の配分】

県内の市町村（8市15町1村）、それぞれを層として、各層における母集団数（令和2年1月1日現在の20～39歳人口）の大きさにより、1,000の標本数を比例配分した。

令和2年1月1日現在の20歳～39歳人口：総務省HPより

	総 数	男	女
県 計	140,248	71,456	68,792
徳 島 市	52,484	26,408	26,076
鳴 門 市	10,253	5,171	5,082
小 松 島 市	6,939	3,647	3,292
阿 南 市	13,594	7,215	6,379
吉 野 川 市	7,107	3,658	3,449
阿 波 市	6,228	3,086	3,142
美 馬 市	4,902	2,501	2,401
三 好 市	3,572	1,870	1,702
勝 浦 町	770	437	333
上 勝 町	194	106	88
佐 那 河 内 村	294	153	141
石 井 町	4,914	2,411	2,503
神 山 町	697	363	334
那 賀 町	983	533	450
牟 岐 町	453	241	212
美 波 町	936	486	450
海 陽 町	1,290	642	648
松 茂 町	3,351	1,804	1,547
北 島 町	5,068	2,557	2,511
藍 住 町	7,893	3,862	4,031
板 野 町	2,540	1,279	1,261
上 板 町	2,083	1,076	1,007
つ る ぎ 町	1,181	634	547
東 み よ し 町	2,522	1,316	1,206



抽出数

総 数	男	女
1,000	510	490
374	188	186
73	37	36
49	26	23
97	51	46
51	26	25
44	22	22
35	18	17
25	13	12
5	3	2
2	1	1
2	1	1
35	17	18
5	3	2
7	4	3
4	2	2
6	3	3
10	5	5
24	13	11
36	18	18
56	28	28
18	9	9
15	8	7
9	5	4
18	9	9

【抽出】

- ①令和3年3月1日現在の投票区を、第1抽出単位として使用した。
- ②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が30前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

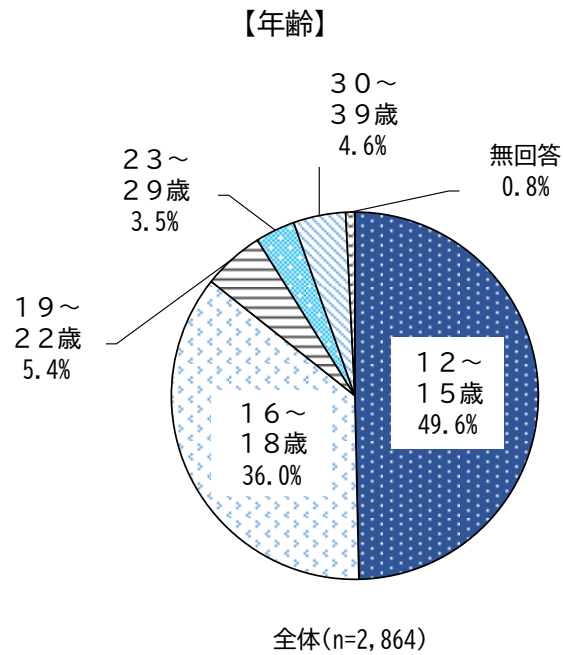
- ④調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。

9. 報告書の見方について

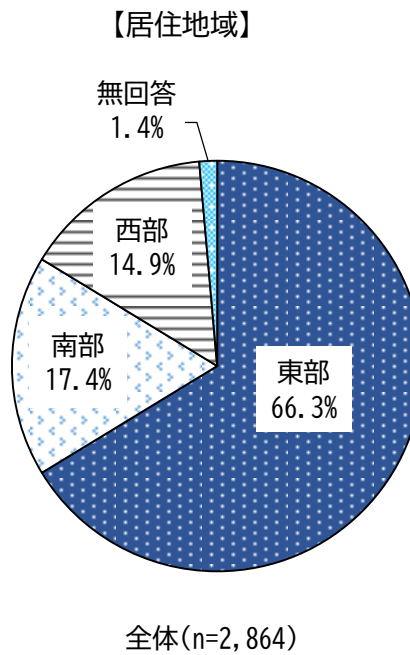
- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示している。各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は回答者数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、見やすさを考慮し、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。また、0.0%の表記は省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (4) 一部の調査結果については、平成28年度に本県が実施した同様の調査や、令和元年度・令和2年度に内閣府が実施した調査と比較を実施している。比較対象の調査は下記のように略記する。
 - ・ 前回調査：平成28年度「とくしま青少年に関する意識調査」（徳島県）
 - ・ R1 国調査：令和元年度「子供・若者の意識に関する調査」（内閣府）
 - ・ R2 国調査：令和2年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）
- (5) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

1. 年齢

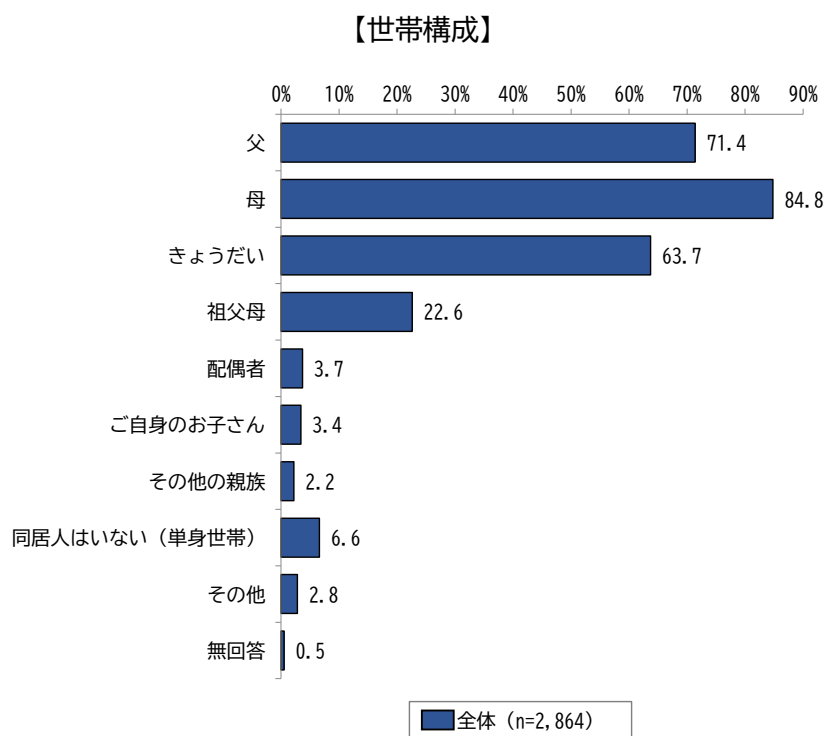


2. 居住地域

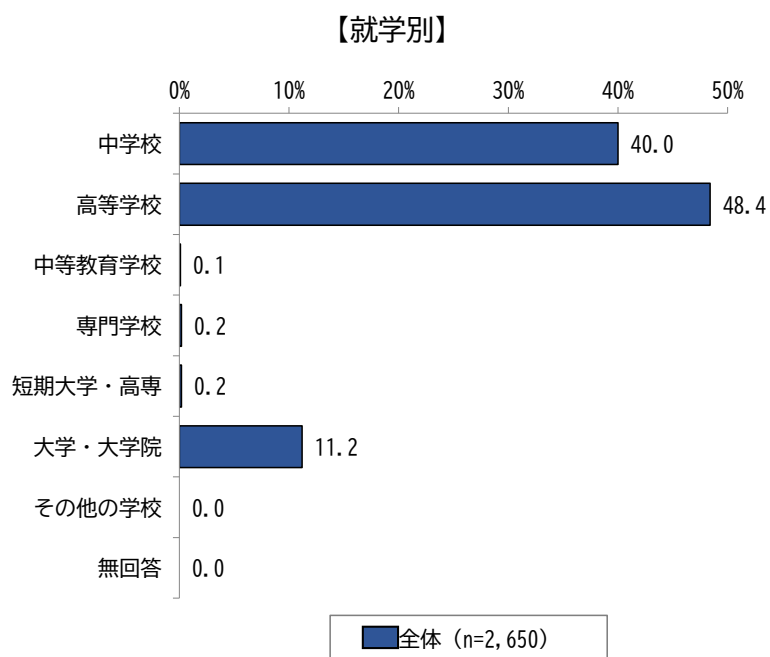


Ⅱ 回答者の属性

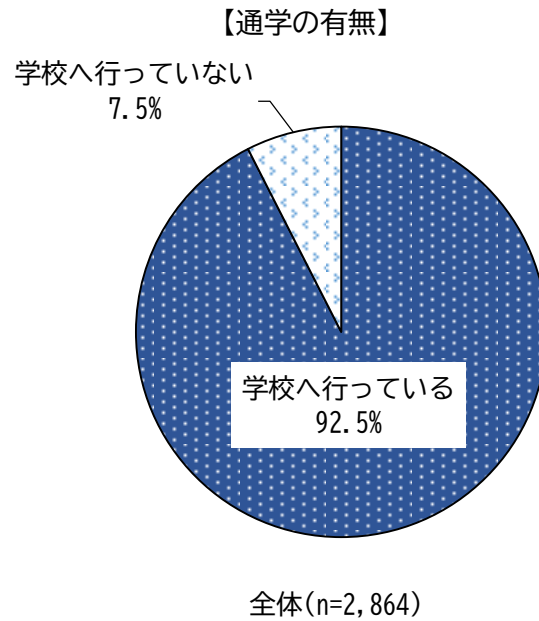
3. 世帯構成



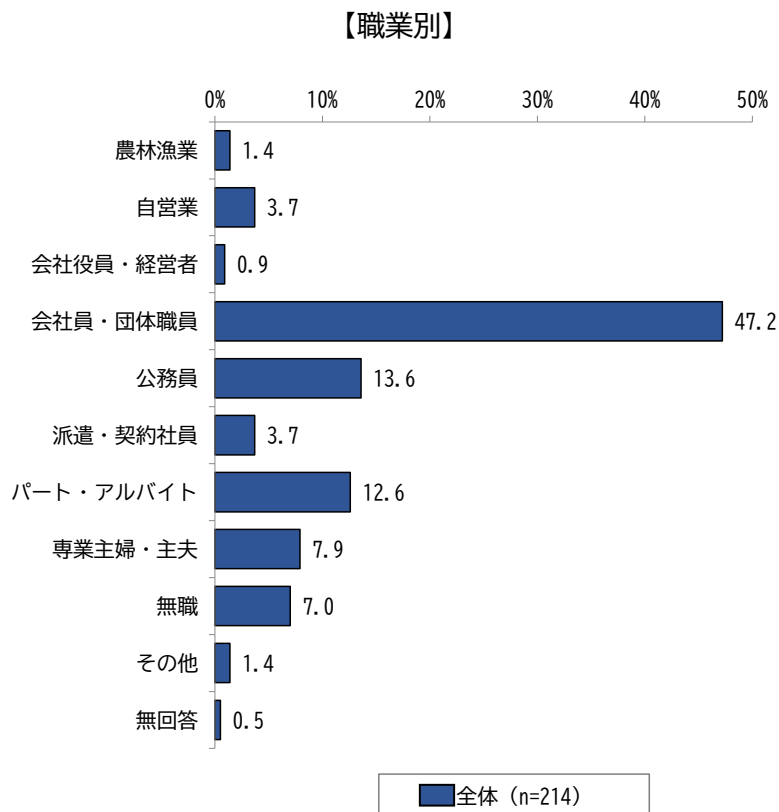
4. 就学別



5. 通学の有無



6. 職業別



Ⅲ 調査の結果

1. 人生観・充実度について

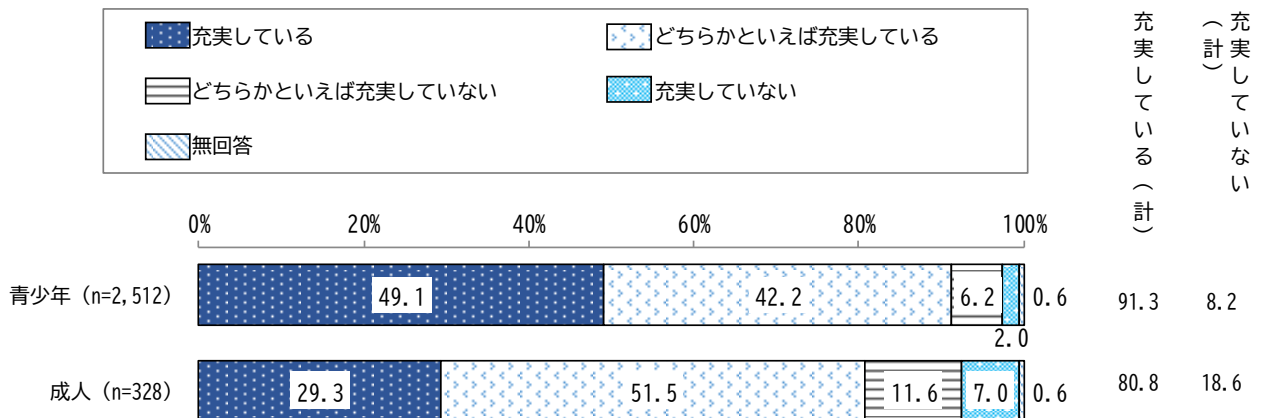
(1) 生活の充実度

問1. あなたは、今の生活が充実していると思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つに○)

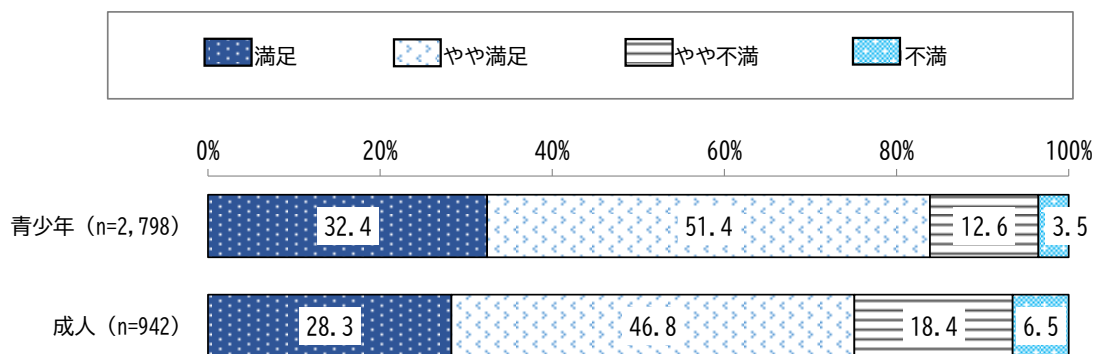
今の生活の充実度について、今の生活が「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合わせた充実層が8割を超えており（青少年 91.3%、成人 80.8%）、今の生活が比較的充実しているという結果となっている。

前回調査では「生活の満足度」という異なる項目であったが、前回調査の「満足」「やや満足」を合わせた満足層（青少年 83.8%、成人 75.1%）と比較すると、青少年、成人ともに増加している。

【調査対象別：生活の充実度】



【H28 前回調査：生活の満足度】



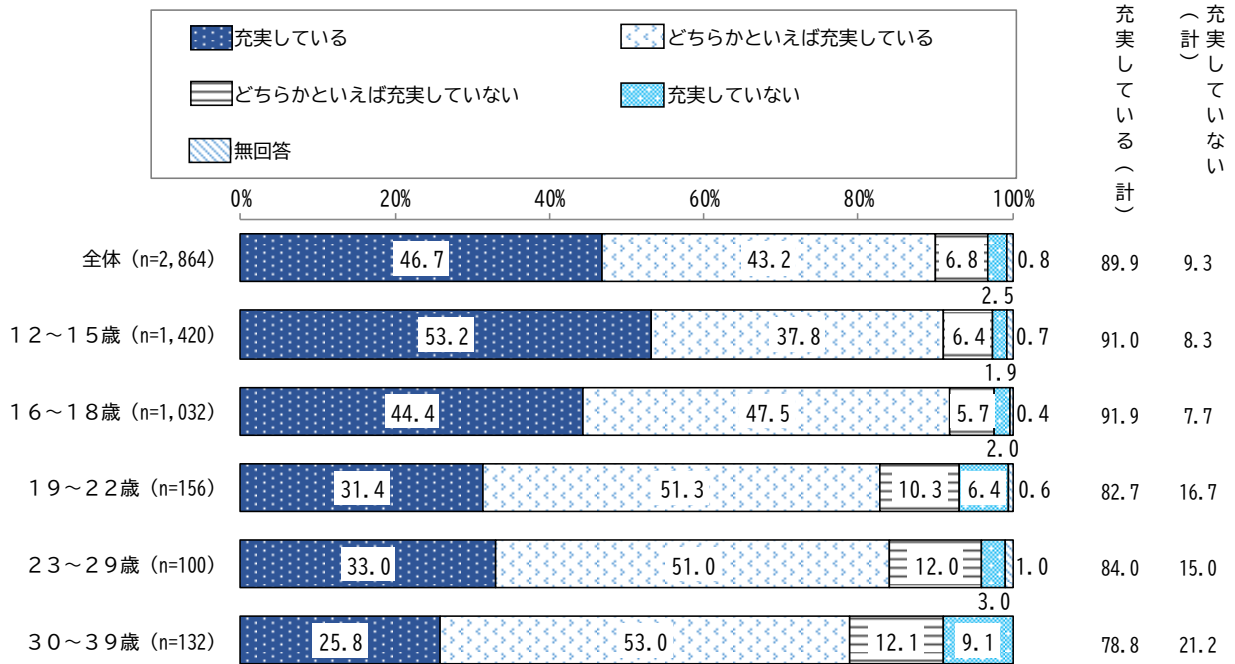
※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

Ⅲ 調査の結果

今の生活の充実度について、全体をみると、「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合わせた充実層が 89.9%と約9割を占めている。

年齢別にみると、今の生活が「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合わせた充実層はいずれも7割を超えている。特に12～18歳では充実層が9割を超えており、19歳以上と比べて「充実している」の割合も高くなっている。

【年齢別クロス集計：生活の充実度】



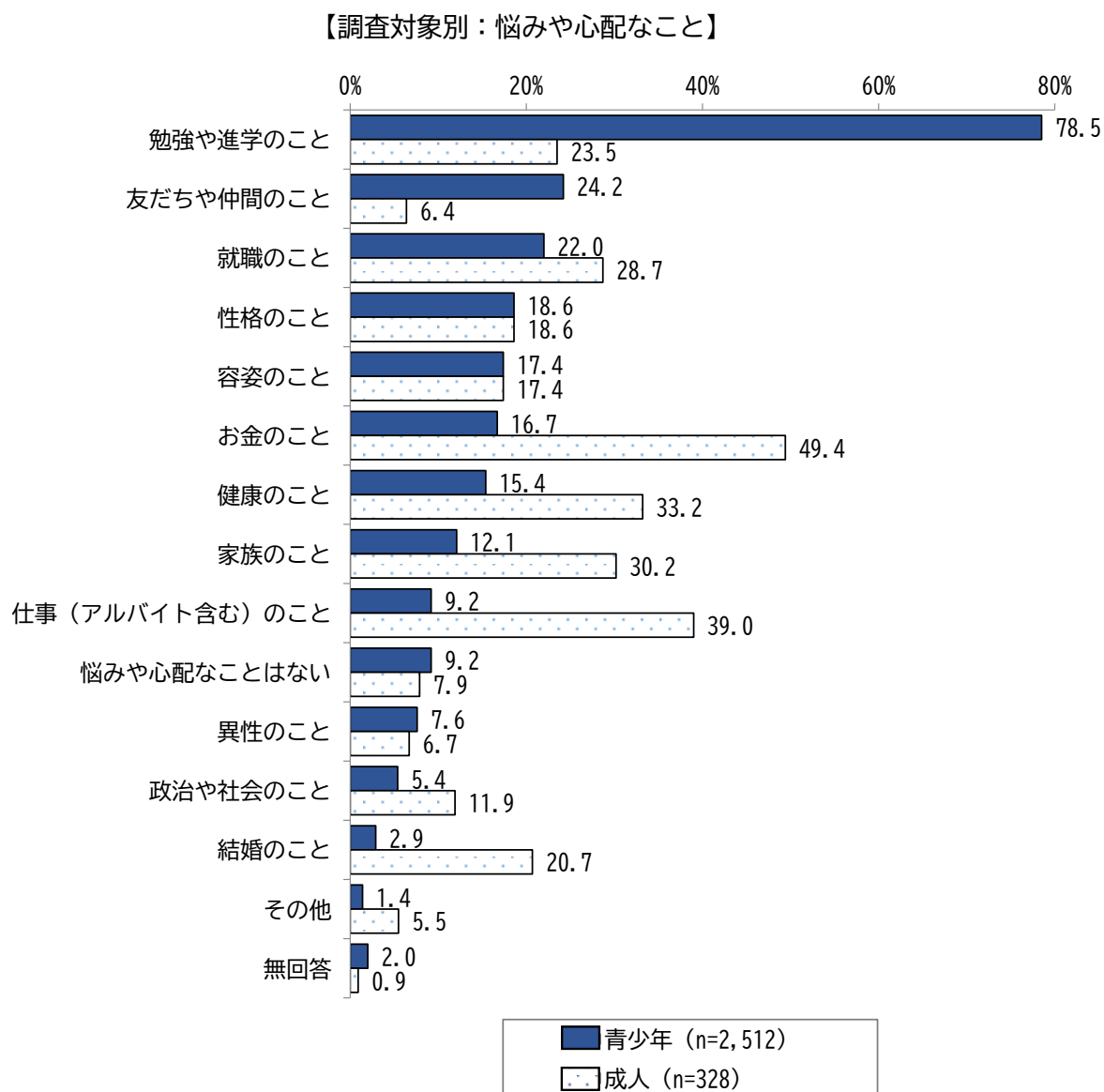
(2) 悩みや心配なこと

問2. あなたは、どんな悩みや心配なことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや心配なことについて、青少年では「勉強や進学のこと」(78.5%)が最も高く、次いで「友だちや仲間のこと」(24.2%)が続いている。

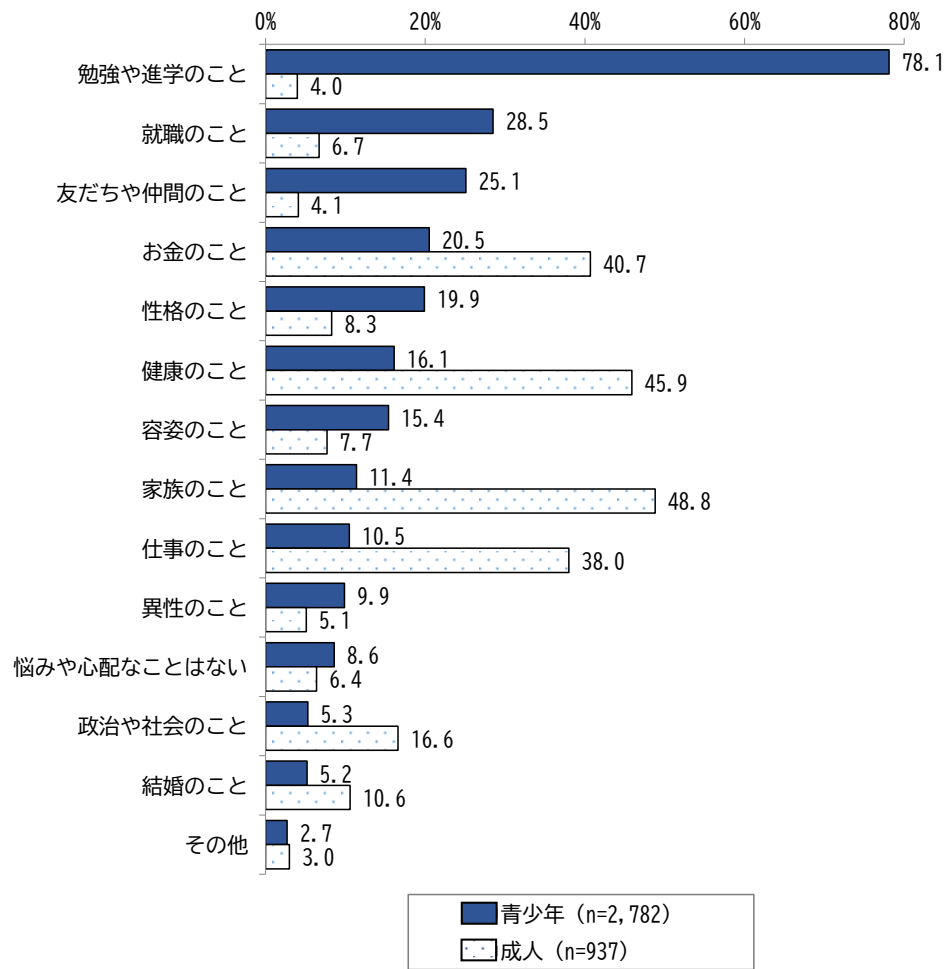
成人では「お金のこと」(49.4%)が最も高く、次いで「仕事(アルバイト含む)」のこと(39.0%)、「健康のこと」(33.2%)が続いている。その他の回答として青少年では「部活動のこと」、成人では「コロナのこと」等を心配する意見が挙げられている。

前回調査と比較すると、青少年では大きな差は見られないが、成人では「お金のこと」に対する悩みや心配が増加している。また、「健康のこと」、「家族のこと」に対する悩みや心配は減少している。



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：悩みや心配なこと】



Ⅲ 調査の結果

悩みや心配なことについて、全体をみると、「勉強や進学のこと」(72.0%)の割合が最も高く、次いで「就職のこと」(22.7%)、「友だちや仲間のこと」(22.0%)、「お金のこと」(20.4%)が続いている。

年齢別にみると、12～22歳では「勉強や進学のこと」が、23～39歳では「お金のこと」が最も高くなっている。また、「仕事（アルバイト含む）のこと」では年齢があがるにつれて悩みや心配を抱く割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：悩みや心配なこと】

		勉強や進学のこと	就職のこと	仕事（アルバイト含む）のこと	家族のこと	友だちや仲間のこと	異性のこと	結婚のこと	お金のこと
全体（n=2,864）		72.0	22.7	12.6	14.0	22.0	7.5	5.0	20.4
年齢別	12～15歳（n=1,420）	78.7	17.7	6.6	12.5	28.2	8.2	3.1	15.5
	16～18歳（n=1,032）	79.0	26.6	12.0	11.5	18.9	7.1	2.7	17.6
	19～22歳（n=156）	57.7	52.6	21.8	12.8	16.0	7.7	8.3	33.3
	23～29歳（n=100）	15.0	18.0	43.0	25.0	6.0	8.0	31.0	54.0
	30～39歳（n=132）	7.6	15.2	49.2	45.5	2.3	3.0	19.7	56.1

性格のこと	容姿のこと	政治や社会のこと	健康のこと	悩みや心配なことはない	その他	無回答
18.5	17.3	6.1	17.4	8.9	1.9	2.1
21.3	16.5	6.4	17.3	11.1	1.7	2.3
14.9	18.7	3.9	12.3	6.4	1.2	1.6
17.9	14.1	7.1	21.8	8.3	3.8	0.0
19.0	16.0	14.0	30.0	9.0	6.0	2.0
18.2	20.5	13.6	44.7	8.3	4.5	0.8

1位

2位

Ⅲ 調査の結果

(3) 自分自身にあてはまること

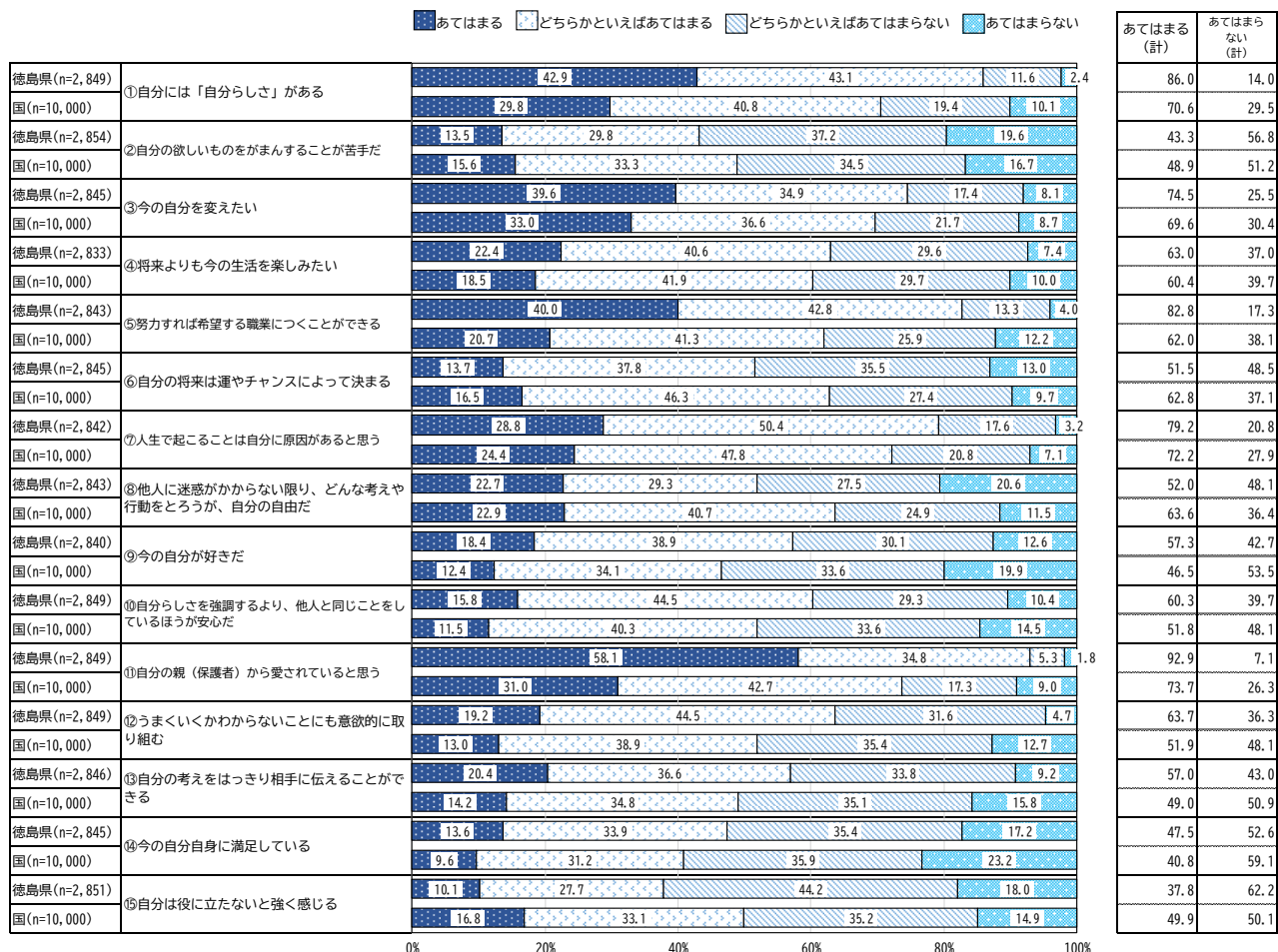
問3. あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれ1つに○)

自分自身について国調査と比較すると、どの設問についても、ポジティブな考え(①、③、⑨、⑪、⑫、⑬、⑭)については「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合が、ネガティブな考え(②、⑮)については「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合が、それぞれ徳島県の方が高くなっている。

中でも「①自分には『自分らしさ』がある」「⑪自分の親(保護者)から愛されていると思う」については、国の調査に比べて『あてはまる』の割合が特に高くなっている。

また、自分の行動や将来についての責任感(⑤、⑦)については、徳島県の方が運よりも自分の努力や行動によって決まる、と考えている割合が高くなっている。

【R1 国調査比較：自分自身について】

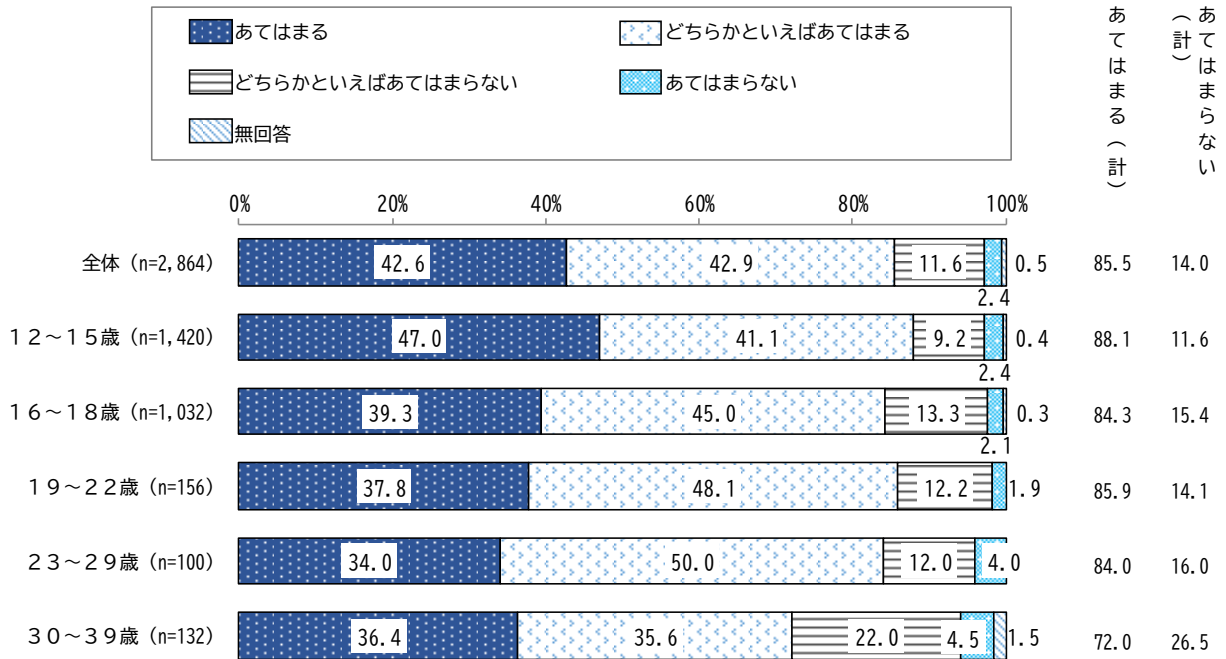


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「自分には『自分らしさ』があると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』（85.5%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が7割を超えている。12～15歳では88.1%と最も高くなっており、比較的自分には「自分らしさ」があると思っている人が多くなっている。

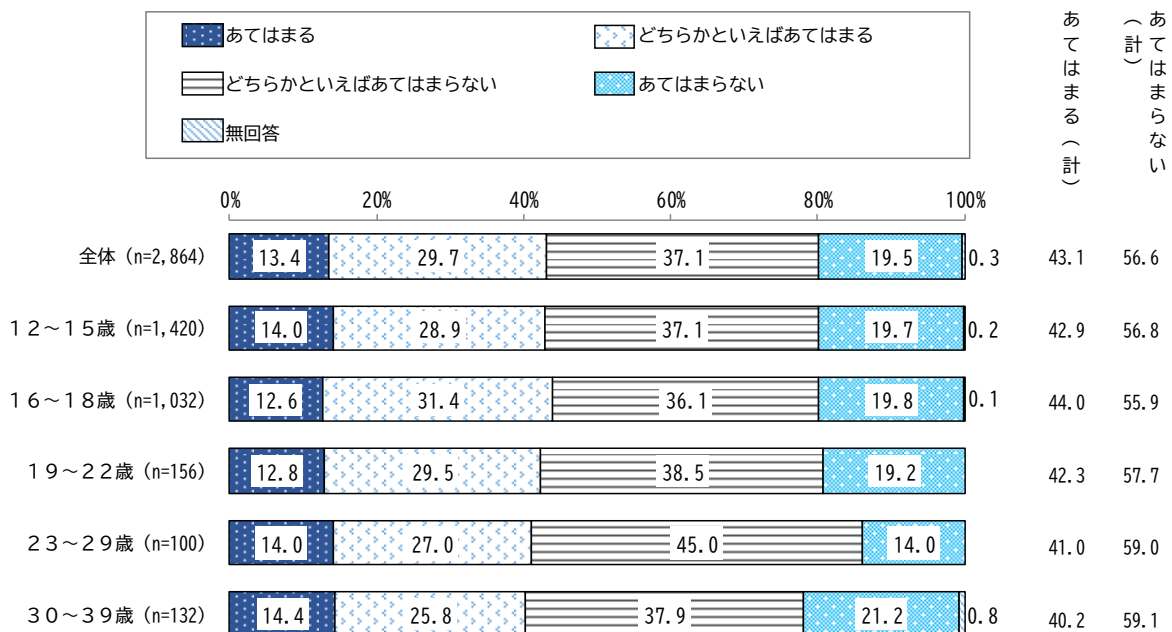
【年齢別クロス集計：自分には「自分らしさ」がある】



自分自身に関する設問のうち、「自分の欲しいものをがまんすることが苦手だと思うか」について、全体をみると、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』（56.6%）が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまらない』が5割を超えている。30～39歳では59.1%と最も高くなっており、比較的自分は欲しいものをがまんできると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ】

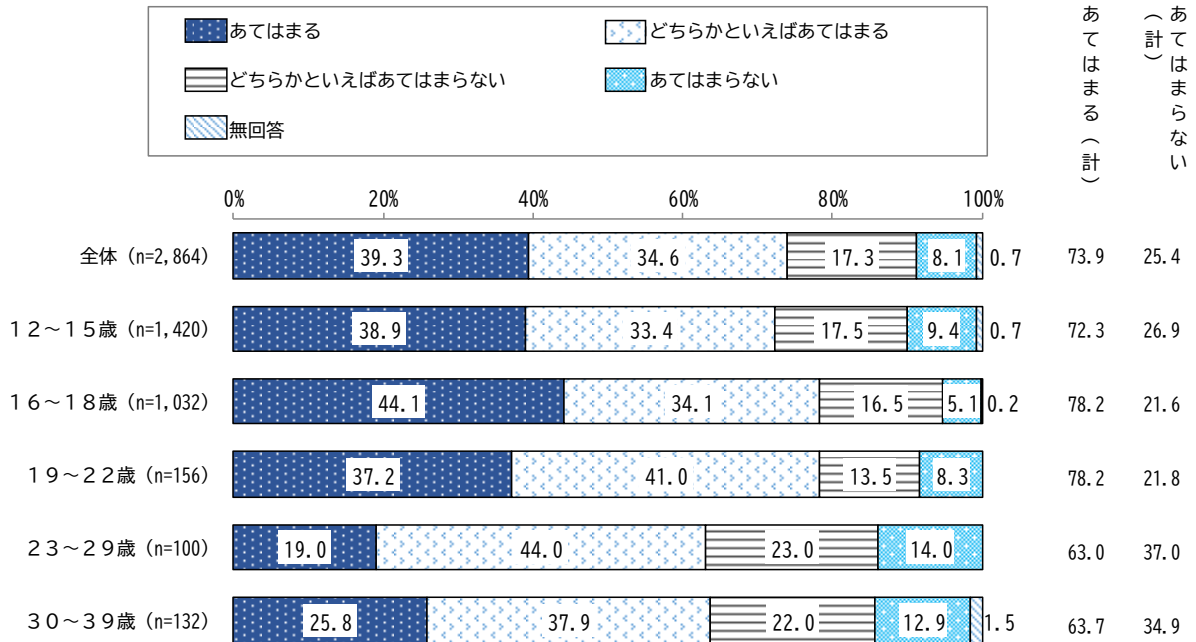


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「今の自分を変えたいと思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(73.9%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が6割を超えている。16～22歳では78.2%と最も高くなっており、比較的今の自分を変えたいと思っている人が多くなっている。

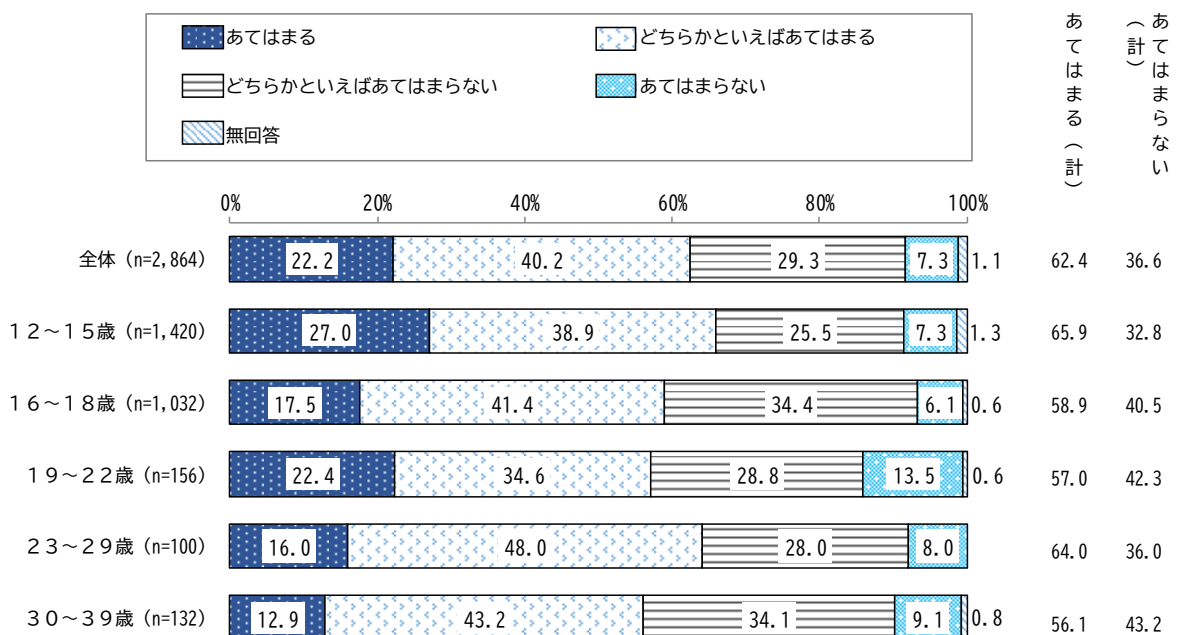
【年齢別クロス集計：今の自分を変えたい】



自分自身に関する設問のうち、「将来よりも今の生活を楽しみたいと思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(62.4%)が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が5割を超えている。12～15歳では65.9%と最も高くなっており、比較的将来よりも今の生活を楽しみたいと思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：将来よりも今の生活を楽しみたい】

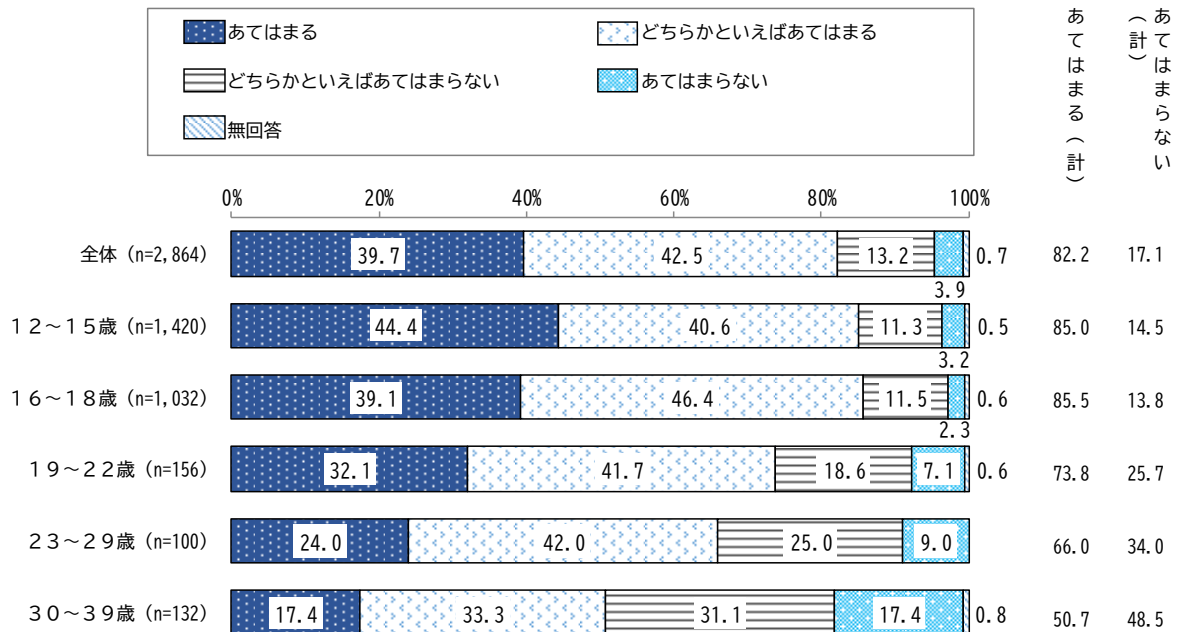


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「努力すれば希望する職業につくことができると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』（82.2%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が5割を超えている。16～18歳では85.5%と最も高くなっており、比較的努力すれば希望する職業につくことができると思っている人が多くなっている。

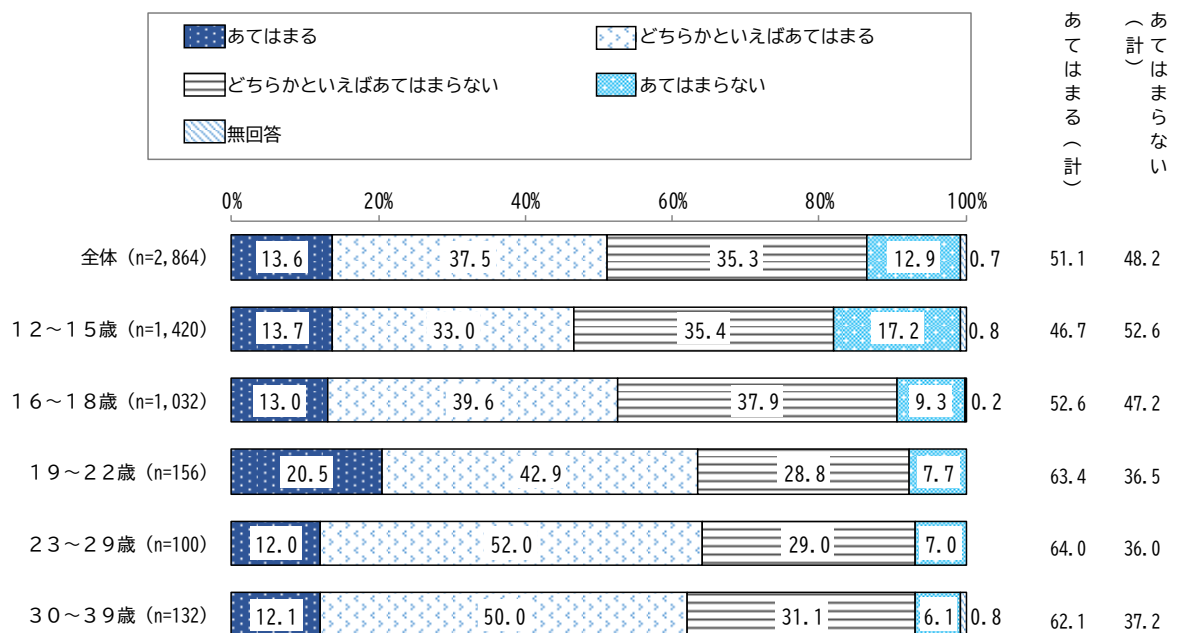
【年齢別クロス集計：努力すれば希望する職業につくことができる】



自分自身に関する設問のうち、「自分の将来は運やチャンスによって決まると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』（51.1%）が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳を除く年齢別で『あてはまる』が5割を超えている。23～29歳では64.0%と最も高くなっており、比較的自己の将来は運やチャンスによって決まると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：自分の将来は運やチャンスによって決まる】

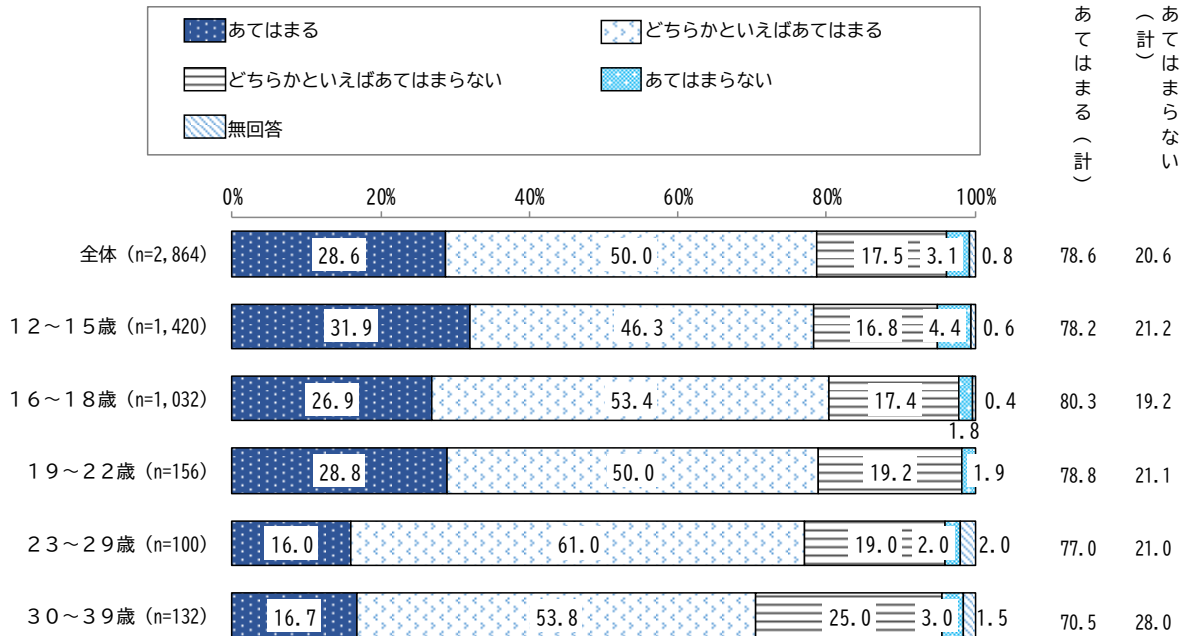


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「人生で起こることは自分に原因があると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(78.6%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が7割を超えている。16～18歳では80.3%と最も高くなっており、比較的人生で起こることは自分に原因があると思っている人が多くなっている。

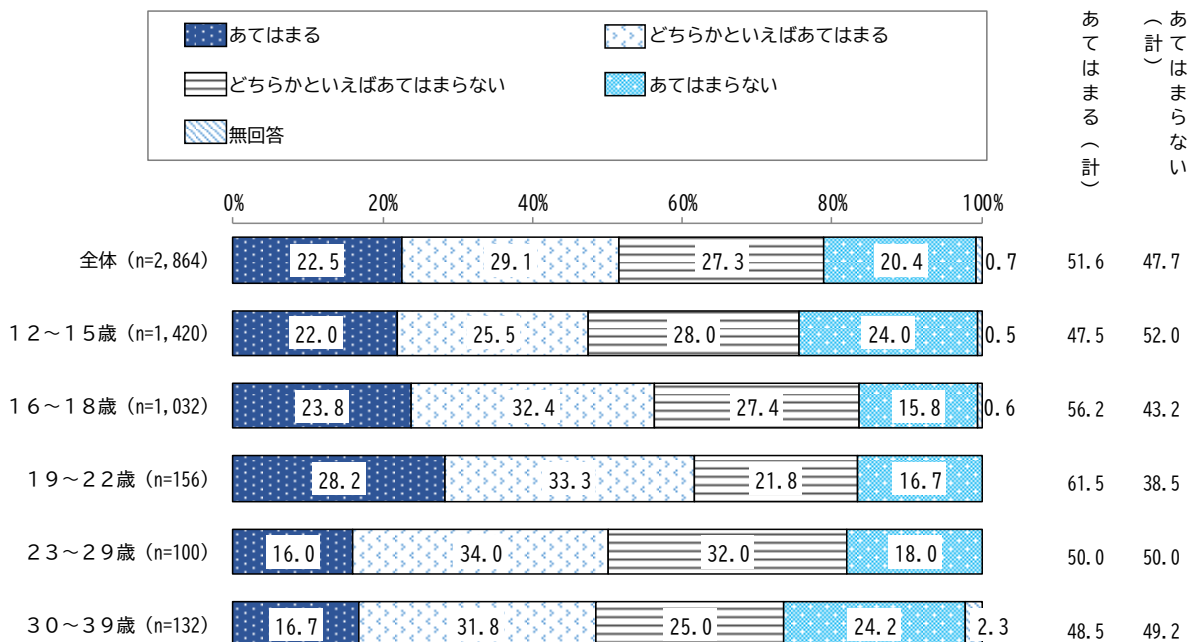
【年齢別クロス集計：人生で起こることは自分に原因があると思う】



自分自身に関する設問のうち、「他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をしようが、自分の自由だと思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(51.6%)が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳、30～39歳では『あてはまらない』が『あてはまる』を上回っており、16～18歳、19～22歳では『あてはまる』が『あてはまらない』を上回っている。

【年齢別クロス集計：他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をしようが、自分の自由だ】

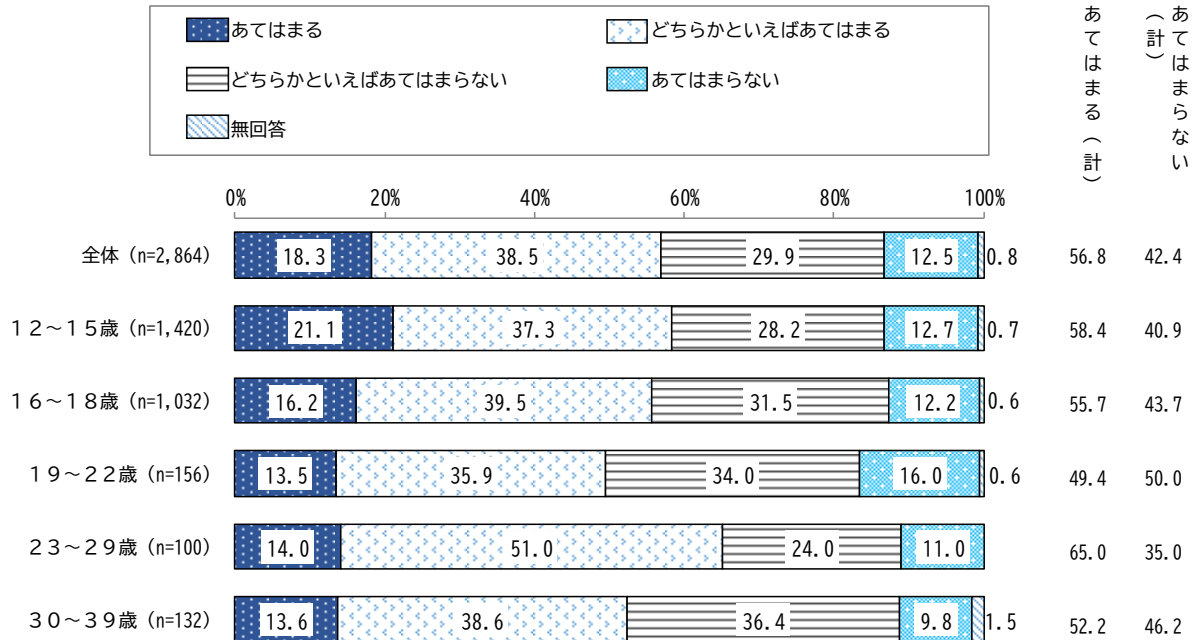


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「今の自分が好きだと思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(56.8%)が5割を超えている。

年齢別にみると、19～22歳を除く年齢別で『あてはまる』が『あてはまらない』を上回っている。23～29歳では『あてはまる』(65.0%)が最も高くなっており、比較的今の自分が好きだと思っている人が多いとなっている。

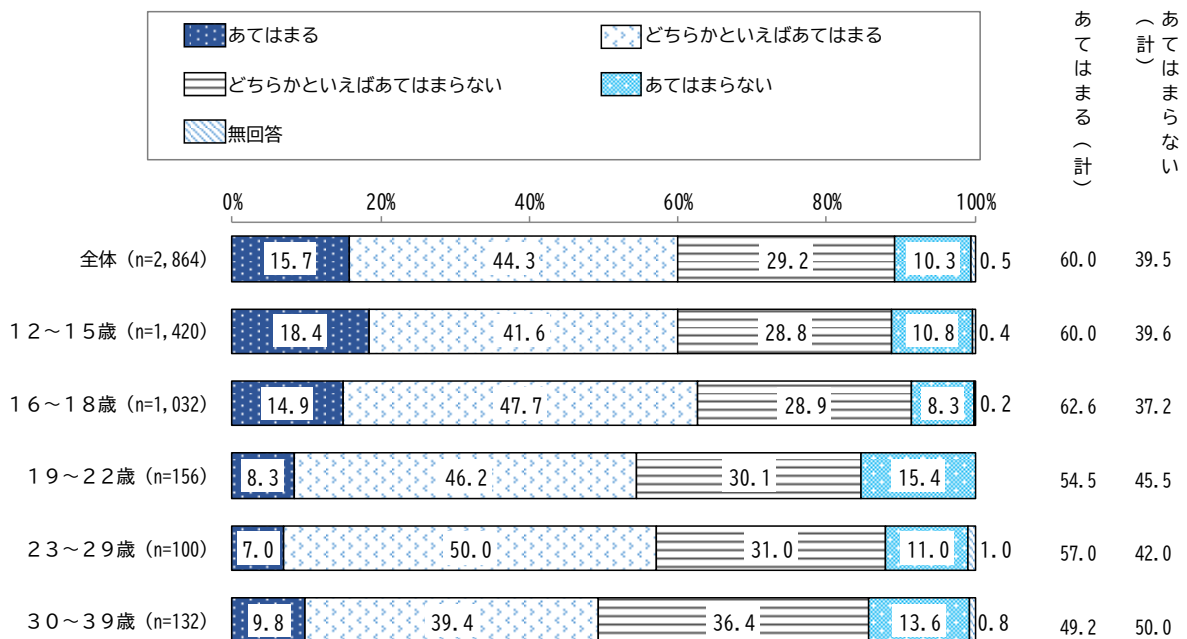
【年齢別クロス集計：今の自分が好きだ】



自分自身に関する設問のうち、「自分らしさを強調するより、他人と同じことをしているほうが安心だと思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(60.0%)が6割となっている。

年齢別にみると、30～39歳を除く年齢別で『あてはまる』が『あてはまらない』を上回っている。16～18歳では『あてはまる』(62.6%)が最も高くなっており、比較的他人と同じことをしているほうが安心だと思っている人が多いとなっている。

【年齢別クロス集計：自分らしさを強調するより、他人と同じことをしているほうが安心だ】

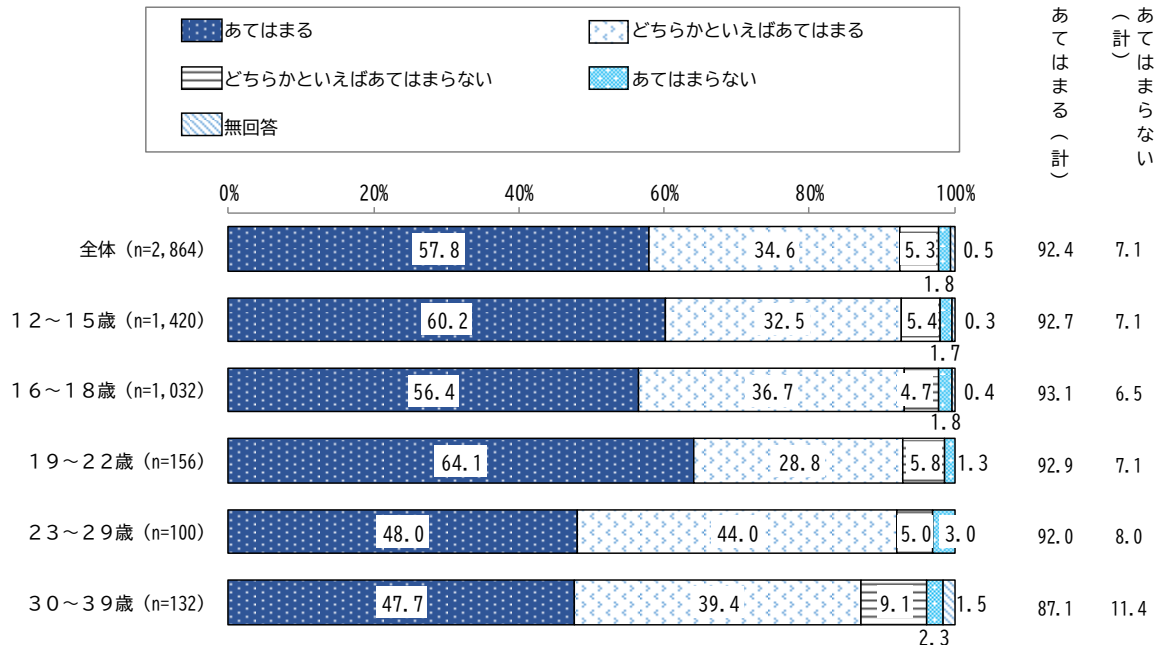


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「自分の親（保護者）から愛されていると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』（92.4%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が8割を超えている。16～18歳では93.1%と最も高くなっており、比較的親（保護者）から愛されていると思っている人が多くなっている。

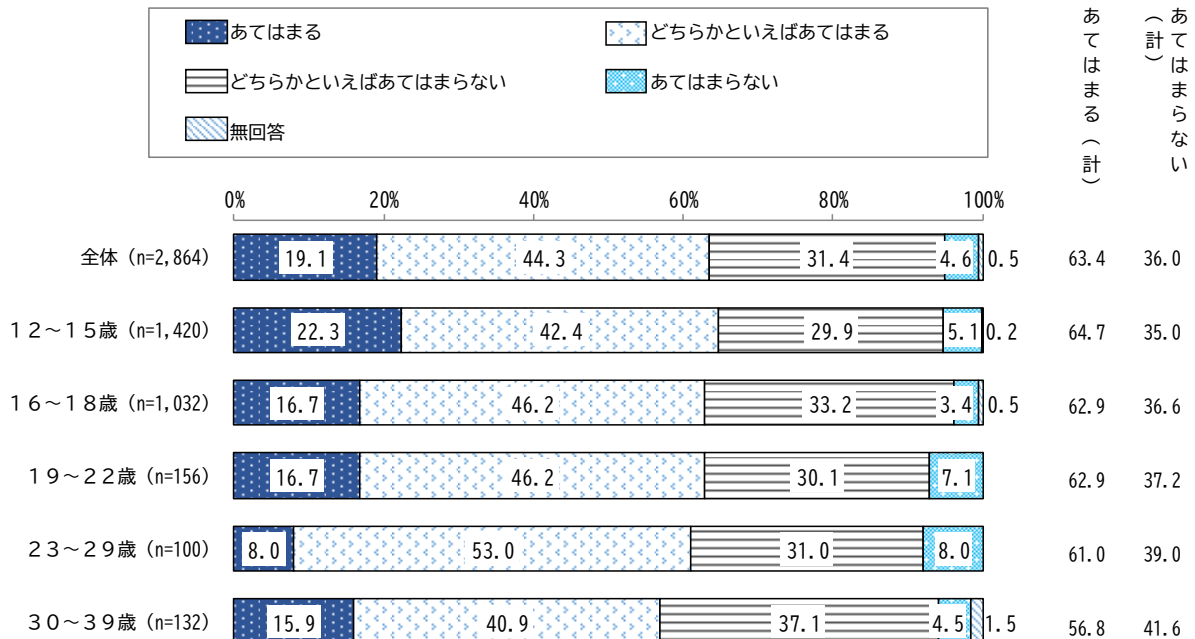
【年齢別クロス集計：自分の親（保護者）から愛されていると思う】



自分自身に関する設問のうち、「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組んでいると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』（63.4%）が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が5割を超えている。12～15歳では64.7%と最も高くなっており、比較的何事にも意欲的に取り組んでいる人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む】

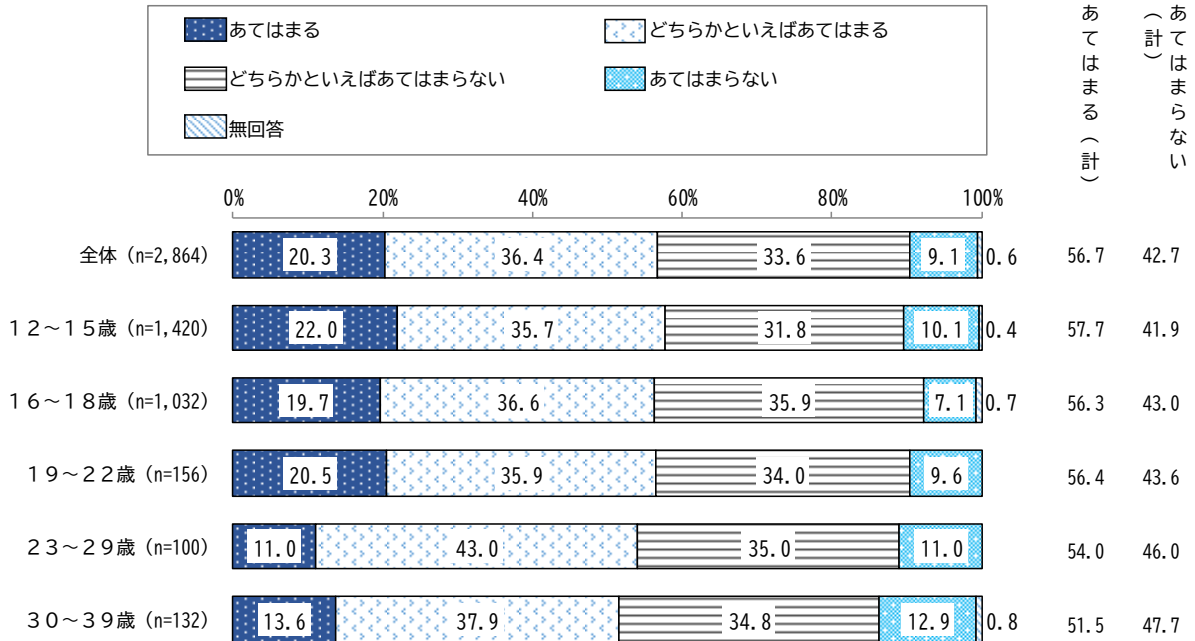


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができると思うか」について、全体をみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』(56.7%)が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまる』が5割を超えている。12～15歳では57.7%と最も高くなっており、比較的自分の考えを相手に伝えられる人が多くなっている。

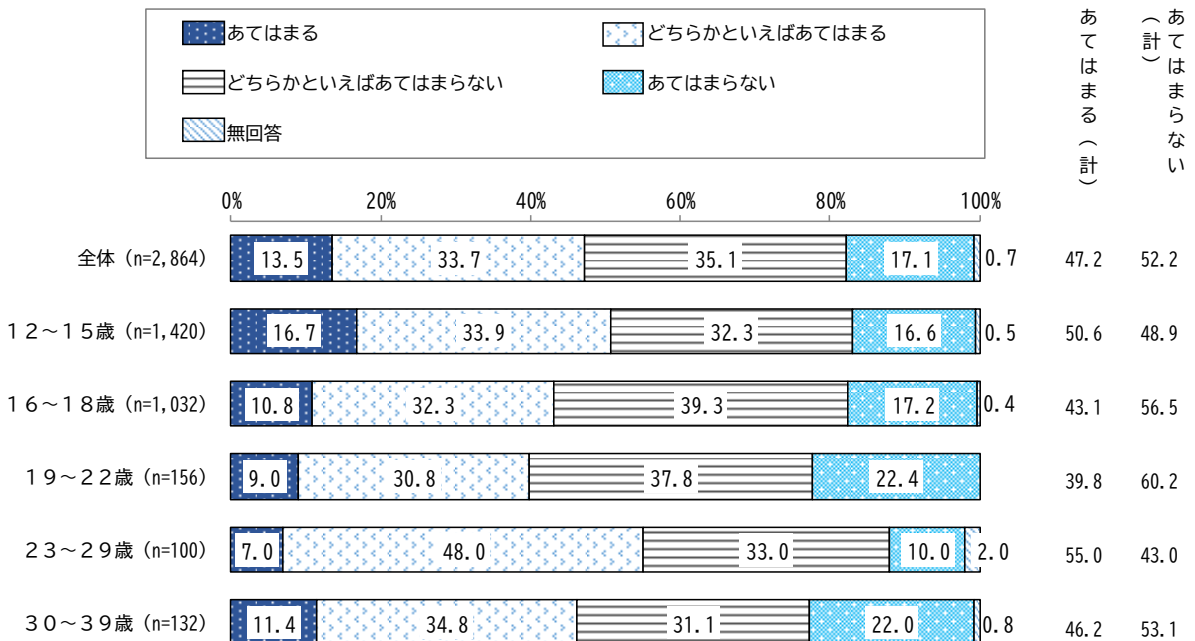
【年齢別クロス集計：自分の考えをはっきり相手に伝えることができる】



自分自身に関する設問のうち、「今の自分自身に満足しているか」について、全体をみると、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』(52.2%)が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳、23～29歳では『あてはまる』が『あてはまらない』を上回っており、23～29歳では『あてはまる』(55.0%)が最も高くなっている。

【年齢別クロス集計：今の自分自身に満足している】

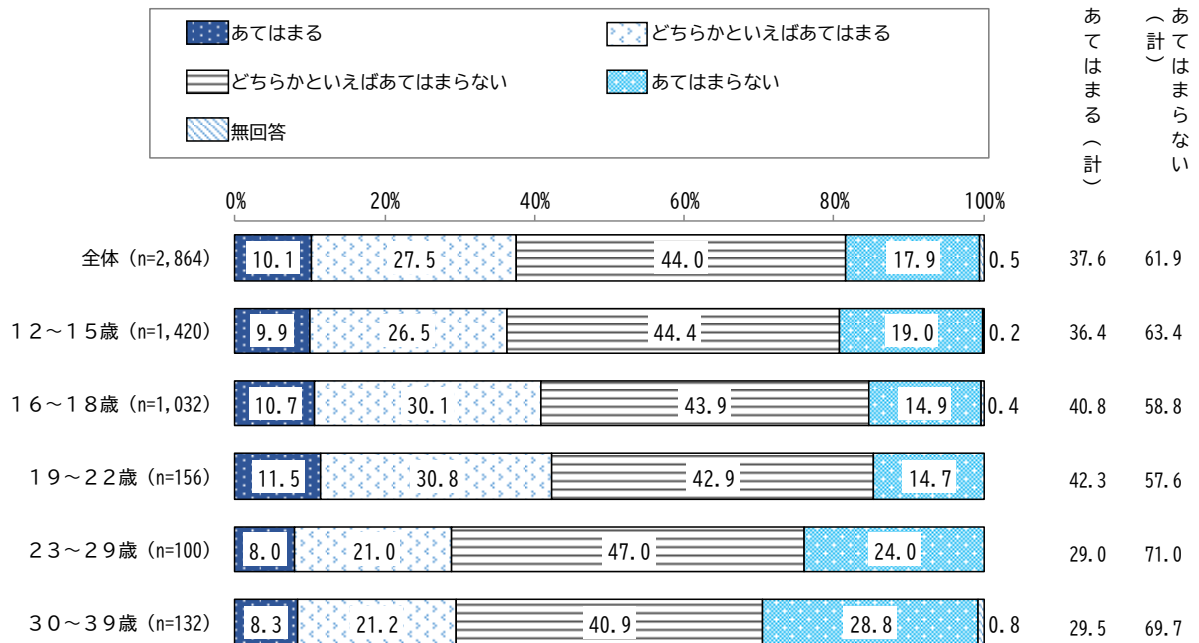


Ⅲ 調査の結果

自分自身に関する設問のうち、「自分は役に立たないと強く感じるか」について、全体をみると、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』(61.9%)が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『あてはまらない』が5割を超えている。23～29歳では71.0%と最も高くなっており、比較的自分は役に立たないと強く感じている人が少なくなっている。

【年齢別クロス集計：自分は役に立たないと強く感じる】



Ⅲ 調査の結果

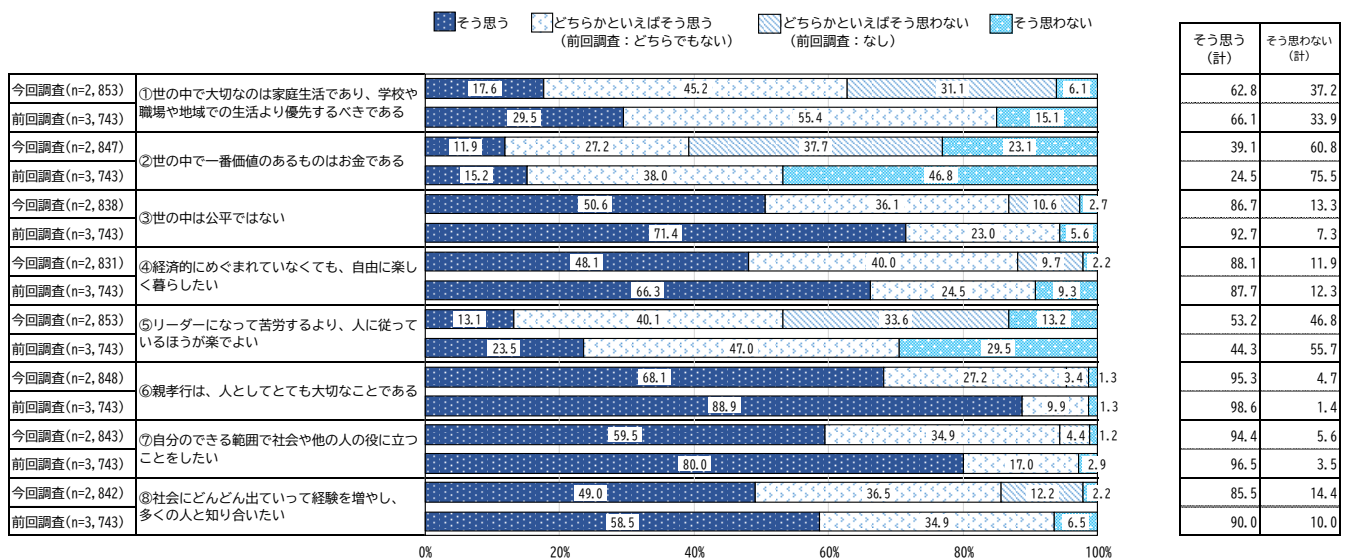
(4) 人生観

問4. 次の意見について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

人生観に関する設問のうち、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、⑥親孝行・⑦社会貢献・⑧積極性の割合はいずれも9割近くとなっており、多くの青少年が親や社会への貢献を重要だと認識していると考えられる。一方で、「③世の中は公平ではない」を『そう思う』と回答した割合も86.7%と9割近くになっており、社会への不公平感を抱えている青少年も多くなっている。

また、今回調査は4選択肢であるが、前回調査では同様の設問が「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の3選択肢であった。設問形式が異なるが、参考として前回調査の「どちらでもない」を除いた割合と比較を行った。その結果、多くの項目は同様の傾向となっているが、「②世の中で一番価値のあるものはお金である」「⑤リーダーになって苦勞するより、人に従っているほうが楽でよい」の2項目において、「そう思う」の割合が高くなっている。設問形式が異なる点に留意する必要があるが、新型コロナウイルス感染症関連の報道等の影響で、お金やリーダーに対する考え方が変化している可能性がある」と推測される。

【H28 前回調査比較：人生観について】

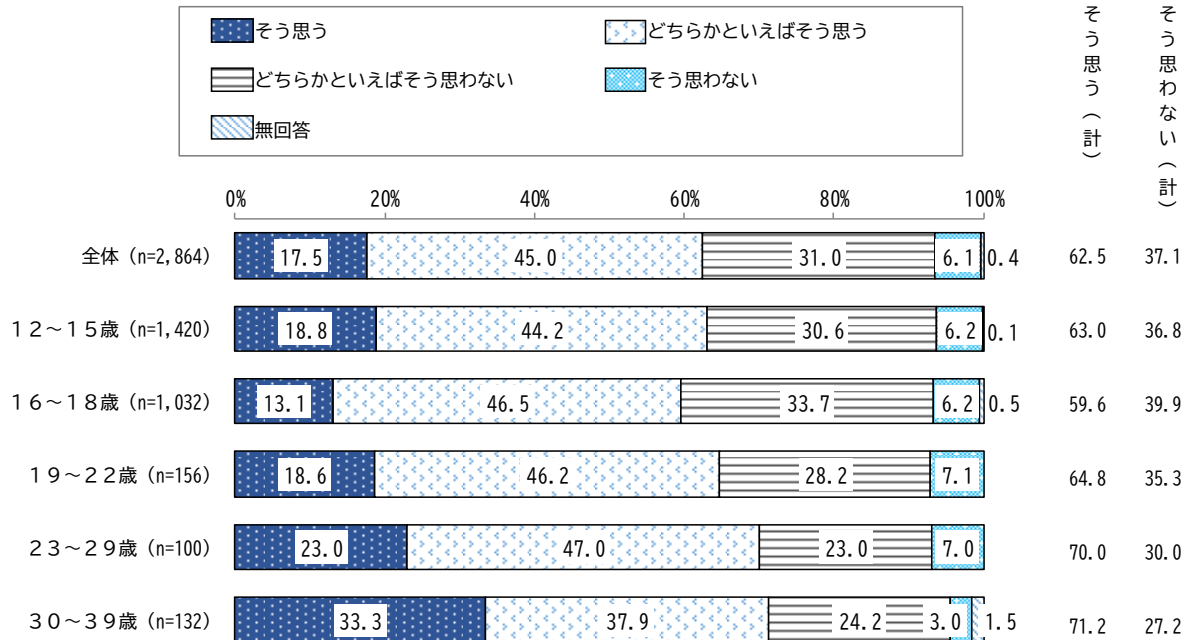


Ⅲ 調査の結果

人生観に関する設問のうち、「世の中で大切なのは家庭生活であり、学校や職場や地域での生活より優先するべきであると思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（62.5%）が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。30～39歳では71.2%と最も高くなっており、比較的家庭生活を優先するべきだと思っている人が多くなっている。

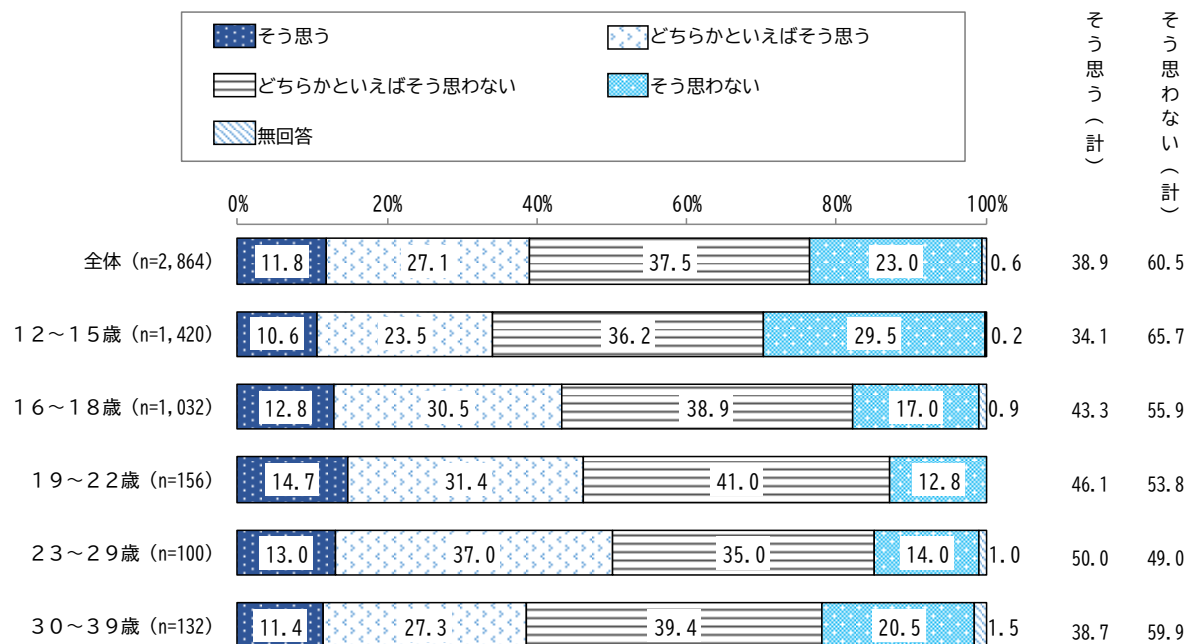
【年齢別クロス集計：世の中で大切なのは家庭生活であり、学校や職場や地域での生活より優先するべきである】



人生観に関する設問のうち、「世の中で一番価値のあるものはお金であると思うか」について、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（60.5%）が6割を超えている。

年齢別にみると、23～29歳を除く年齢別で『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。12～15歳では『そう思わない』（65.7%）が最も高くなっており、比較的世界の中で一番価値のあるものはお金ではないと思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：世の中で一番価値のあるものはお金である】

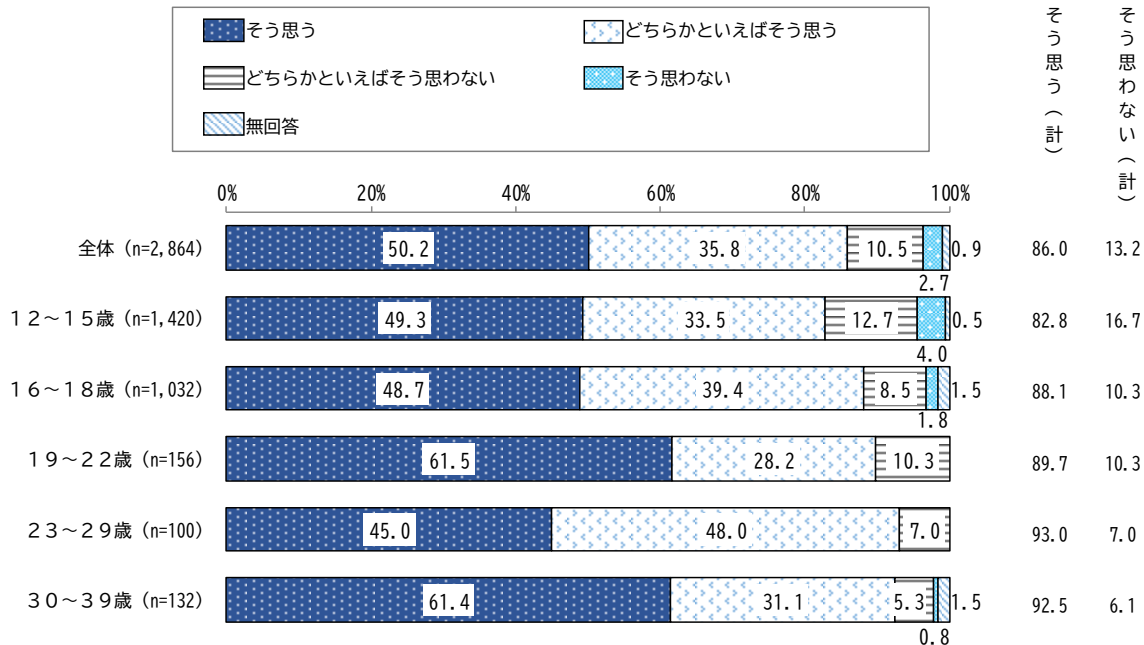


Ⅲ 調査の結果

人生観に関する設問のうち、「世の中は公平ではないと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(86.0%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が8割を超えている。23～29歳では93.0%と最も高くなっており、年齢が上がるにつれてより、世の中は公平ではないと思う傾向となっている。

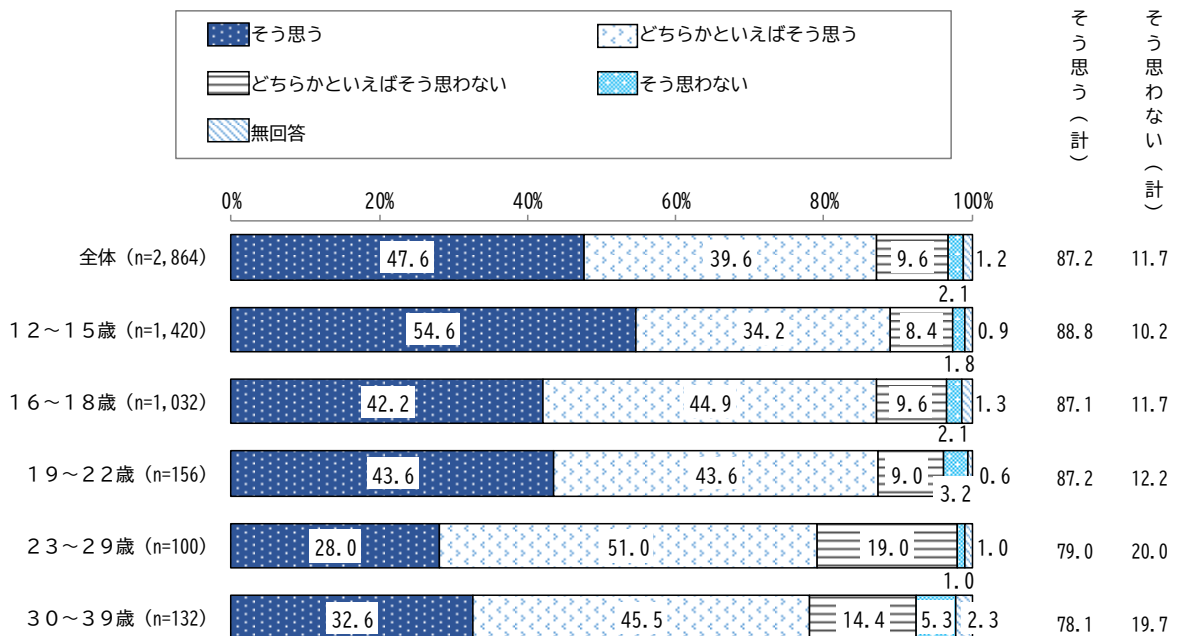
【年齢別クロス集計：世の中は公平ではない】



人生観に関する設問のうち、「経済的にめぐまれていなくても、自由に楽しく暮らしたいと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(87.2%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では88.8%と最も高くなっており、比較的経済的にめぐまれていなくても自由に暮らしたいと思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：経済的にめぐまれていなくても、自由に楽しく暮らしたい】

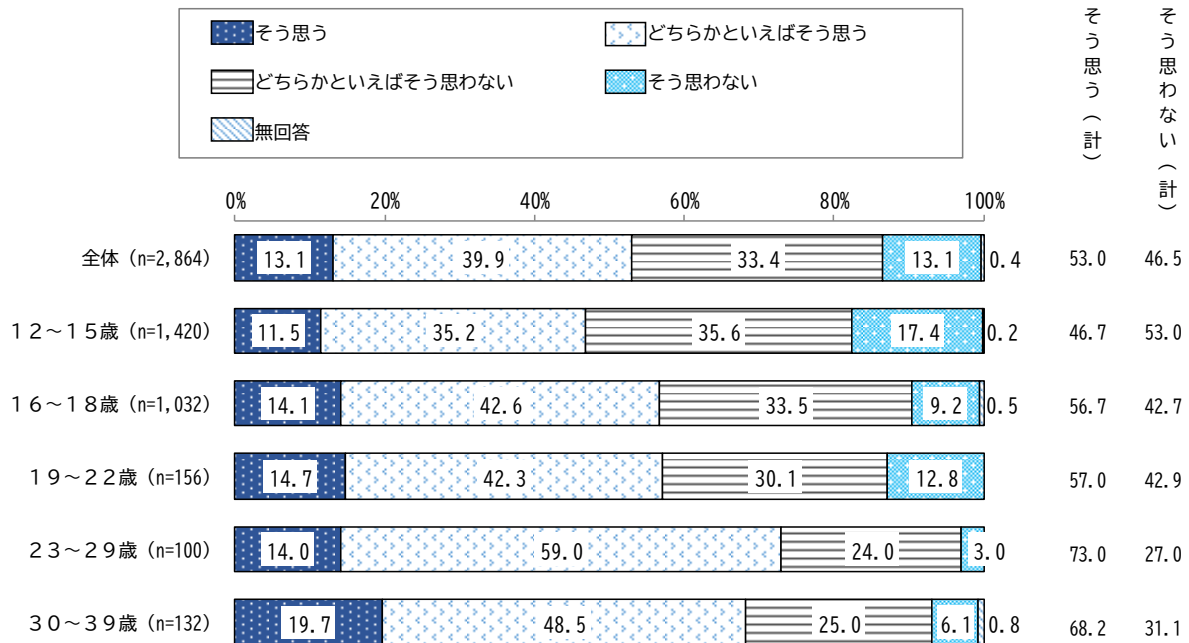


Ⅲ 調査の結果

人生観に関する設問のうち、「リーダーになって苦労するより、人に従っているほうが楽でよいと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（53.0%）が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳を除く年齢別で『そう思う』が『そう思わない』を上回っている。23～29歳では『そう思う』（73.0%）が最も高くなっており、比較的指示する側より人に従っているほうが楽でよいと思っている人が多くなっている。

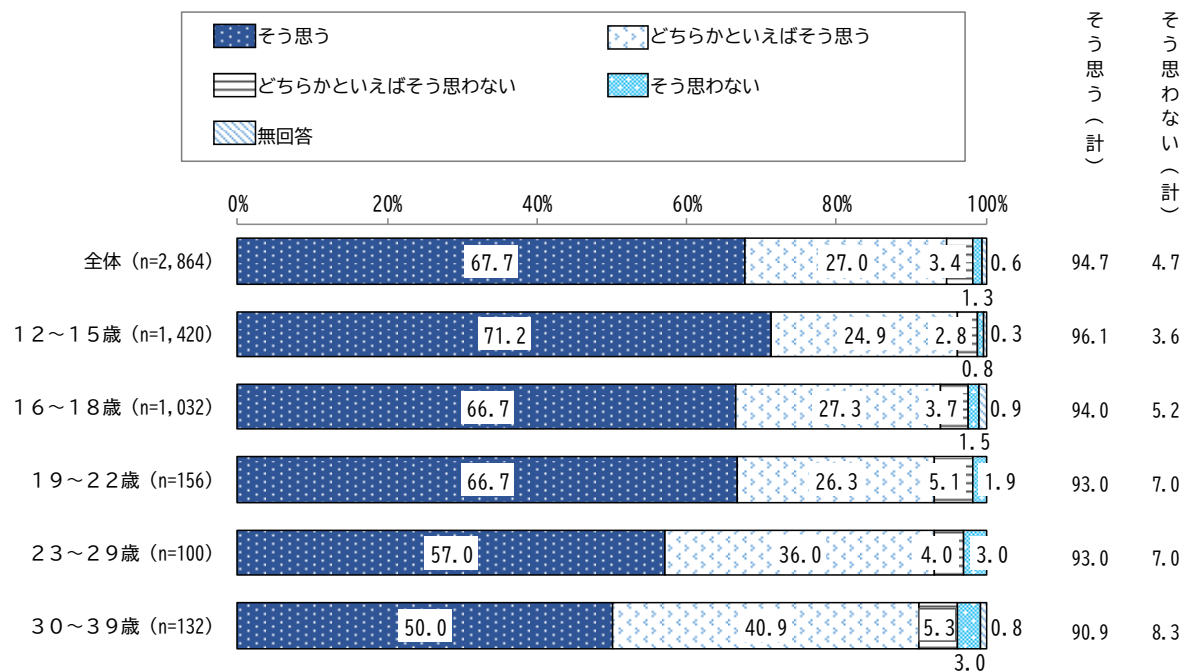
【年齢別クロス集計：リーダーになって苦労するより、人に従っているほうが楽でよい】



人生観に関する設問のうち、「親孝行は、人としてとても大切なことであると思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（94.7%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が9割を超えている。12～15歳では96.1%と最も高くなっており、親孝行することが人として大切なことであると思っている人が大多数となっている。

【年齢別クロス集計：親孝行は、人としてとても大切なことである】

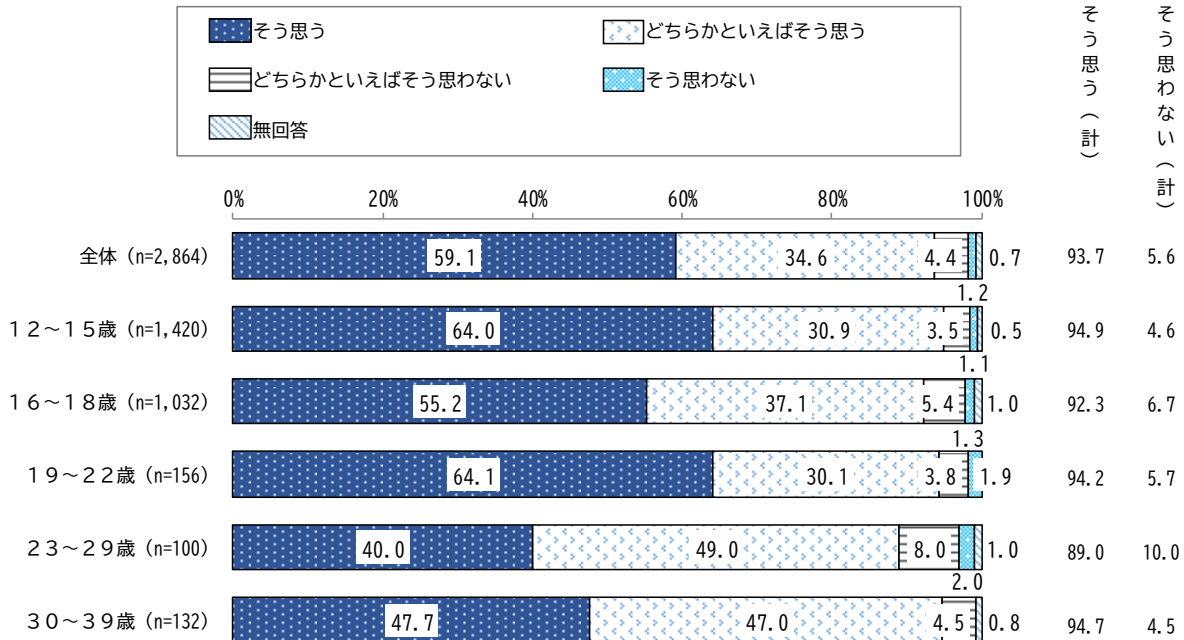


Ⅲ 調査の結果

人生観に関する設問のうち、「自分のできる範囲で社会や他の人の役に立つことをしたいと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（93.7%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が8割を超えている。12～15歳では94.9%と最も高くなっており、自分のできる範囲で社会や人の役に立ちたいと思っている人が大多数となっている。

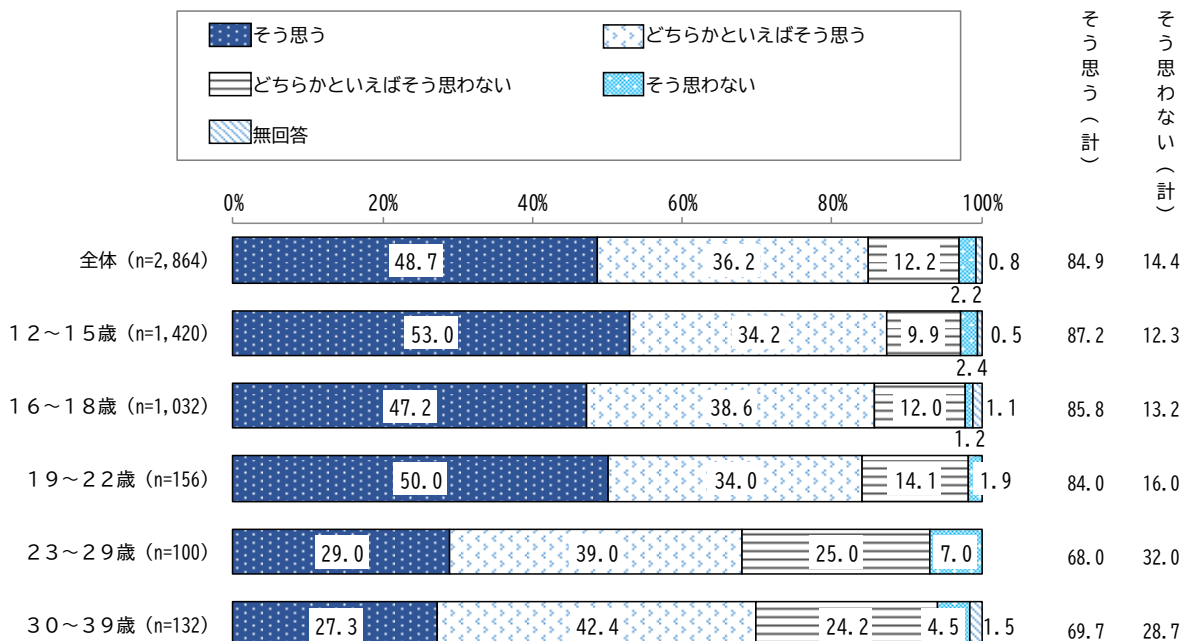
【年齢別クロス集計：自分のできる範囲で社会や他の人の役に立つことをしたい】



人生観に関する設問のうち、「社会にどんどん出ていって経験を増やし、多くの人と知り合いたいと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（84.9%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が6割を超えている。12～15歳では87.2%と最も高くなっており、比較的社会経験を増やし、多くの人と知り合いたいと思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：社会にどんどん出ていって経験を増やし、多くの人と知り合いたい】



Ⅲ 調査の結果

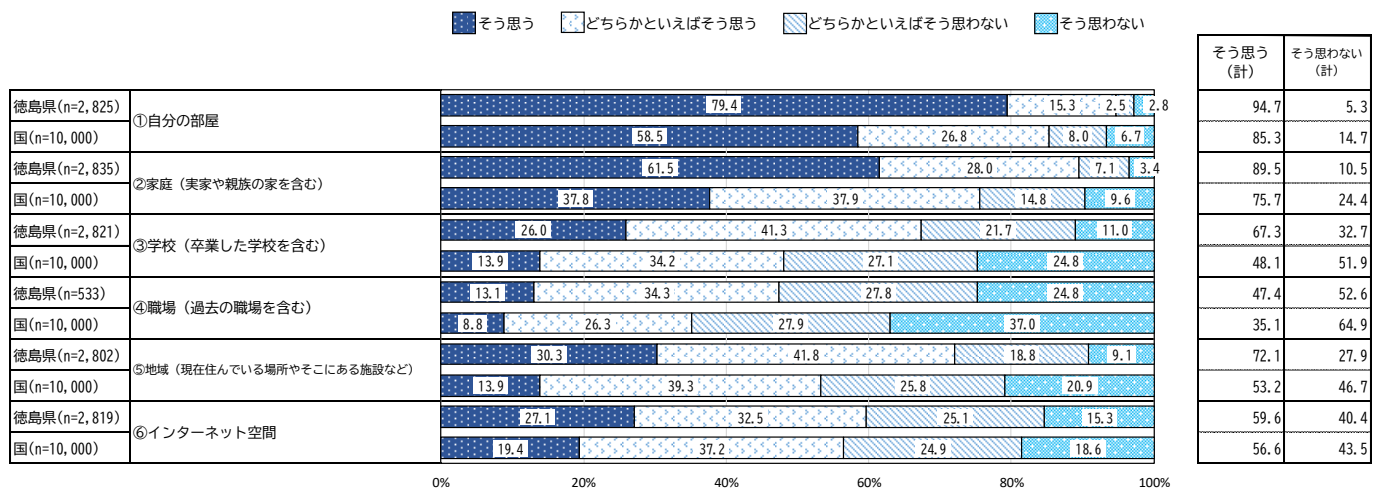
(5) 居場所

問5. 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（それぞれ1つに○）

自分の居場所について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「自分の部屋」と「家庭」でそれぞれ94.7%、89.5%と、9割近くとなっている。また、その他についても、「職場」を除くすべての項目で『そう思う』の割合が半数以上となっている。

国調査と比較すると、いずれの項目でも徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっている。中でも「学校」「地域」では特に割合が高くなっており、全国的な傾向と比較して、自分の家以外の場所にも居場所があると感じている人が多くなっている。

【R1 国調査比較：居場所について】

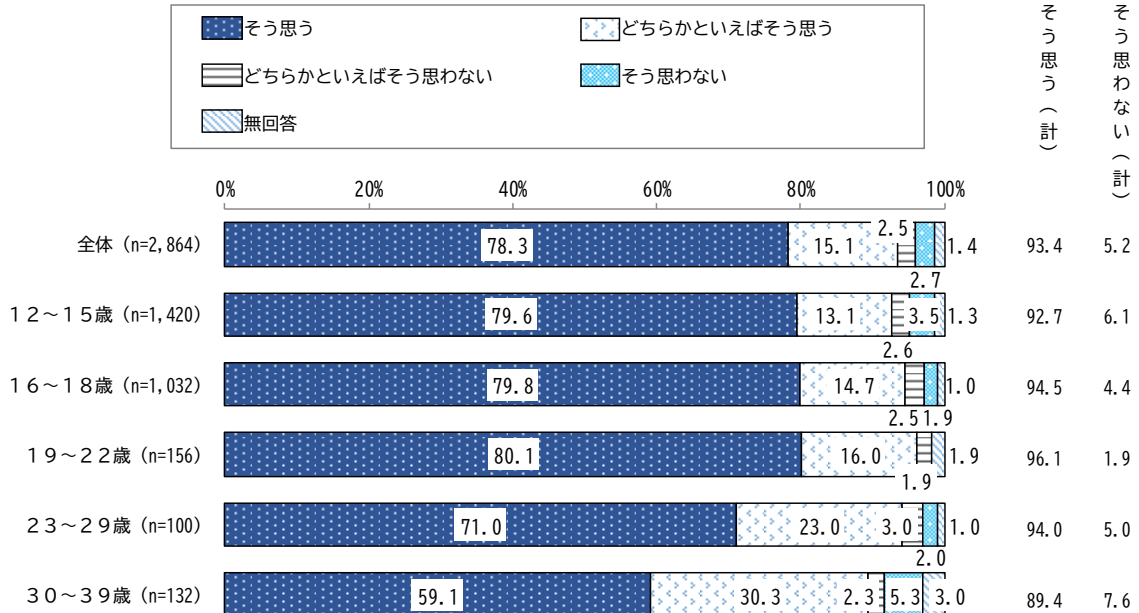


Ⅲ 調査の結果

自分の居場所に関する設問のうち、「自分の部屋が自分の居場所であると思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（93.4%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が8割を超えている。19～22歳では96.1%と最も高くなっており、自分の部屋が自分の居場所であると思っている人が大多数となっている。

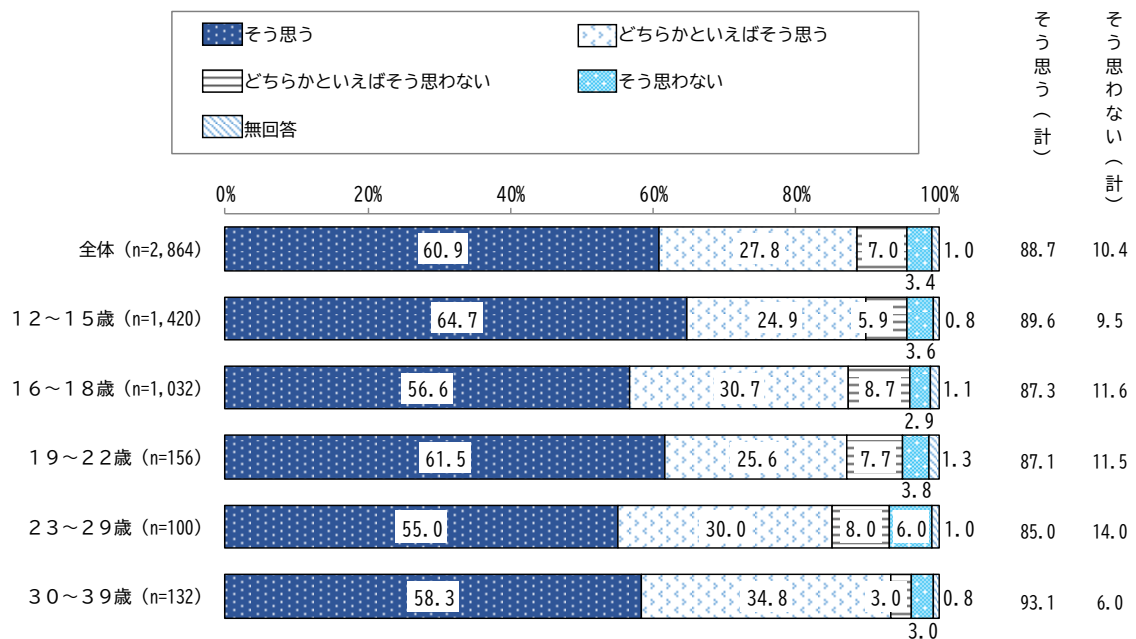
【年齢別クロス集計：自分の部屋】



自分の居場所に関する設問のうち、「家庭（実家や親族の家を含む）が自分の居場所だと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（88.7%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が8割を超えている。30～39歳では93.1%と最も高くなっており、家庭（実家や親族の家を含む）が自分の居場所であると思っている人が大多数となっている。

【年齢別クロス集計：家庭（実家や親族の家を含む）】

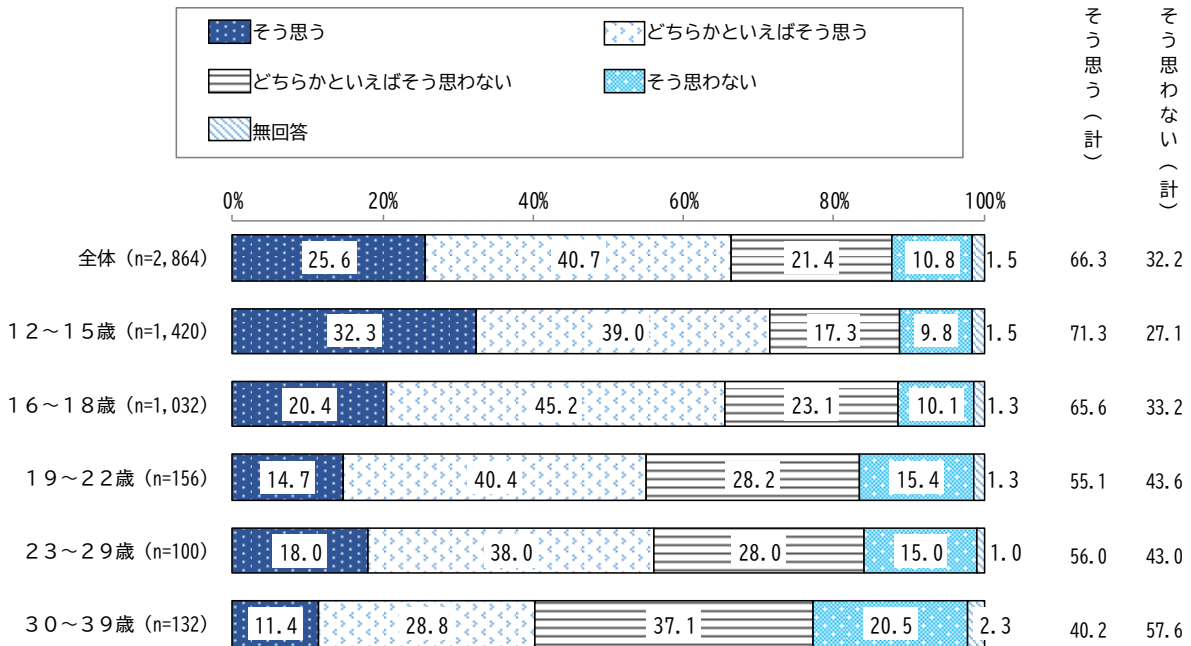


Ⅲ 調査の結果

自分の居場所に関する設問のうち、「学校（卒業した学校を含む）が自分の居場所だと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（66.3%）が6割を超えている。

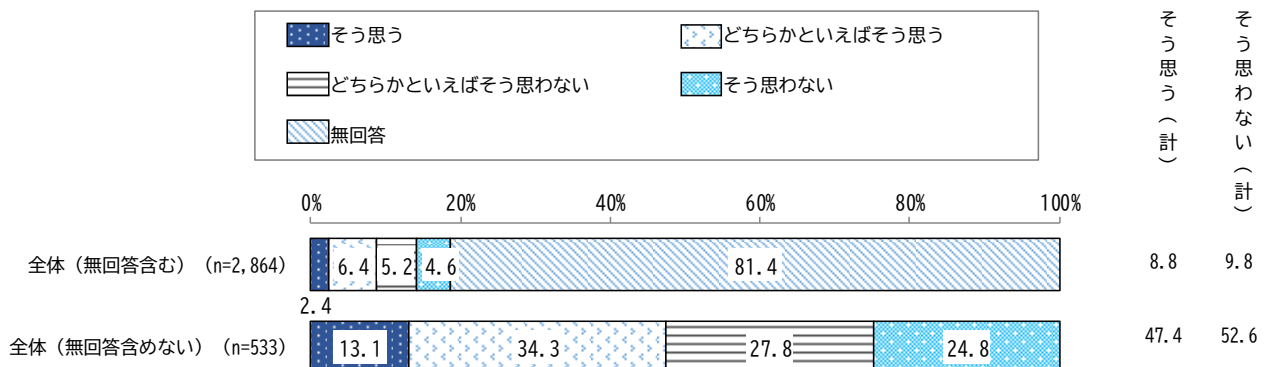
年齢別にみると、30～39歳を除く年齢別で『そう思う』が『そう思わない』を上回っている。12～15歳では『そう思う』（71.3%）が最も高くなっており、比較的学校（卒業した学校を含む）が自分の居場所であると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：学校（卒業した学校を含む）】



自分の居場所に関する設問のうち、「職場（過去の職場を含む）が自分の居場所だと思うか」について、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（52.6%）が5割を超えており、比較的職場（過去の職場を含む）は自分の居場所ではないと思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：職場（過去の職場を含む）】

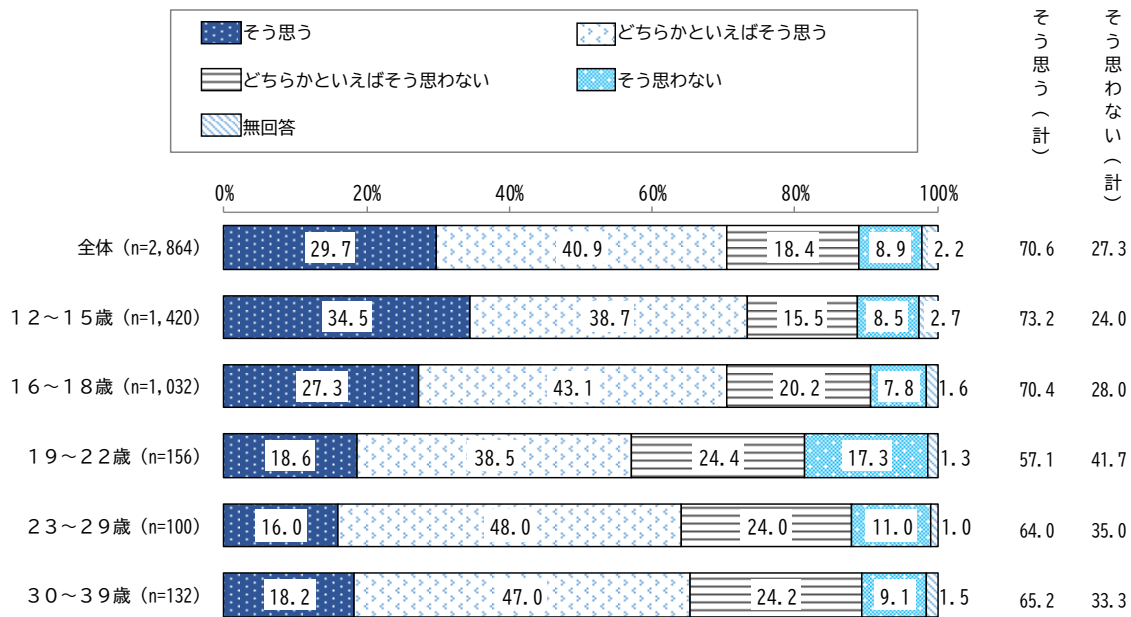


Ⅲ 調査の結果

自分の居場所に関する設問のうち、「地域（現在住んでいる場所やそこにある施設など）」が自分の居場所だと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（70.6%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では73.2%と最も高くなっており、比較的「地域（現在住んでいる場所やそこにある施設など）」が自分の居場所であると思っている人が多くなっている。

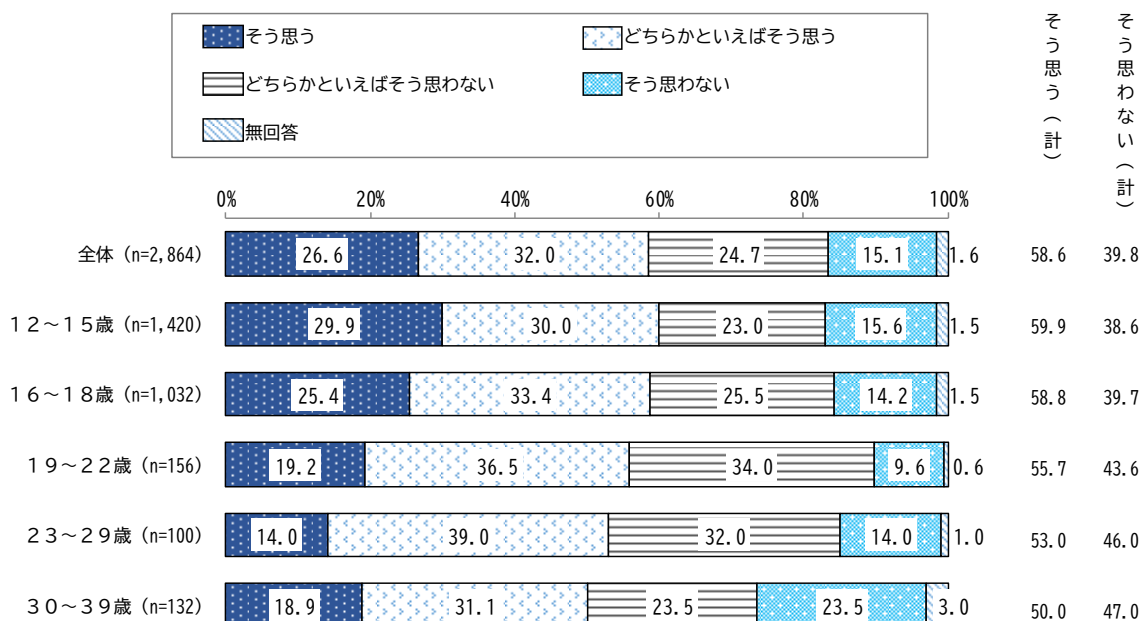
【年齢別クロス集計：地域（現在住んでいる場所やそこにある施設など）】



自分の居場所に関する設問のうち、「インターネット空間が自分の居場所だと思うか」について、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（58.6%）が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では59.9%と最も高くなっており、年齢が若いほどインターネット空間が自分の居場所であると思う傾向となっている。

【年齢別クロス集計：インターネット空間】

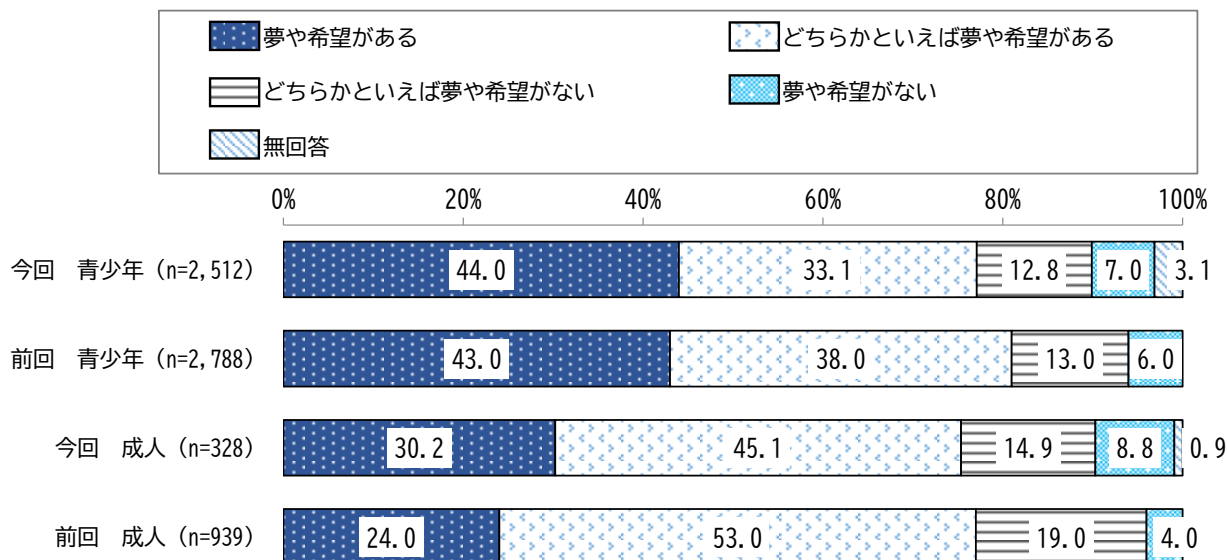


(6) 夢や希望

問6. あなたは、自分の将来について夢や希望を持っていますか。(1つに○)

夢や希望について、今回調査の「夢や希望がある」と「どちらかといえば夢や希望がある」を合わせた『希望がある』(青少年 77.1%、成人 75.3%)と、前回調査の『希望がある』(青少年 81.0%、成人 77.0%)との間で大きな差は見られなかった。

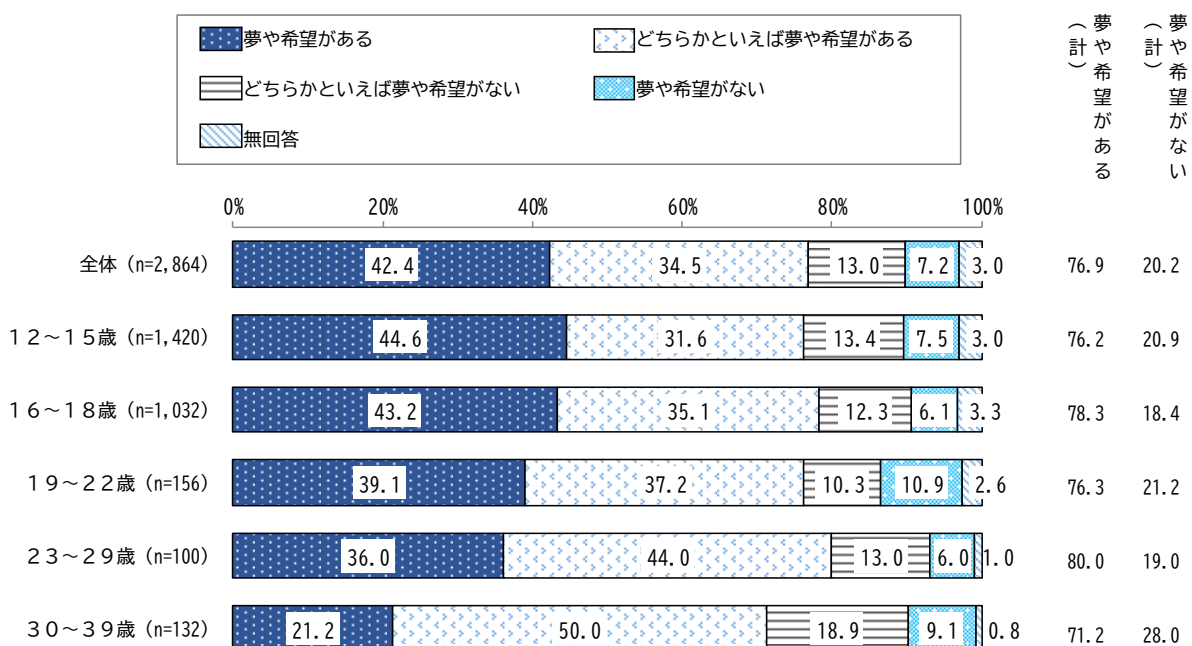
【H28 前回調査比較：夢や希望について】



夢や希望について、全体をみると、「夢や希望がある」と「どちらかといえば夢や希望がある」を合わせた『希望がある』(76.9%)が7割を超えている。

年齢別にみると、『希望がある』はいずれも7割を超えている。23～29歳では80.0%と最も高くなっており、比較的夢や希望を抱いている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：夢や希望について】



Ⅲ 調査の結果

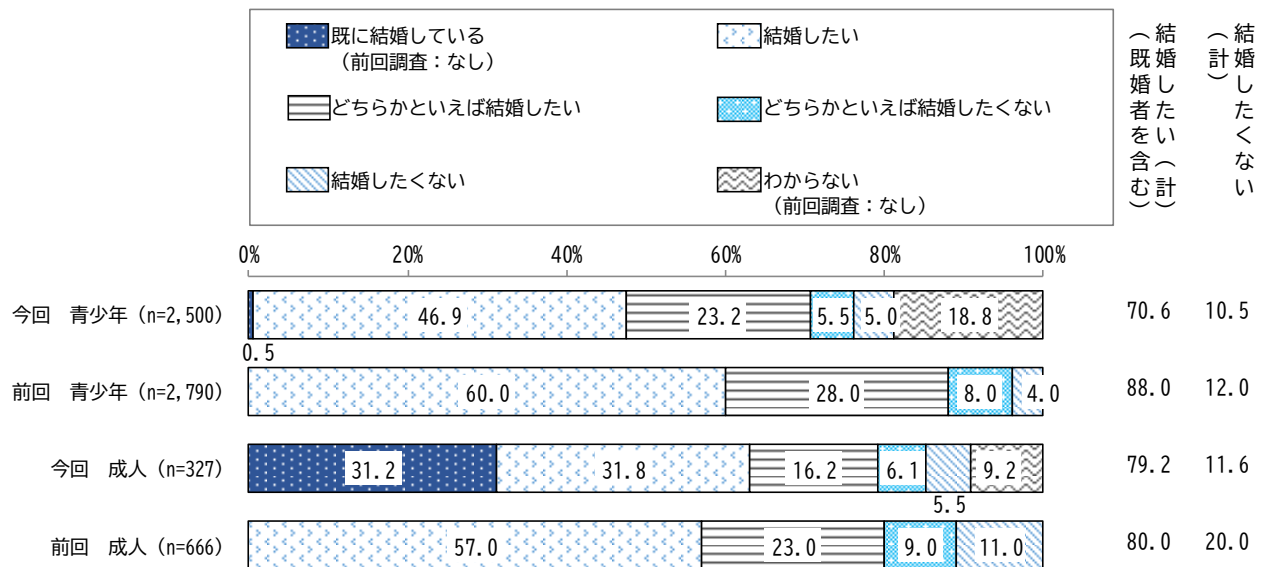
(7) 結婚への考え

①結婚願望の有無

問7. あなたは、将来結婚したいと思いますか。(1つに○)

結婚願望の有無について、前回調査と比較すると、今回の青少年では「既に結婚している」「結婚したい」「どちらかといえば結婚したい」を合わせた『結婚したい』(70.6%)が前回調査(88.0%)に比べて17.4ポイント減少している。一方で、成人では『結婚したい』(79.2%)が前回調査(80.0%)に比べて0.8ポイントの減少と、前回調査と比べて結婚願望に大きな差は見られなかった。

【H28 前回調査比較：結婚願望の有無】

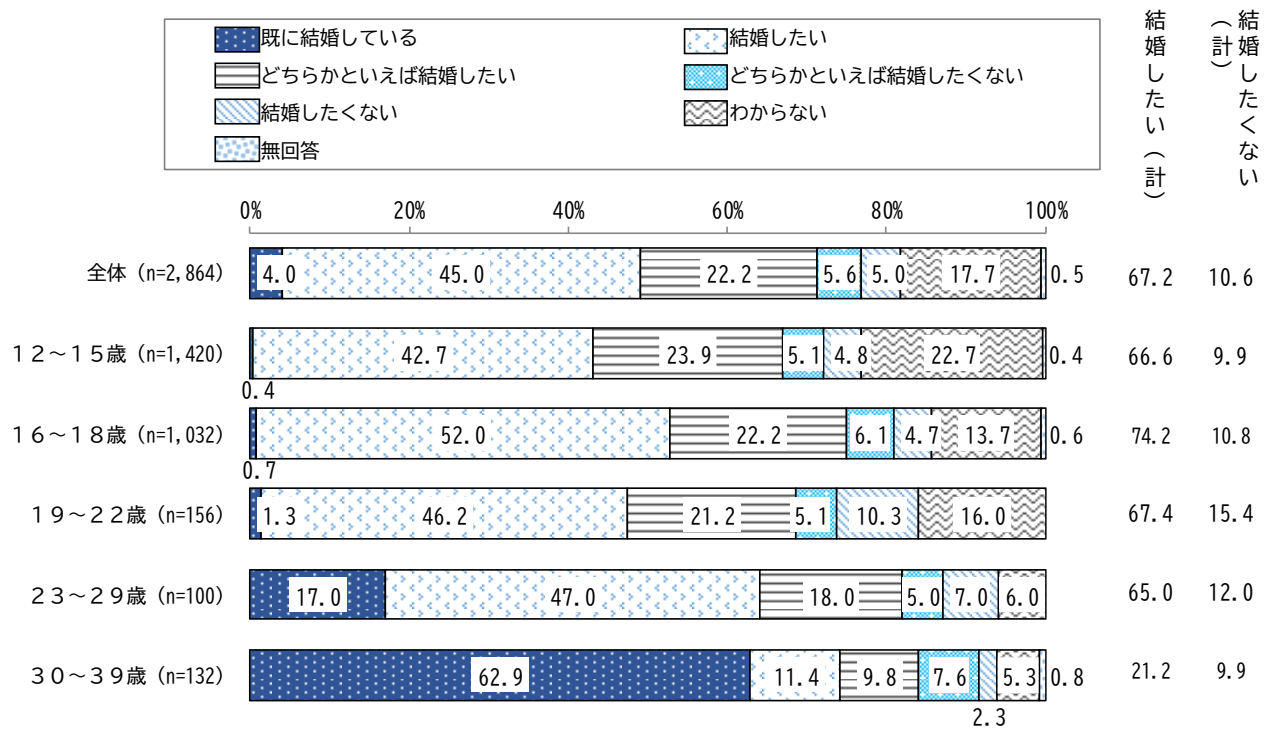


Ⅲ 調査の結果

結婚願望の有無について、全体をみると、「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」を合わせた『結婚したい』（67.2%）が6割を超えている。

年齢別にみると、30～39歳を除く年齢別で『結婚したい』が6割を超えており、比較的結婚願望が高くなっている。30～39歳では「既に結婚している」（62.9%）が最も高くなっている。

【年齢別クロス集計：結婚願望の有無】



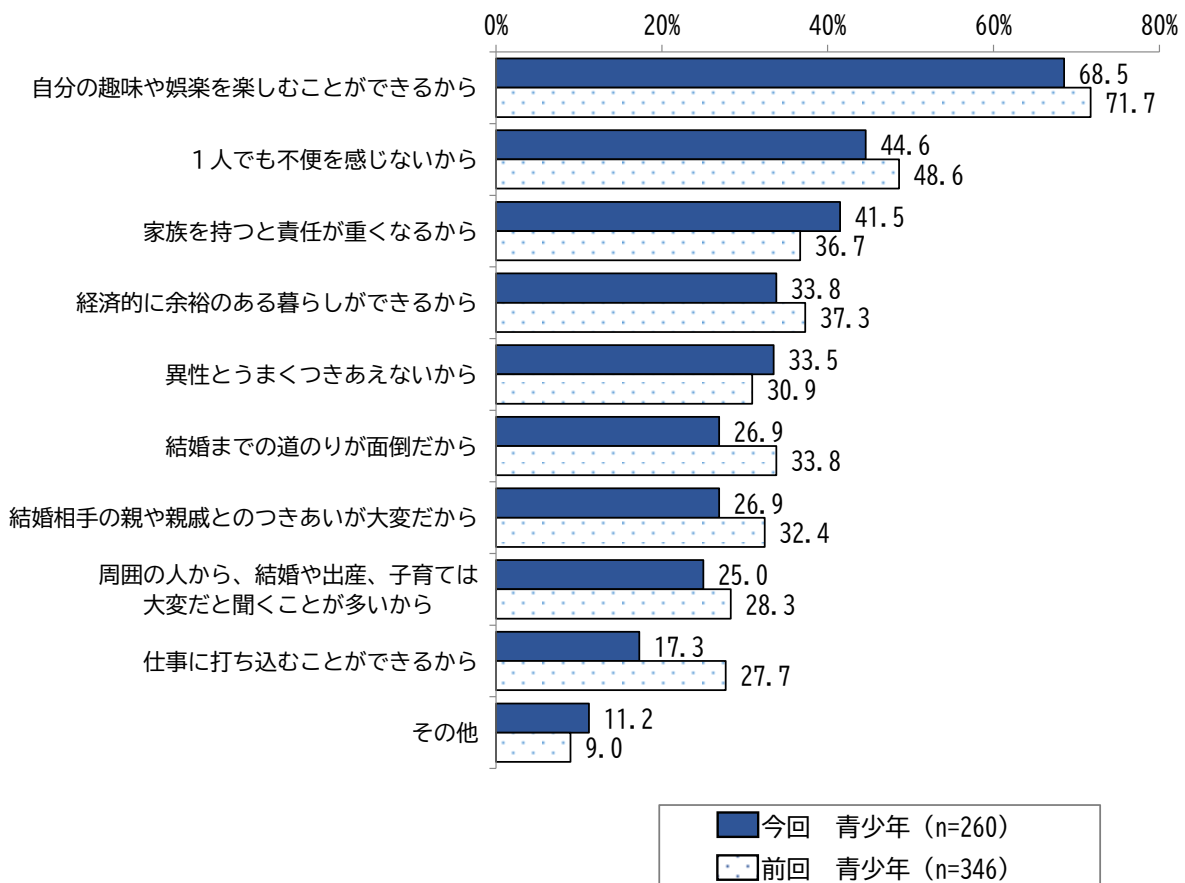
②結婚したくない理由

問7-1. あなたが、「どちらかといえば結婚したくない」、「結婚したくない」と思う理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

結婚したくない理由について、青少年では「自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから」(68.5%)が最も高く、次いで「1人でも不便を感じないから」(44.6%)、「家族を持つと責任が重くなるから」(41.5%)が続いている。前回調査と比較すると、大きな差は見られなかった。

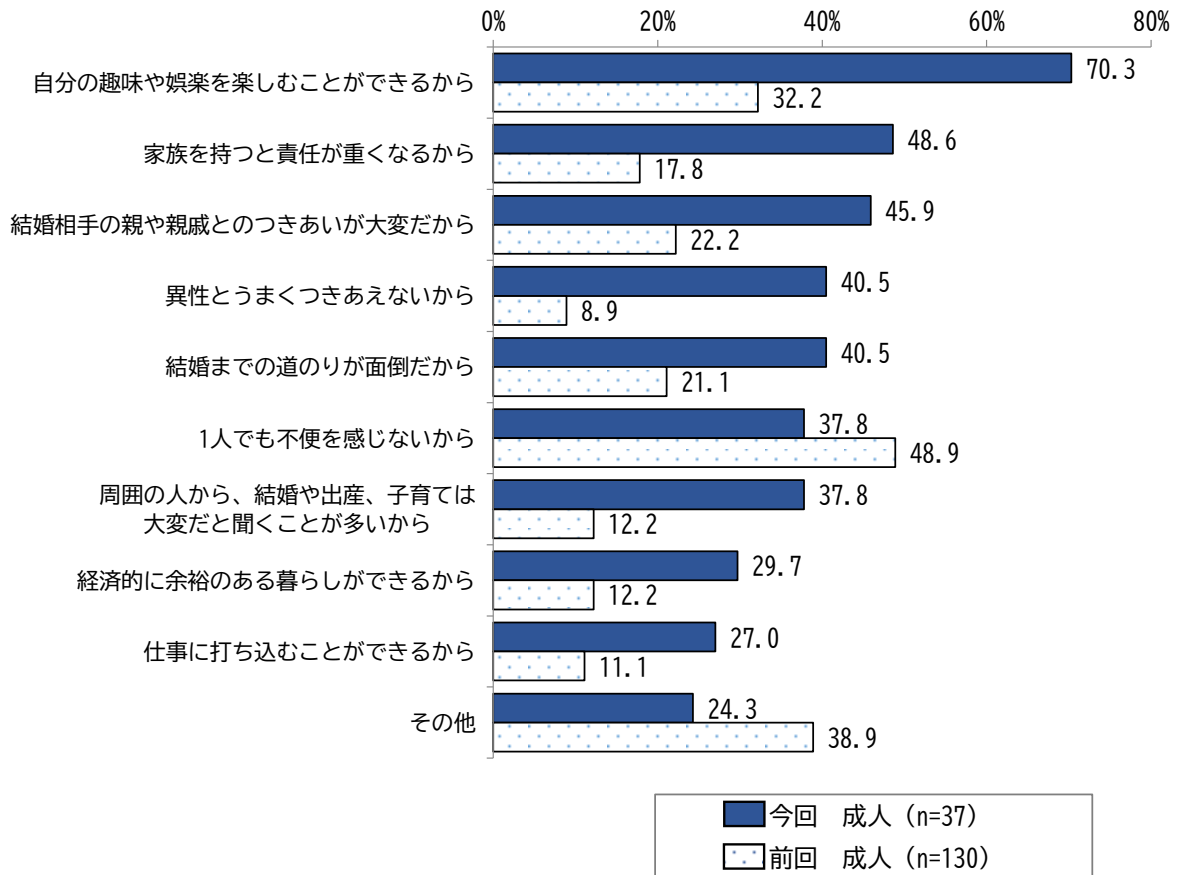
成人でも「自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから」(70.3%)が最も高く、次いで「家族を持つと責任が重くなるから」(48.6%)、「結婚相手の親や親戚とのつきあいが大変だから」(45.9%)が続いている。前回調査と比較すると、「1人でも不便を感じないから」、「その他」を除いた選択肢の割合が増加している。特に「自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから」については、7割以上と前回調査から倍増している。

【H28 前回調査比較：結婚したくない理由 青少年】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査比較：結婚したくない理由 成人】



Ⅲ 調査の結果

結婚したくない理由について、全体をみると、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから」(67.3%)が最も高く、次いで「1人でも不便を感じないから」(42.9%)、「家族を持つと責任が重くなるから」(41.9%)、「異性とうまくつきあえないから」(34.3%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから」、「1人でも不便を感じないから」に回答が集まっている。

【年齢別クロス集計：結婚したくない理由】

		仕事に打ち込むことができるから	経済的に余裕のある暮らしができるから	自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから	1人でも不便を感じないから	異性とうまくつきあえないから	家族を持つと責任が重くなるから	結婚までの道のりが面倒だから	結婚相手の親や親戚とのつきあいが大変だから	周囲の人から、結婚や出産、子育ては大変だと聞くことが多いから	その他	無回答
全体 (n=303)		18.2	33.0	67.3	42.9	34.3	41.9	28.7	29.0	26.4	12.5	1.3
年齢別	12～15歳 (n=140)	17.9	34.3	68.6	44.3	35.0	41.4	30.0	27.1	25.7	12.9	2.1
	16～18歳 (n=112)	16.1	31.3	67.0	43.8	30.4	40.2	21.4	25.9	24.1	9.8	0.0
	19～22歳 (n=24)	33.3	41.7	75.0	41.7	37.5	45.8	37.5	29.2	37.5	16.7	0.0
	23～29歳 (n=12)	8.3	16.7	75.0	33.3	58.3	58.3	58.3	66.7	33.3	8.3	0.0
	30～39歳 (n=13)	23.1	30.8	46.2	38.5	23.1	38.5	23.1	38.5	23.1	30.8	7.7

1位

2位

2. 家庭・家族について

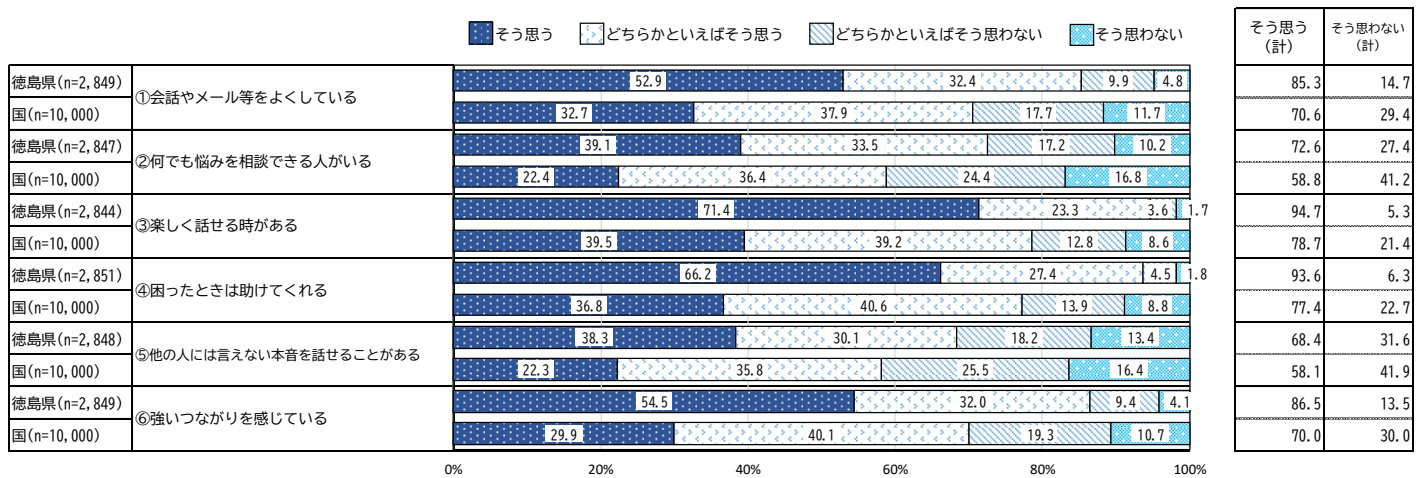
(1) 家族・親族とのかかわり

問8. 家族・親族とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

家族・親族とのかかわり方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目についても6割以上となっており、特に「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は、それぞれ94.7%、93.6%と9割以上になっている。

国調査と比較すると、いずれの項目についても徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっており、全国的な傾向と比べて、徳島県では家族・親族とのかかわりが強いと考えられる。

【R1 国調査比較：家族・親族とのかかわり】

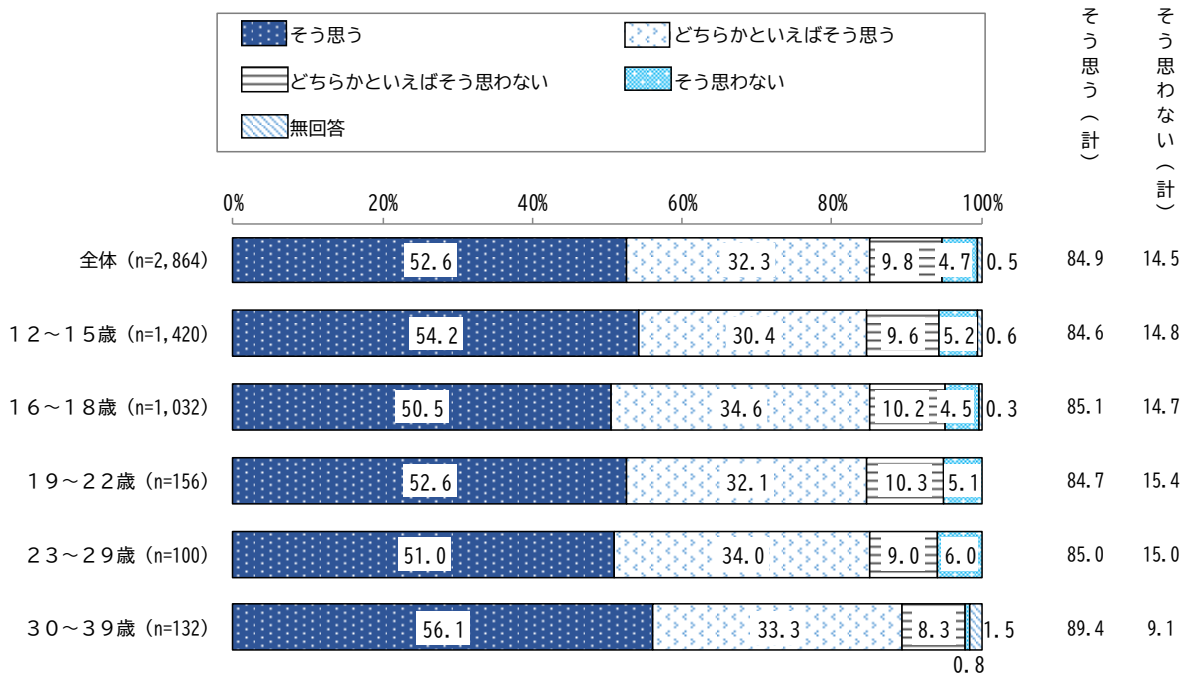


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として会話やメール等をよくしていると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（84.9%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が8割を超えている。30～39歳では89.4%と最も高くなっており、家族・親族と会話やメール等をよくしている人が大多数となっている。

【年齢別クロス集計：会話やメール等をよくしている】

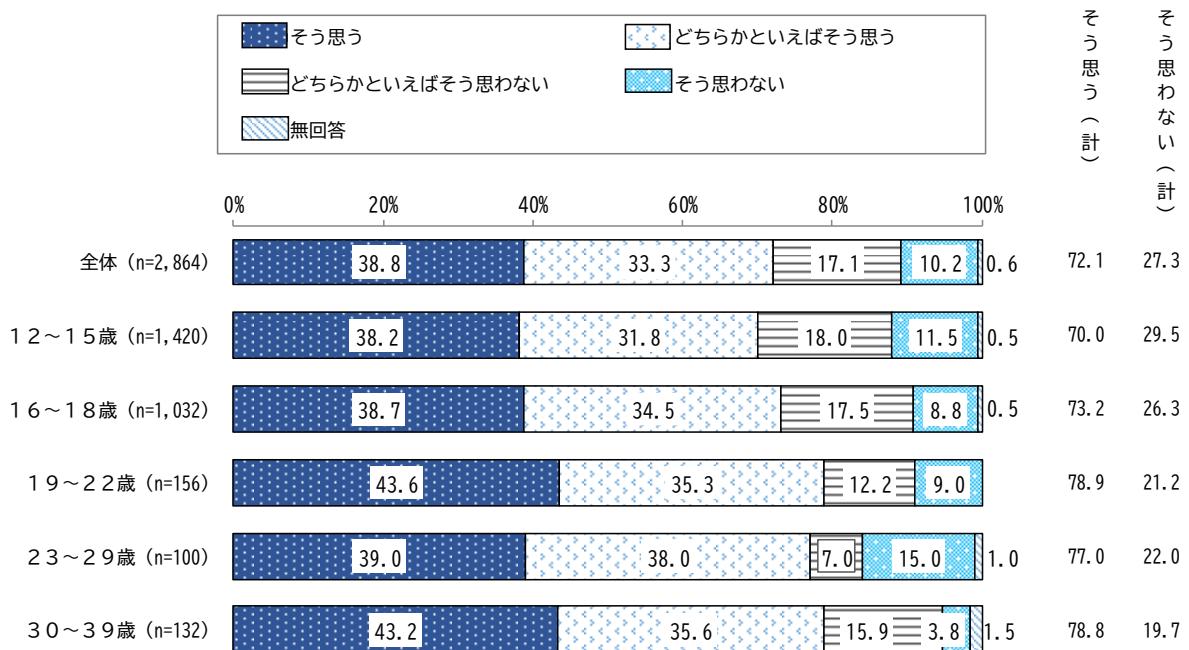


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として何でも悩みを相談できる人がいると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（72.1%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。19～22歳では78.9%と最も高くなっており、比較的家族・親族に何でも悩みを相談できる人がいる結果となっている。

【年齢別クロス集計：何でも悩みを相談できる人がいる】

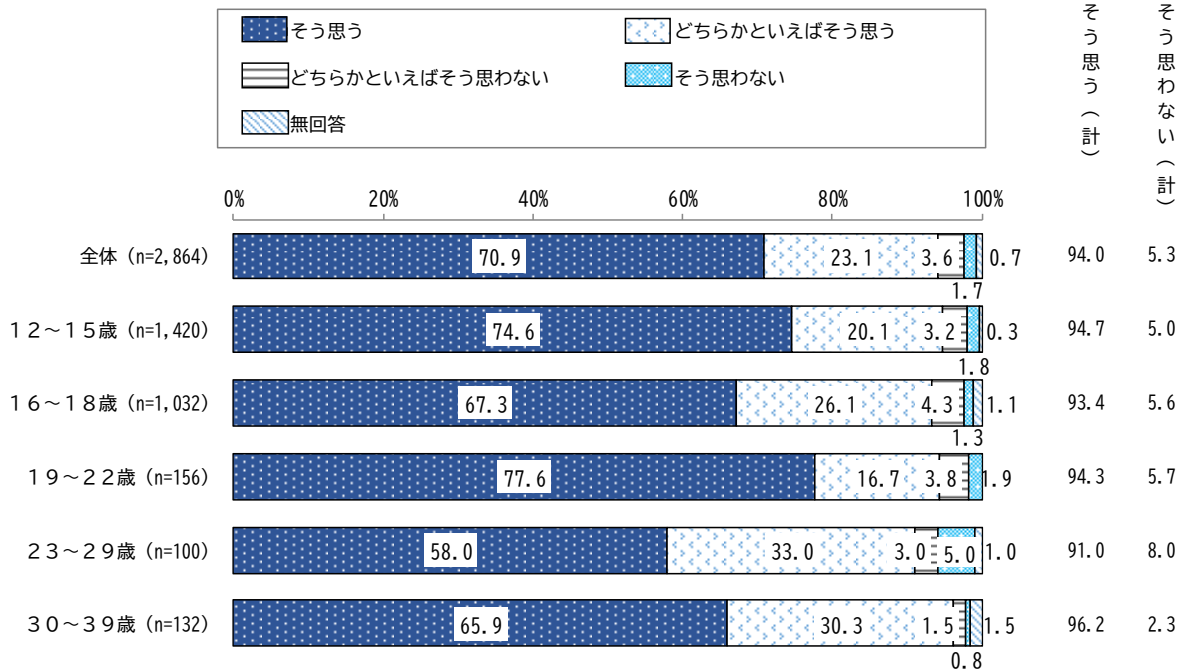


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として楽しく話せる時があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（94.0%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が9割を超えている。30～39歳では96.2%と最も高くなっており、家族・親族と楽しく話せる時があることが多くなっている。

【年齢別クロス集計：楽しく話せる時がある】

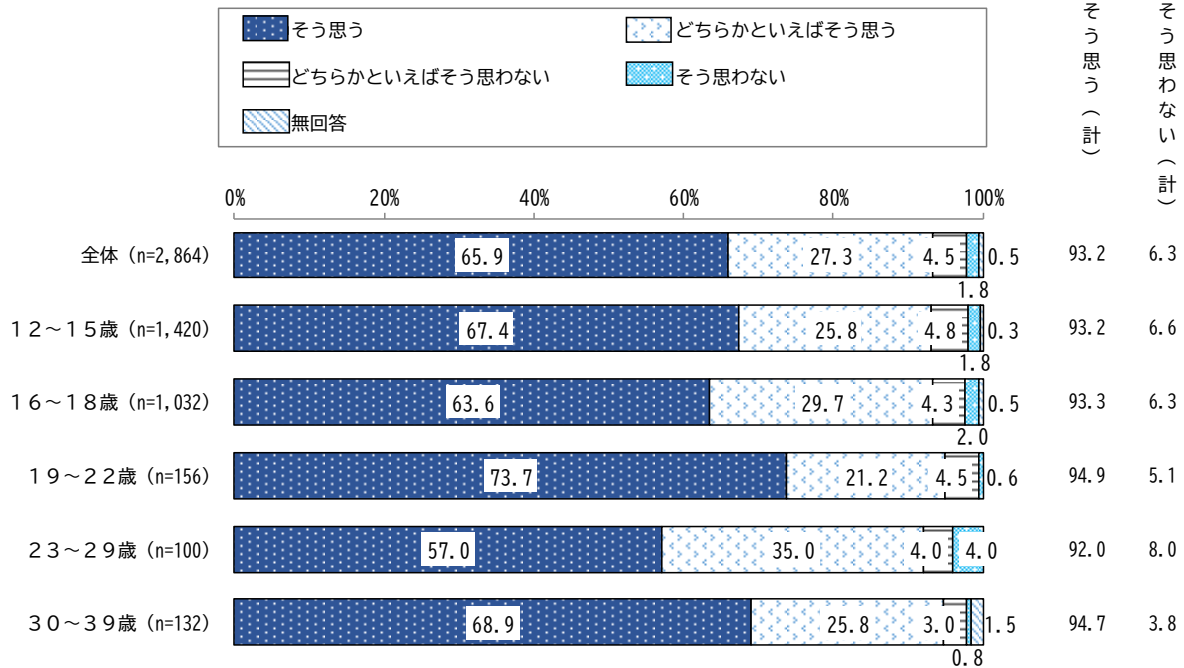


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として困ったときは助けしてくれると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（93.2%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が9割を超えている。19～22歳では94.9%と最も高くなっており、家族・親族に困ったときは助けしてくれる人があるという結果となっている。

【年齢別クロス集計：困ったときは助けしてくれる】

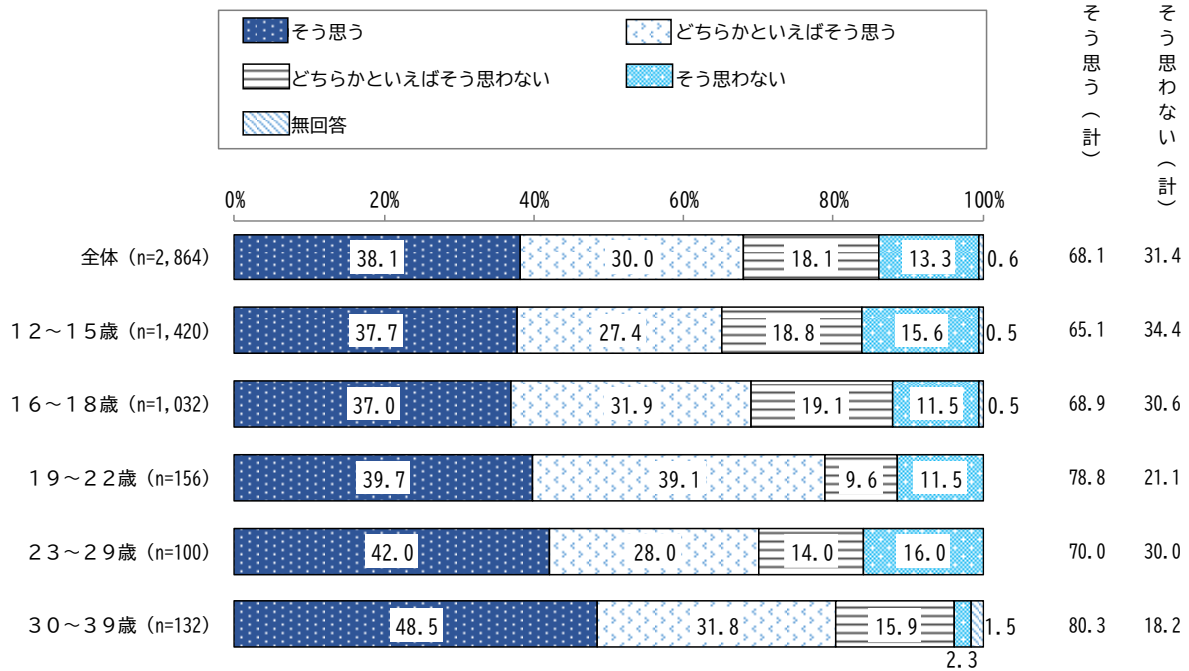


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として他の人には言えない本音を話せることがあると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（68.1%）が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が6割を超えている。30～39歳では80.3%と最も高くなっており、比較的家族・親族に他の人には言えない本音を話せる人がいるという結果となっている。

【年齢別クロス集計：他の人には言えない本音を話せることがある】

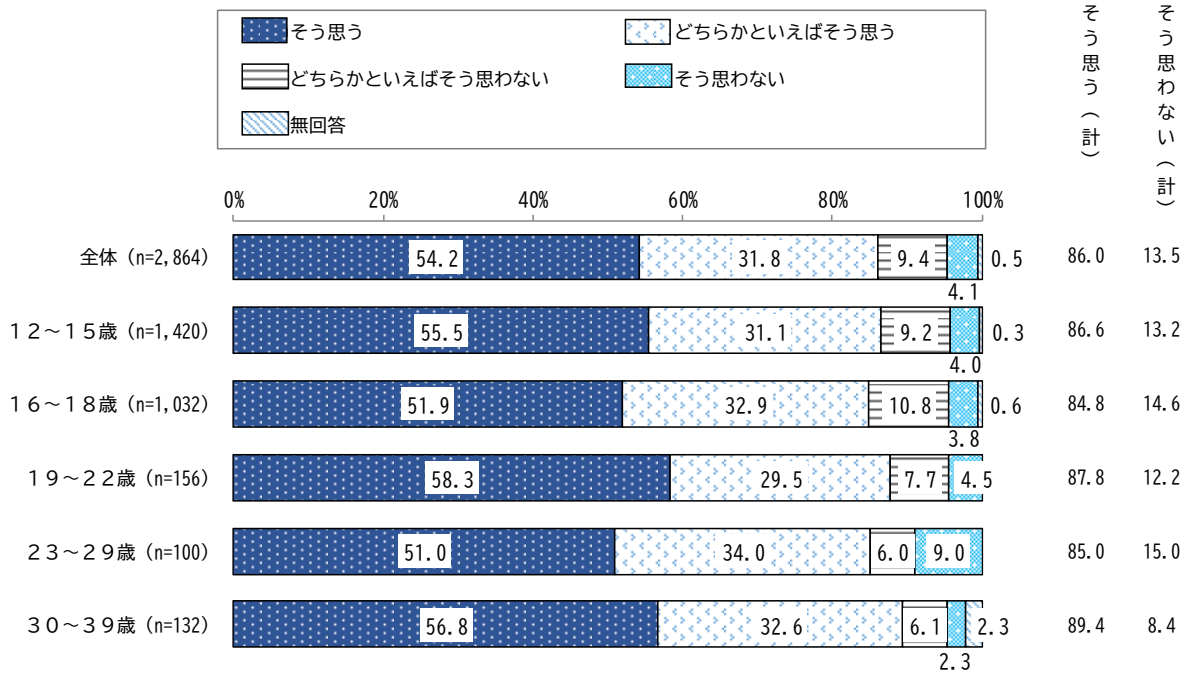


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として強いつながりを感じていると思うかについて、全体をみると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『思う』(86.0%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『思う』が8割を超えている。30～39歳では89.4%と最も高くなっており、家族・親族に強いつながりを感じる人がいるという結果となっている。

【年齢別クロス集計：強いつながりを感じている】

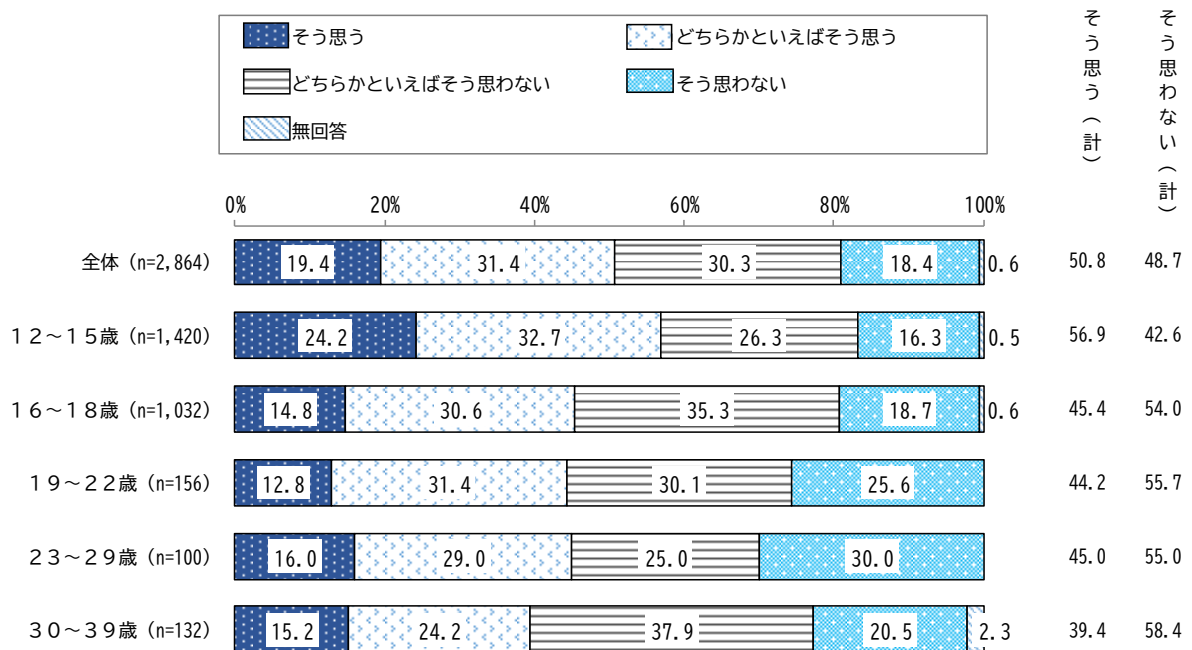


Ⅲ 調査の結果

家族・親族とのかかわり方として新型コロナウイルス感染症の影響で、家族・親族とのかかわりが強くなったと感じていると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（50.8%）が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳を除く年齢別で『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。比較的新型コロナウイルス感染症の影響で家族・親族とのかかわりが強くなったとは感じていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症の影響で、
家族・親族とのかかわりが強くなったと感じている】



3. 学校生活について

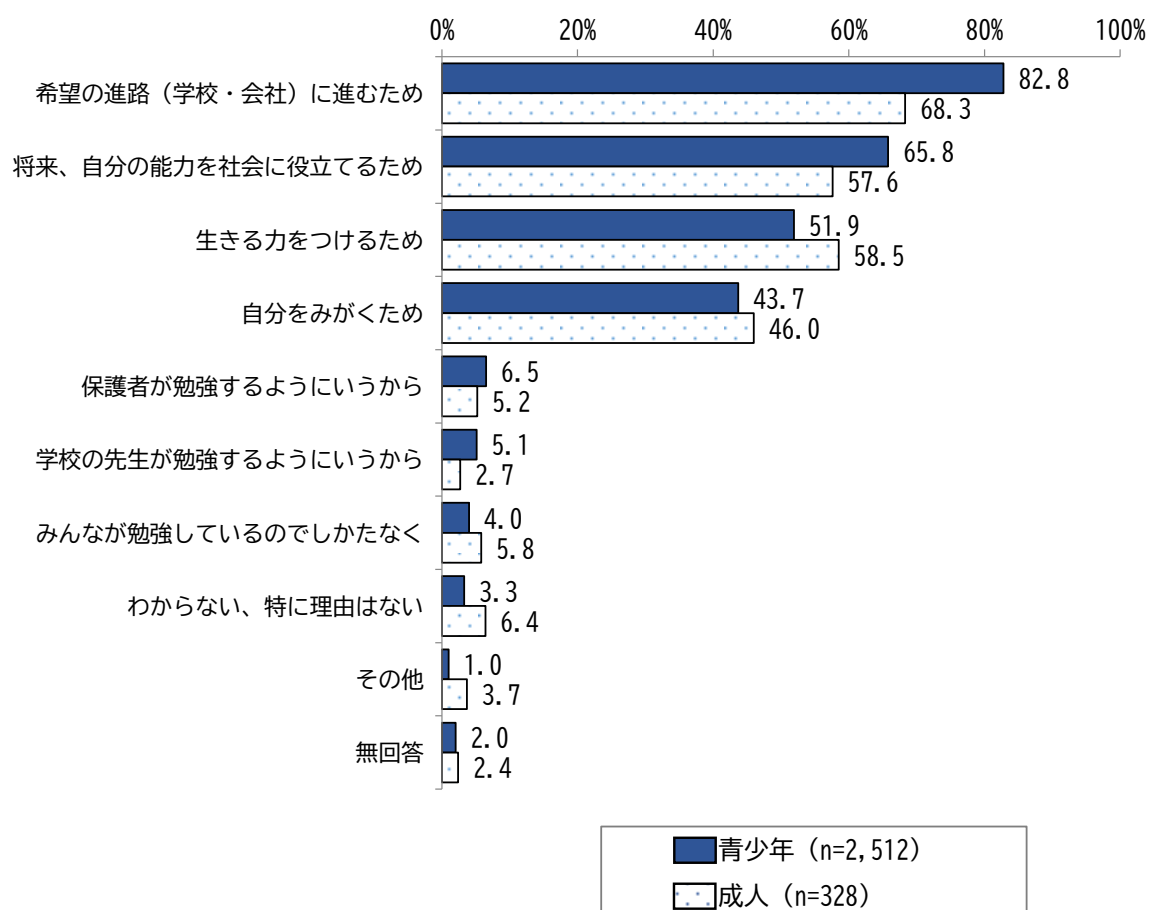
(1) 学校で勉強する理由

問9. あなたは、学校で勉強するのは何のためだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

学校で勉強する理由について、青少年では「希望の進路（学校・会社）に進むため」(82.8%)が最も高く、次いで「将来、自分の能力を社会に役立てるため」(65.8%)、「生きる力をつけるため」(51.9%)、「自分をみがくため」(43.7%)が続いている。成人においても「希望の進路（学校・会社）に進むため」(68.3%)が最も高く、次いで「生きる力をつけるため」(58.5%)、「将来、自分の能力を社会に役立てるため」(57.6%)、「自分をみがくため」(46.0%)が続いている。青少年、成人ともに「保護者が勉強するようにいうから」というような受動的な理由よりも「自分をみがくため」というような主体的な理由が高くなっている。

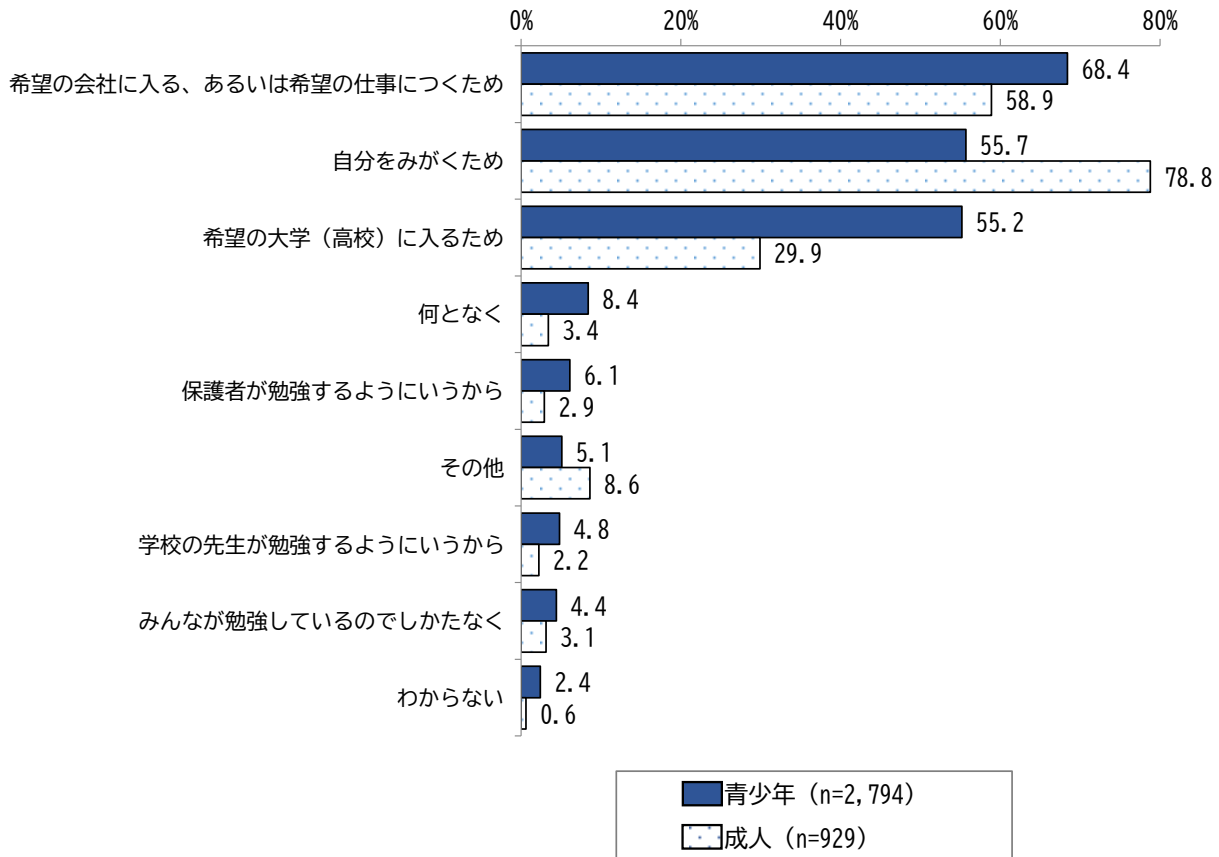
前回調査と比較すると、主体的な理由が高い割合を占めている傾向は同様であるが、その中で「希望の進路（学校・会社）に進むため」の割合は高くなり、「自分をみがくため」の割合は低くなっている。

【調査対象別：学校で勉強する理由】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：学校で勉強する理由】



Ⅲ 調査の結果

学校で勉強する理由について、全体をみると、「希望の進路（学校・会社）に進むため」（81.1％）が最も高く、次いで「将来、自分の能力を社会に役立てるため」（64.6％）、「生きる力をつけるため」（52.5％）が続いている。

年齢別にみると、いずれも「希望の進路（学校・会社）に進むため」が最も高く、次いで12～22歳では「将来、自分の能力を社会に役立てるため」が、23～39歳では「生きる力をつけるため」が続いている。「希望の進路（学校・会社）に進むため」は年齢が若いほど割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：学校で勉強する理由】

		自分を みがくため	希望の進路 （学校・会 社）に進む ため	将来、自分 の能力を社 会に役立て るため	生きる力をつ けるため	保護者が勉 強するよう にいうから	学校の先生 が勉強する ようにいう から	みんなが勉 強している のでしかた なく	わからな い、特に理 由はない	その他	無回答
全体（n=2,864）		43.9	81.1	64.6	52.5	6.4	4.8	4.3	3.6	1.3	2.1
年 齢 別	12～15歳（n=1,420）	48.5	83.3	71.2	58.0	8.5	5.6	4.6	3.7	1.1	1.6
	16～18歳（n=1,032）	36.4	82.5	58.5	43.7	3.9	4.5	3.4	2.6	0.9	2.4
	19～22歳（n=156）	48.1	75.0	57.7	48.1	3.8	1.3	1.3	4.5	5.8	2.6
	23～29歳（n=100）	46.0	71.0	60.0	66.0	7.0	5.0	10.0	4.0	3.0	2.0
	30～39歳（n=132）	47.0	62.9	58.3	60.6	4.5	2.3	6.1	9.1	1.5	2.3

1位

2位

Ⅲ 調査の結果

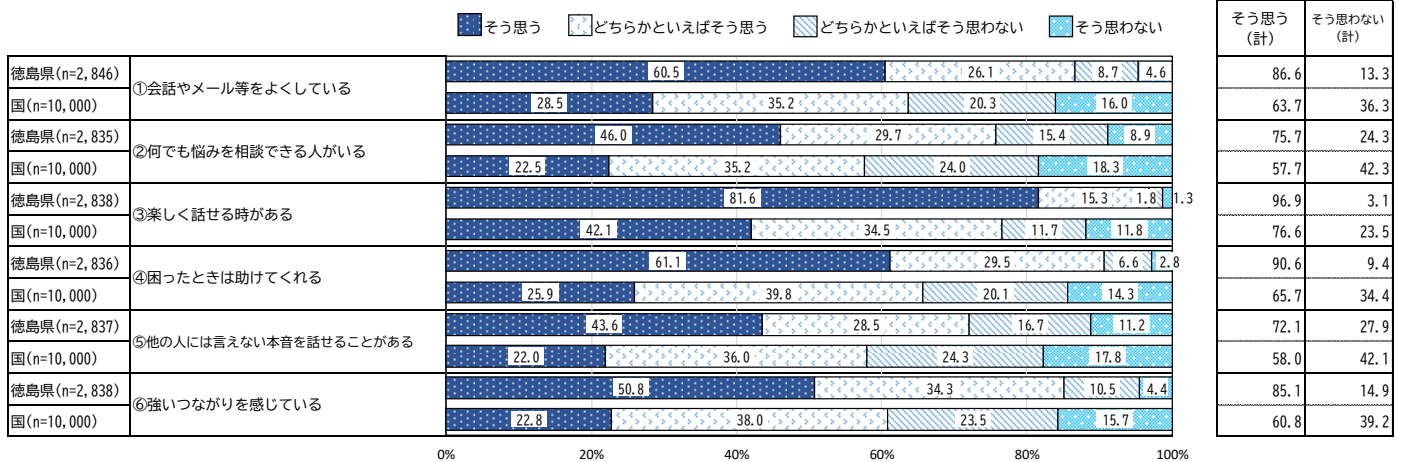
(2) 学校で出会った友人とのかかわり

問10. 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生等）とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれ1つに○）

学校で出会った友人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目も7割以上となっており、特に「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は、それぞれ96.9%、90.6%と9割以上になっている。

国調査と比較すると、いずれの項目についても徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっており、全国的な傾向と比べて、徳島県では学校で出会った友人とのかかわりが強いと考えられる。

【R1 国調査比較：学校で出会った友人とのかかわり】

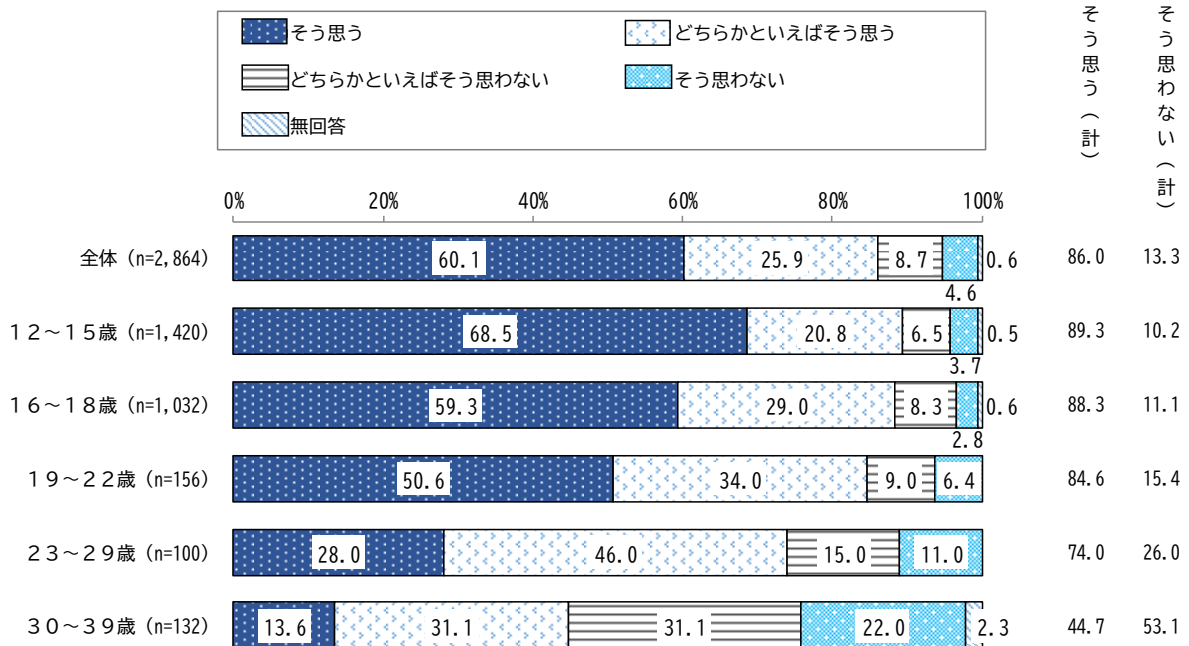


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として会話やメール等をよくしていると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(86.0%)が8割を超えている。

年齢別にみると、30～39歳を除く年齢別で『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では89.3%と最も高くなっており、比較的友人と会話やメール等をよくしている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：会話やメール等をよくしている】

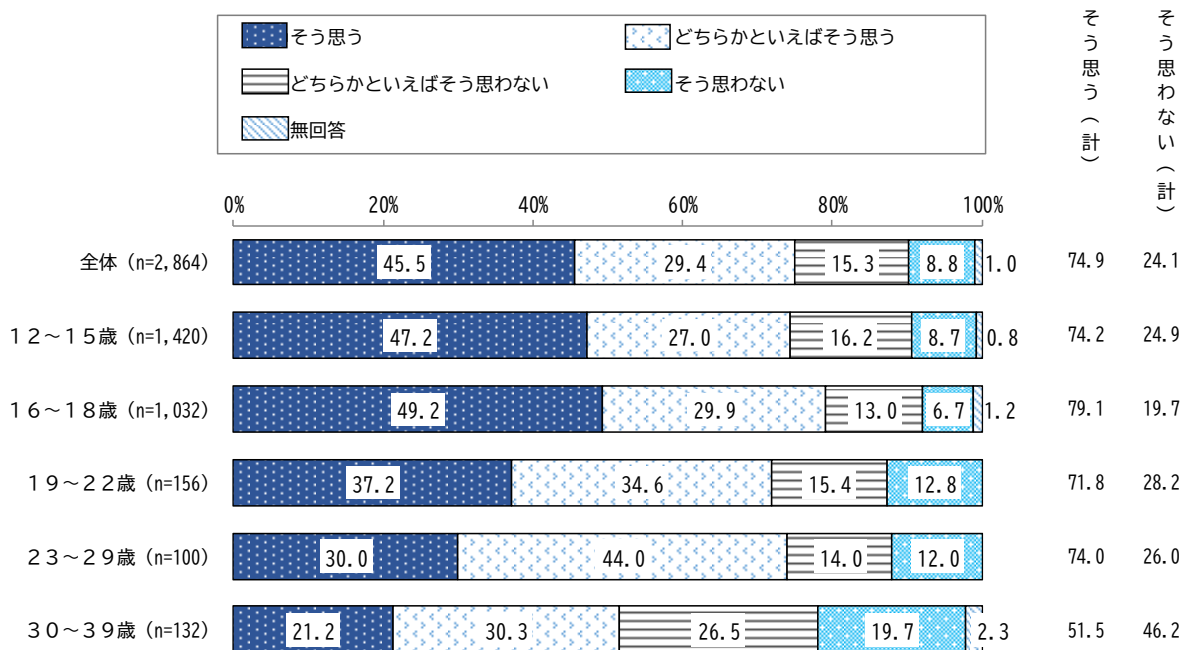


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として何でも悩みを相談できる人がいると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(74.9%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。16～18歳では79.1%と最も高くなっており、比較的友人に何でも悩みを相談できる人がいるという結果となっている。

【年齢別クロス集計：何でも悩みを相談できる人がいる】

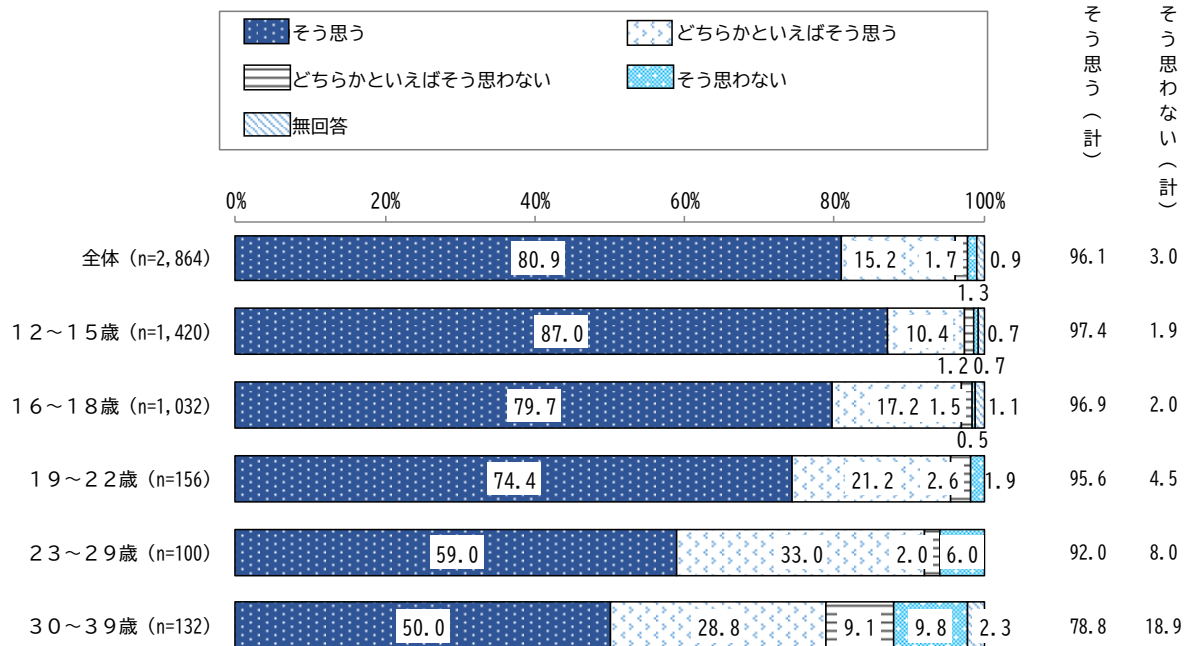


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として楽しく話せる時があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（96.1%）が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では97.4%と最も高くなっており、比較的友人と楽しく話せる時があることが多くなっている。

【年齢別クロス集計：楽しく話せる時がある】

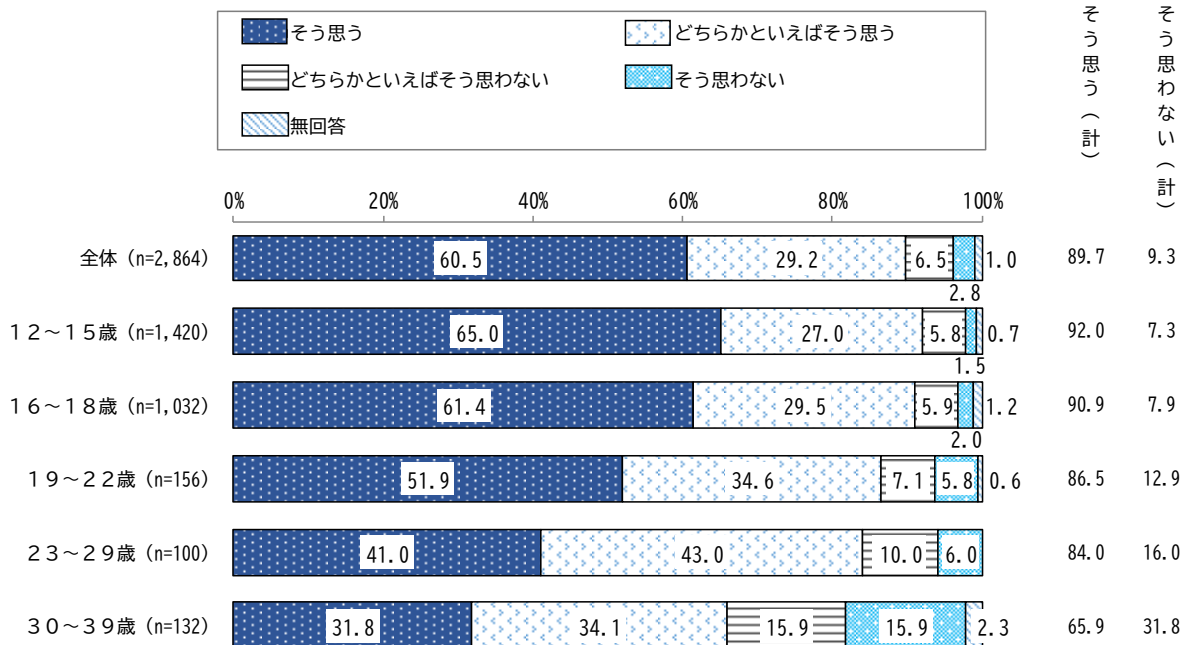


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として困ったときは助けしてくれると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（89.7%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が6割を超えている。12～15歳では92.0%と最も高くなっており、比較的友人は困ったときは助けしてくれると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：困ったときは助けしてくれる】

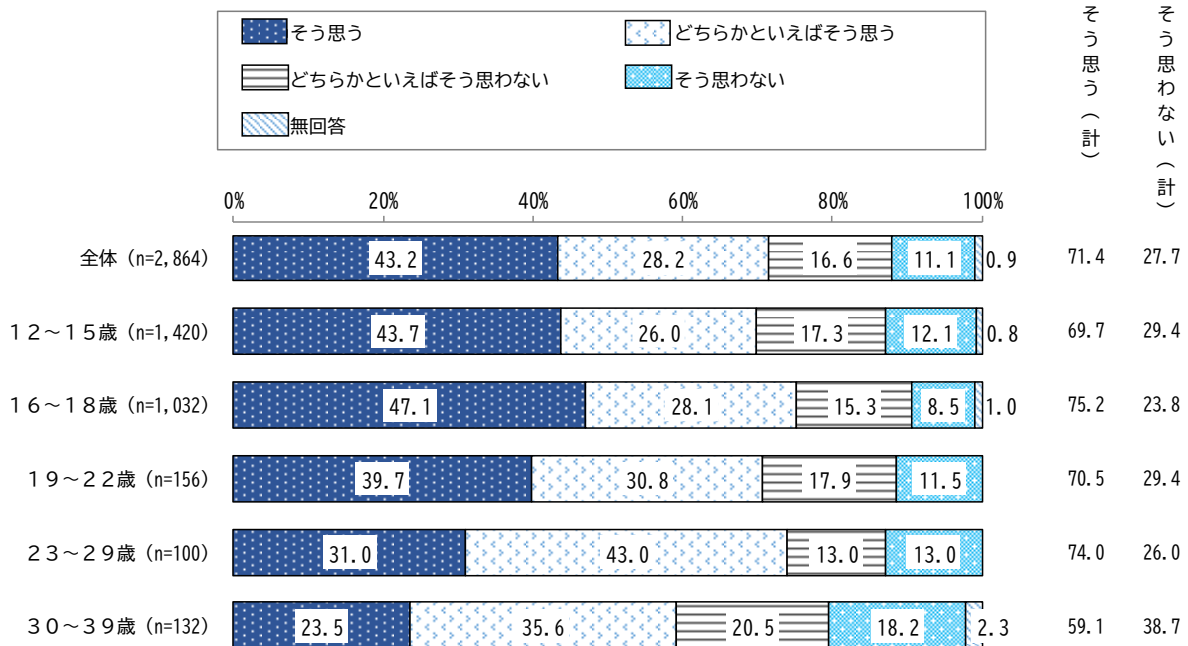


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として他の人には言えない本音を話せることがあると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（71.4%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。16～18歳では75.2%と最も高くなっており、比較的友人に他の人には言えない本音を話せると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：他の人には言えない本音を話せることがある】

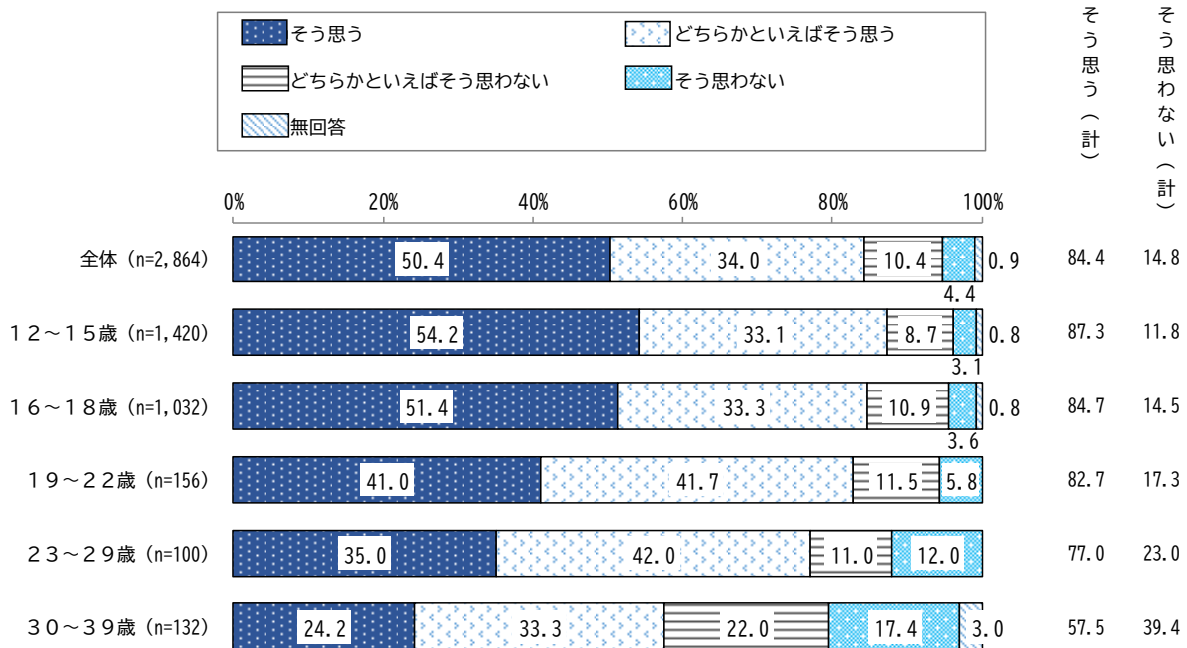


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として強いつながりを感じていると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（84.4%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では87.3%と最も高くなっており、比較的友人に強いつながりを感じると思っている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：強いつながりを感じている】

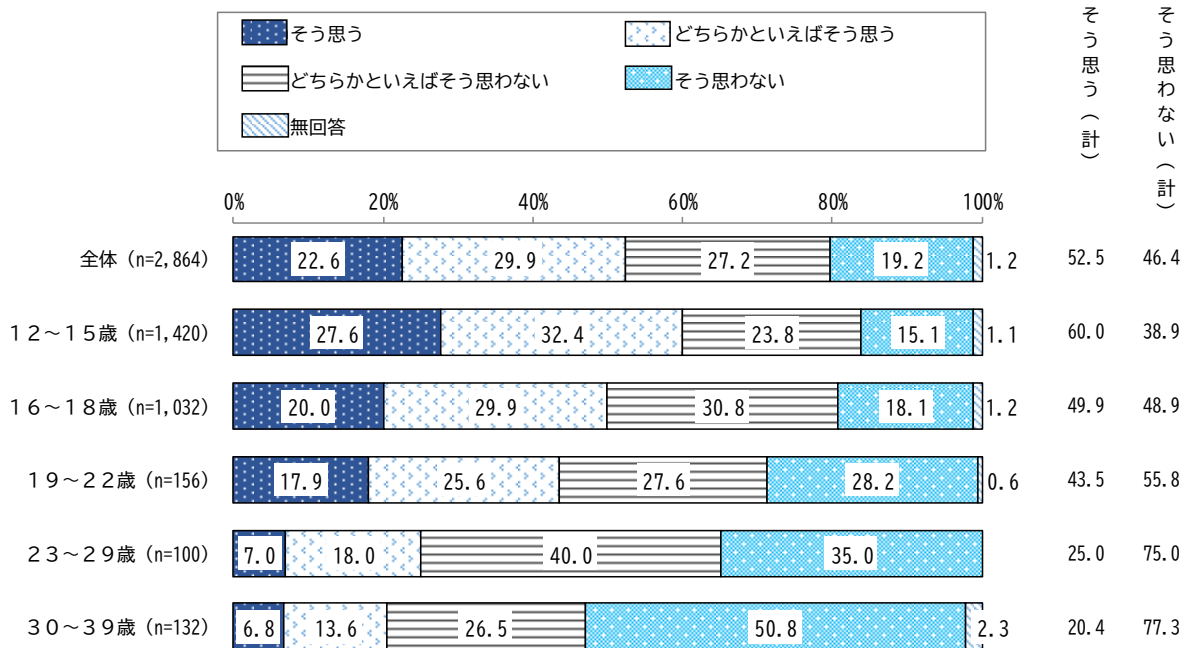


Ⅲ 調査の結果

学校で出会った友人とのかかわり方として新型コロナウイルス感染症の影響で、学校で出会った友人とのかかわりが強くなったと感じていると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(52.5%)が5割を超えている。

年齢別にみると、12～18歳では『そう思う』が『そう思わない』を上回っており、19～39歳では『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。年齢が上がるにつれてかかわりが強くなったとは思わない傾向となっている。

【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症の影響で、
学校で出会った友人とのかかわりが強くなったと感じている】



4. 地域づくり・地域への愛着について

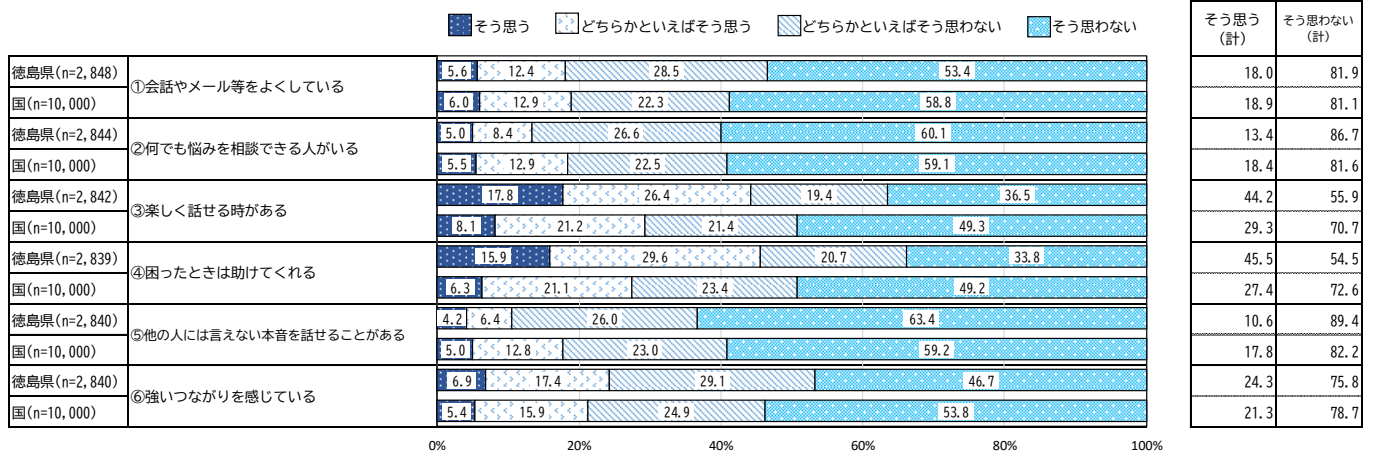
(1) 地域の人とのかかわり

問11. 地域の人とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

地域の人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目も半数未満となっており、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は約4割となっているものの、その他の4項目については2割前後となっている。

国調査と比較すると、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の4項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

【R1 国調査比較：地域の人とのかかわり】

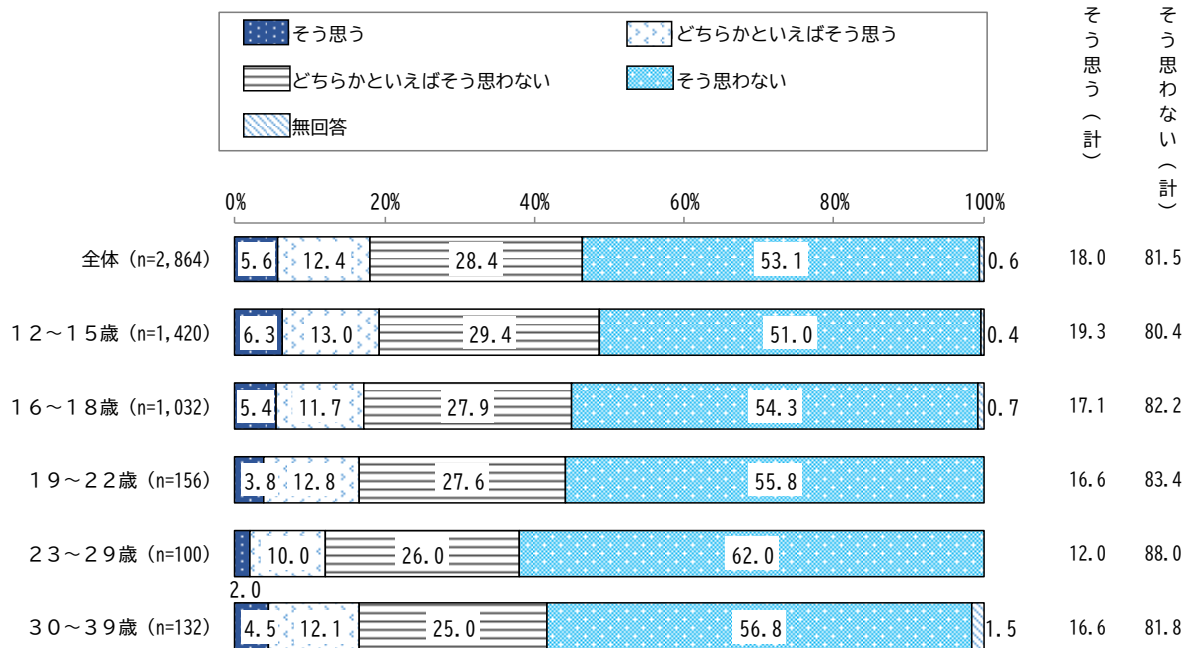


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として会話やメール等をよくしていると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(81.5%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が8割を超えている。23～29歳では88.0%と最も高くなっており、地域の人と会話やメール等をよくする人が少ない結果となっている。

【年齢別クロス集計：会話やメール等をよくしている】

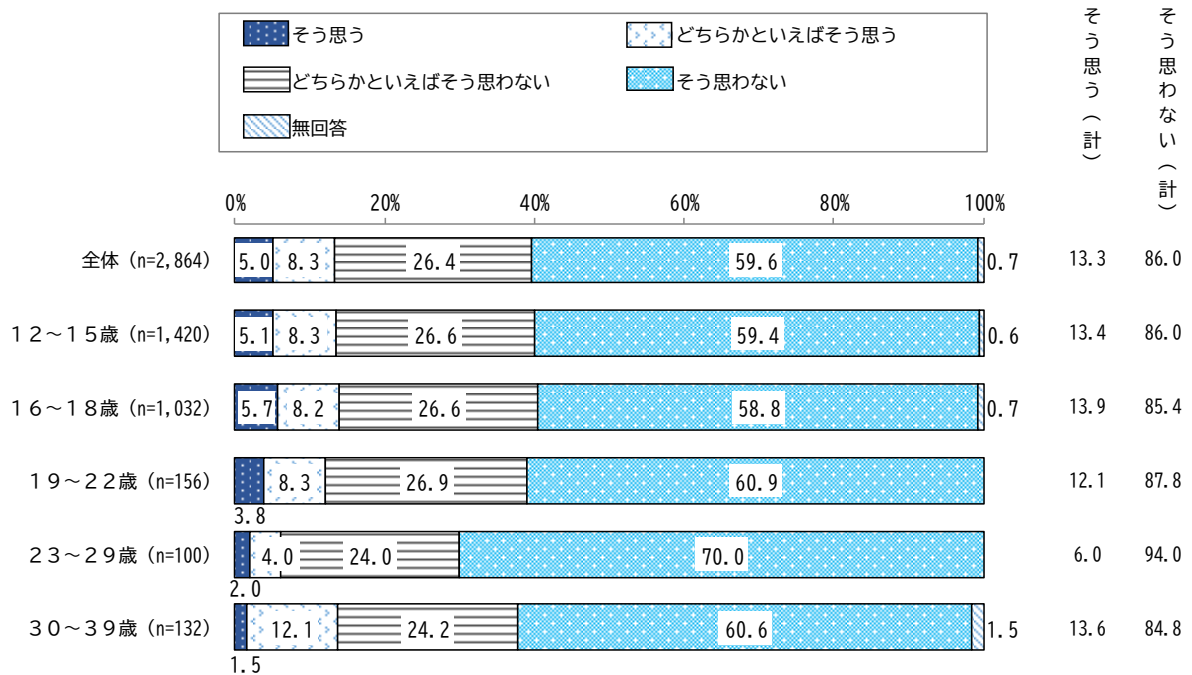


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として何でも悩みを相談できる人がいると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(86.0%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が8割を超えている。23～29歳では94.0%と最も高くなっており、何でも悩みを相談できる地域の人が少ない傾向となっている。

【年齢別クロス集計：何でも悩みを相談できる人がいる】

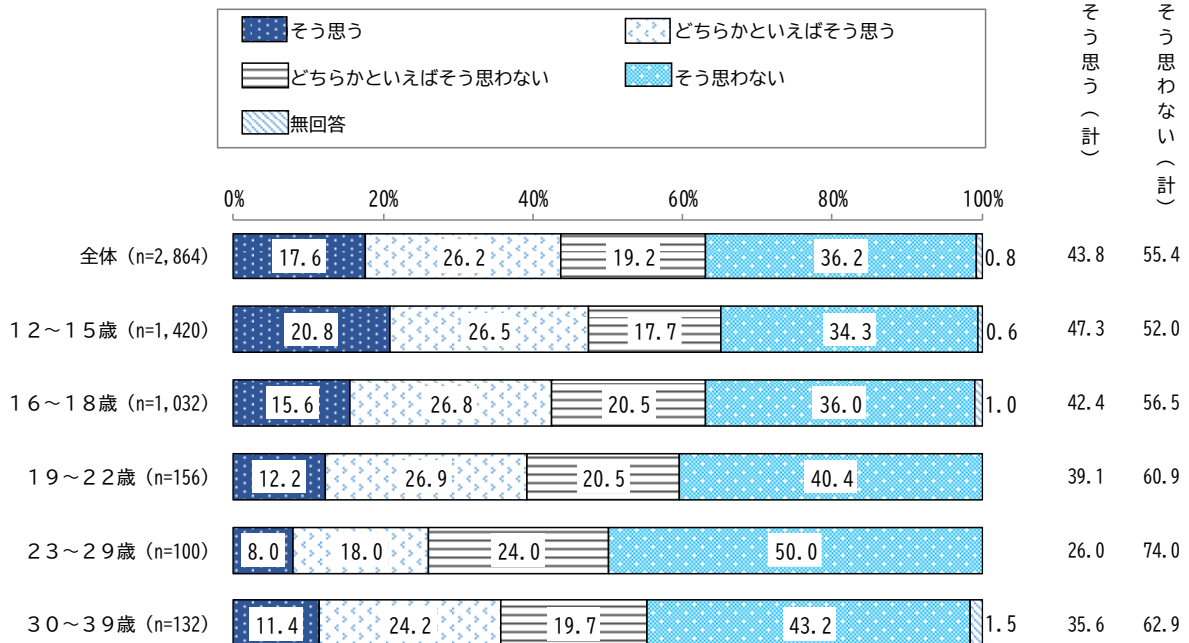


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として楽しく話せる時があると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(55.4%)が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が5割を超えている。23～29歳では74.0%と最も高くなっており、比較的地域の人と楽しく話せる時があると思っていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：楽しく話せる時がある】

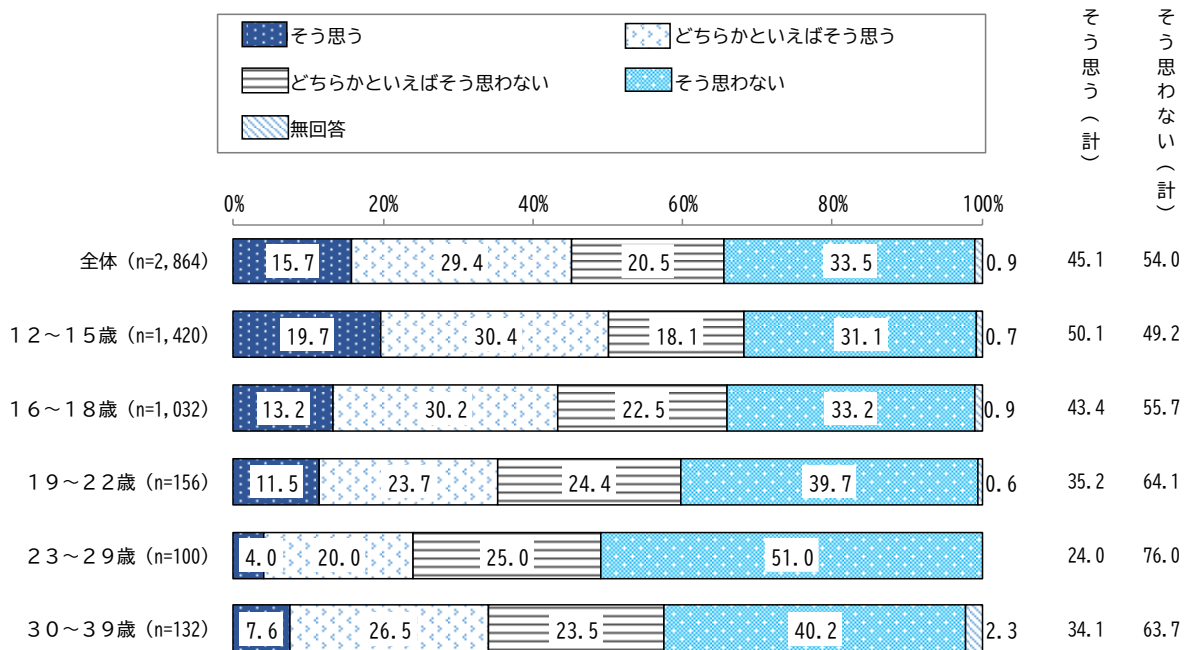


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として困ったときは助けしてくれると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（54.0%）が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が4割を超えている。23～29歳では76.0%と最も高くなっており、比較的地域の人は困ったときは助けしてくれると思っていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：困ったときは助けしてくれる】

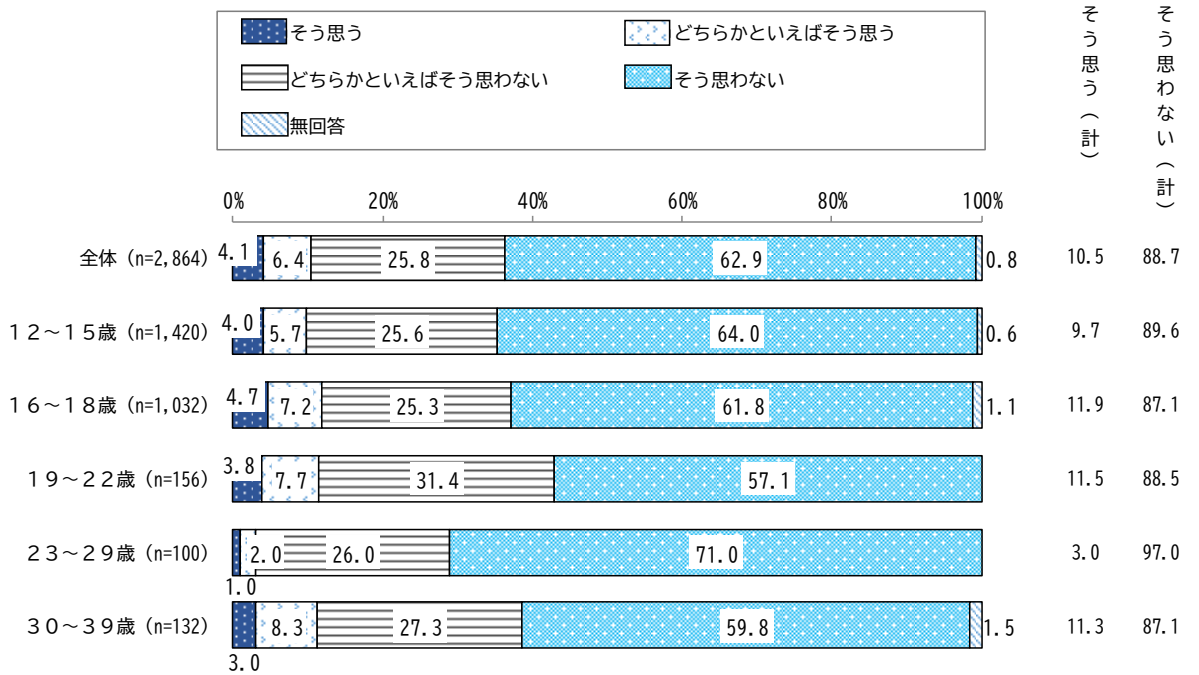


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として他の人には言えない本音を話せることがあると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（88.7%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が8割を超えている。23～29歳では97.0%と最も高くなっており、地域の人に他の人には言えない本音を話せるとは思っていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：他の人には言えない本音を話せることがある】

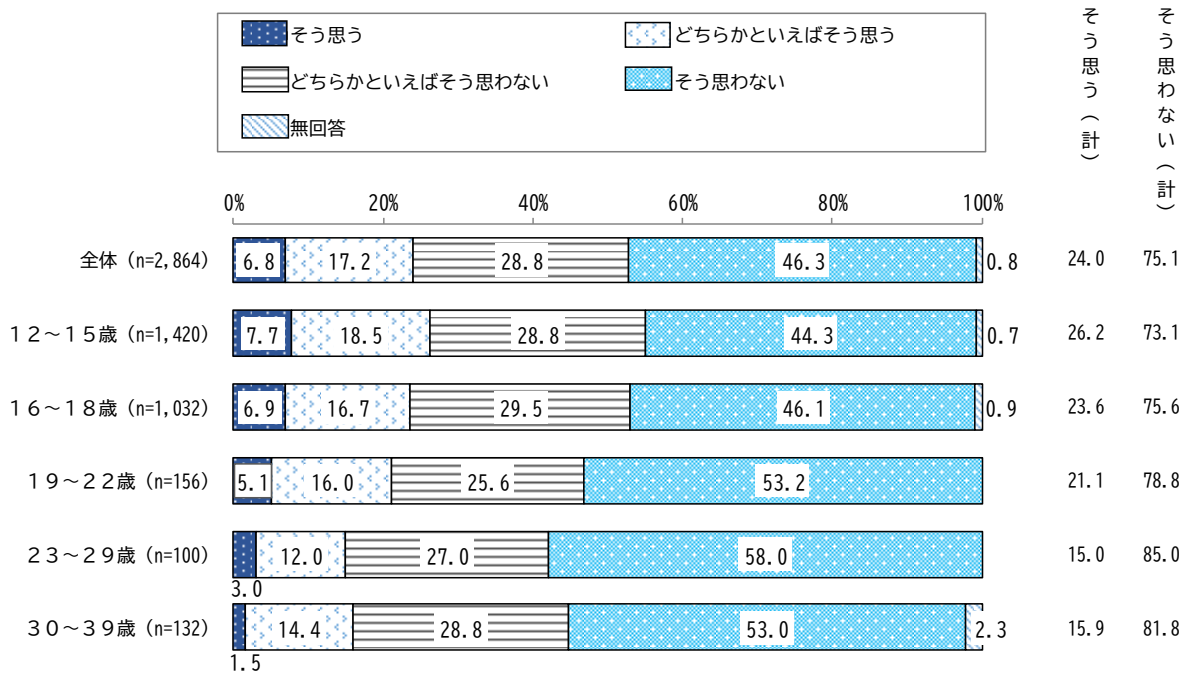


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として強いつながりを感じていると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（75.1%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が7割を超えている。23～29歳では85.0%と最も高くなっており、比較的地域の人に強いつながりを感じるとは思っていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：強いつながりを感じている】

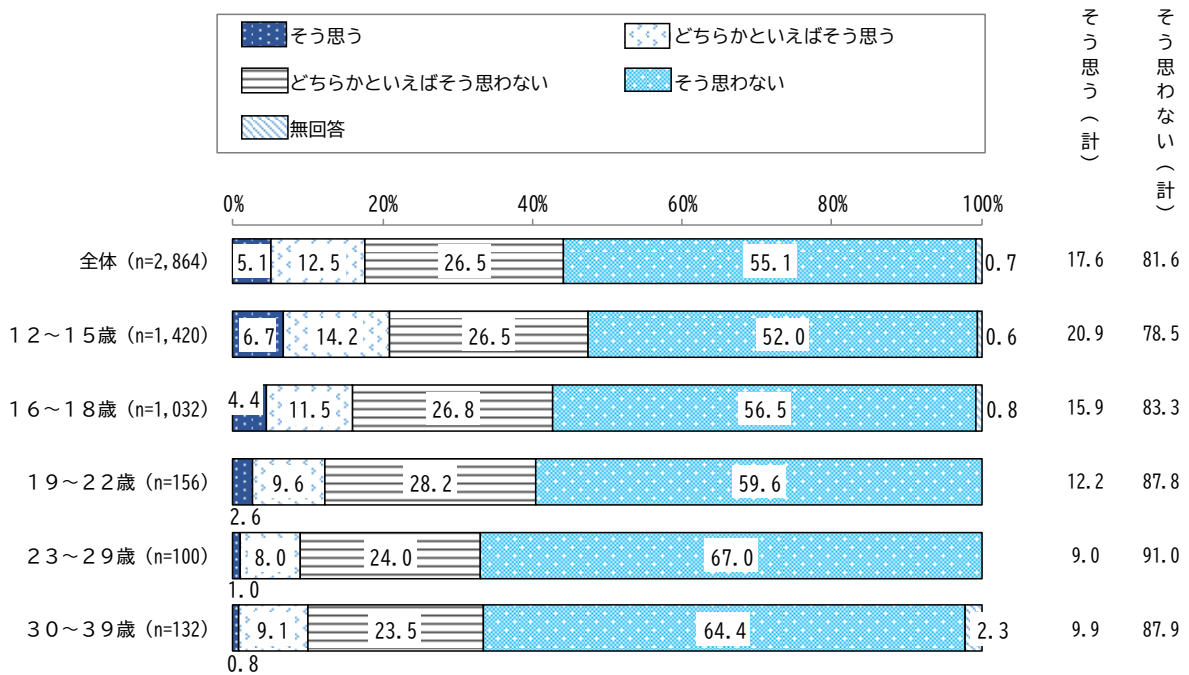


Ⅲ 調査の結果

地域の人とのかかわり方として新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人とのかかわりが強くなったと感じていると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』（81.6%）が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が7割を超えている。23～29歳では91.0%と最も高くなっており、比較的地域の人とのかかわりが強くなったと感じていない人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症の影響で、
地域の人とのかかわりが強くなったと感じている】



(2) 地域・社会活動への参加

①新型コロナウイルス感染症流行以前（2020年2月以前）の参加頻度

②新型コロナウイルス感染症流行以降（2020年3月以降）の参加頻度

問12. 新型コロナウイルス感染症流行以前（2020年2月以前）の地域・社会活動への参加頻度はどのくらいですか。（1つに○）

問13. 新型コロナウイルス感染症流行以降（2020年3月以降）の地域・社会活動への参加頻度はどのくらいですか。（1つに○）

新型コロナウイルス感染症流行以前（2020年2月以前）の地域・社会活動への参加頻度について、全体をみると、「年に数回程度参加」（24.3%）、次いで「年に1回程度参加」（14.1%）が高く、「参加していない」（47.9%）が約5割を占めている。

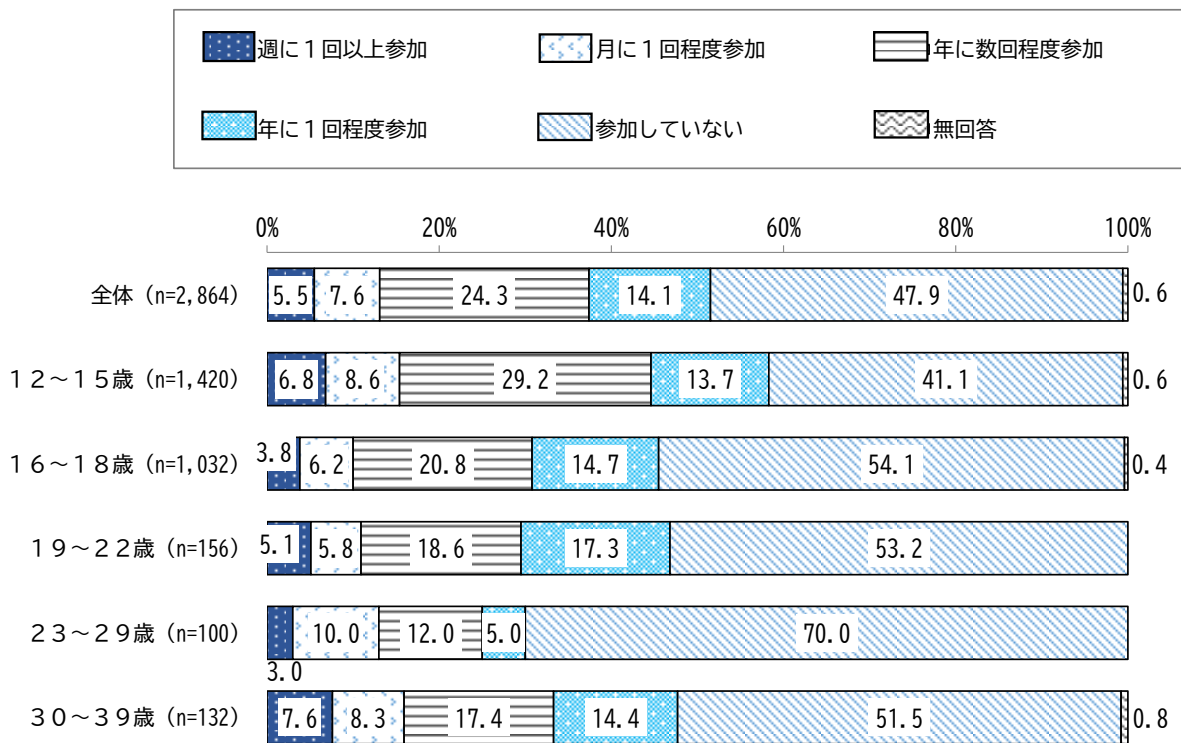
年齢別にみると、いずれも「年に数回程度参加」が高くなっている。

新型コロナウイルス感染症流行以降（2020年3月以降）と比較すると、「参加していない」（73.4%）が7割を超え、流行以前よりもさらに高い割合となっている。

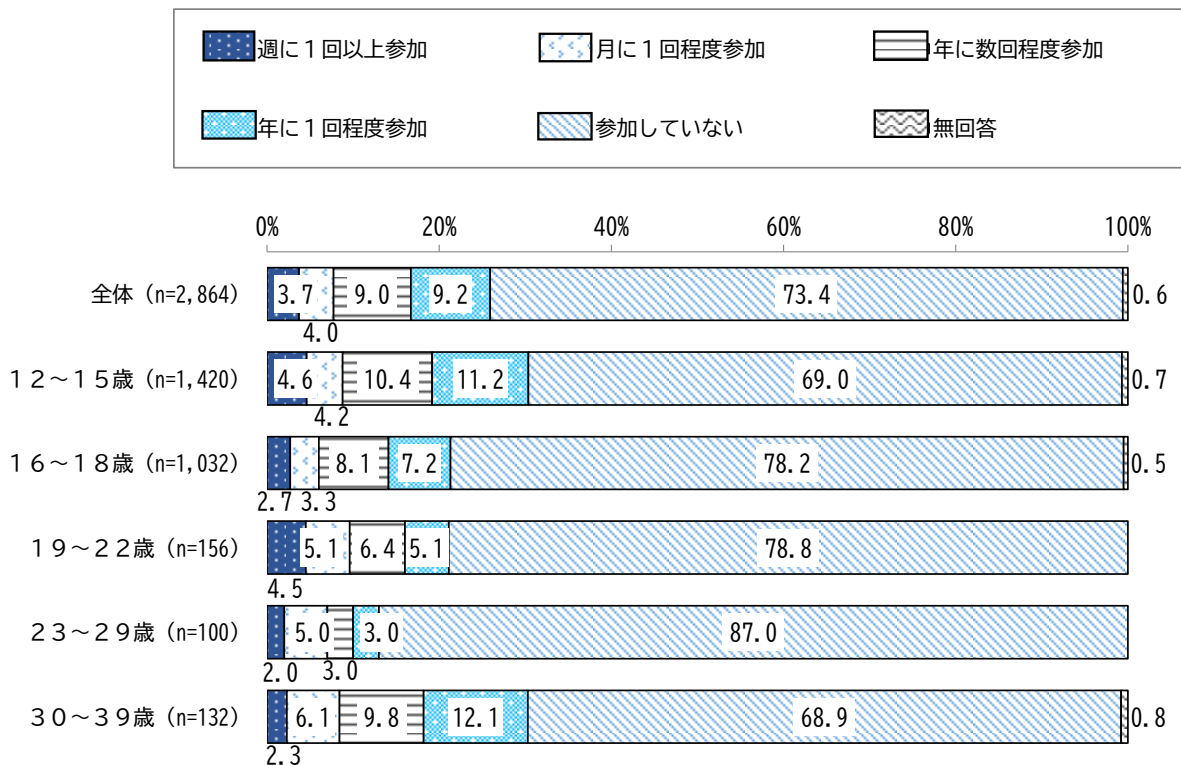
年齢別にみると、12～15歳、30～39歳では「年に1回程度参加」と流行以前に比べて参加頻度が下がっている。16～18歳、19～22歳では「年に数回程度参加」と流行以前と同様。23～29歳では「月に1回程度参加」と流行以前に比べて参加頻度が上がっている。

Ⅲ 調査の結果

【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症流行以前（2020年2月以前）の
地域・社会活動への参加頻度】



【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症流行以降（2020年3月以降）の
地域・社会活動への参加頻度】



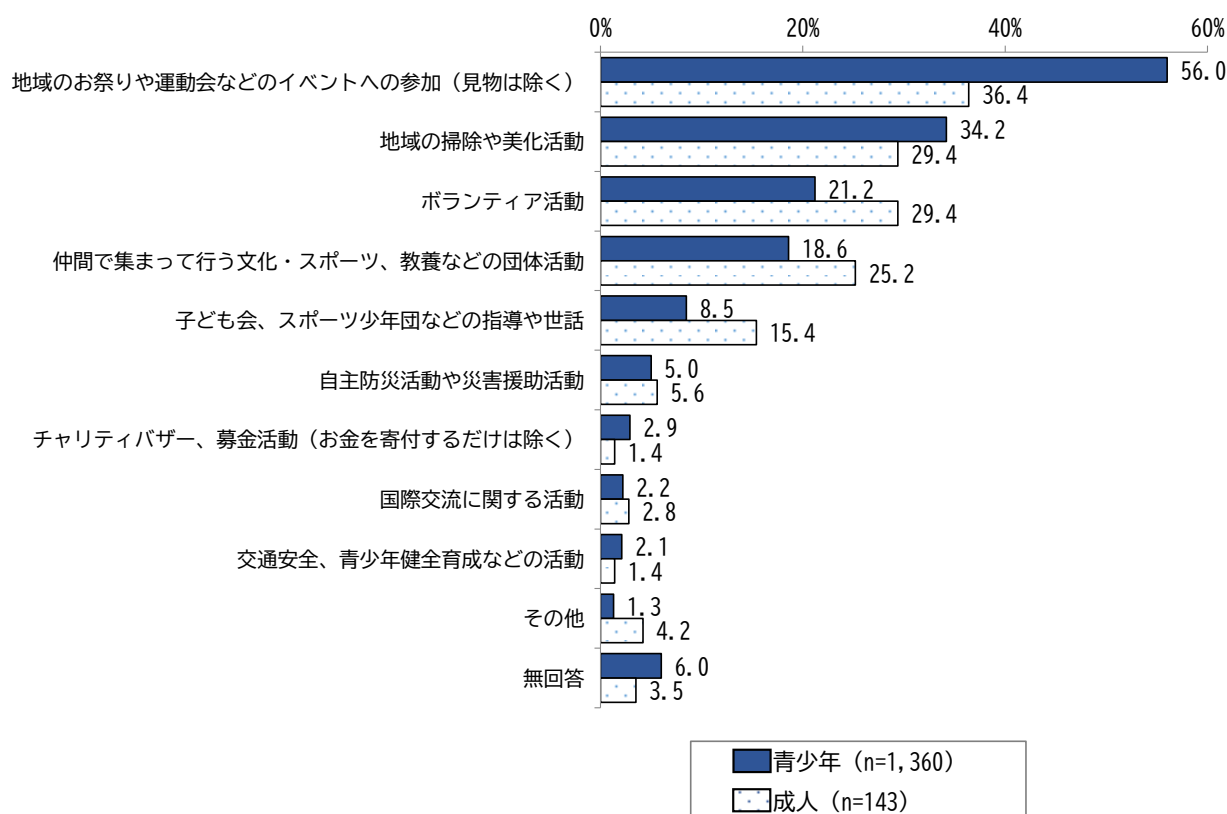
③参加した活動の内容

問14. あなたが、最近2年ぐらいの間に、参加したり、行ったりした活動をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

最近2年程の間に、参加、行った活動について、青少年、成人ともに「地域のお祭りや運動会などのイベントへの参加（見物は除く）」（青少年 56.0%、成人 36.4%）が最も高くなっている。次いで「地域の掃除や美化活動」（青少年 34.2%、成人 29.4%）が続いている。成人では青少年に比べて「ボランティア活動」（29.4%）や「仲間が集まって行う文化・スポーツ、教養などの団体活動」（25.2%）の割合が高くなっている。

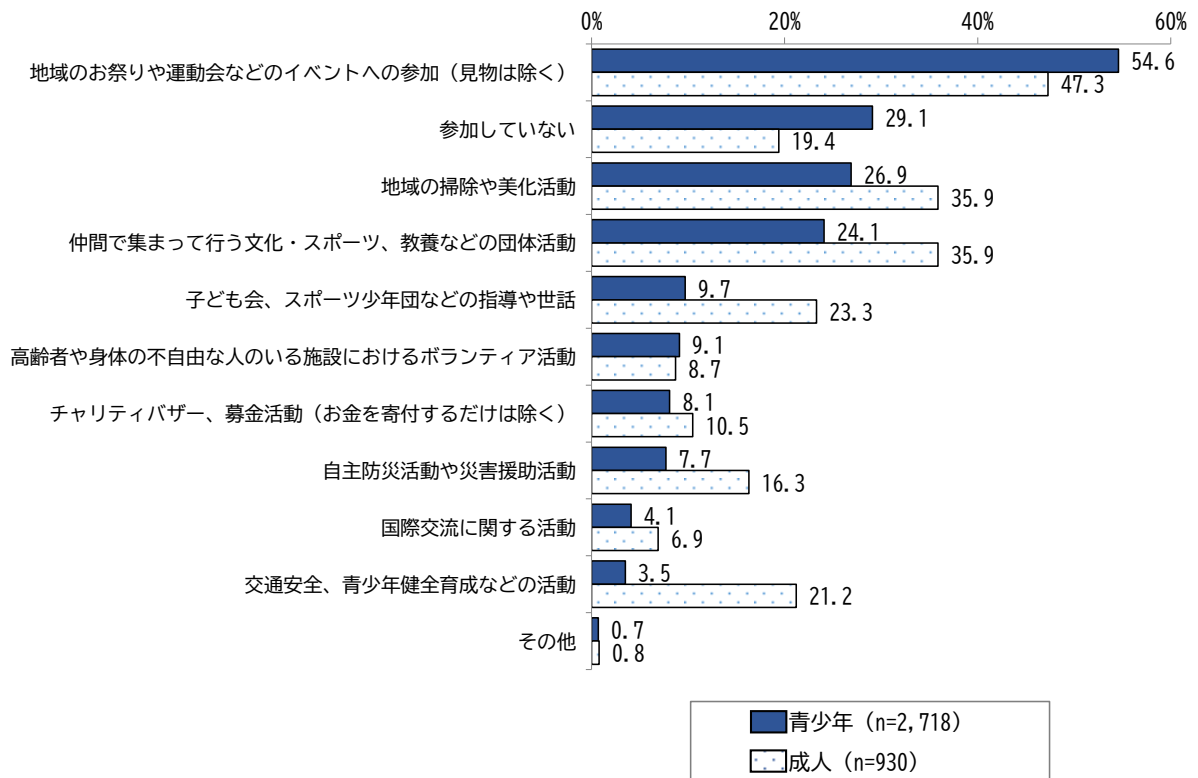
前回調査と比較すると、大きな差は見られなかった。

【調査対象別：最近2年程の間に、参加、行った活動】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：最近２年程の間に、参加、行った活動】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

Ⅲ 調査の結果

最近2年程の間に、参加、行った活動について、全体をみると、「地域のお祭りや運動会などのイベントへの参加（見物は除く）」（54.1%）が最も高く、次いで「地域の掃除や美化活動」（33.7%）、「ボランティア活動」（21.8%）、「仲間で集まって行う文化・スポーツ、教養などの団体活動」（19.1%）が続いている。

年齢別にみると、12～15歳、16～18歳、30～39歳では「地域のお祭りや運動会などのイベントへの参加（見物は除く）」が、19～22歳、23～29歳では「ボランティア活動」が最も高くなっている。23～39歳では「子ども会、スポーツ少年団などの指導や世話」の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：最近2年程の間に、参加、行った活動】

		地域のお祭りや運動会などのイベントへの参加（見物は除く）	地域の掃除や美化活動	自主防災活動や災害援助活動	ボランティア活動	チャリティバザー、募金活動（お金を寄付するだけは除く）	仲間で集まって行う文化・スポーツ、教養などの団体活動	子ども会、スポーツ少年団などの指導や世話	国際交流に関する活動	交通安全、青少年健全育成などの活動	その他	無回答
全体（n=1,515）		54.1	33.7	5.1	21.8	2.7	19.1	9.2	2.2	2.0	1.6	5.8
年齢別	12～15歳（n=843）	59.9	33.9	5.5	15.2	2.8	20.3	9.3	1.8	2.5	1.3	6.6
	16～18歳（n=489）	50.1	34.2	4.3	29.9	3.1	15.7	7.2	2.9	1.2	1.4	5.3
	19～22歳（n=76）	38.2	32.9	3.9	51.3	0.0	26.3	5.3	3.9	1.3	1.3	0.0
	23～29歳（n=31）	29.0	22.6	6.5	35.5	3.2	29.0	12.9	6.5	3.2	3.2	6.5
	30～39歳（n=64）	40.6	34.4	6.3	9.4	1.6	18.8	25.0	0.0	1.6	6.3	4.7

1位

2位

Ⅲ 調査の結果

④地域・社会活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以前）

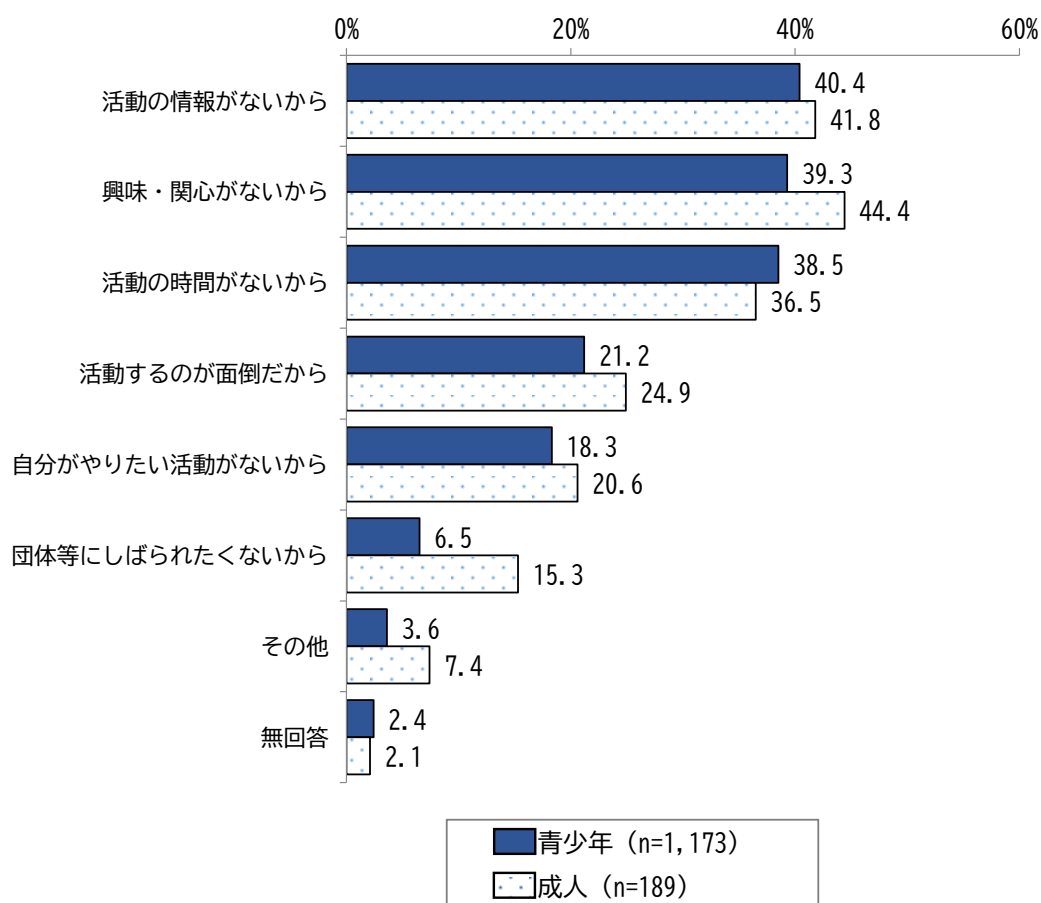
問15.【問12で「5 参加していない」と回答した方におたずねします。】

あなたが地域・社会参加活動に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

地域・社会参加活動に参加しない理由について、青少年では「活動の情報がないから」（40.4%）が最も高く、次いで「興味・関心がないから」（39.3%）、「活動の時間がないから」（38.5%）が続いている。成人では「興味・関心がないから」（44.4%）が最も高くなっているものの、概ね青少年と同様の傾向となっている。

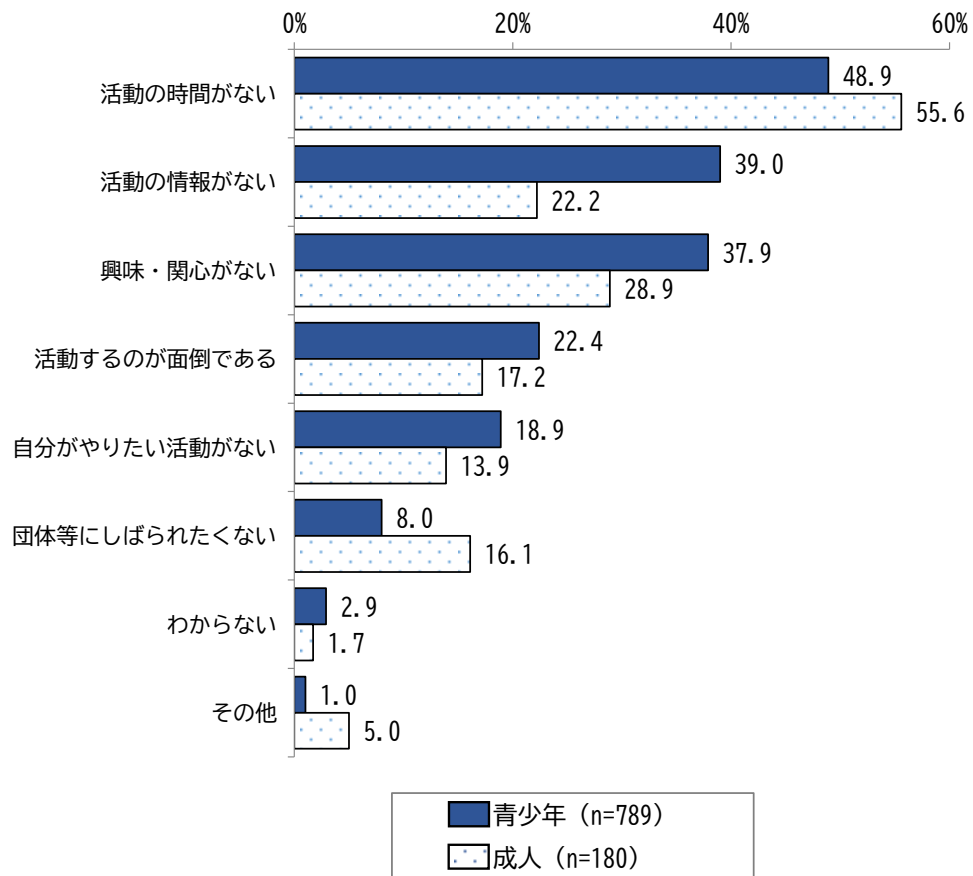
前回調査と比較すると、今回の成人では「興味・関心がないから」（44.4%）となっており、前回の成人の「興味・関心がない」（28.9%）よりも割合が増加しており、より興味・関心がない傾向となっている。

【調査対象別：地域・社会参加活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以前）】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：地域・社会参加活動に参加しない理由】



Ⅲ 調査の結果

地域・社会参加活動に参加しない理由について、全体をみると、「活動の情報が無いから」(40.6%)が最も高く、次いで「興味・関心がないから」(39.9%)、「活動の時間がないから」(38.4%)、「活動するのが面倒だから」(21.8%)、「自分がやりたい活動がないから」(18.8%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「興味・関心がないから」が3割を超えている。23～39歳では活動に参加しない理由として他の年齢別に比べて「団体等に選ばれたくないから」と考える傾向が高くなっている。

【年齢別クロス集計：地域・社会参加活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以前）】

		活動の時間 がないから	活動の情報 がないから	自分がやり たい活動が ないから	団体等にし ばれたく ないから	活動するの が面倒だ から	興味・関心 がないから	その他	無回答
全体 (n=1,373)		38.4	40.6	18.8	7.6	21.8	39.9	4.1	2.4
年 齢 別	12～15歳 (n=583)	34.6	40.8	19.4	7.9	26.8	41.9	4.8	1.9
	16～18歳 (n=558)	41.8	40.9	17.4	5.2	15.8	36.2	2.5	3.0
	19～22歳 (n=83)	41.0	33.7	18.1	6.0	15.7	41.0	3.6	2.4
	23～29歳 (n=70)	31.4	40.0	20.0	15.7	31.4	48.6	10.0	2.9
	30～39歳 (n=68)	44.1	45.6	22.1	20.6	25.0	45.6	5.9	0.0

1位

2位

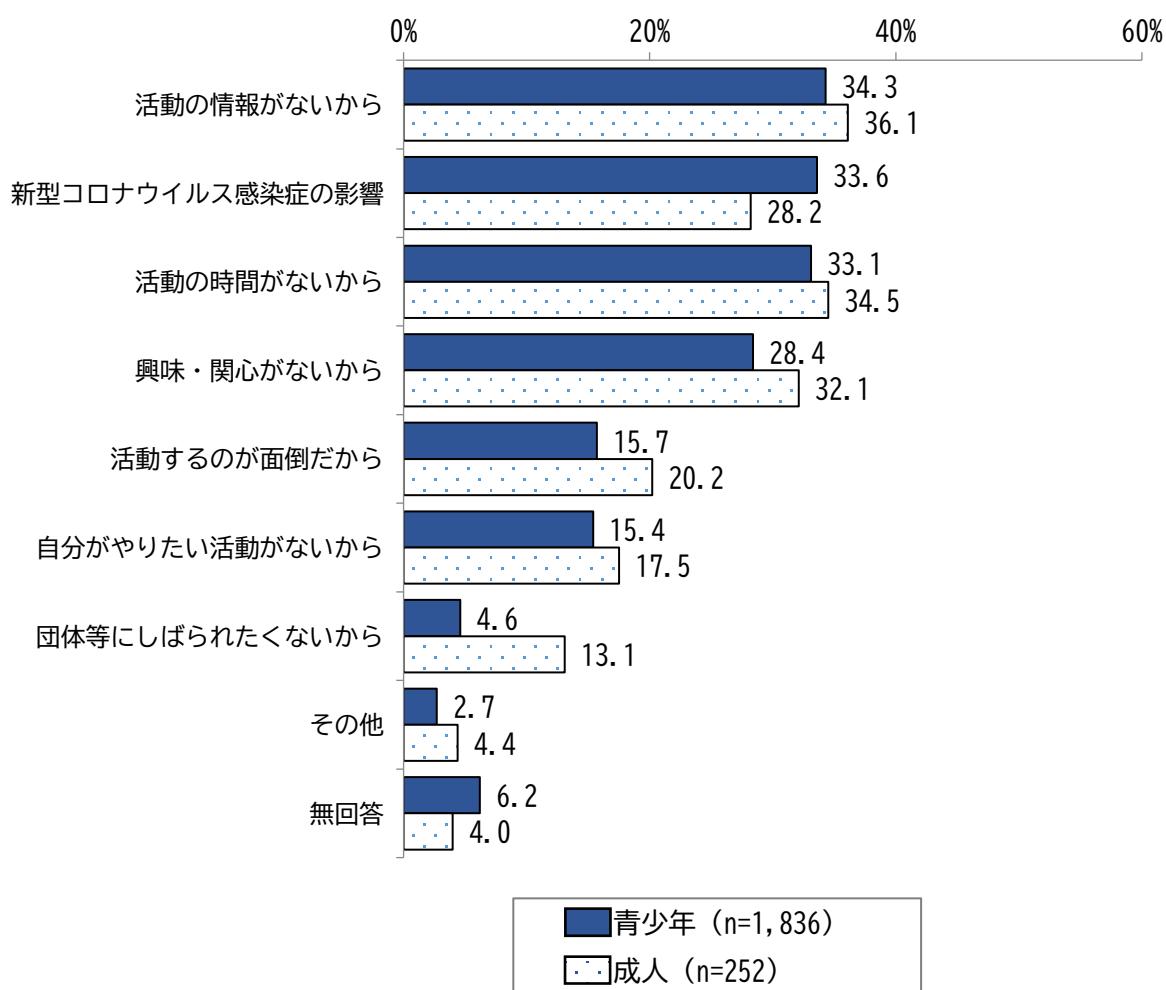
⑤地域・社会活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以降）

問16.【問13で「5 参加していない」と回答した方におたずねします。】

あなたが地域・社会参加活動に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

地域・社会参加活動に参加しない理由について、青少年では新型コロナウイルス感染症流行以前と同様に「活動の情報がないから」（34.3%）、「活動の時間がないから」（33.1%）に回答が集まっているが、「新型コロナウイルス感染症の影響」（33.6%）も高い割合となっている。成人においても、新型コロナウイルス感染症流行以前と同様の傾向となっている。

【調査対象別：地域・社会参加活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以降）】



Ⅲ 調査の結果

地域・社会参加活動に参加しない理由について、全体をみると、「活動の情報がないから」(34.5%)、「活動の時間がないから」(33.3%)、「新型コロナウイルス感染症の影響」(33.0%)、「興味・関心がないから」(28.9%)が続いている。

年齢別にみると、12～15歳では「新型コロナウイルス感染症の影響」(38.1%)、16～22歳では「活動の時間がないから」、23～29歳では「興味・関心がないから」(39.1%)、30～39歳では「活動の時間がないから」、「活動の情報がないから」(ともに36.3%)が最も高くなっている。

【年齢別クロス集計：地域・社会参加活動に参加しない理由（新型コロナウイルス感染症流行以降）】

		活動の時間 がないから	活動の情報 がないから	自分がやり たい活動が ないから	団体等に しづらけ ないから	活動するの が面倒だか ら	興味・関心 がないから	新型コロナ ウイルス感 染症の影 響	その他	無回答
全体 (n=2,103)		33.3	34.5	15.7	5.6	16.4	28.9	33.0	2.9	5.9
年 齢 別	12～15歳 (n=980)	28.7	34.5	14.9	5.7	18.2	29.0	38.1	3.5	6.0
	16～18歳 (n=807)	37.8	34.6	15.7	3.3	12.9	27.5	28.0	1.9	6.8
	19～22歳 (n=123)	39.0	30.9	17.1	4.9	12.2	27.6	30.9	0.8	2.4
	23～29歳 (n=87)	31.0	37.9	17.2	14.9	28.7	39.1	28.7	6.9	3.4
	30～39歳 (n=91)	36.3	36.3	18.7	16.5	18.7	31.9	27.5	4.4	4.4

1位

2位

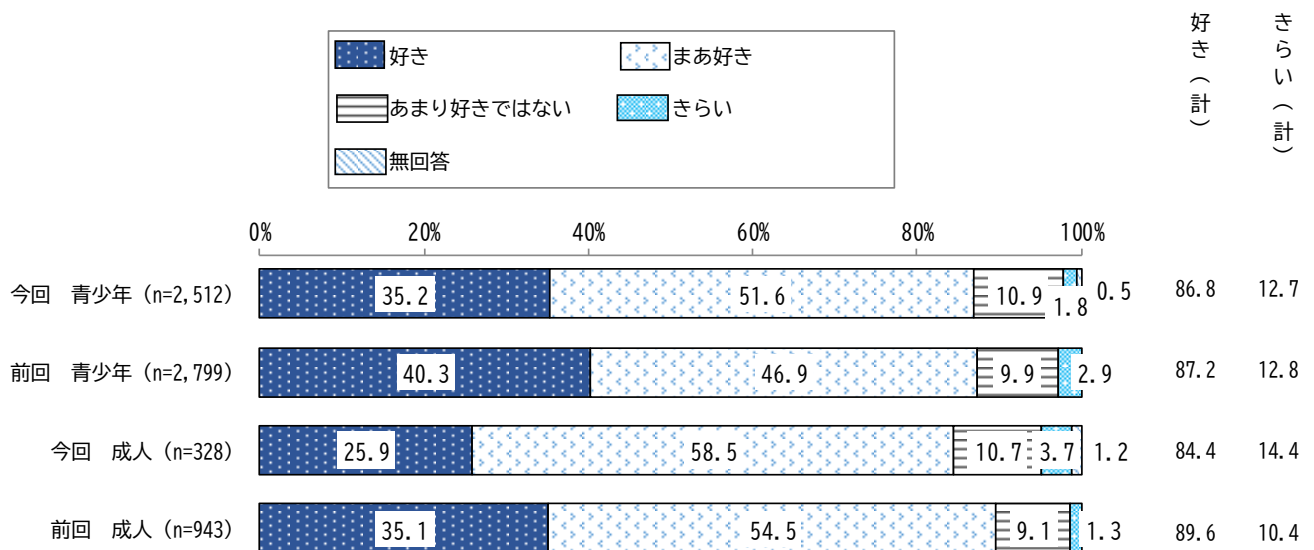
(3) 地域への愛着

①居住地域の好感度

問17. あなたは、今住んでいる市や町や村が好きですか。(1つに○)

居住地域の好感度について、青少年、成人ともに「好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』が8割を超えている(青少年86.8%、成人84.4%)。前回調査と比較すると、『好き』(青少年87.2%、成人89.6%)となっており、大きな差は見られず、前回と同様に今住んでいる市町村が好きである人が多い結果となっている。

【H28 前回調査比較：居住地域の好感度】

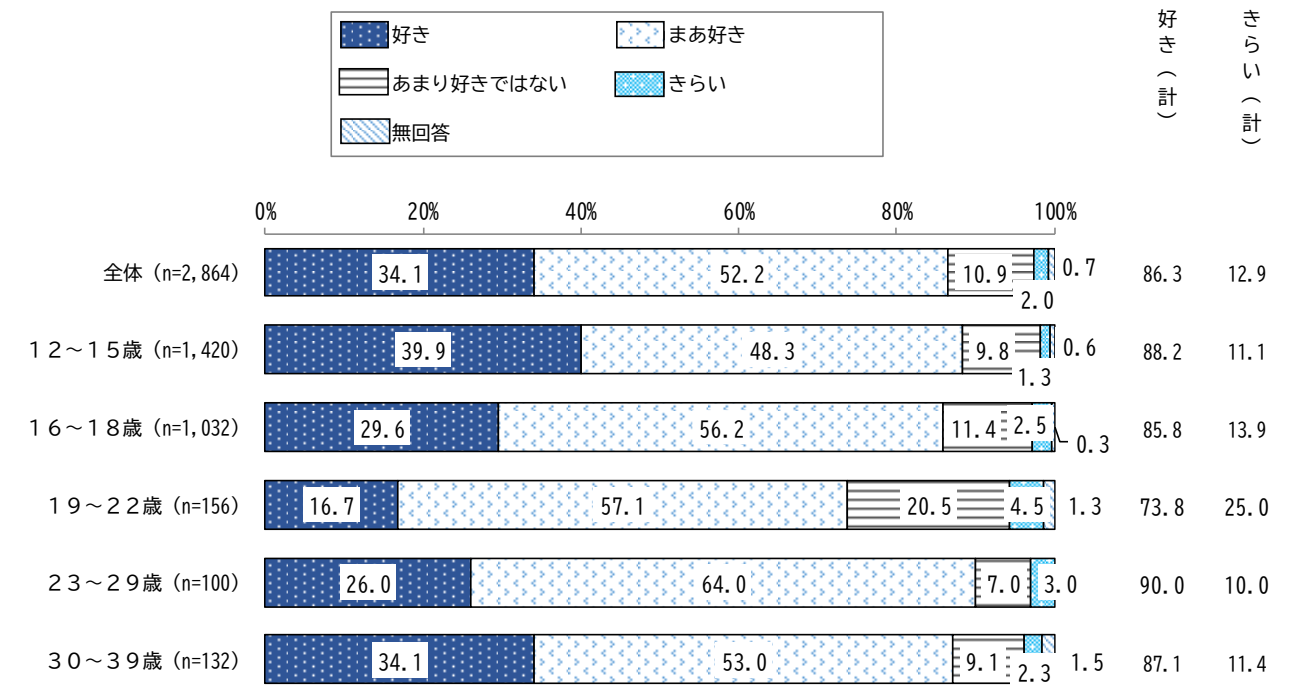


Ⅲ 調査の結果

居住地域の好感度について、全体をみると、「好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』（86.3%）が8割を超えている。

年齢別にみると、『好き』がいずれも7割を超えている。23～29歳では90.0%と最も高くなっており、今住んでいる市町村が好きである人が多い結果となっている。

【年齢別クロス集計：居住地域の好感度】



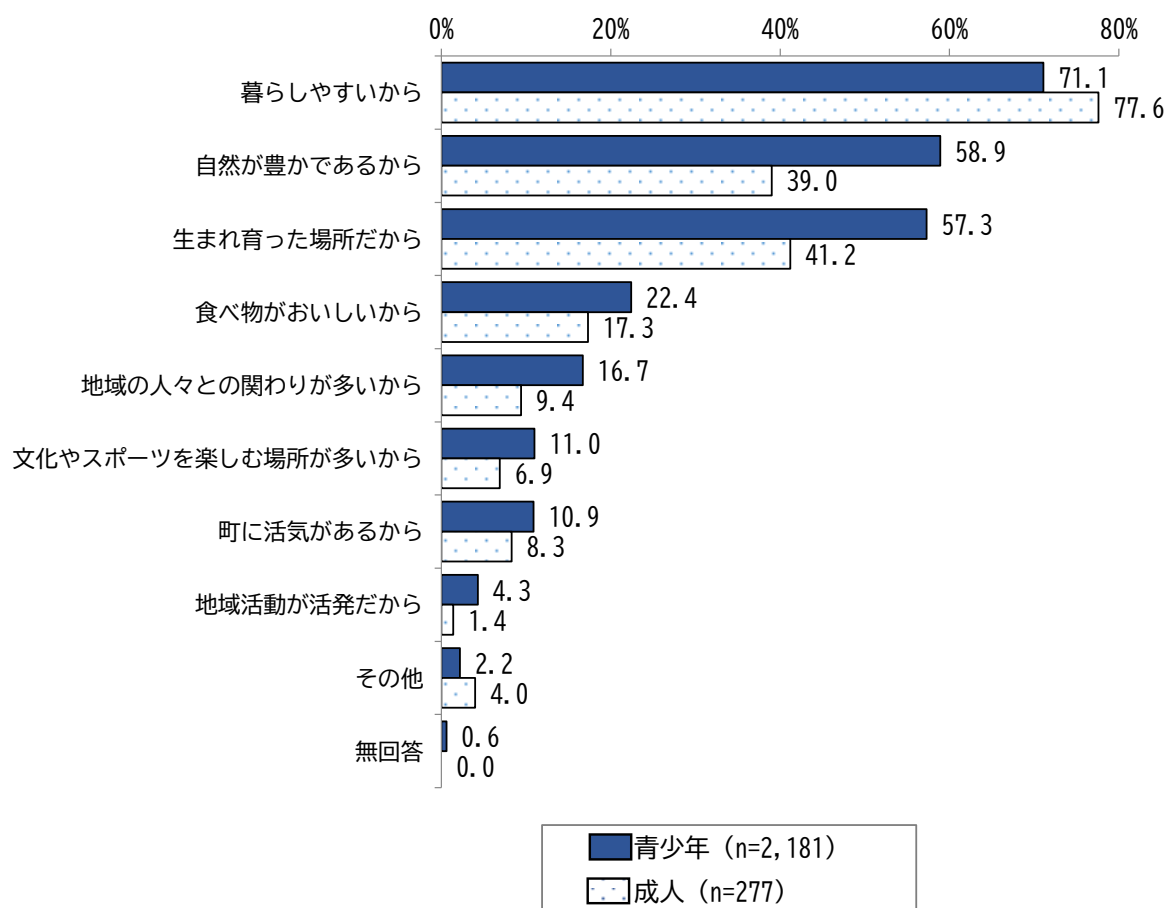
②好感度の理由

問17ー1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

居住地域に関して「好き」、「まあ好き」を選んだ理由について、青少年、成人ともに「暮らしやすいから」(青少年 71.1%、成人 77.6%)が最も高く、次いで青少年では「自然が豊かであるから」(58.9%)、成人では「生まれ育った場所だから」(41.2%)が続いている。

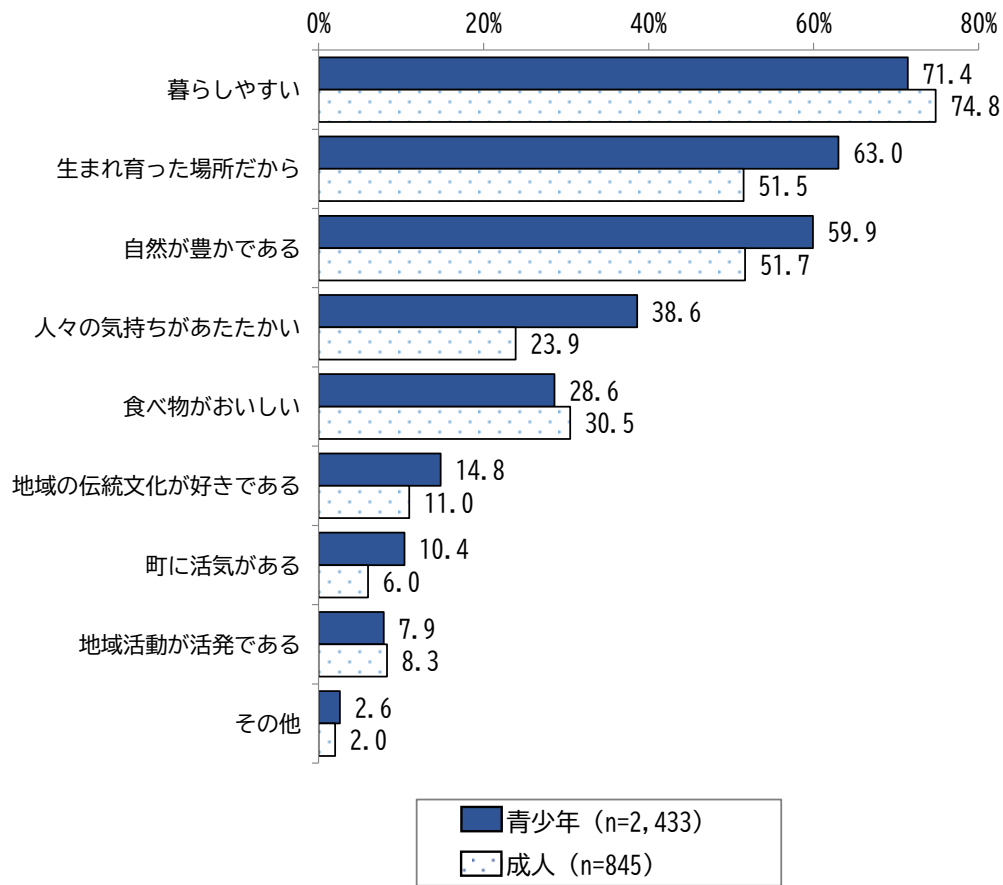
前回調査と比較すると、青少年では大きな差は見られなかった。成人では、今回の「食べ物がおいしいから」(17.3%)の割合は、前回の成人の「食べ物がおいしい」(30.5%)よりも13.2ポイント減少している。

【調査対象別：「好き」「まあ好き」を選んだ理由】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：「好き」「まあ好き」を選んだ理由】



Ⅲ 調査の結果

居住地域に関して「好き」、「まあ好き」を選んだ理由について、全体をみると、「暮らしやすいから」(71.7%)が最も高く、次いで「自然が豊かであるから」(56.7%)、「生まれ育った場所だから」(55.5%)、「食べ物がおいしいから」(21.8%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「暮らしやすいから」が6割を超えて最も高くなっている。次いで12～15歳、19～22歳では「自然が豊かであるから」が、16～18歳、23～29歳、30～39歳では「生まれ育った場所だから」が続いている。また、12～15歳では「地域の人々との関わりが多いから」(20.7%)、「食べ物がおいしいから」(26.2%)、「文化やスポーツを楽しむ場所が多いから」(14.3%)の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：「好き」「まあ好き」を選んだ理由】

		暮らし やすいから	自然が豊か であるから	町に活気 があるから	地域の人々 との関わり が多いから	地域活動が 活発だから	食べ物が おいしいから	文化やス ポーツを楽 しむ場所が 多いから	生まれ育 った場所だ から	その他	無回答
全体 (n=2,474)		71.7	56.7	10.5	15.8	3.9	21.8	10.5	55.5	2.4	0.5
年 齢 別	12～15歳 (n=1,253)	73.8	64.2	13.1	20.7	5.8	26.2	14.3	61.9	2.2	0.7
	16～18歳 (n=885)	67.2	52.2	8.1	11.6	2.1	17.3	6.6	52.4	2.3	0.3
	19～22歳 (n=115)	71.3	39.1	5.2	8.7	1.7	18.3	7.8	27.8	5.2	0.0
	23～29歳 (n=90)	78.9	40.0	6.7	6.7	0.0	17.8	5.6	47.8	0.0	0.0
	30～39歳 (n=115)	80.0	38.3	11.3	11.3	2.6	15.7	6.1	43.5	5.2	0.0

1位

2位

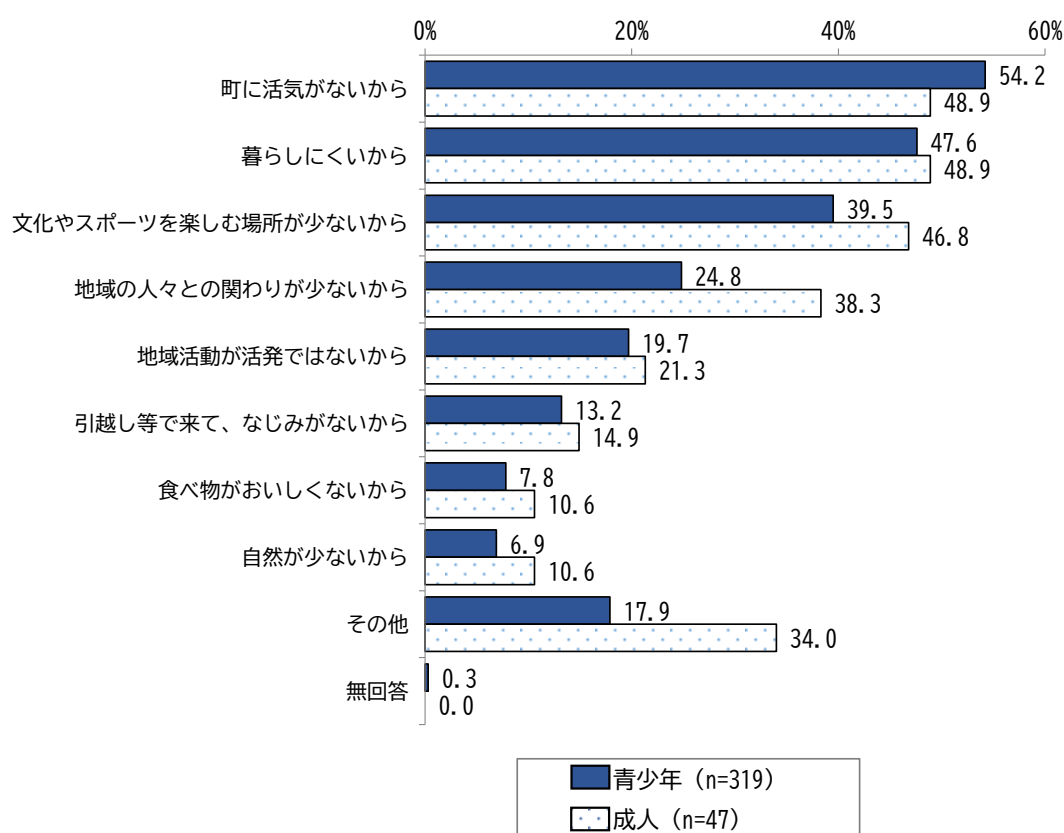
③嫌いな理由

問17-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

居住地域に関して「あまり好きではない」、「きらい」を選んだ理由について、青少年では「町に活気がないから」(54.2%)が最も高く、次いで「暮らしにくいから」(47.6%)と続いている。成人においても「町に活気がないから」「暮らしにくいから」(ともに48.9%)の割合が高くなっている。

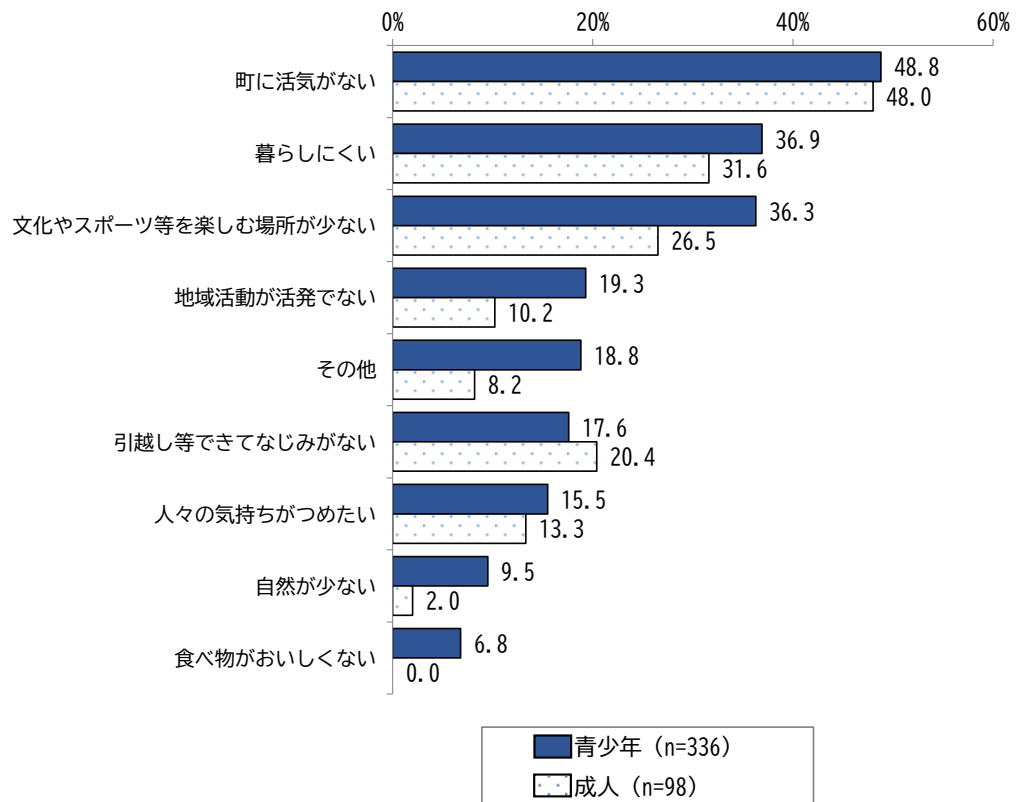
前回調査と比較すると、青少年では大きな差はみられなかったが、成人では「暮らしにくいから」(17.3%増加)、「文化やスポーツを楽しむ場所が少ないから」(20.3%増加)の2項目が大きく増加し、いずれも今回調査では半数近くとなっている。

【調査対象別：「あまり好きではない」「きらい」を選んだ理由】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：「あまり好きではない」「きらい」を選んだ理由】



Ⅲ 調査の結果

居住地域に関して「あまり好きではない」、「きらい」を選んだ理由について、全体をみると、「町に活気がないから」(53.6%)が最も高く、次いで「暮らしにくいから」(47.4%)、「文化やスポーツを楽しむ場所が少ないから」(40.2%)、「地域の人々との関わりが少ないから」(26.4%)が続いている。

年齢別にみると、12～15歳、16～18歳では「町に活気がないから」が、19～22歳、30～39歳では「暮らしにくいから」、23～29歳では「町に活気がないから」、「地域の人々との関わりが少ないから」(ともに60.0%)が最も高くなっている。12～15歳、30～39歳では「自然が少ないから」の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：「あまり好きではない」「きらい」を選んだ理由】

		暮らしにくいから	自然が少ないから	町に活気がないから	地域の人々との関わりが少ないから	地域活動が活発ではないから	食べ物がおいしくないから	文化やスポーツを楽しむ場所が少ないから	引越し等で来て、なじみがないから	その他	無回答
全体 (n=371)		47.4	7.3	53.6	26.4	20.2	8.1	40.2	13.2	20.2	0.3
年齢別	12～15歳 (n=158)	47.5	12.0	56.3	32.9	23.4	10.1	46.8	11.4	22.8	0.0
	16～18歳 (n=144)	47.2	2.1	54.2	13.9	16.0	5.6	32.6	12.5	13.2	0.7
	19～22歳 (n=39)	51.3	7.7	33.3	35.9	15.4	7.7	38.5	25.6	25.6	0.0
	23～29歳 (n=10)	10.0	0.0	60.0	60.0	50.0	20.0	30.0	10.0	30.0	0.0
	30～39歳 (n=15)	73.3	13.3	66.7	33.3	13.3	6.7	60.0	13.3	33.3	0.0

1位

2位

Ⅲ 調査の結果

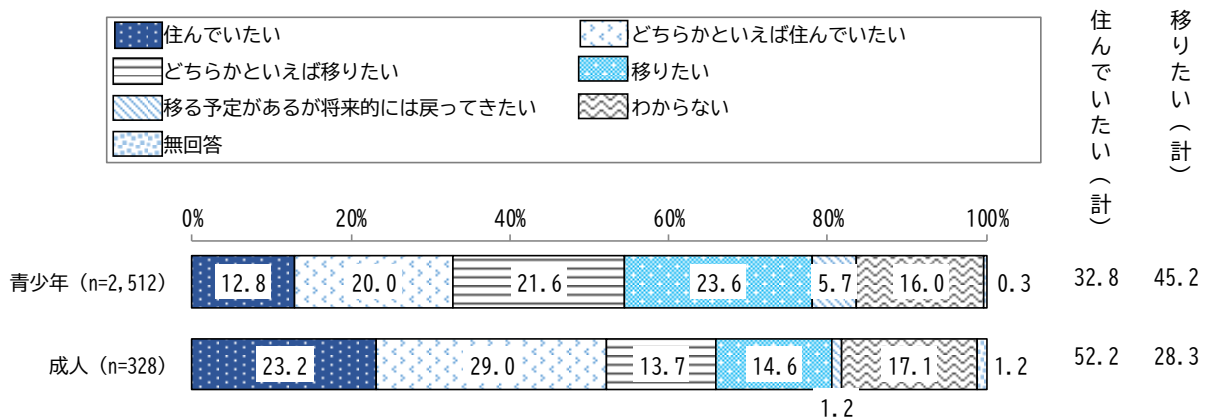
(4) 将来の居住意向

問18. あなたは、将来も今の地域に住んでいたいと思いますか。(1つに○)

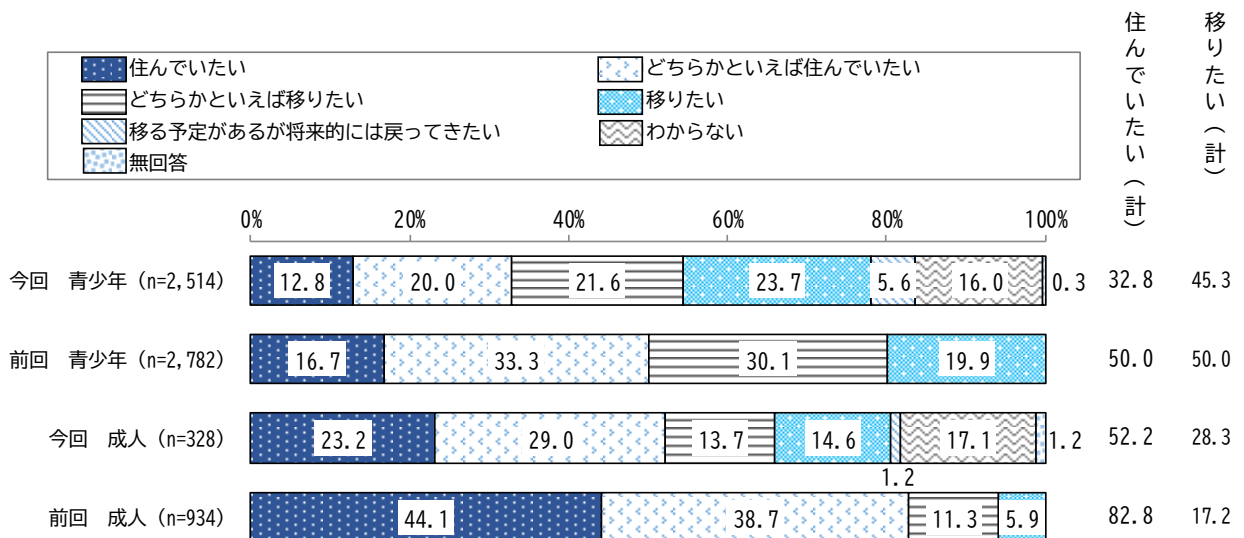
将来の居住意向について、青少年では「どちらかといえば移りたい」と「移りたい」を合わせた『移りたい』(45.2%)が、「住んでいたい」と「どちらかといえば住んでいたい」を合わせた『住んでいたい』(32.8%)を上回っており、移住意向が高くなっている。一方、成人では『住んでいたい』(52.2%)が『移りたい』(28.3%)を上回っており、今後も今の地域に住んでいたいと考えている人が多くなっている。

前回調査と比較すると、青少年では前は『住んでいたい』と『移りたい』の割合が半々だったのに対し、今回は『移りたい』(45.2%)が『住んでいたい』(32.8%)を上回っており、移住傾向が高くなっている。成人においても、前回に比べると移住意向が高くなっている。

【調査対象別：将来の居住意向】



【H28 前回調査比較：将来の居住意向】

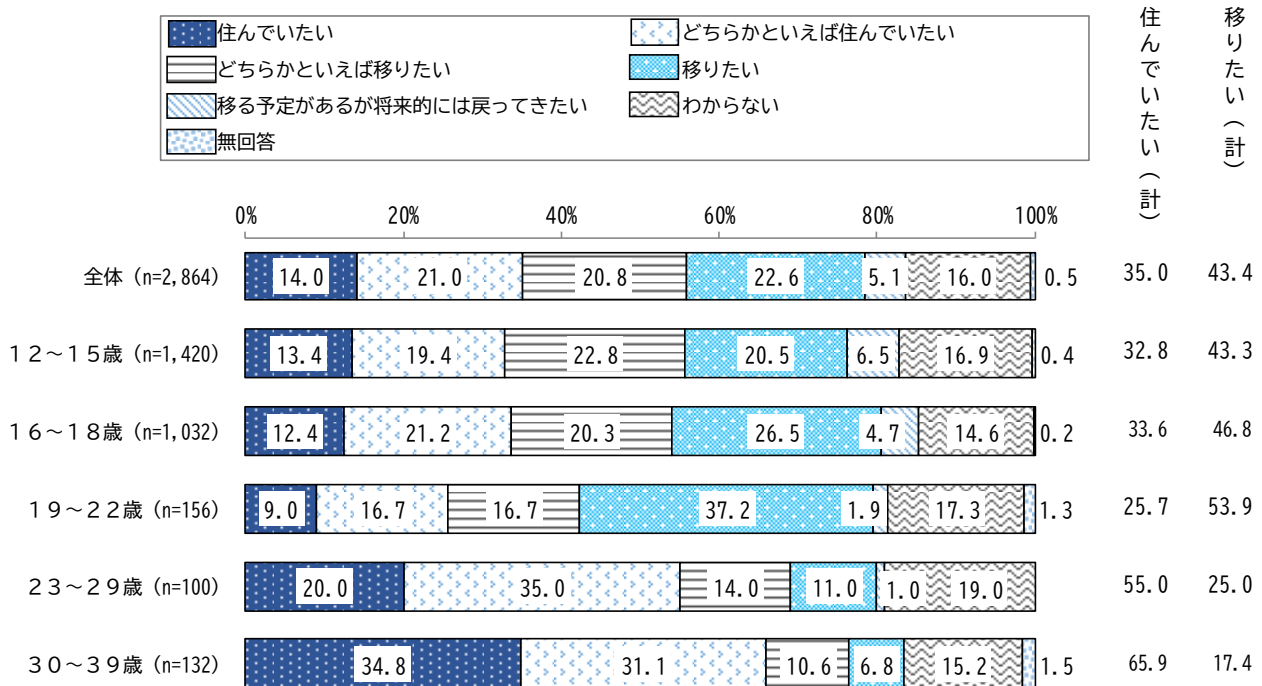


Ⅲ 調査の結果

将来の居留意向について、全体をみると、「どちらかといえば移りたい」と「移りたい」を合わせた『移りたい』(43.4%)が4割となっており、将来の移住意向が若干高くなっている。

年齢別にみると、12～22歳では『移りたい』が『住んでいたい』を上回っており、23～39歳では『住んでいたい』が『移りたい』を上回っている。年齢が上がるにつれて将来の移住意向が下がり、現居住地域に住み続けたいと考えている傾向となっている。

【年齢別クロス集計：将来の居留意向】



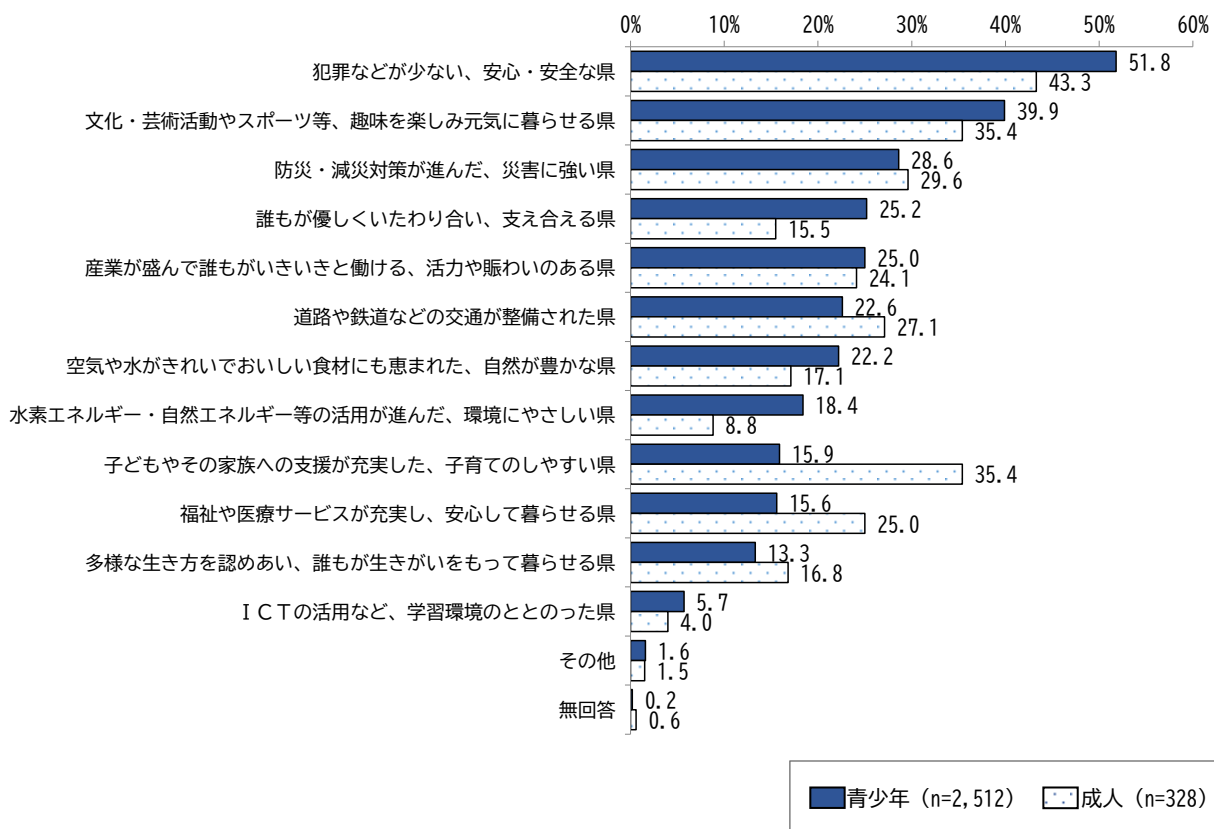
(5) 徳島県に期待する展望

問19. あなたは、徳島県が将来どのような県になってほしいと思いますか。(主なもの3つに○)

徳島県に期待する展望について、青少年、成人ともに「犯罪などが少ない、安心・安全な県」(青少年 51.8%、成人 43.3%) が最も高くなっている。次いで青少年では「文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県」(39.9%)、成人では「文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県」と「子どもやその家族への支援が充実した、子育てのしやすい県」(ともに 35.4%) が同率で続いている。

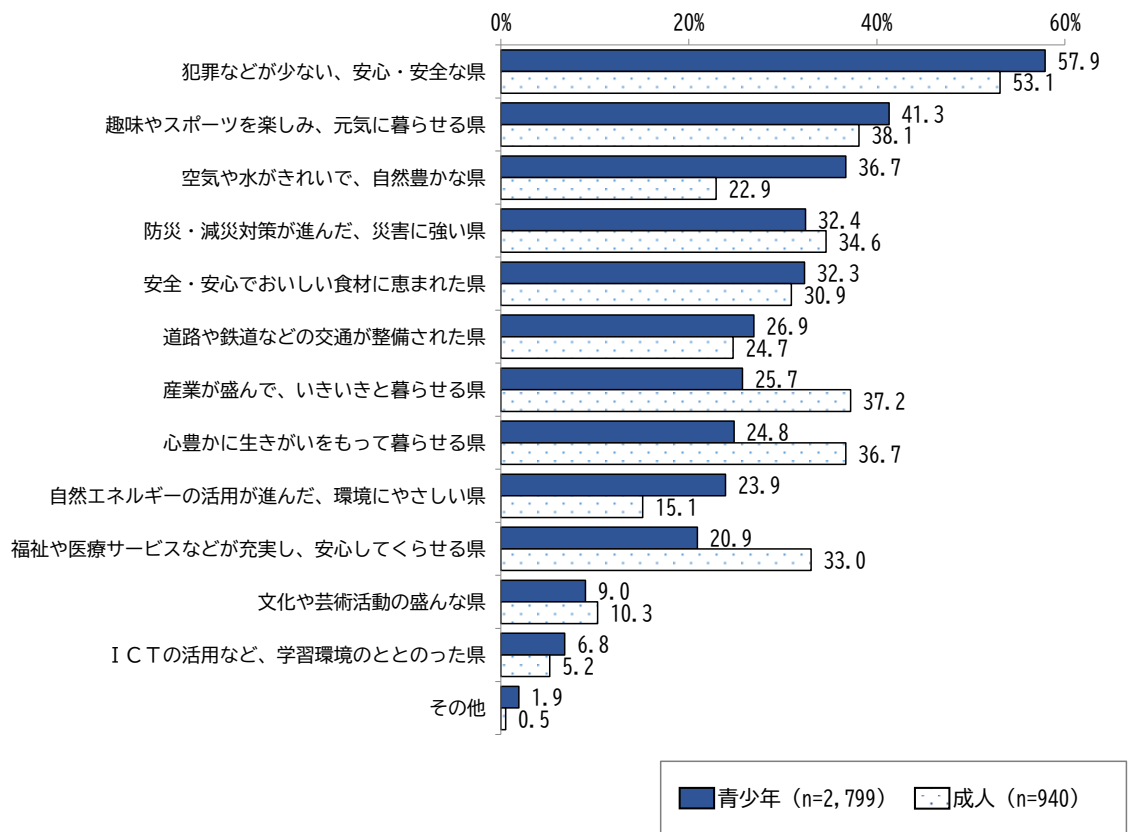
前回調査と比較すると、「犯罪などが少ない、安心・安全な県」(57.9%)、「趣味やスポーツを楽しみ、元気に暮らせる県」(41.3%) と、似た選択肢の割合が高くなっている。また、今回の青少年では「空気や水がきれいでおいしい食材にも恵まれた、自然が豊かな県」(22.2%) となっており、前回の「空気や水がきれいで、自然豊かな県」(36.7%) より割合が 14.5 ポイント減少している。

【調査対象別：徳島県に期待する展望】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：徳島県に期待する展望】



Ⅲ 調査の結果

徳島県に期待する展望について、全体をみると、「犯罪などが少ない、安心・安全な県」(50.8%)が最も高く、次いで「文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県」(39.4%)、「防災・減災対策が進んだ、災害に強い県」(28.6%)が続いている。

年齢別にみると、12～15歳、16～18歳、23～29歳では「犯罪などが少ない、安心・安全な県」が最も高く、19～22歳では「文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県」(43.6%)が、30～39歳では「子どもやその家族への支援が充実した、子育てのしやすい県」(45.5%)が最も高くなっている。

【年齢別クロス集計：徳島県に期待する展望】

		文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県	産業が盛んで誰もがいきいきと働ける、活力や賑わいのある県	水素エネルギー・自然エネルギー等の活用が進んだ、環境にやさしい県	犯罪などが少ない、安心・安全な県	防災・減災対策が進んだ、災害に強い県	道路や鉄道などの交通が整備された県	誰もが優しくいたわり合い、支え合える県
全体 (n=2,864)		39.4	25.0	17.2	50.8	28.6	23.1	24.2
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	38.5	23.5	24.2	56.9	30.2	17.0	25.6
	16～18歳 (n=1,032)	41.8	26.6	10.9	45.6	26.6	29.0	24.9
	19～22歳 (n=156)	43.6	28.8	10.3	37.2	26.3	37.2	17.9
	23～29歳 (n=100)	33.0	21.0	6.0	49.0	32.0	24.0	17.0
	30～39歳 (n=132)	30.3	25.0	9.1	43.9	30.3	25.0	14.4

多様な生き方を認めあい、誰もが生きがいをもって暮らせる県	子どもやその家族への支援が充実した、子育てのしやすい県	福祉や医療サービスが充実し、安心して暮らせる県	空気や水がきれいでおいしい食材にも恵まれた、自然が豊かな県	ICTの活用など、学習環境のとのった県	その他	無回答
13.7	18.1	16.7	21.6	5.5	1.5	0.3
13.5	13.7	14.2	23.5	6.7	2.3	0.2
13.0	19.2	17.6	20.7	4.3	0.7	0.3
14.7	12.2	17.3	20.5	6.4	2.6	0.6
14.0	43.0	34.0	15.0	3.0	0.0	0.0
20.5	45.5	22.7	14.4	3.0	0.8	0.8

1位

2位

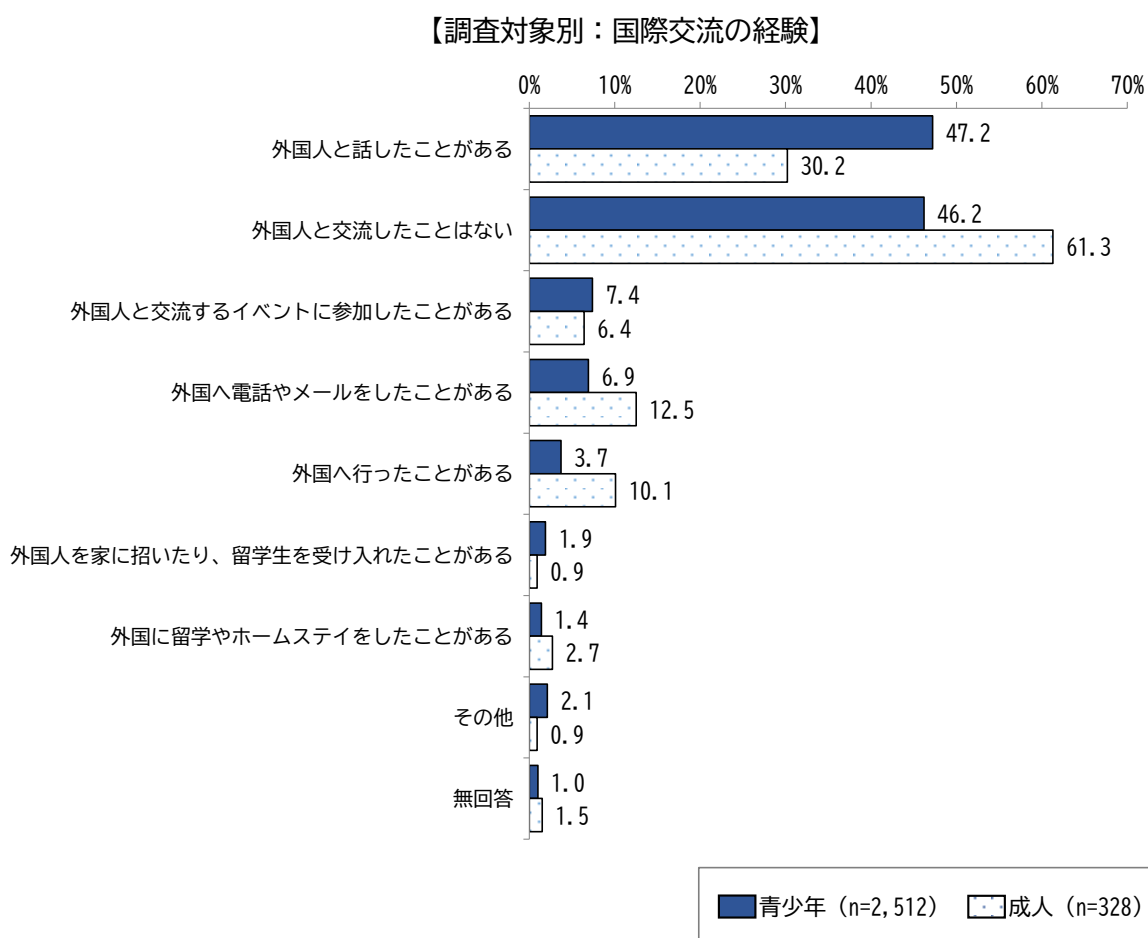
5. 国際交流について

(1) 国際交流の経験

問20. あなたは、新型コロナウイルス感染症流行以前の1年間（2019年1月～2019年12月）に外国人と交流したことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

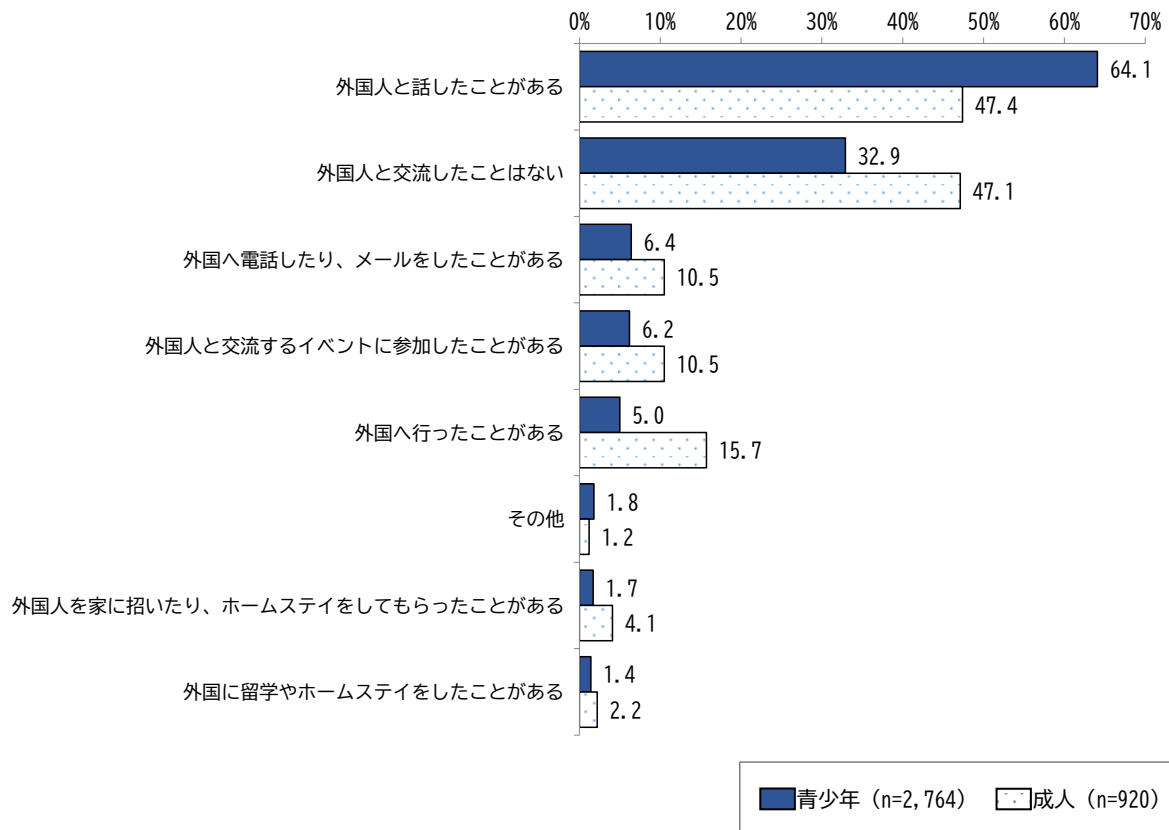
国際交流の経験について、青少年、成人ともに「外国人と交流したことはない」と答えた回答者が多かったが、成人のほうが「外国人と交流した」経験が少ない傾向にあった（青少年 46.2%、成人 61.3%）。また、「外国人と話したことがある」と答えた回答者が多かったが、青少年のほうが「外国人と話した」経験が多い傾向にあった（青少年 47.2%、成人 30.2%）。

前回調査と比較すると、青少年、成人ともに大きな差は見られなかった。



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：国際交流の経験】



Ⅲ 調査の結果

国際交流の経験について、全体をみると、「外国人と交流したことはない」(47.8%)が最も高く、次いで「外国人と話したことがある」(45.3%)が続いており、それ以降の項目は1割未満となっている。

年齢別にみると、12～15歳では「外国人と話したことがある」(52.7%)が、16～39歳では「外国人と交流したことはない」が最も高くなっている。19～22歳では「外国へ電話やメールをしたことがある」(17.9%)の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：国際交流の経験】

		外国人と話したことがある	外国へ電話やメールをしたことがある	外国へ行ったことがある	外国に留学やホームステイをしたことがある	外国人を家に招いたり、留学生を受け入れたことがある	外国人と交流するイベントに参加したことがある	外国人と交流したことはない	その他	無回答
全体 (n=2,864)		45.3	7.5	4.4	1.6	1.8	7.3	47.8	2.0	1.1
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	52.7	6.0	4.5	1.1	2.3	8.7	40.1	2.8	1.1
	16～18歳 (n=1,032)	40.0	8.0	2.5	1.7	1.3	5.9	53.8	1.3	1.0
	19～22歳 (n=156)	41.0	17.9	10.3	5.8	1.9	7.7	53.8	0.0	1.3
	23～29歳 (n=100)	30.0	10.0	8.0	1.0	0.0	5.0	62.0	1.0	0.0
	30～39歳 (n=132)	21.2	6.1	9.1	0.8	2.3	5.3	68.2	1.5	2.3

1位	2位
----	----

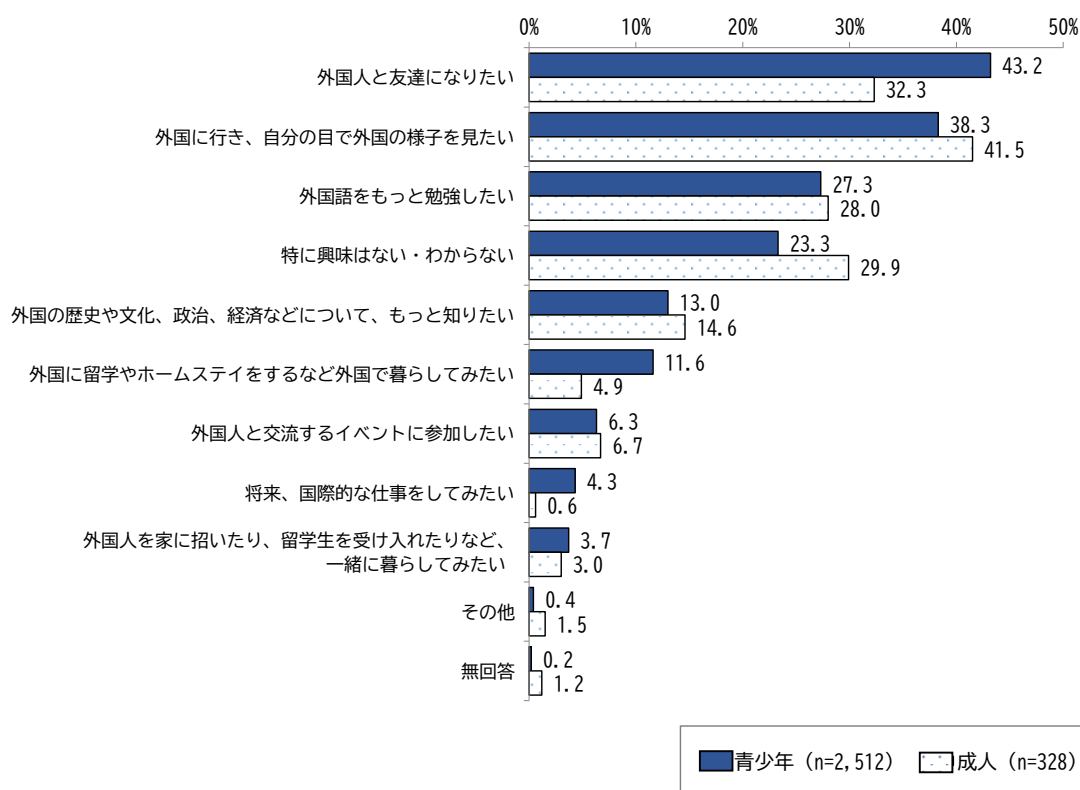
(2) 国際交流への考え

問21. あなたは、国際交流についてどう思いますか。(主なもの2つに○)

国際交流への考えについて、青少年では「外国人と友達になりたい」(43.2%)が最も高く、次いで「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」(38.3%)が続いている。成人では「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」(41.5%)が最も高くなっている。また、青少年と成人で「特に興味はない・わからない」(青少年23.3%・成人29.9%)の割合を比較すると、成人の方が6.6ポイント高くなっている。

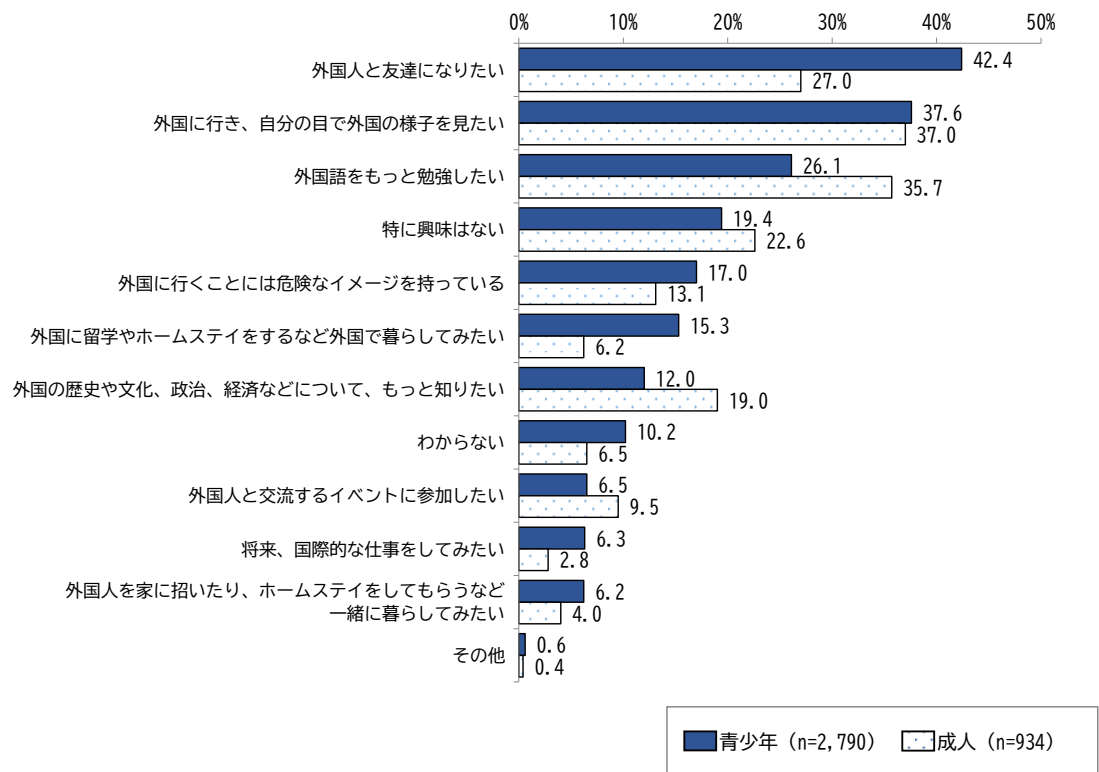
前回調査と比較すると、青少年、成人ともに前回と同様に「外国人と友達になりたい」、「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」等が高くなっている。成人では今回「外国語をもっと勉強したい」(28.0%)となっており、前回の「外国語をもっと勉強したい」(35.7%)より7.7ポイント減少している。

【調査対象別：国際交流への考え】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：国際交流への考え】



Ⅲ 調査の結果

国際交流への考えについて、全体をみると、「外国人と友達になりたい」(41.9%)が最も高く、次いで「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」(38.7%)、「外国語をもっと勉強したい」(27.3%)が続いており、「特に興味はない・わからない」(24.0%)が2割程度となっている。

年齢別にみると、12～18歳では「外国人と友達になりたい」が、19～39歳では「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」が最も高くなっている。次いで12～18歳では「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」が、19～29歳では「外国人と友達になりたい」が、30～39歳では「特に興味はない・わからない」(32.6%)が続いている。また、どの年代も「外国語をもっと勉強したい」にも回答が集まっている。

【年齢別クロス集計：国際交流への考え】

		外国人と友達になりたい	外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい	外国に留学やホームステイをするなど外国で暮らしてみたい	外国人を家に招いたり、留学生を受け入れたりなど、一緒に暮らしてみたい	外国人と交流するイベントに参加したい	外国語をもっと勉強したい	外国の歴史や文化、政治、経済などについて、もっと知りたい	将来、国際的な仕事をしてみたい	特に興味はない・わからない	その他	無回答
全体 (n=2,864)		41.9	38.7	10.9	3.6	6.3	27.3	13.3	3.8	24.0	0.6	0.4
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	43.1	36.0	10.6	3.5	5.8	28.9	14.0	4.4	24.9	0.5	0.4
	16～18歳 (n=1,032)	43.0	40.7	13.0	3.9	6.9	25.2	11.2	4.4	21.9	0.4	0.1
	19～22歳 (n=156)	41.0	50.0	8.3	3.2	3.2	26.9	17.3	1.3	19.2	0.0	1.3
	23～29歳 (n=100)	35.0	42.0	6.0	4.0	5.0	26.0	16.0	0.0	32.0	2.0	0.0
	30～39歳 (n=132)	26.5	36.4	3.0	2.3	12.1	30.3	12.9	0.0	32.6	2.3	1.5
		1位		2位								

6. 就労への意識について

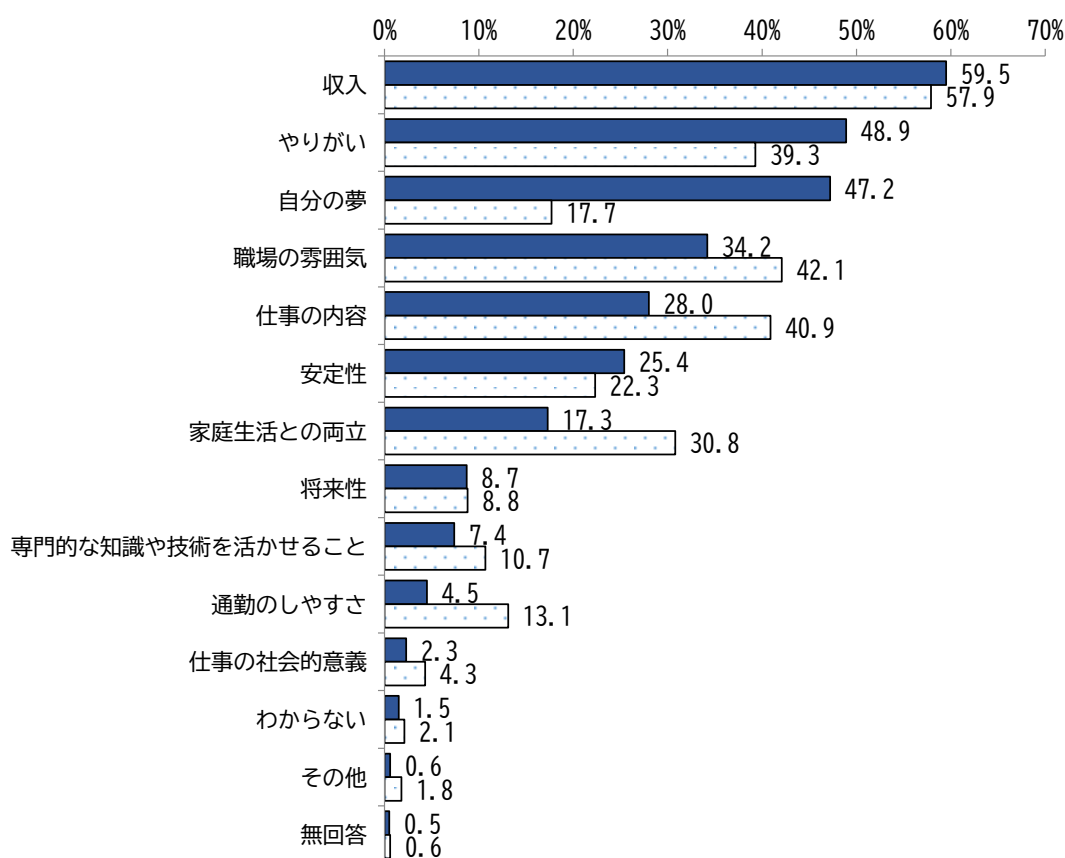
(1) 仕事選びで重視すること

問22. あなたは、仕事を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。(主なもの3つに○)

仕事選びで重視することについて、「収入」を重視すると答えた回答者が、青少年、成人ともに最も高かった(青少年 59.5%、成人 57.9%)。次いで青少年では「やりがい」(48.9%)、「自分の夢」(47.2%)を重視する傾向が見られた。成人では「収入」の次に「職場の雰囲気」(42.1%)、「仕事の内容」(40.9%)を重視する傾向が見られた。

前回調査と比較すると、青少年、成人ともに「収入」を最も重視する傾向は変わらず、青少年では前回調査で「自分の夢」(31.5%)であったのに対し、今回調査では「自分の夢」(47.2%)が15.7ポイント増加しており、前回よりもさらに仕事選びにおいて「自分の夢」を重視する傾向が見られた。

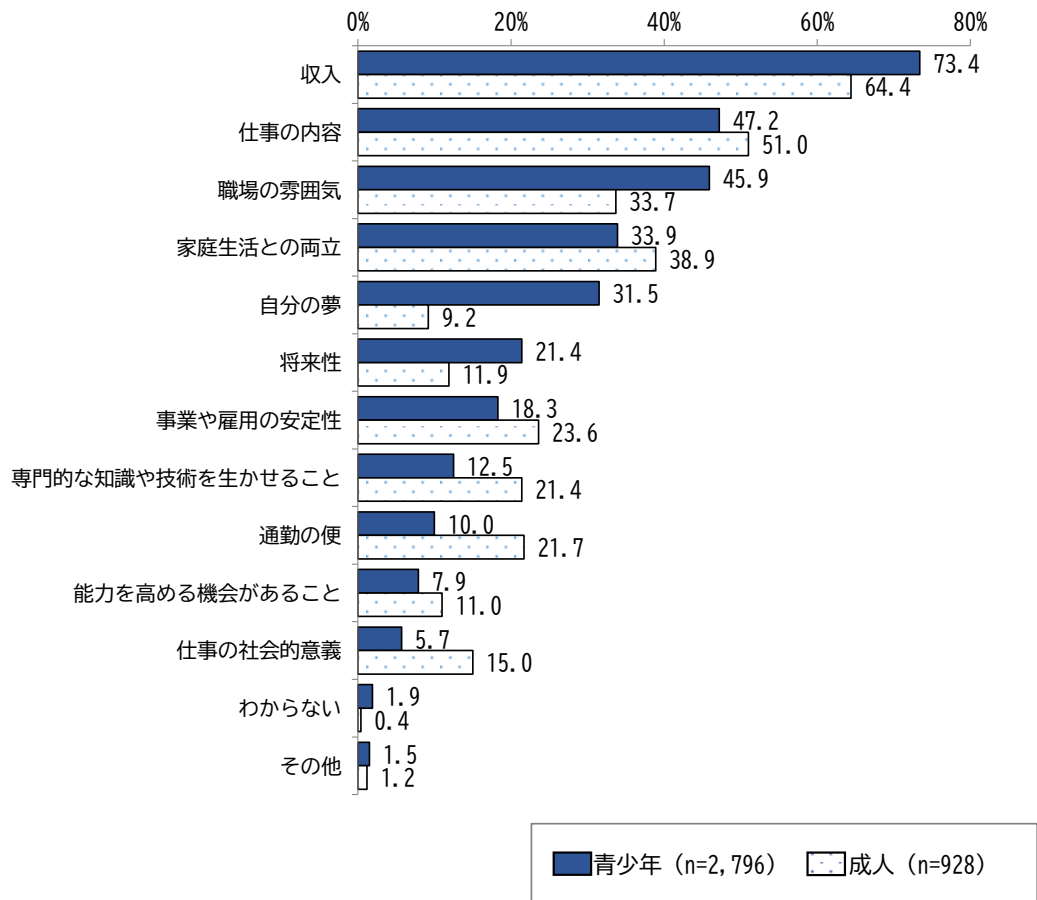
【調査対象別：仕事選びで重視すること】



■ 青少年 (n=2,512) □ 成人 (n=328)

Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：仕事選びで重視すること】



Ⅲ 調査の結果

仕事選びで重視することについて、全体をみると、「収入」(59.3%)の割合が最も高く、次いで「やりがい」(47.8%)、「自分の夢」(43.8%)、「職場の雰囲気」(34.9%)、「仕事の内容」(29.5%)、「安定性」(24.9%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「収入」が5割を超えて最も高く、次いで12～15歳では「自分の夢」(50.8%)、16～22歳では「やりがい」、23～29歳では「職場の雰囲気」(44.0%)、30～39歳では「仕事の内容」(47.7%)が続いている。また、どの年代も「安定性」が2割を超えており、安定性も重視する傾向となっている。

【年齢別クロス集計：仕事選びで重視すること】

		やりがい	自分の夢	家庭生活との両立	仕事の内容	収入	職場の雰囲気	専門的な知識や技術を活かせること
全体 (n=2,864)		47.8	43.8	18.9	29.5	59.3	34.9	7.9
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	46.2	50.8	19.2	25.5	58.8	32.7	7.5
	16～18歳 (n=1,032)	52.5	42.8	14.6	31.7	60.0	36.0	7.0
	19～22歳 (n=156)	49.4	34.0	21.2	30.1	57.1	41.7	10.9
	23～29歳 (n=100)	38.0	18.0	25.0	39.0	61.0	44.0	11.0
	30～39歳 (n=132)	33.3	6.1	41.7	47.7	60.6	38.6	11.4

仕事の社会的貢献度	将来性	安定性	通勤のしやすさ	わからない	その他	無回答
2.6	8.8	24.9	5.5	1.5	0.8	0.6
2.3	10.1	26.2	4.9	1.8	0.7	0.8
2.4	6.9	24.6	4.0	1.1	0.6	0.2
3.8	12.2	20.5	4.5	1.9	1.3	0.6
7.0	6.0	26.0	15.0	2.0	2.0	0.0
2.3	6.8	21.2	18.2	1.5	1.5	0.8

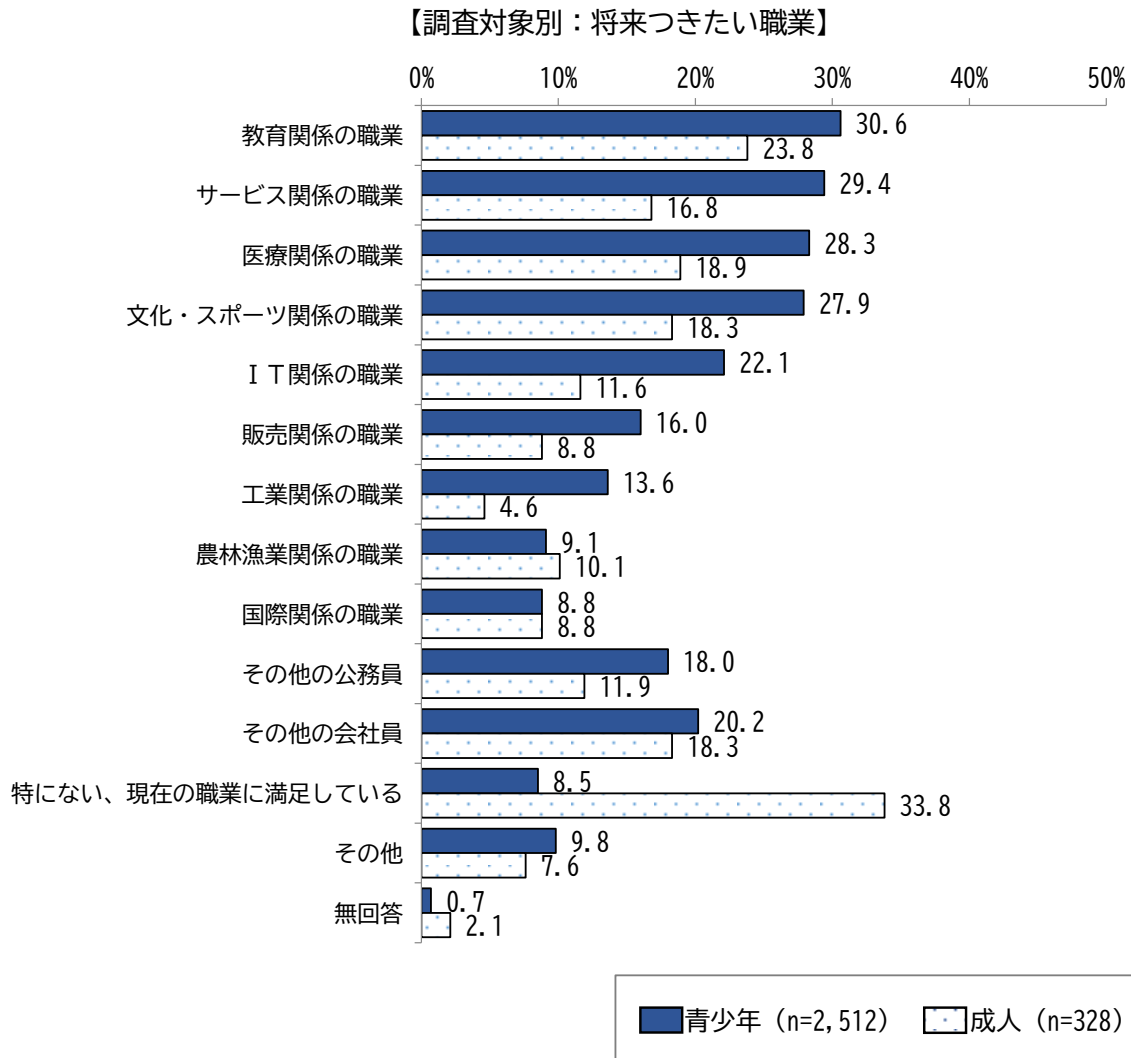
1位	2位
----	----

(2) 将来つきたい職業

問23. あなたは、将来したい仕事やつきたい職業がありますか。(主なもの3つに○)

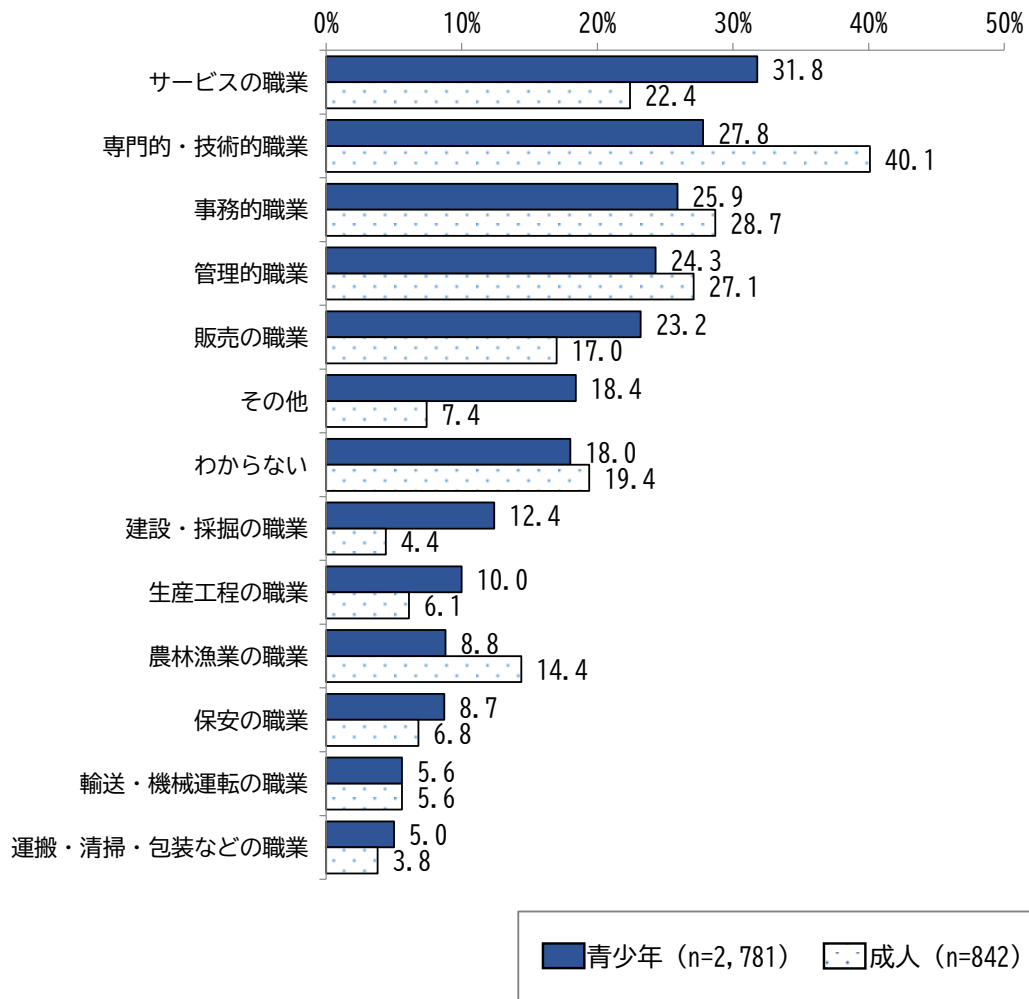
将来つきたい職業について、青少年では「教育関係の職業」(30.6%)の割合が最も高く、次いで「サービス関係の職業」(29.4%)、「医療関係の職業」(28.3%)が続いている。成人では「特にない、現在の職業に満足している」(33.8%)が高くなっており、次いで「教育関係の職業」(23.8%)、「医療関係の職業」(18.9%)が続いている。その他として青少年においては「動物に関する仕事」、「研究開発」等の意見が挙げられていた。

前回調査から選択肢が大きく変わったため純粋な比較は行えないが、青少年において「サービスの職業」が上位であることは前回と同様である。成人については、前回調査にはない「現在の職業に満足している」の割合が高いため、今回調査の方が全体的に割合が低くなっている。



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：将来つきたい職業】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

Ⅲ 調査の結果

将来つきたい職業について、全体をみると、「教育関係の職業」(29.8%)が最も高く、次いで「サービス関係の職業」(27.9%)、「医療関係の職業」(27.2%)、「文化・スポーツ関係の職業」(26.7%)、「IT関係の職業」(20.8%)が続いている。「特にない、現在の職業に満足している」(11.4%)は1割程度となっている。

年齢別にみると、12～15歳では「文化・スポーツ関係の職業」(32.1%)、16～22歳では「教育関係の職業」、23～39歳では「特にない、現在の職業に満足している」が最も高くなっている。次いで12～18歳では「サービス関係の職業」、19～22歳では「文化・スポーツ関係の職業」(27.6%)、23～29歳では「教育関係の職業」(32.0%)、30～39歳では「上記以外の会社員」(18.2%)が続いている。

【年齢別クロス集計：将来つきたい職業】

		医療関係の職業	教育関係の職業	文化・スポーツ関係の職業	農林漁業関係の職業	国際関係の職業	IT関係の職業	工業関係の職業
全体 (n=2,864)		27.2	29.8	26.7	9.3	8.8	20.8	12.5
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	29.0	29.2	32.1	10.1	8.3	23.9	15.8
	16～18歳 (n=1,032)	28.1	32.6	21.8	7.6	9.6	19.8	11.2
	19～22歳 (n=156)	23.1	30.1	27.6	12.2	9.6	17.9	1.9
	23～29歳 (n=100)	19.0	32.0	17.0	4.0	11.0	13.0	4.0
	30～39歳 (n=132)	12.1	12.9	15.2	12.9	4.5	7.6	6.8

販売関係の職業	サービス関係の職業	上記以外の公務員	上記以外の会社員	特にない、現在の職業に満足している	その他	無回答
15.2	27.9	17.4	19.9	11.4	9.5	0.9
13.8	30.7	16.9	16.1	9.4	10.6	0.8
18.6	28.7	19.1	25.0	7.4	8.5	0.5
12.2	17.3	23.7	26.3	9.6	8.3	1.3
9.0	20.0	8.0	15.0	38.0	6.0	1.0
10.6	12.1	7.6	18.2	47.7	9.1	3.0

1位

2位

Ⅲ 調査の結果

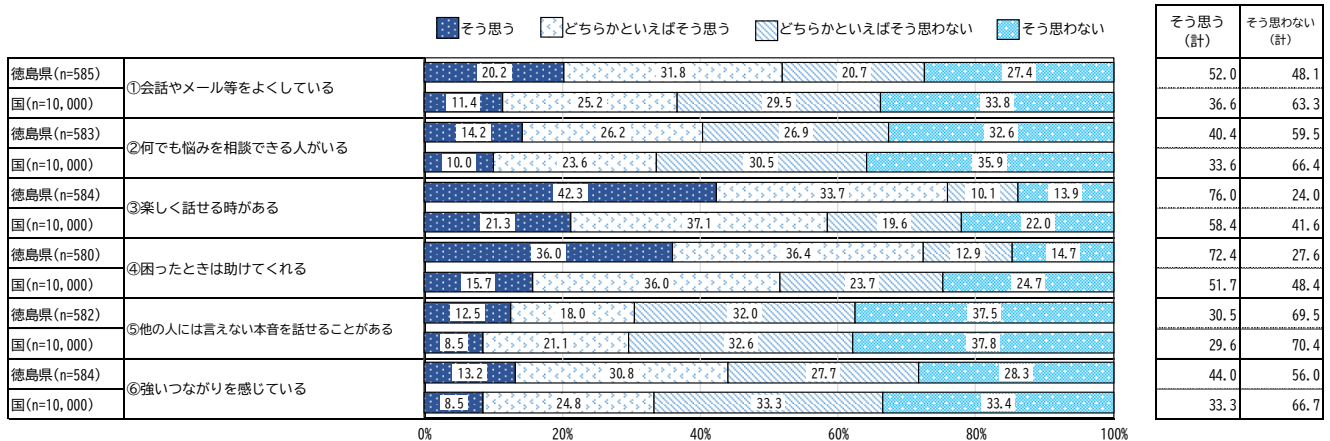
(3) 仕事関係の人とのかかわり

問24. 職場・アルバイト関係の人（現在・過去含む）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれ1つに○）

職場・アルバイト関係の人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目で7割以上（76.0%、72.4%）となっている一方で、「②何でも悩みを相談できる人がある」「⑤他の人には言えない本音を話せることがある」の割合は低くなっており（40.4%、30.5%）、深い付き合いをしている人は半数以下であるといえる。

国調査と比較すると、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の3項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の3項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

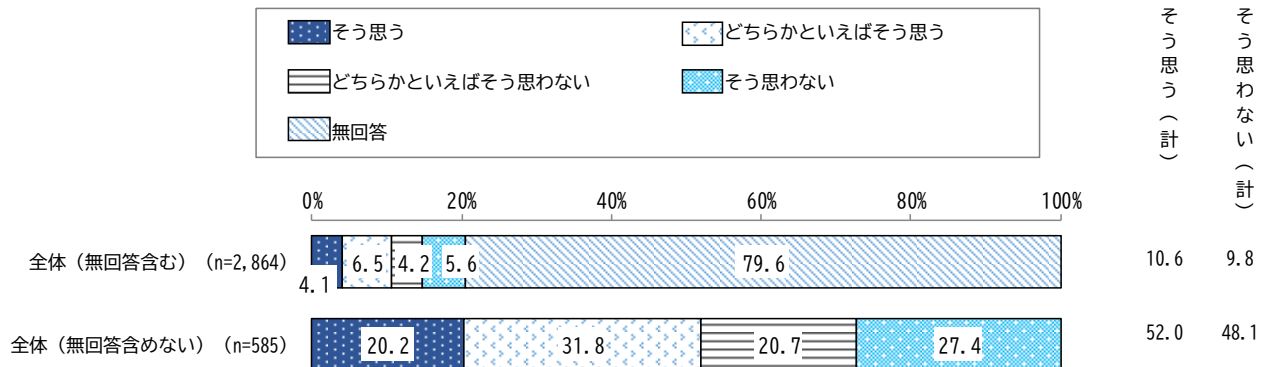
【R1 国調査比較：仕事関係の人とのかかわり】



Ⅲ 調査の結果

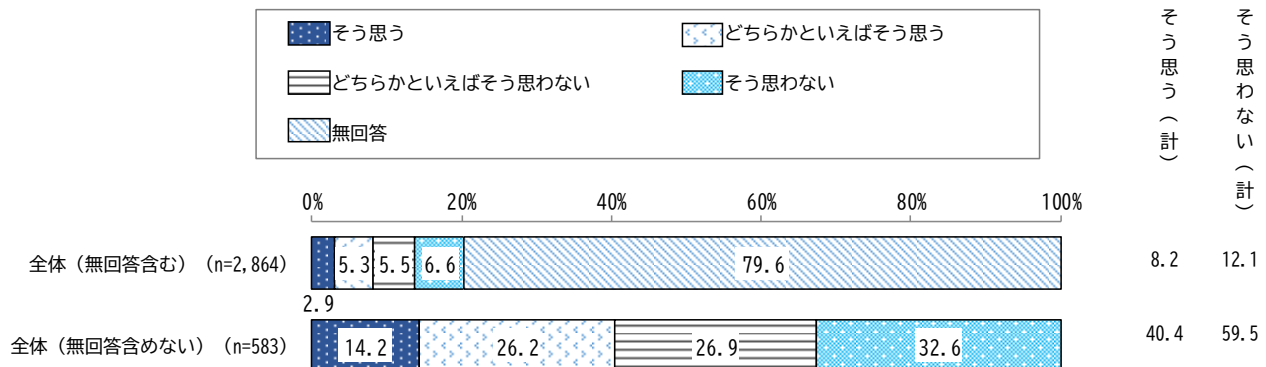
仕事関係の人とのかかわり方として会話やメール等をよくしていると思うかについて、全体をみると、『そう思う』(52.0%)が『そう思わない』(48.1%)を上回っており、比較的工作関係の人と会話やメール等をよくしている人が多くなっている。

【会話やメール等をよくしている】



仕事関係の人とのかかわり方として何でも悩みを相談できる人がいると思うかについて、全体をみると、『そう思わない』(59.5%)が『そう思う』(40.4%)を上回っており、比較的工作関係の人に相談できる人がいない傾向となっている。

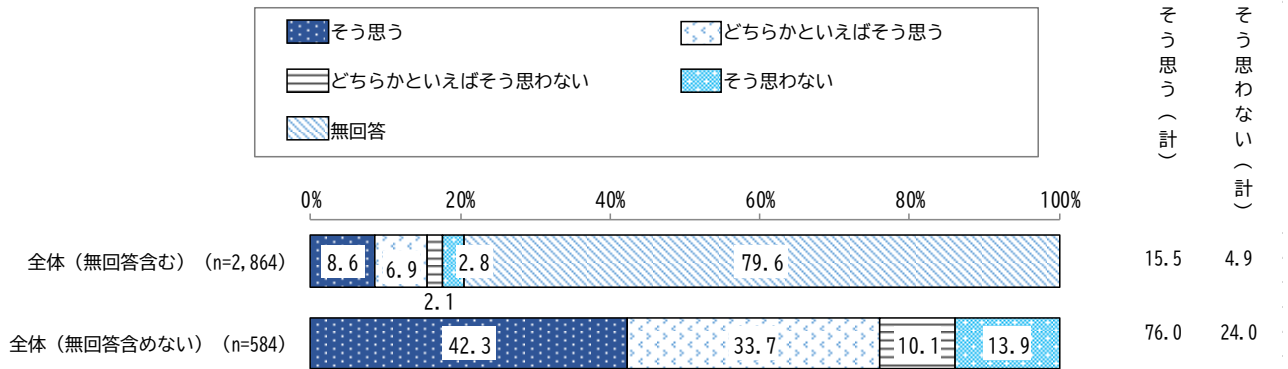
【何でも悩みを相談できる人がいる】



Ⅲ 調査の結果

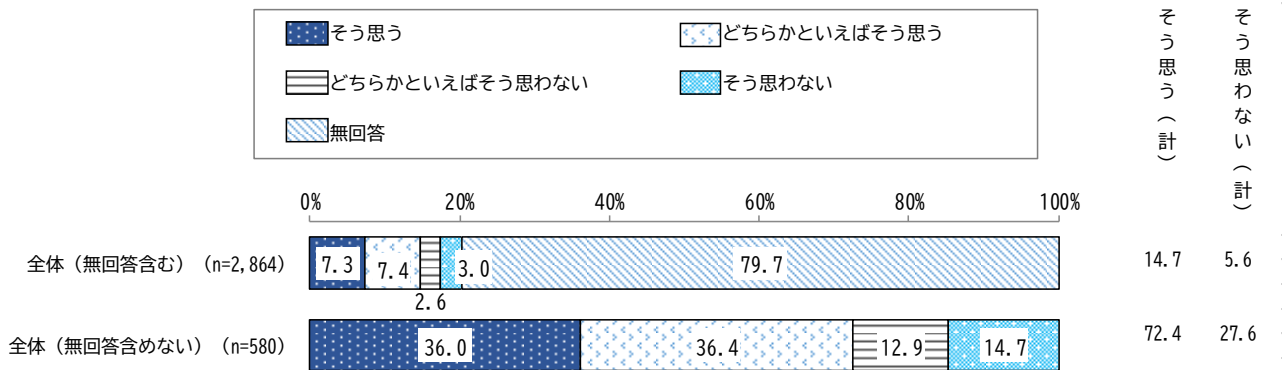
仕事関係の人とのかかわり方として楽しく話せる時があると思うかについて、全体をみると、『そう思う』(76.0%)が『そう思わない』(24.0%)を上回っており、比較的工作関係の人と楽しく話せる時がある傾向となっている。

【楽しく話せる時がある】



仕事関係の人とのかかわり方として困ったときは助けしてくれると思うかについて、全体をみると、『そう思う』(72.4%)が『そう思わない』(27.6%)を上回っており、比較的工作関係の人に困ったときは助けしてくれる人がある傾向となっている。

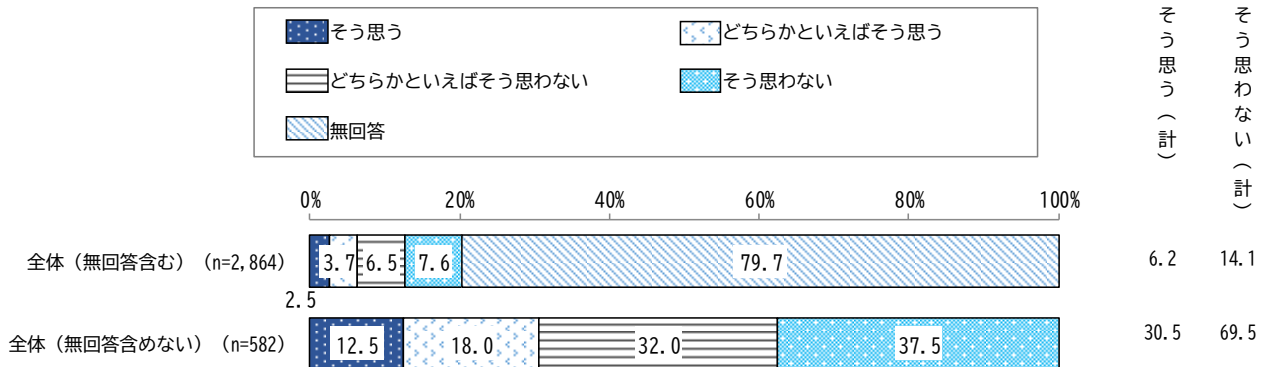
【困ったときは助けしてくれる】



Ⅲ 調査の結果

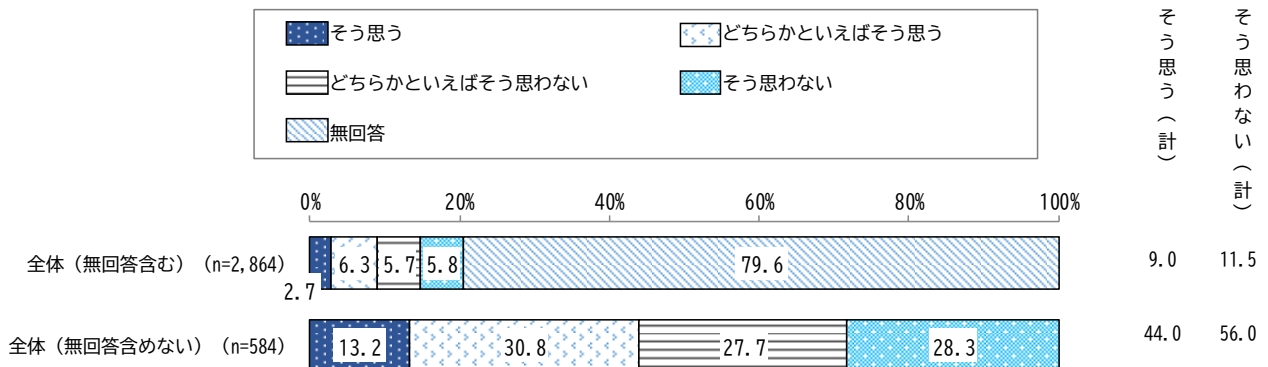
仕事関係の人とのかかわり方として他の人には言えない本音を話せることがあると思うかについて、全体をみると、『そう思わない』(69.5%)が『そう思う』(30.5%)を上回っており、比較的工作関係の人に他の人には言えない本音を話せる人がいない傾向となっている。

【他の人には言えない本音を話せることがある】



仕事関係の人とのかかわり方として強いつながりを感じていると思うかについて、全体をみると、『そう思わない』(56.0%)が『そう思う』(44.0%)を上回っており、比較的工作関係の人に強いつながりを感じる人が少ない傾向となっている。

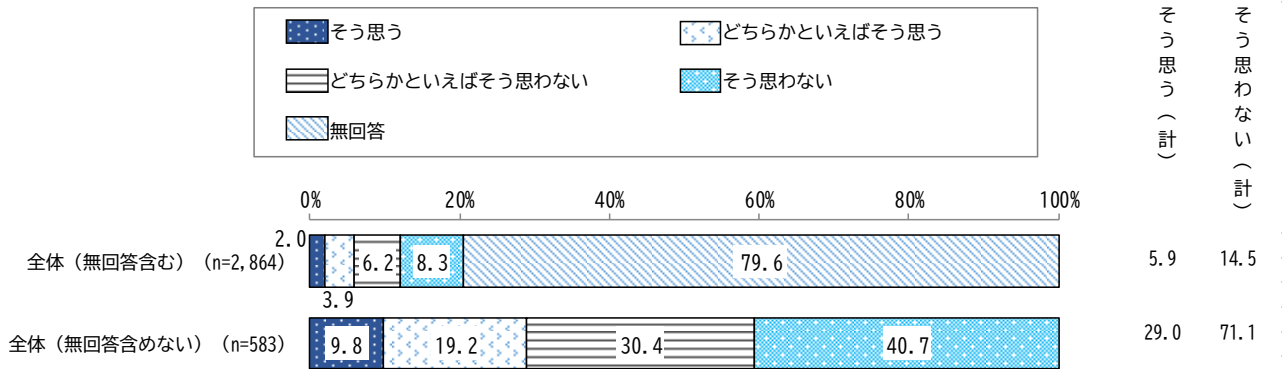
【強いつながりを感じている】



Ⅲ 調査の結果

仕事関係の人とのかかわり方として新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人とのかかわりが強くなったと感じていると思うかについて、全体をみると、『そう思わない』(71.1%)が『そう思う』(29.0%)を上回っており、比較的工作関係の人とのかかわりが強くなったと感じる人がいない傾向となっている。

【新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人とのかかわりが強くなったと感じている】



7. インターネットについて

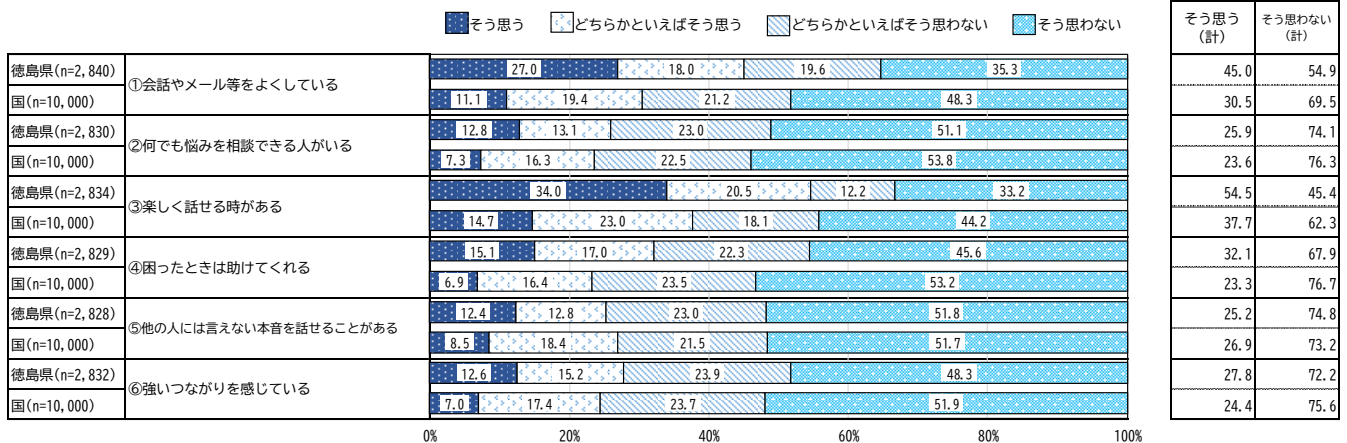
(1) インターネット上での人とのかかわり

問25. インターネット上における人やコミュニティとあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれ1つに○)

インターネット上における人やコミュニティとのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」の2項目では約半数（45.0%、54.5%）となっているが、その他の項目では3割前後と低くなっており、会話等を楽しむことはあるが、悩みや困りごとを相談する人は多くないことがわかる。

国調査と比較すると、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」の2項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の4項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

【R1 国調査比較：インターネット上での人とのかかわり】

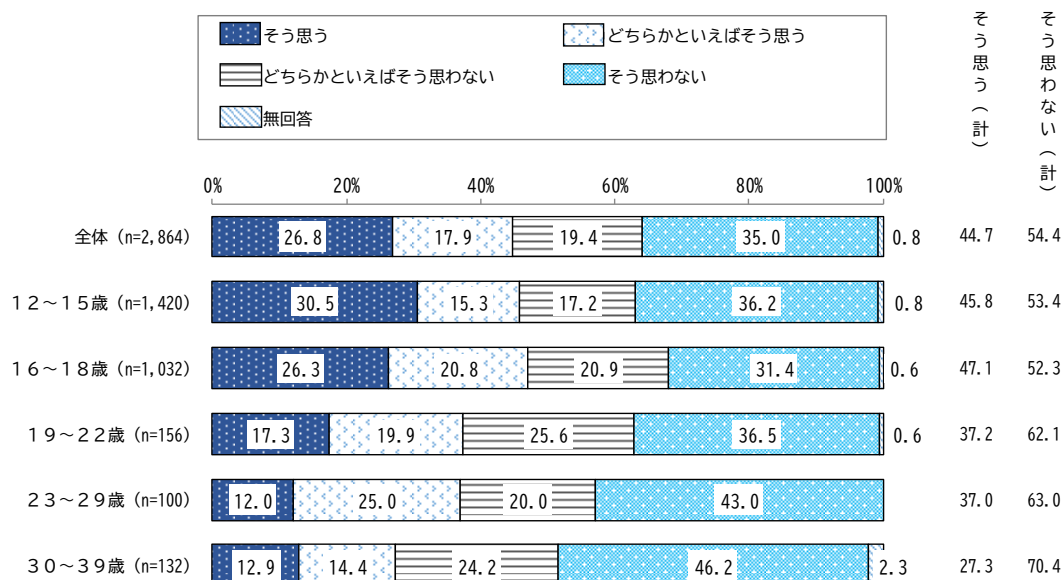


Ⅲ 調査の結果

インターネット上での人とのかかわり方として会話やメール等をよくしていると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(54.4%)が5割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が5割を超えている。30～39歳では『そう思わない』が70.4%と最も高くなっており、比較的インターネット上に会話やメール等をよくする知り合いがいる人の割合は低い結果となっている。

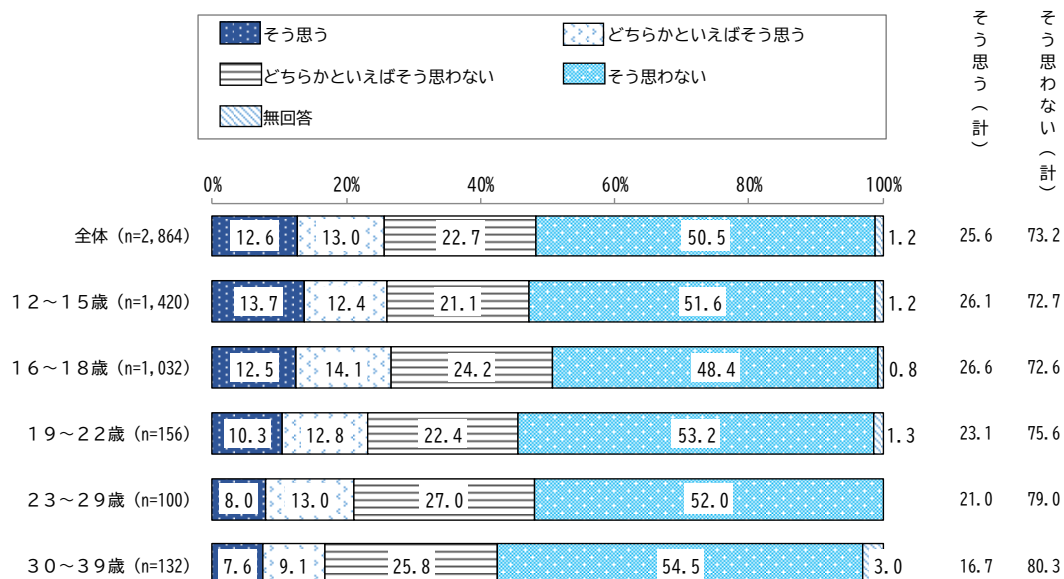
【年齢別クロス集計：会話やメール等をよくしている】



インターネット上での人とのかかわり方として何でも悩みを相談できる人がいると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(73.2%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が7割を超えている。30～39歳では『そう思わない』が80.3%と最も高くなっており、比較的インターネット上に何でも悩みを相談できる人がいる人の割合は低い結果となっている。

【年齢別クロス集計：何でも悩みを相談できる人がいる】

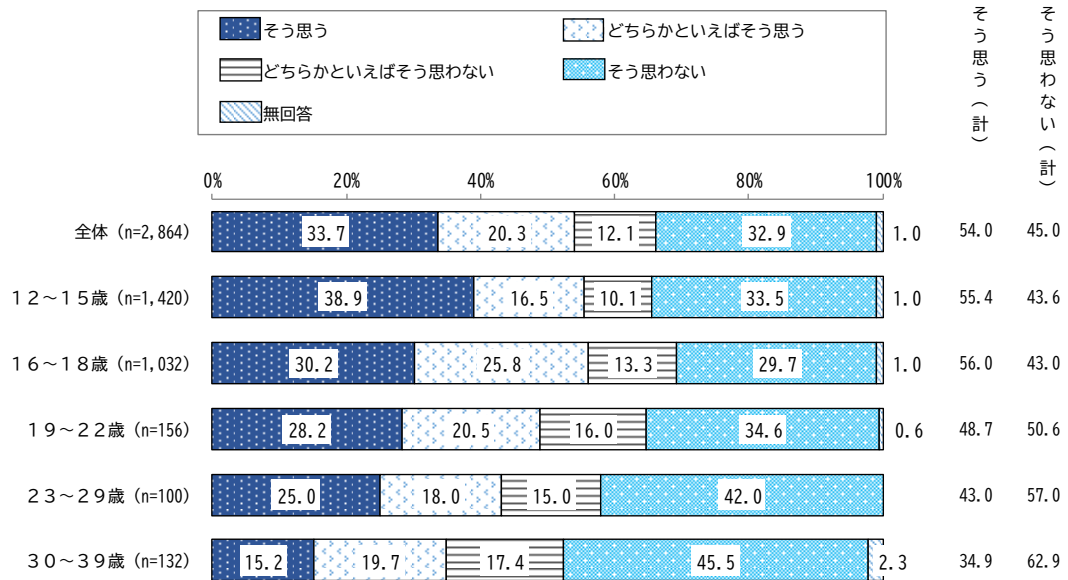


Ⅲ 調査の結果

インターネット上での人とのかかわり方として楽しく話せる時があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(54.0%)が5割を超えている。

年齢別にみると、12～18歳では『そう思う』が『そう思わない』を上回っており、楽しく話せる時があると思っている人の割合が高くなっている。19～39歳では『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、比較的楽しく話せる時がないと思っている人の割合が高くなっている。

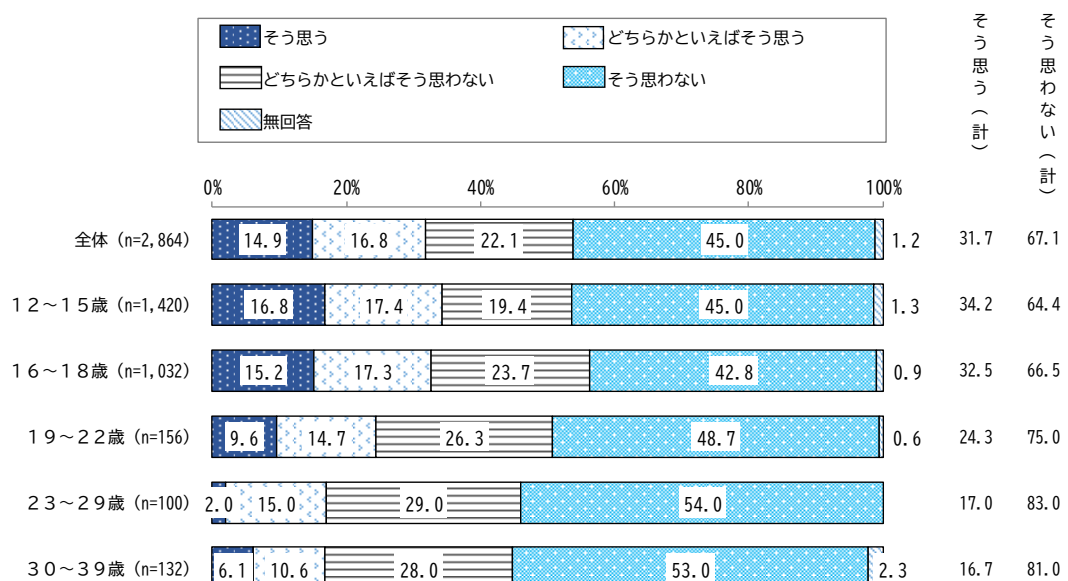
【年齢別クロス集計：楽しく話せる時がある】



インターネット上での人とのかかわり方として困ったときは助けてくれる人がいると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(67.1%)が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が6割を超えている。23～29歳では『そう思わない』が83.0%と最も高くなっており、比較的インターネット上に困ったときは助けてくれる人がいないと思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：困ったときは助けてくれる】

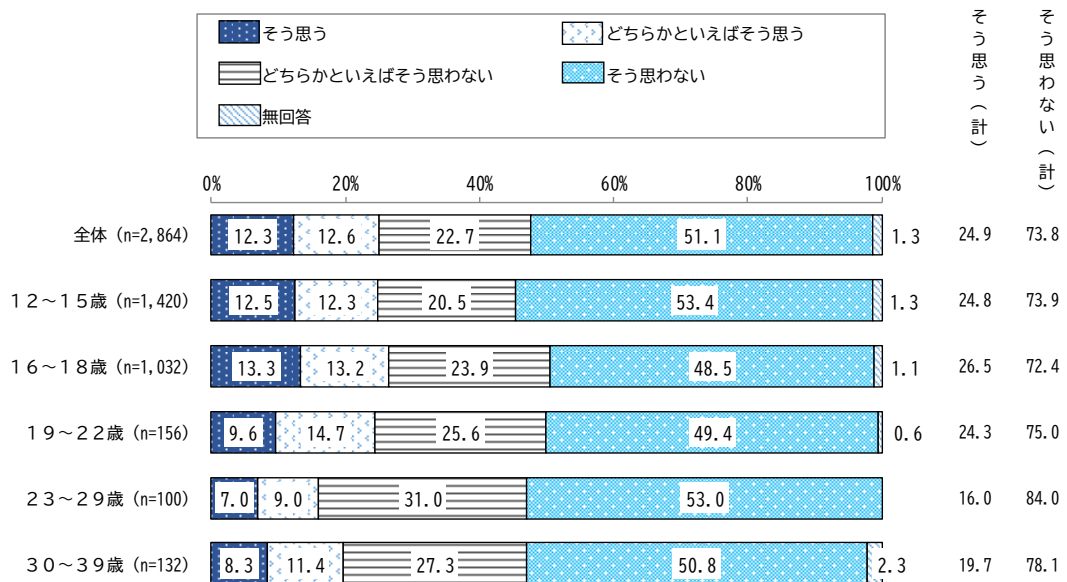


Ⅲ 調査の結果

インターネット上での人とのかかわり方として他の人には言えない本音を話せることがある人があると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(73.8%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が7割を超えている。23～29歳では『そう思わない』が84.0%と最も高くなっており、比較的インターネット上に他の人には言えない本音を話せる人がいないと思っている人の割合が高くなっている。

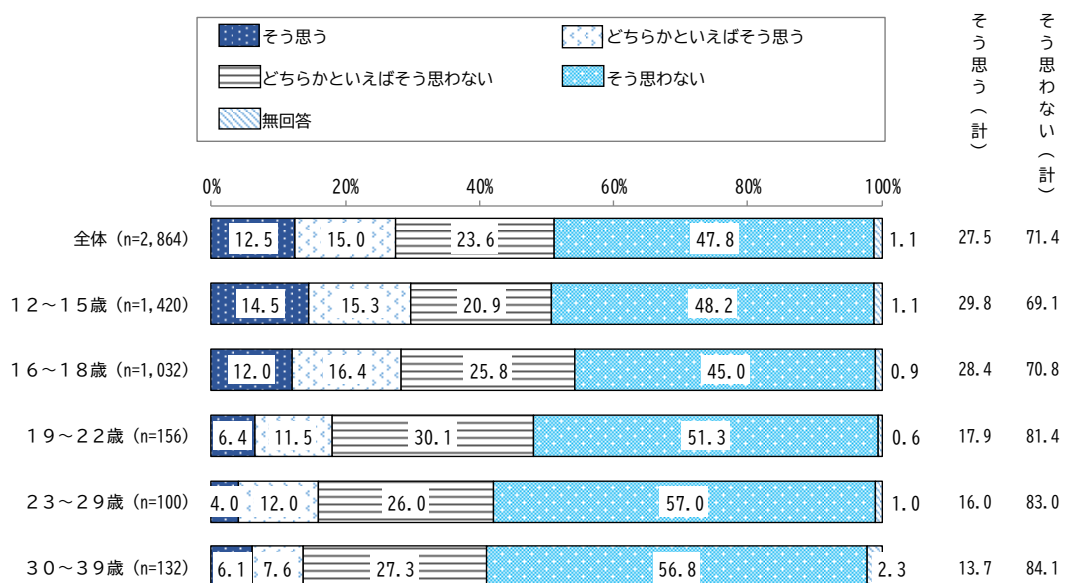
【年齢別クロス集計：他の人には言えない本音を話せることがある】



インターネット上での人とのかかわり方として強いつながりを感じる人があると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』(71.4%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思わない』が6割を超えている。30～39歳では『そう思わない』が84.1%と最も高くなっており、比較的インターネット上に強いつながりを感じている人の割合が低くなっている。

【年齢別クロス集計：強いつながりを感じている】

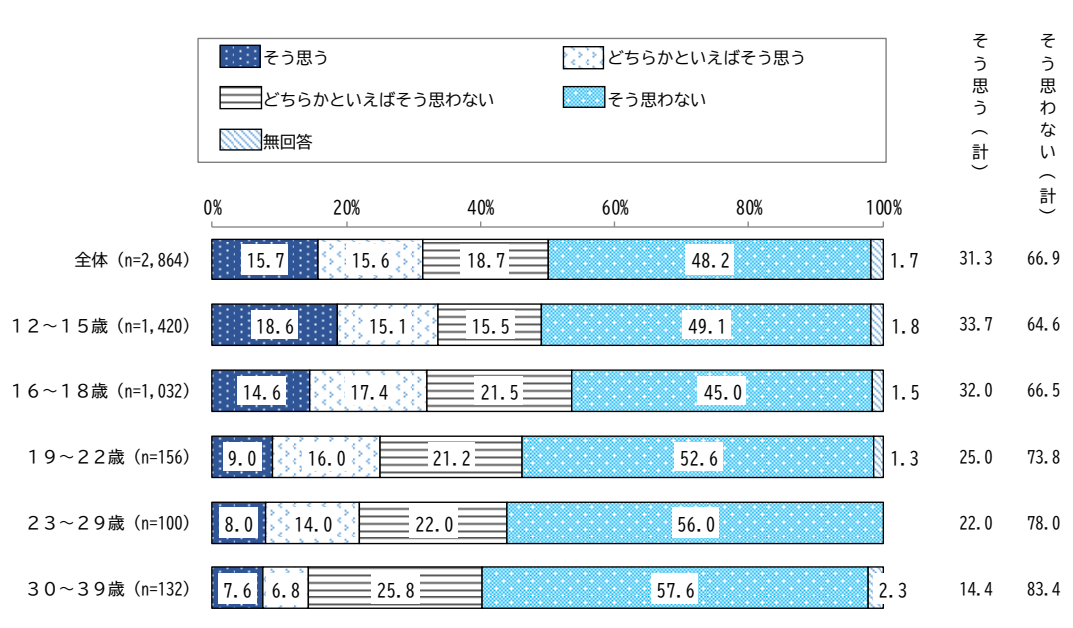


Ⅲ 調査の結果

インターネット上での人とのかかわり方として新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人とのかかわりが強くなったと感じる人がいると思うかについて、全体をみると、「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』(66.9%)が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が6割を超えている。30～39歳では『そう思う』が83.4%と最も高くなっており、比較的インターネット上に新型コロナウイルス感染症の影響でかかわりが強くなったと感じている人の割合が低くなっている。

【年齢別クロス集計：新型コロナウイルス感染症の影響で、
地域の人とのかかわりが強くなったと感じている】



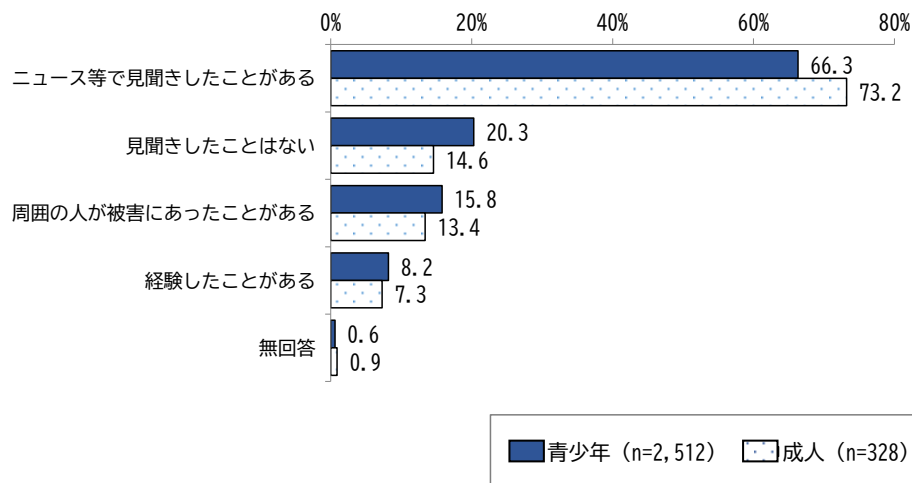
Ⅲ 調査の結果

(2) ネット上での誹謗中傷やいじめ

問26. あなたは、SNS等のネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

ネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きした有無について、青少年、成人ともに「ニュース等で見聞きしたことがある」(青少年 66.3%、成人 73.2%) が最も高く、次いで「見聞きしたことはない」、
「周囲の人が被害にあったことがある」が続いている。

【調査対象別：ネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きした有無】



ネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きした有無について、全体をみると、「ニュース等で見聞きしたことがある」(67.0%) が最も高くなっており、「見聞きしたことはない」(19.6%) は約2割程度となっている。

年齢別にみると、いずれも「ニュース等で見聞きしたことがある」が6割を超えて最も高くなっている。

【年齢別クロス集計：ネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きした有無】

		経験したことがある	周囲の人が被害にあったことがある	ニュース等で見聞きしたことがある	見聞きしたことはない	無回答
全体 (n=2,864)		8.1	15.6	67.0	19.6	0.7
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	7.9	13.9	69.2	21.0	0.5
	16～18歳 (n=1,032)	8.4	18.5	62.3	19.7	0.7
	19～22歳 (n=156)	8.3	15.4	69.2	13.5	1.3
	23～29歳 (n=100)	9.0	16.0	79.0	12.0	0.0
	30～39歳 (n=132)	6.1	9.1	70.5	17.4	1.5

1位

2位

(3) インターネットの危険性に関する学習

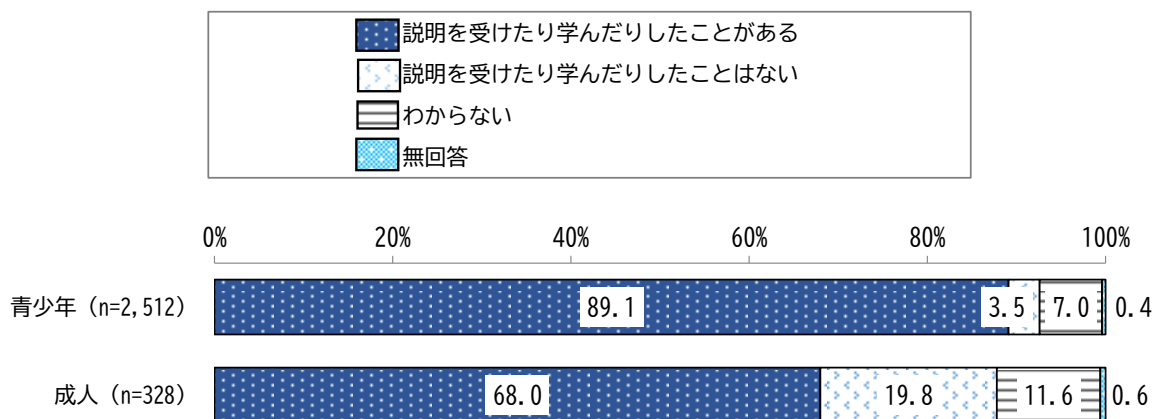
①学習経験の有無

問27. あなたは、インターネットの危険性（青少年に不適切なサイト、ネットいじめの問題等）について、これまで説明を受けたり学んだりしたことがありますか。（1つに○）

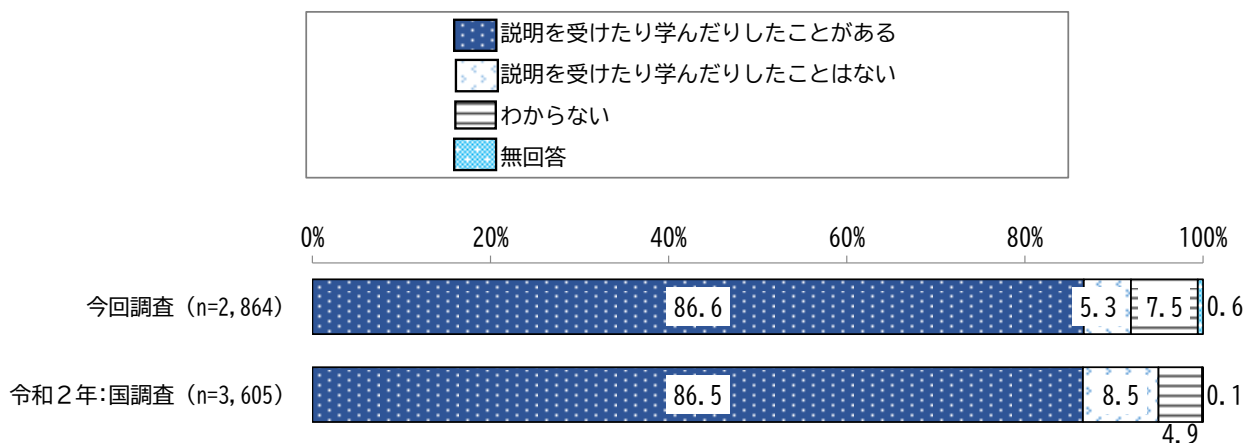
インターネットの危険性に関する学習経験の有無について、青少年、成人ともに「説明を受けたり学んだりしたことがある」（青少年 89.1%、成人 68.0%）が最も高くなっている。成人に比べて青少年のほうが「説明を受けたり学んだりしたことがある」の割合が高くなっている。

国調査と比較すると、大きな差は見られなかった。

【調査対象別：学習経験の有無】



【R2国調査比較：学習経験の有無】

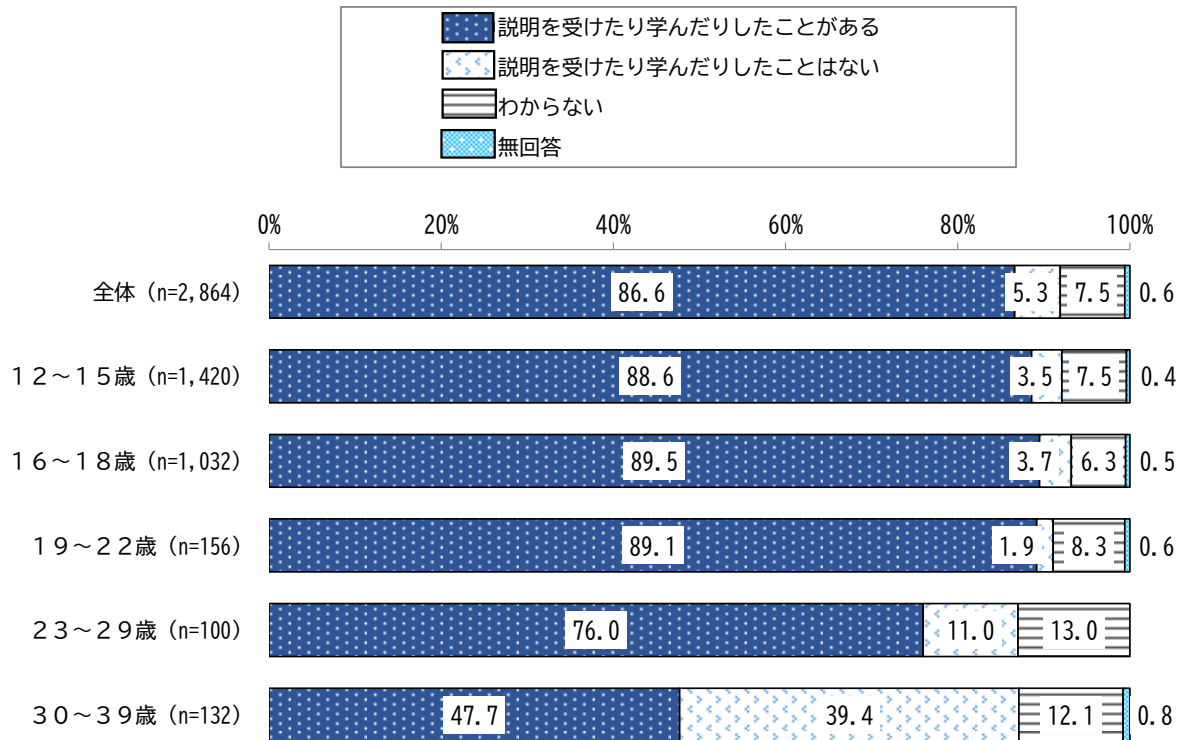


Ⅲ 調査の結果

インターネットの危険性に関する学習経験の有無について、全体をみると、「説明を受けたり学んだりしたことがある」（86.6％）が8割を超えている。

年齢別にみると、12～29歳では「説明を受けたり学んだりしたことがある」が7割を超えているが、30～39歳では「説明を受けたり学んだりしたことがある」（47.7％）の割合が他の年齢別に比べて低くなっている。

【年齢別クロス集計：学習経験の有無】



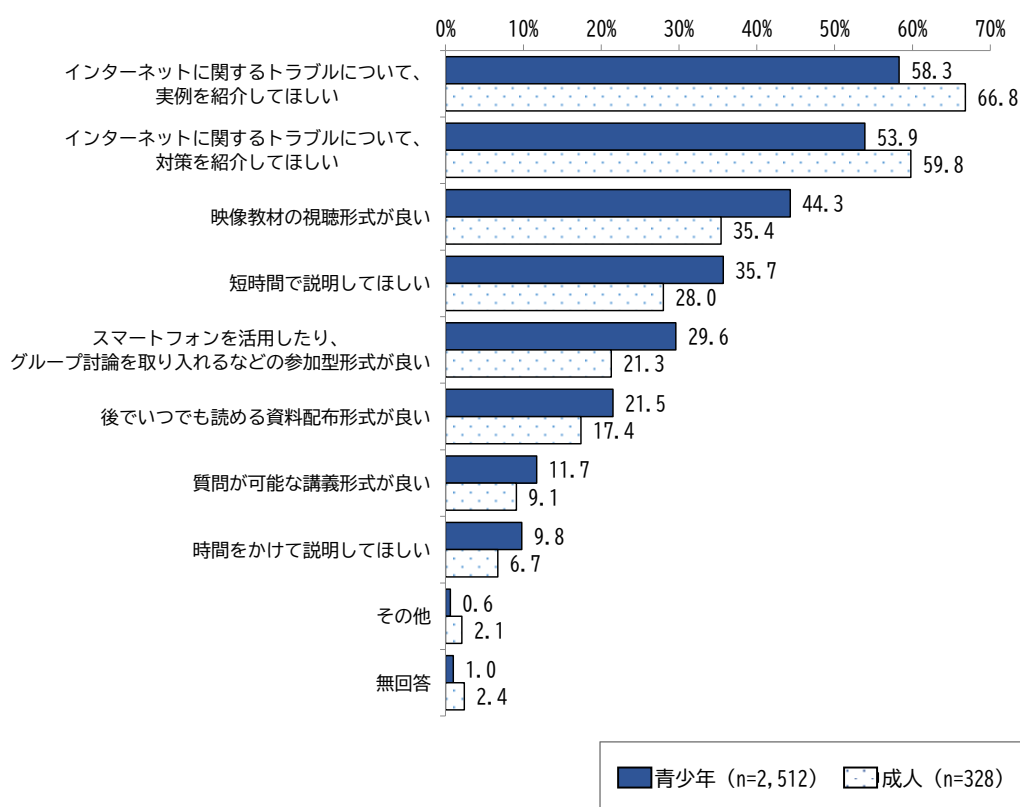
②学習の内容・形式

問28. あなたは、インターネットの危険性に関する学習について、どのような内容・形式で行われるのが良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

学習の内容・形式について、青少年、成人ともに「インターネットに関するトラブルについて、実例を紹介してほしい」(青少年 58.3%、成人 66.8%) が最も高く、次いで「インターネットに関するトラブルについて、対策を紹介してほしい」(青少年 53.9%、成人 59.8%)、「映像教材の視聴形式が良い」(青少年 44.3%、成人 35.4%) が続いている。

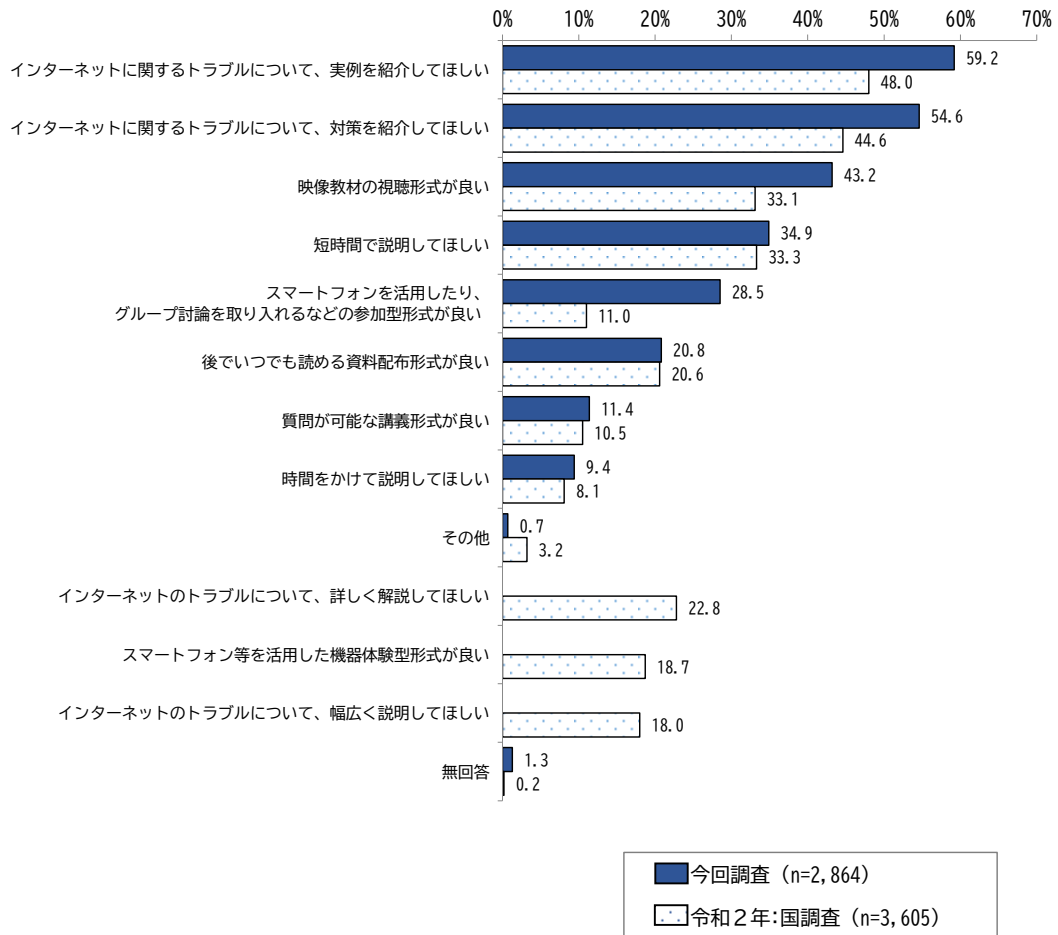
国調査と比較すると、同様の傾向となっている。

【調査対象別：学習の内容・形式】



Ⅲ 調査の結果

【R2 国調査比較：学習の内容・形式】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

Ⅲ 調査の結果

学習の内容・形式について、全体をみると、「インターネットに関するトラブルについて、実例を紹介してほしい」(59.2%)が最も高く、次いで「インターネットに関するトラブルについて、対策を紹介してほしい」(54.6%)、「映像教材の視聴形式が良い」(43.2%)、「短時間で説明してほしい」(34.9%)、「スマートフォンを活用したり、グループ討論を取り入れるなどの参加型形式が良い」(28.5%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「インターネットに関するトラブルについて、実例を紹介してほしい」が5割を超えて最も高くなっており、次いで「インターネットに関するトラブルについて、対策を紹介してほしい」が続いている。12～15歳では「スマートフォンを活用したり、グループ討論を取り入れるなどの参加型形式が良い」(34.1%)の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：学習の内容・形式】

		インターネットに関するトラブルについて、実例を紹介してほしい	インターネットに関するトラブルについて、対策を紹介してほしい	短時間で説明してほしい	時間をかけて説明してほしい	映像教材の視聴形式が良い	質問が可能な講義形式が良い	後でいつでも読める資料配布形式が良い	スマートフォンを活用したり、グループ討論を取り入れるなどの参加型形式が良い	その他	無回答
全体 (n=2,864)		59.2	54.6	34.9	9.4	43.2	11.4	20.8	28.5	0.7	1.3
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	59.9	57.5	37.7	12.5	47.9	15.8	25.3	34.1	0.6	0.8
	16～18歳 (n=1,032)	55.8	49.5	33.1	6.4	39.9	6.5	16.5	23.9	0.5	1.5
	19～22歳 (n=156)	60.9	51.9	30.8	3.8	31.4	7.1	14.7	21.8	1.9	1.9
	23～29歳 (n=100)	71.0	59.0	27.0	7.0	38.0	6.0	23.0	19.0	2.0	1.0
	30～39歳 (n=132)	68.9	62.1	26.5	7.6	37.1	12.1	15.9	22.0	1.5	3.0

1位

2位

8. 青少年の健全育成について

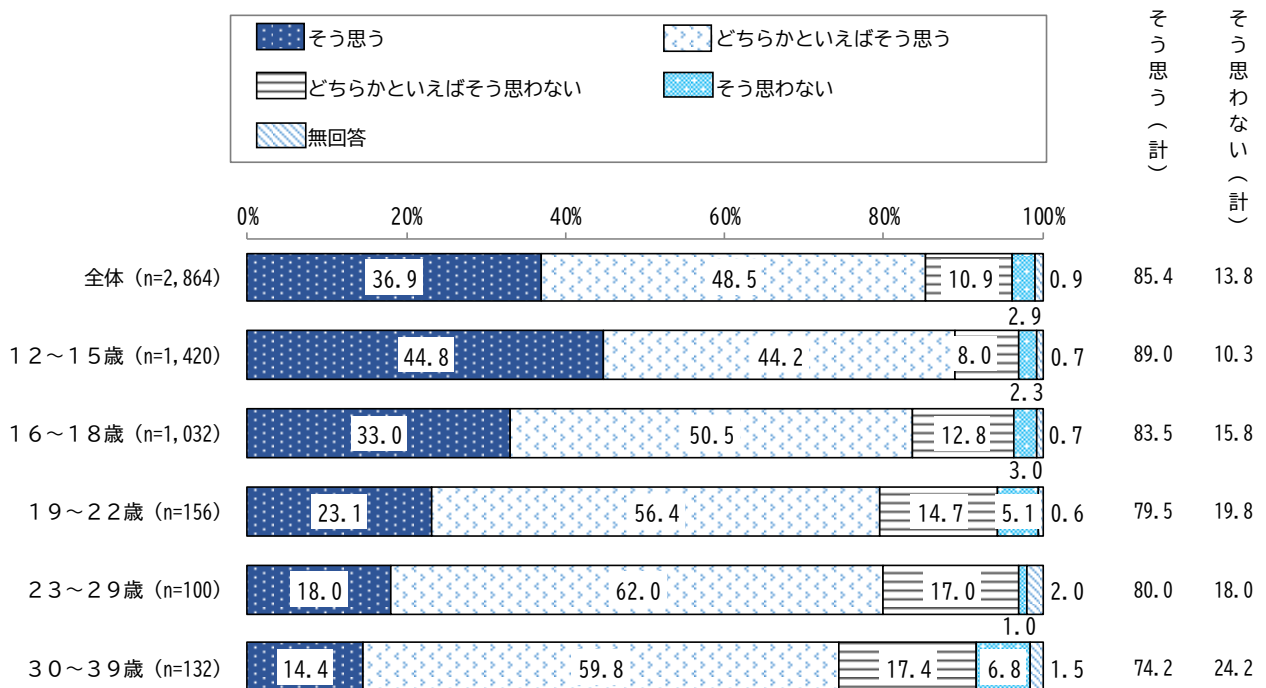
(1) 自身の世代の特徴

問29. あなたの世代の特徴について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

自身の世代の特徴として思いやりがあると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(85.4%)が8割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では『そう思う』が89.0%と最も高くなっており、比較的自身の世代は思いやりがあると思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：思いやりがある】

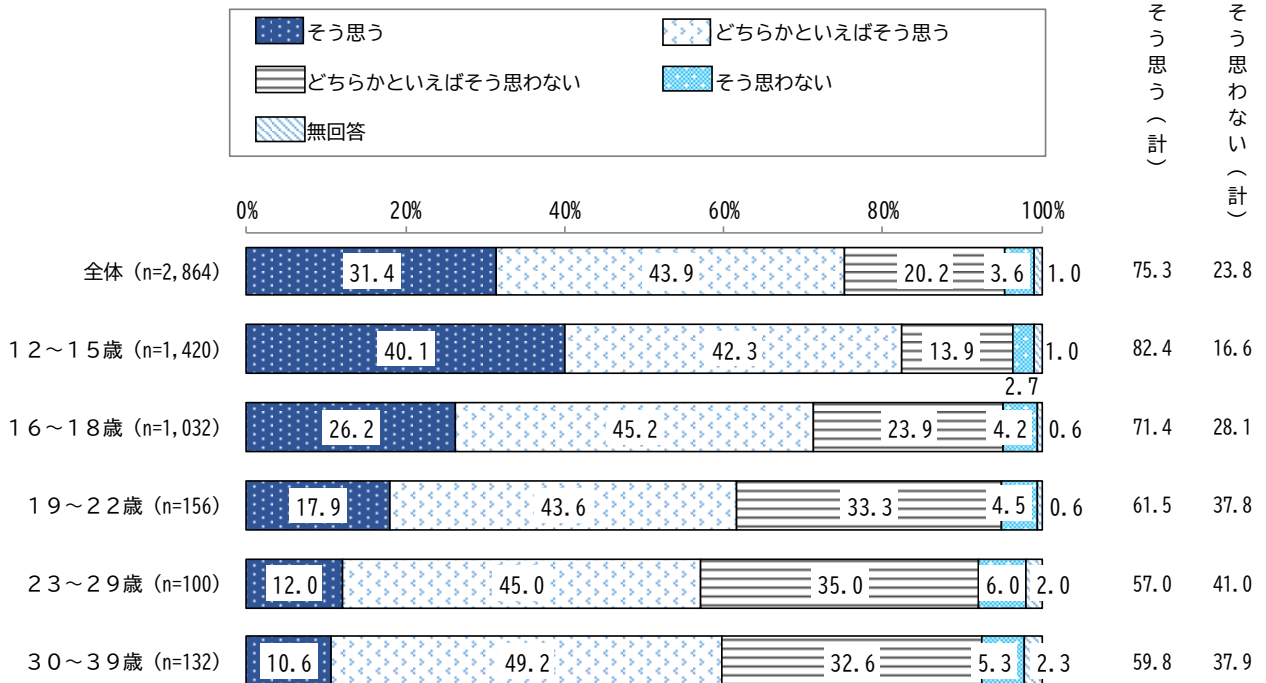


Ⅲ 調査の結果

自身の世代の特徴として意欲的であると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（75.3%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では『そう思う』が82.4%と最も高くなっており、比較的自身の世代は意欲的であると思っている人の割合が高くなっている。

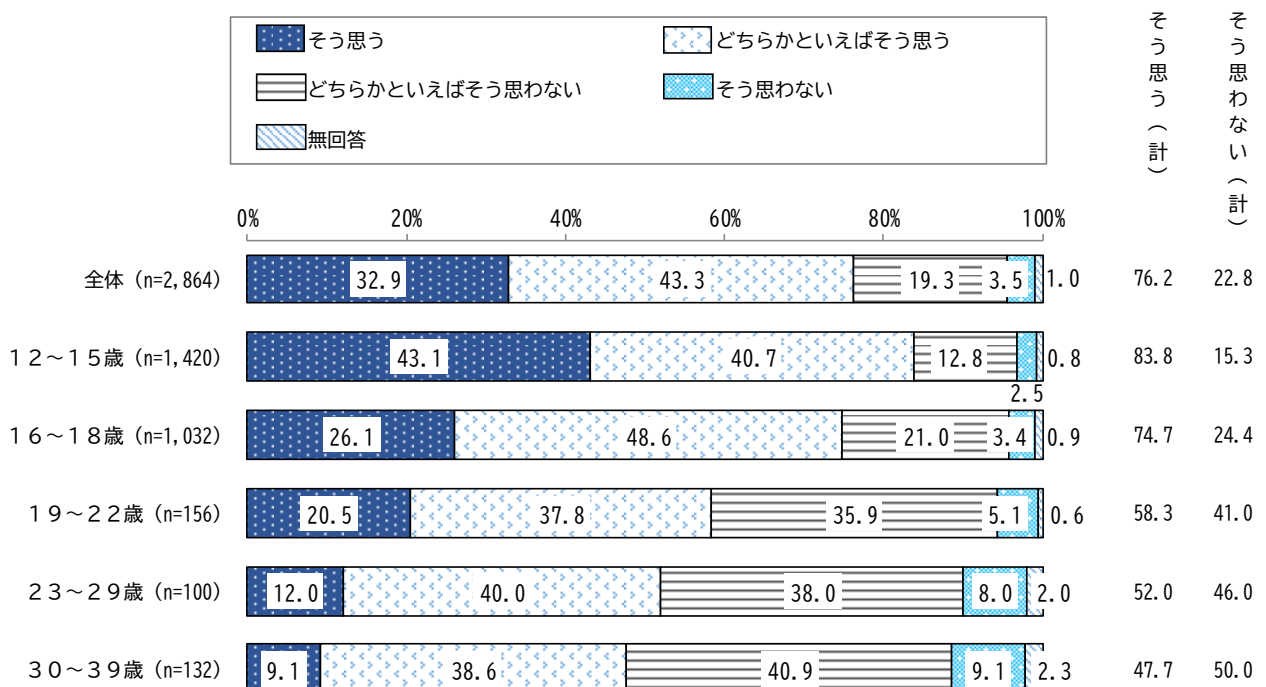
【年齢別クロス集計：意欲的である】



自身の世代の特徴として夢があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（76.2%）が7割を超えている。

年齢別にみると、12～29歳では『そう思う』が『そう思わない』を上回っている。12～15歳では『そう思う』が83.8%と最も高くなっており、比較的自身の世代は夢があると思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：夢がある】

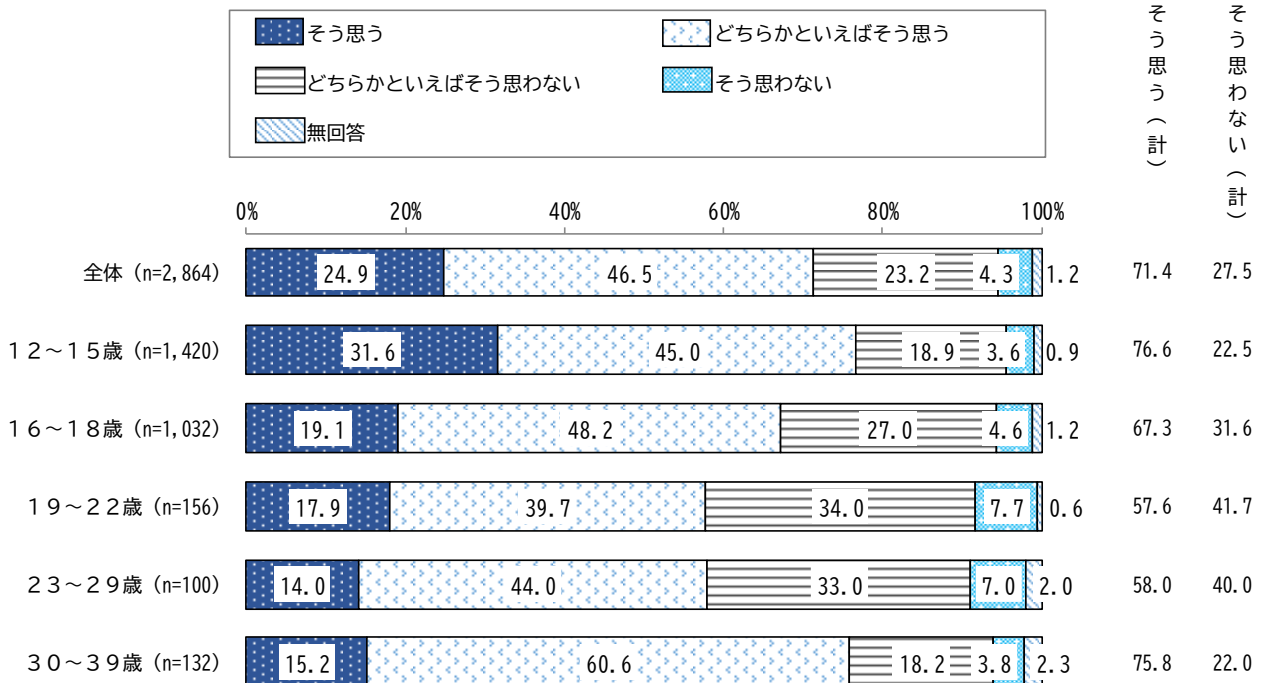


Ⅲ 調査の結果

自身の世代の特徴として責任感があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(71.4%)が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では『そう思う』が76.6%と最も高くなっており、比較的自身の世代は責任感があると思っている人の割合が高くなっている。

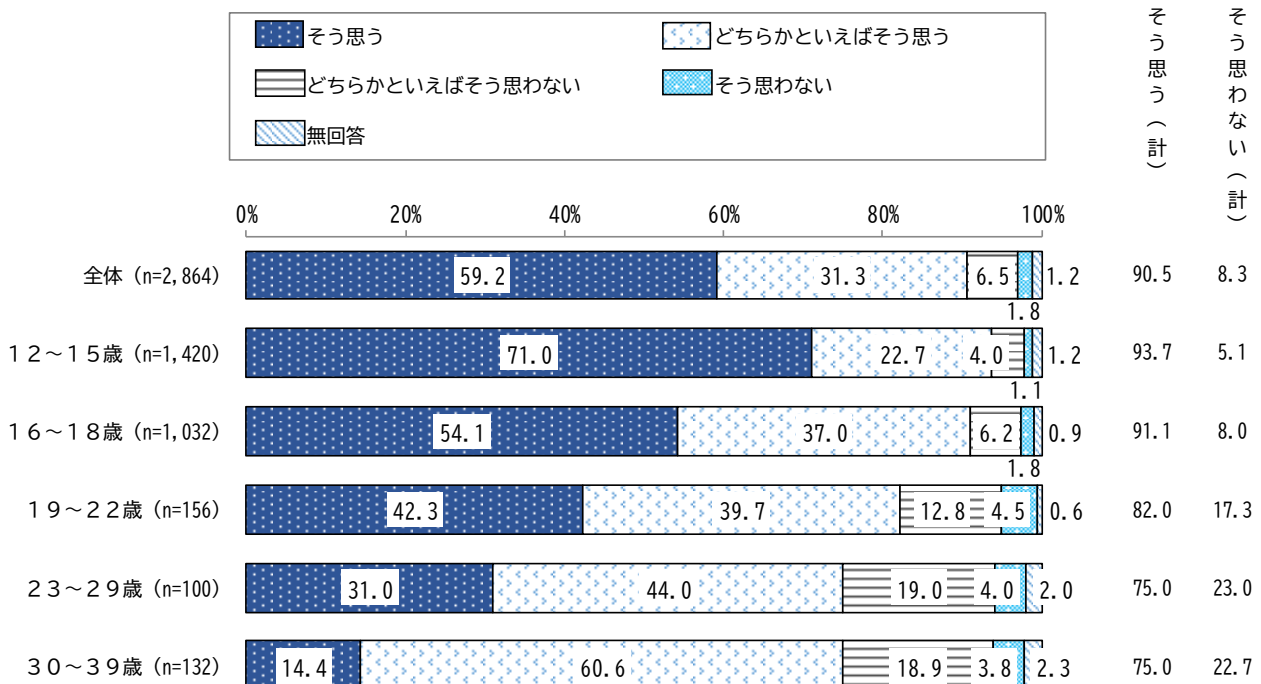
【年齢別クロス集計：責任感がある】



自身の世代の特徴として個性があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(90.5%)が9割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では『そう思う』が93.7%と最も高くなっており、比較的自身の世代は個性があると思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：個性がある】

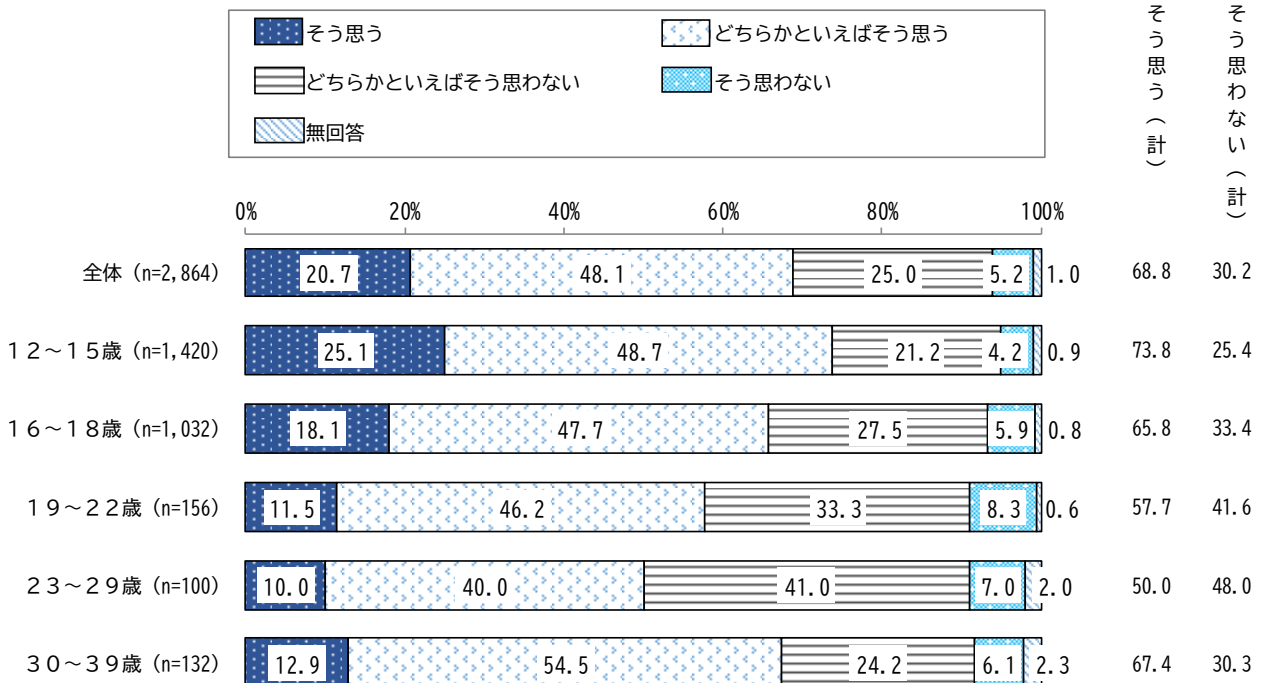


Ⅲ 調査の結果

自身の世代の特徴として忍耐力があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（68.8%）が6割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が5割を超えている。12～15歳では『そう思う』が73.8%と最も高くなっており、比較的自身の世代は忍耐力があると思っている人の割合が高くなっている。

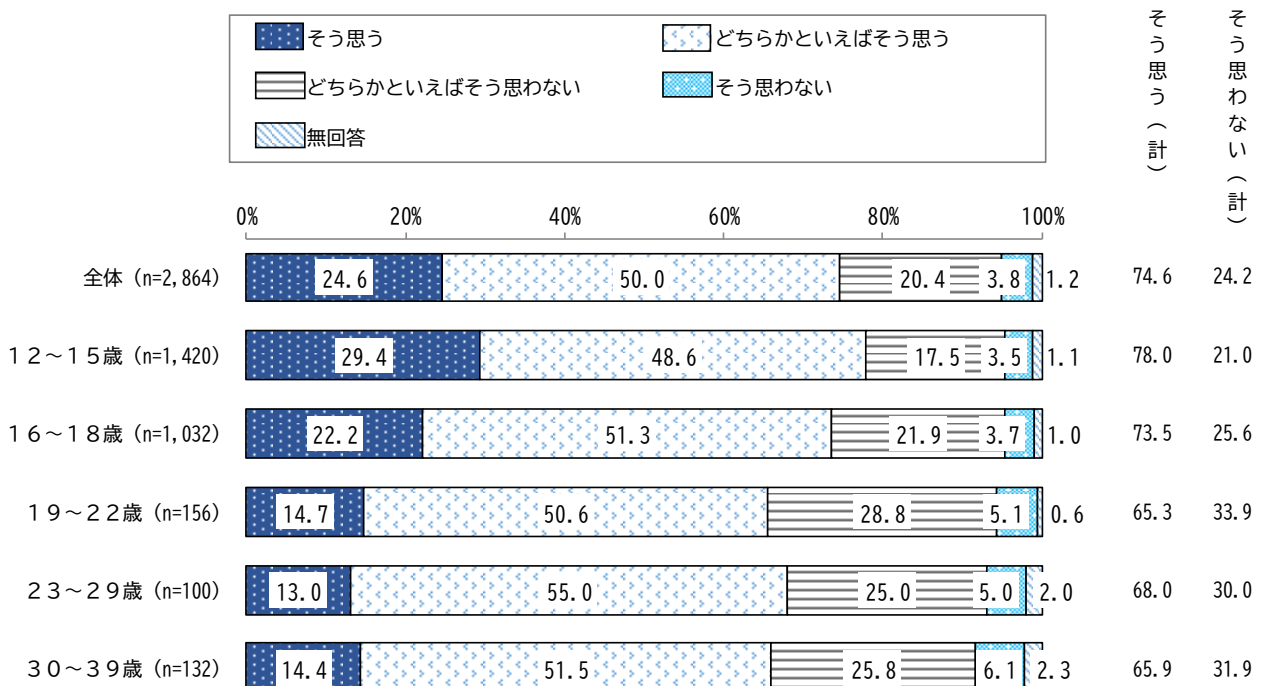
【年齢別クロス集計：忍耐力がある】



自身の世代の特徴として自立心があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（74.6%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が6割を超えている。12～15歳では『そう思う』が78.0%と最も高くなっており、比較的自身の世代は自立心があると思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：自立心がある】

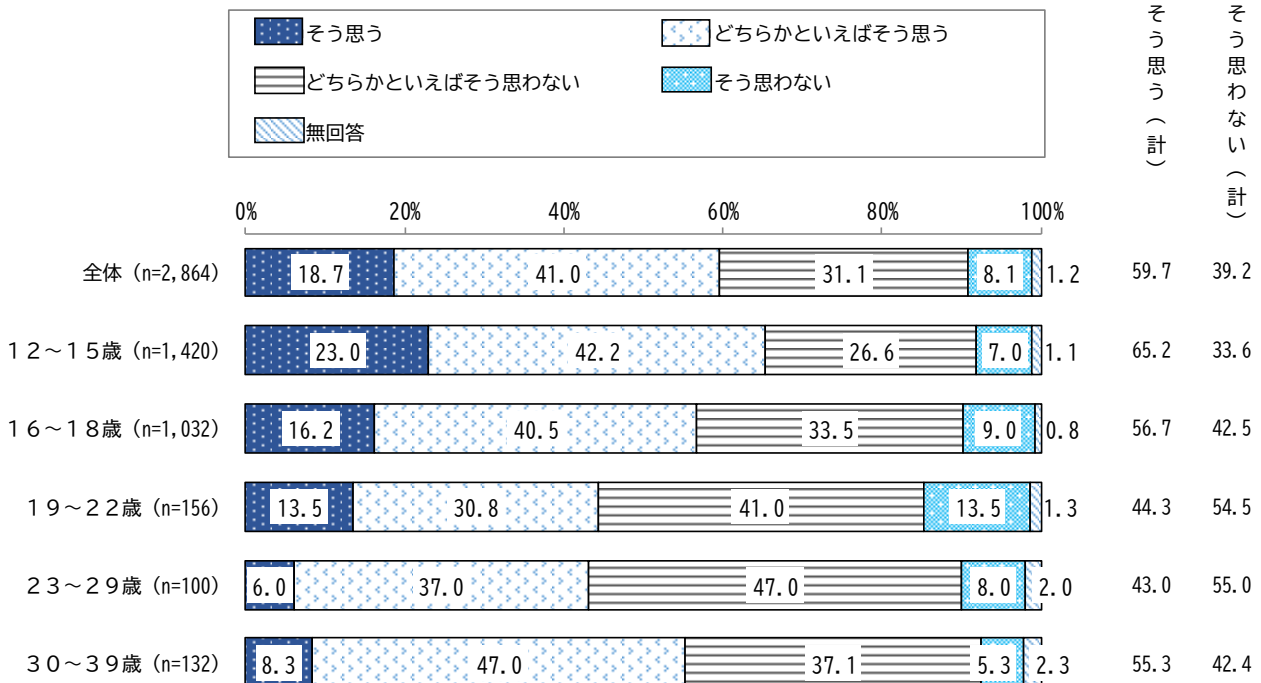


Ⅲ 調査の結果

自身の世代の特徴として社会に関心があると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（59.7%）が5割を超えている。

年齢別にみると、12～15歳、16～18歳、30～39歳では『そう思う』が『そう思わない』を上回っており、19～22歳、23～29歳では『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。

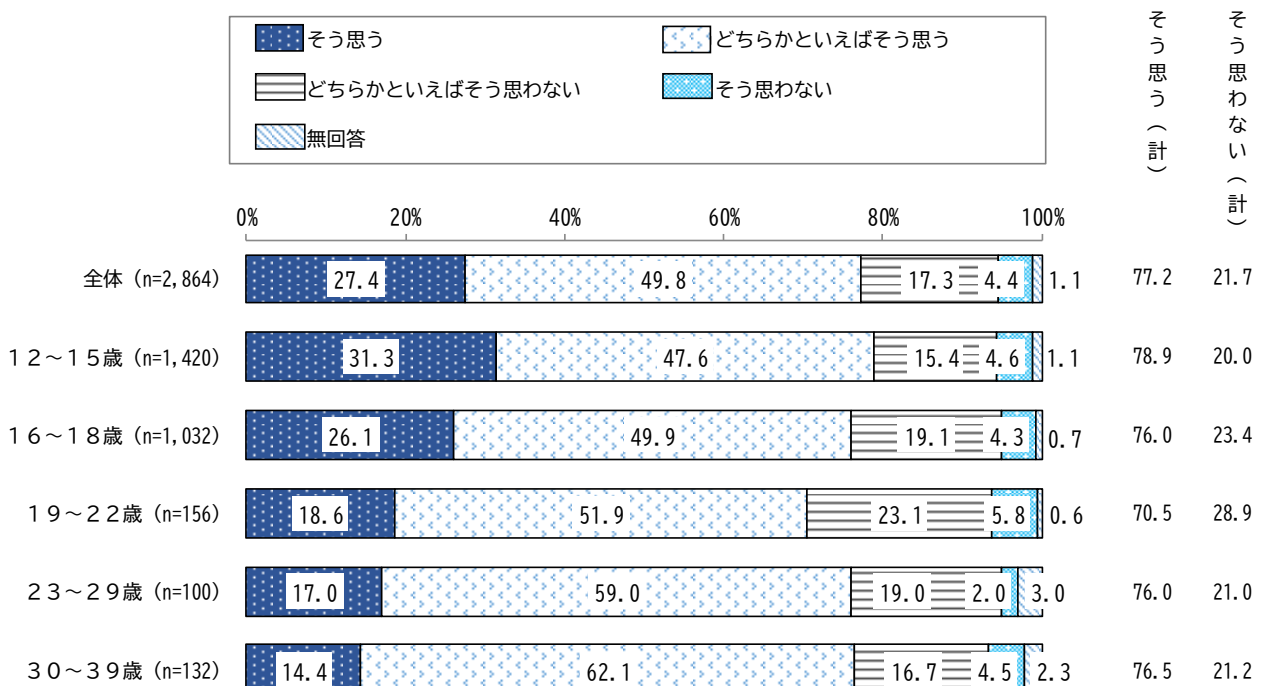
【年齢別クロス集計：社会に関心がある】



自身の世代の特徴として誠実であると思うかについて、全体をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』（77.2%）が7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも『そう思う』が7割を超えている。12～15歳では『そう思う』が78.9%と最も高くなっており、比較的自身の世代は誠実であると思っている人の割合が高くなっている。

【年齢別クロス集計：誠実である】



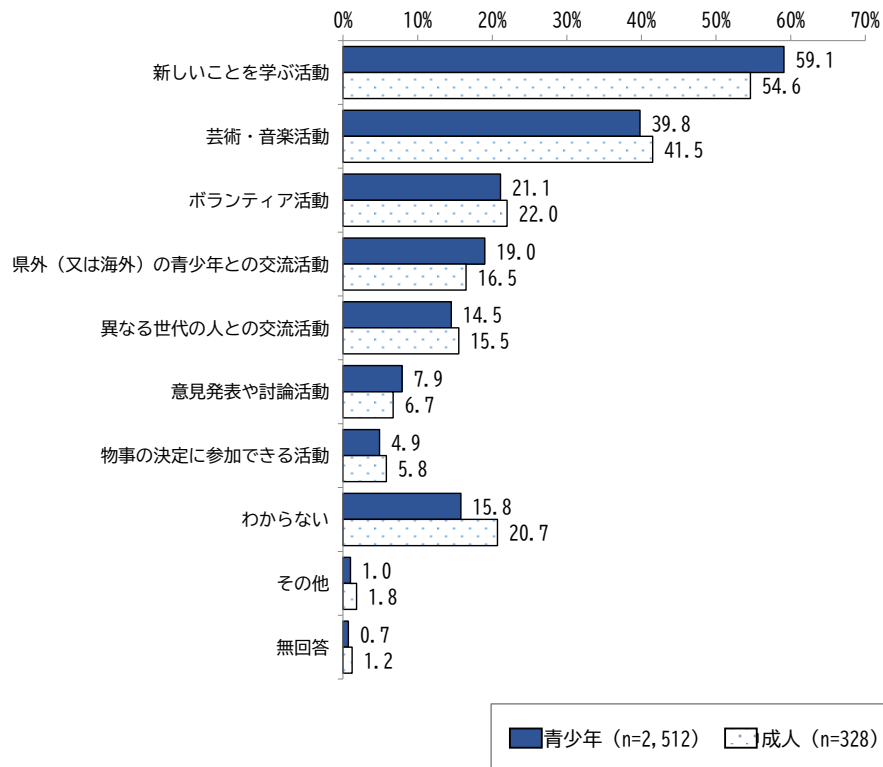
Ⅲ 調査の結果

(2) 各種活動への興味関心

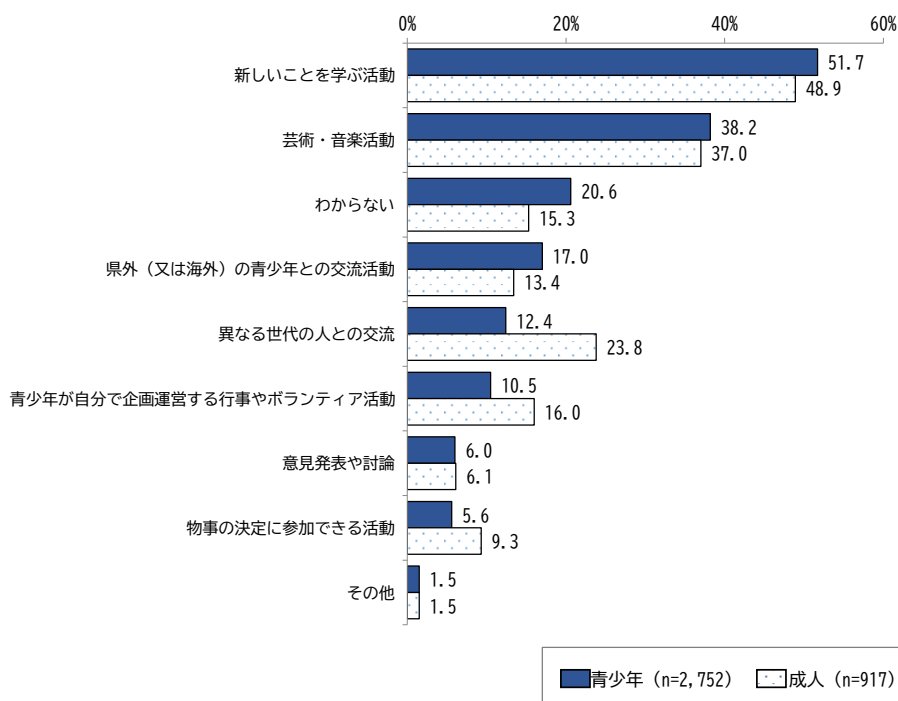
問30. あなたは、どのような活動に興味がありますか。(あてはまるものすべてに○)

興味のある活動について、青少年、成人ともに「新しいことを学ぶ活動」(青少年 59.1%、成人 54.6%)が最も高く、次いで「芸術・音楽活動」(青少年 39.8%、成人 41.5%)に興味がある傾向となっている。前回調査と比較すると、青少年、成人ともに大きな差は見られなかった。

【調査対象別：各種活動への興味関心】



【H28 前回調査：各種活動への興味関心】



Ⅲ 調査の結果

興味のある活動について、全体をみると、「新しいことを学ぶ活動」(58.6%)が最も高く、次いで「芸術・音楽活動」(39.9%)、「ボランティア活動」(21.0%)、「県外(又は海外)の青少年との交流活動」(18.6%)が続いている。

年齢別にみると、いずれも「新しいことを学ぶ活動」が5割を超えて最も高くなっており、次いで「芸術・音楽活動」が続いている。19～22歳では「ボランティア活動」(28.8%)の割合が他の年齢別に比べて高くなっている。

【年齢別クロス集計：各種活動への興味関心】

		新しいことを学ぶ活動	芸術・音楽活動	ボランティア活動	意見発表や討論活動	異なる世代の人との交流活動	県外(又は海外)の青少年との交流活動	物事の決定に参加できる活動	わからない	その他	無回答
全体 (n=2,864)		58.6	39.9	21.0	7.7	14.5	18.6	5.0	16.3	1.2	0.8
年齢別	12～15歳 (n=1,420)	60.3	39.6	18.9	8.6	13.3	20.3	5.1	17.3	1.2	0.8
	16～18歳 (n=1,032)	57.2	39.7	23.4	7.2	15.5	17.4	4.8	14.0	0.9	0.5
	19～22歳 (n=156)	55.8	41.7	28.8	7.7	19.9	15.4	1.9	16.0	0.6	0.6
	23～29歳 (n=100)	59.0	39.0	21.0	6.0	17.0	17.0	7.0	19.0	2.0	1.0
	30～39歳 (n=132)	53.8	45.5	19.7	4.5	12.9	16.7	7.6	23.5	2.3	1.5

1位

2位

9. 生きづらさについて

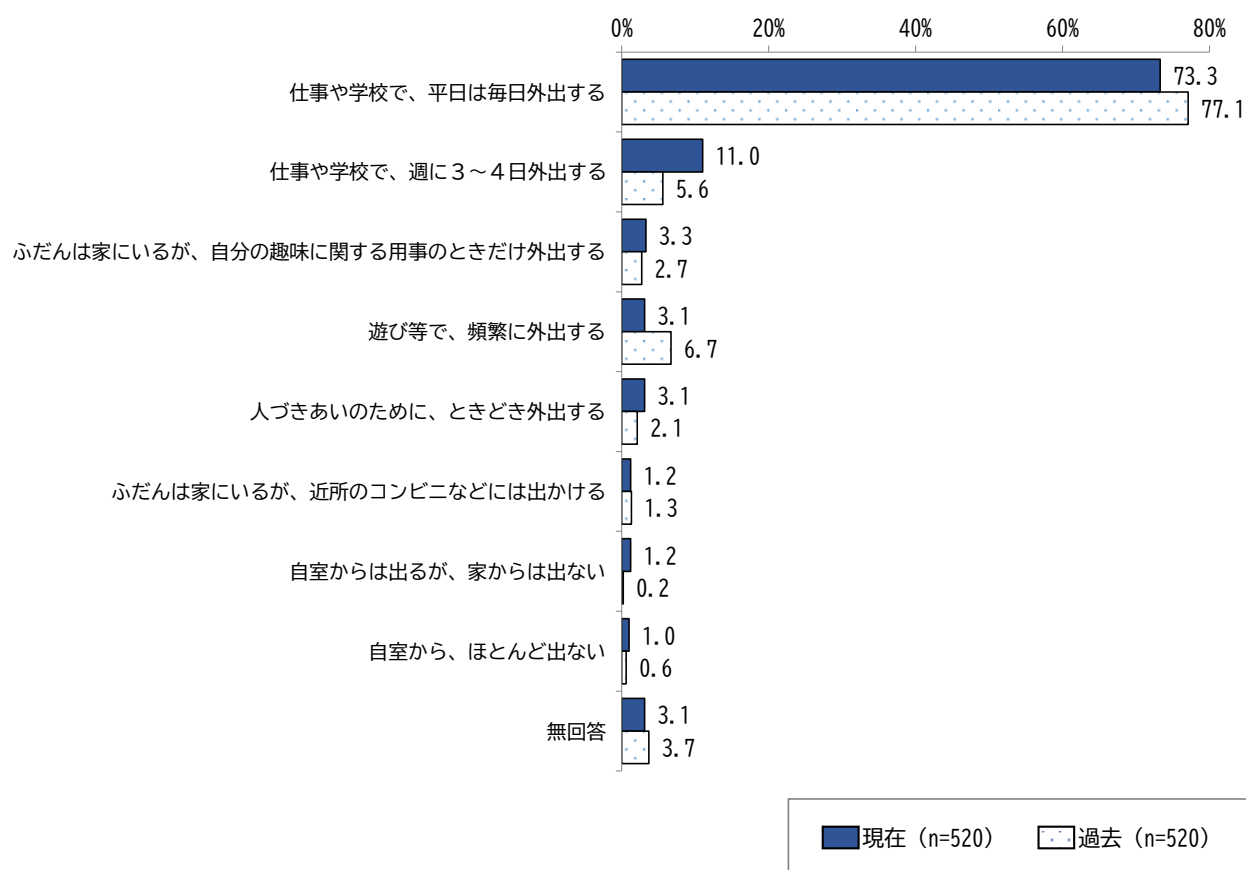
(1) 現在と過去の外出頻度

問31. あなたの現在（今の仕事・学校になってから）の外出頻度と、過去（中学生・高校生の頃）の外出頻度はどれくらいですか。下記の欄にそれぞれ番号を1つずつご記入ください。

外出頻度については、現在、過去ともに「仕事や学校で、平日は毎日外出する」（現在 73.3%、過去 77.1%）が7割を超えている。また、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室から、ほとんど出ない」といった『引きこもり疑い』と思われる回答者は現在、過去で全体の約1～3%程度確認された。

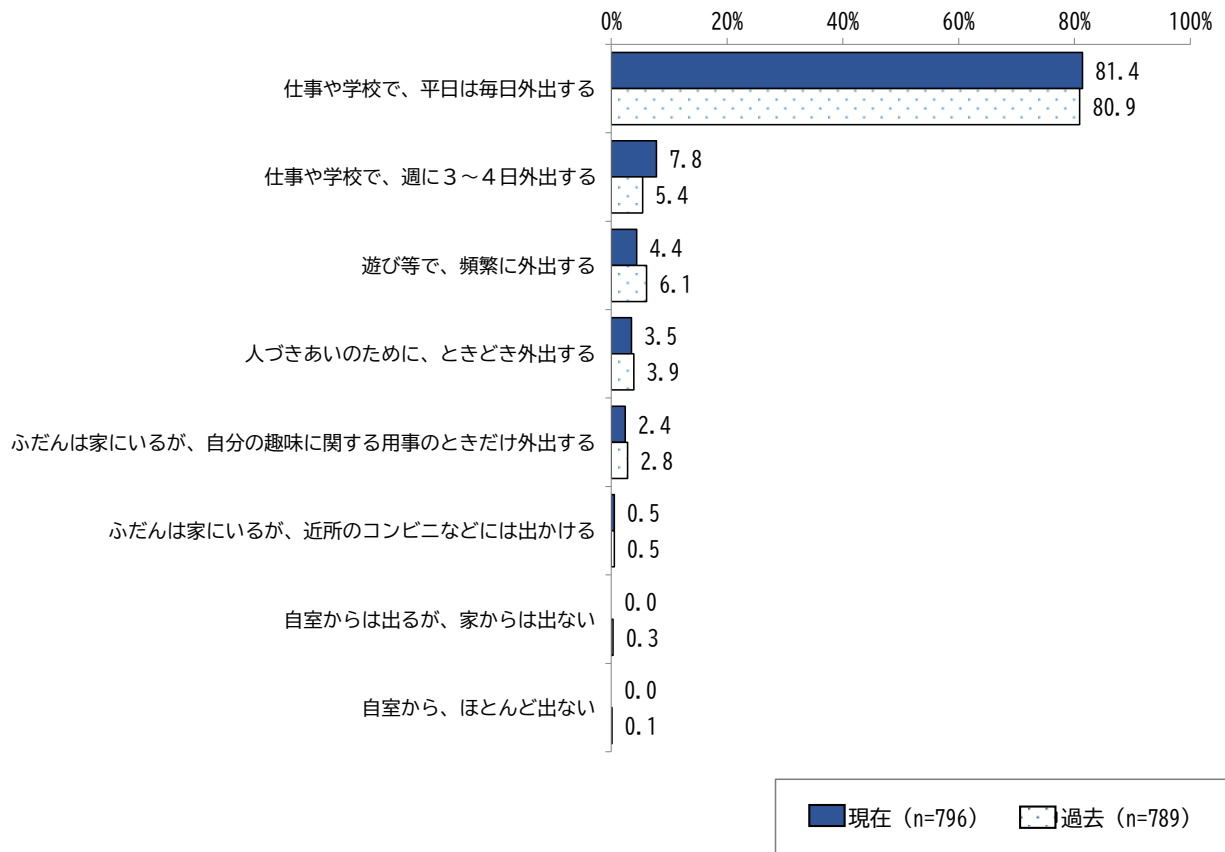
前回調査と比較すると、大きな差は見られなかった。

【現在と過去の外出頻度】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査比較：現在と過去の外出頻度】



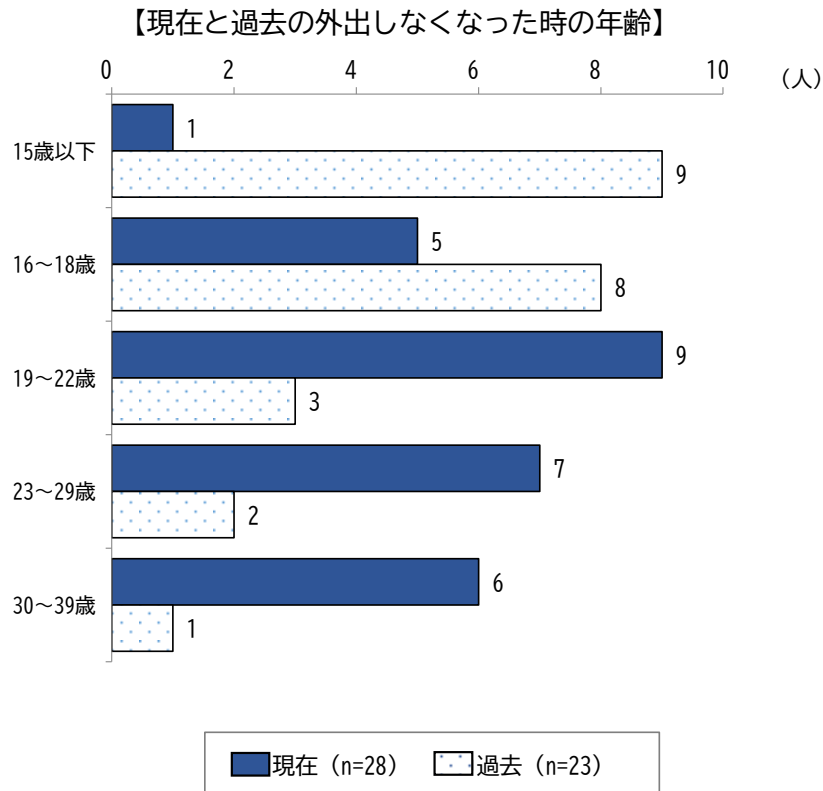
(2) 外出しなくなった経緯や状況

問3 2. 現在(過去)の一方に5～8に該当した方は、下記の現在(過去)の欄に、あてはまる数値をご記入ください。現在と過去のどちらとも5～8に該当した方は、下記の現在と過去の欄どちらともに、あてはまる数値をご記入ください。

①外出しなくなった時の年齢

問3 2-ア. 現在あるいは過去の状態になったのは、あなたが何歳のころですか。

現在あるいは過去の外出しなくなった時の年齢については、過去に『引きこもり疑い』があった場合では、19～22歳と比較的若年層のときに『引きこもり状態』にあった経験があり、現在『引きこもり状態』にある回答者は19～29歳が最も多く、『引きこもり状態』にある年齢層が過去に比べて高くなっている。



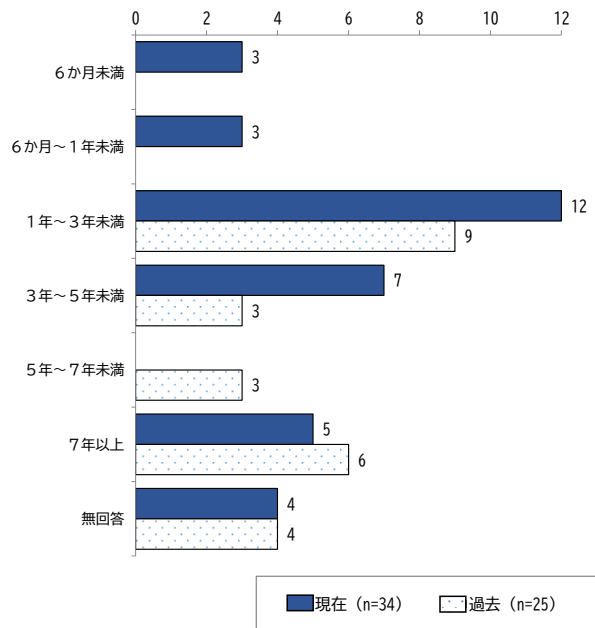
Ⅲ 調査の結果

②外出しなくなっからの期間

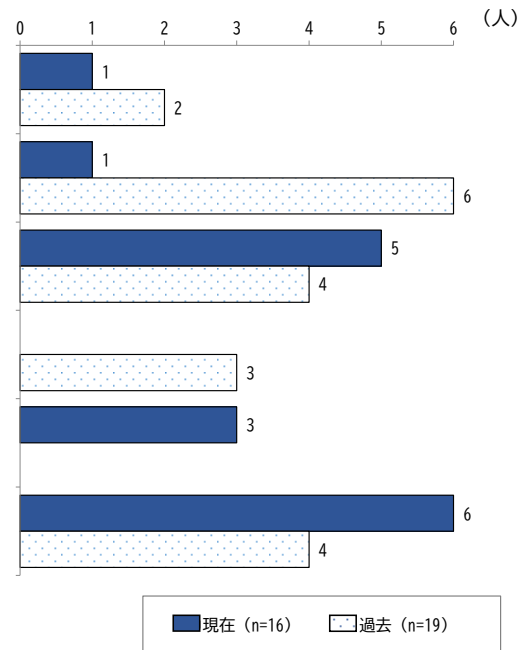
問3 2-イ. 現在の状態となつてどのくらい経ちますか。あるいは、過去の状態はどれくらい続きましたか。

現在と過去の外出しなくなつてからの期間については、現在『引きこもり状態』にある場合では「1年～3年未満」が最も多く、過去に『引きこもり状態』にあった場合でも「1年～3年未満」が最も多くなっている。

【現在と過去の外出しなくなつてからの期間】



【H28 前回調査：外出しなくなった期間 成人】



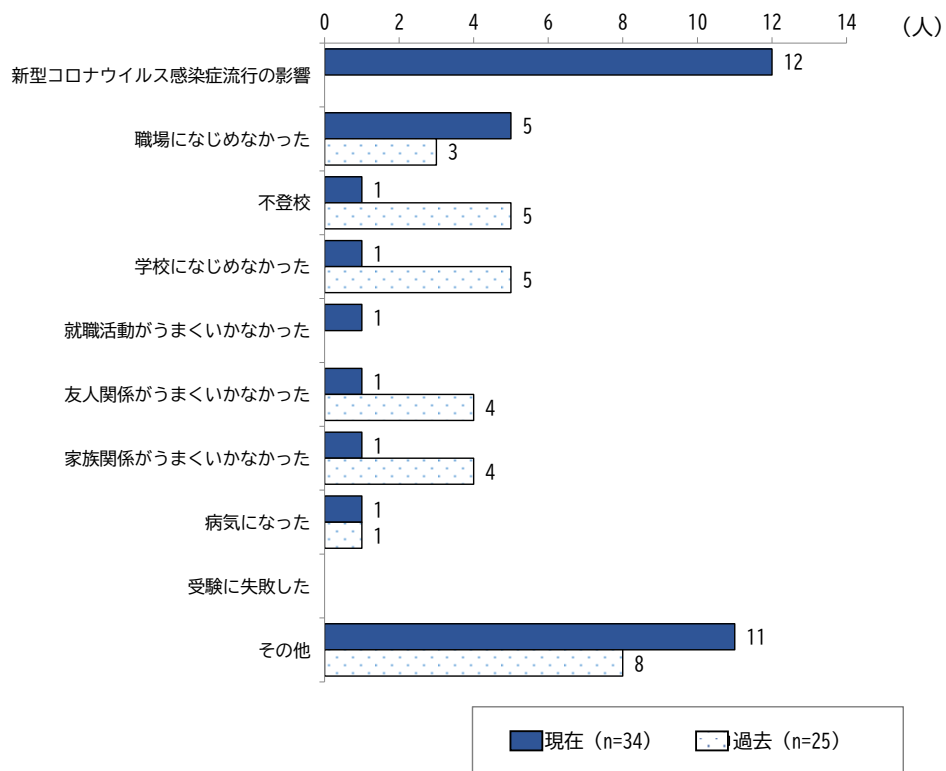
※前回調査（成人）参考までに掲載

③外出しなくなったきっかけ

問3 2-ウ. 現在あるいは過去の状態になったきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてを記入)

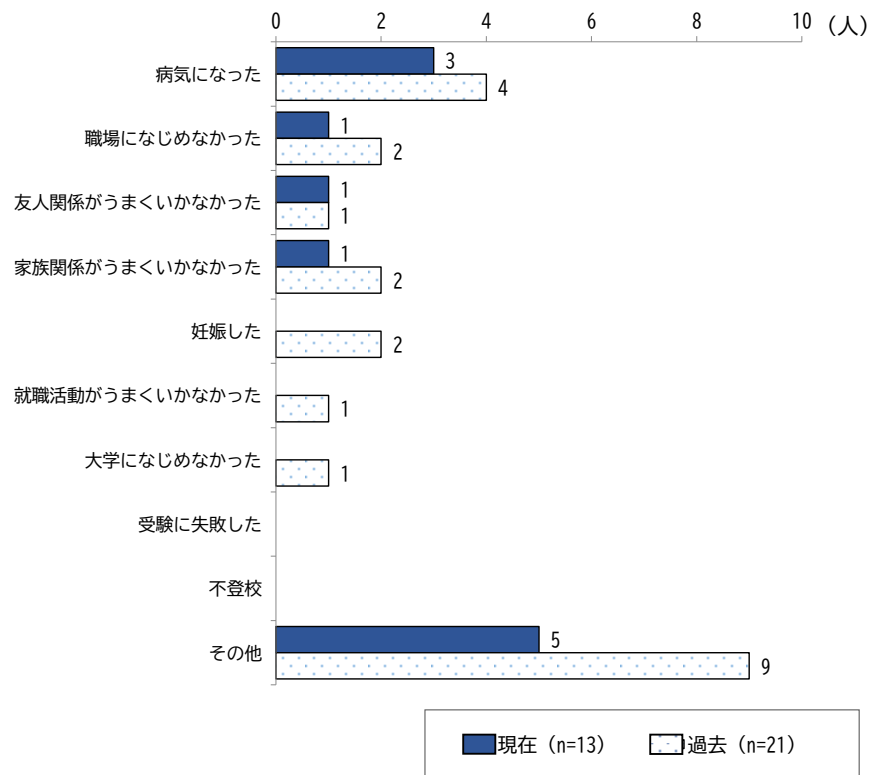
外出しなくなったきっかけについては、新型コロナウイルス感染症や人間関係の問題がきっかけとして多く見られた。「その他」も多かったが、「その他」に対する自由記述は得られなかった。

【外出しなくなったきっかけ】



Ⅲ 調査の結果

【H28 前回調査：外出しなくなったきっかけ 成人】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

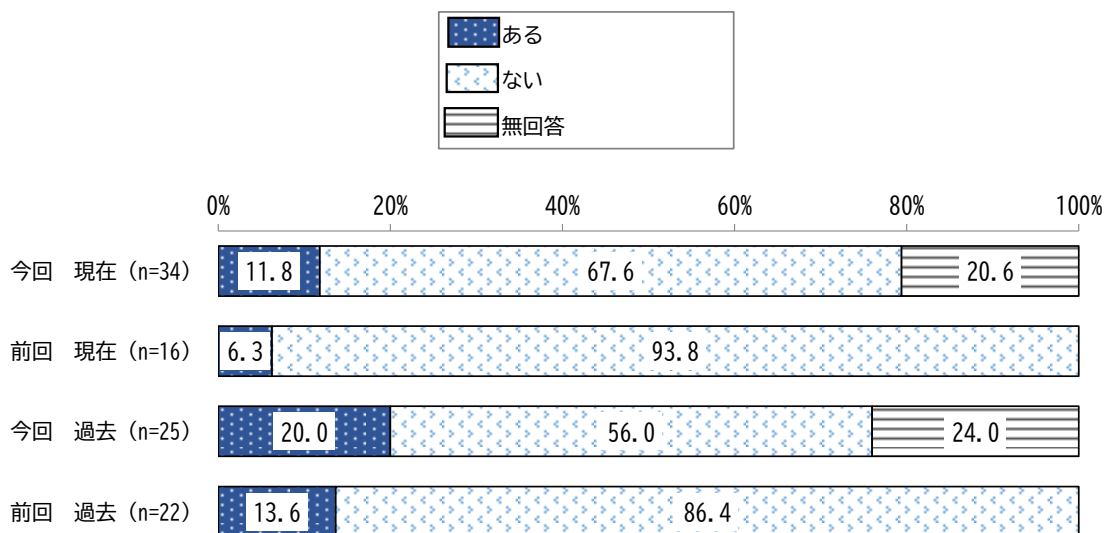
④関係機関への相談の有無

問３２－エ．現在あるいは過去の状態について、関係機関に相談したことはありますか。

関係機関への相談の有無については、現在『引きこもり状態』にある場合では相談したことが「ある」と答えた回答者が 11.8%、過去に『引きこもり状態』にあった場合では相談したことが「ある」と答えた回答者が 20.0%であった。引きこもり状態を経験した人のほとんどが相談機関を利用していないことが示された。

前回調査と比較すると、現在では相談したことが「ある」と答えた回答者が 11.8%で、前回(6.3%)に比べて 5.5 ポイント増加しており若干前回調査よりも相談機関を利用した人の割合が増えている。過去では相談したことが「ある」と答えた回答者が 20.0%で、前回(13.6%)に比べて 6.4 ポイント増加しておりこちらも若干前回調査よりも相談機関を利用した人の割合が増えている。

【H28 前回調査比較：関係機関への相談の有無】



Ⅲ 調査の結果

⑤関係機関に相談した結果

問3 2-オ. 前問エで、「1 ある」と回答した方におたずねします。相談機関に相談した結果について、どのように感じましたか。ご自由にお書きください。

【成人】

No.	意見内容
1	普通の会話でした。
2	小さいころから家庭がおかしく、決められた事しか許されない家庭でした。このままではいけないと勉強し、何年も頼み込んで県外の大学・就職をしましたが、離れていても毎日大量のラインや電話、一人暮らしの鍵を勝手に取られ、急に家まで来て上がり込まれる等、自由度は少なかったです。未成年のうちはこの程度で相談対象に入るのか、とか、「うちは普通だ」と言われて育ってきた為、相談できませんでした。大人になってから社会とのずれを感じたり、26歳のころに家の介護のため無理矢理地元へつれ戻された時、常に監視され友人との交流を阻害されたり、一人での外出を禁止されたりする等、普通ではない制限を受けやっと相談しました。特殊なケースである事、私が成人していた事、暴力などの事件性が無い事から、話だけしか聞いて貰えませんでした。いくつかの窓口を当たりましたが、こちらから聞かないと他の窓口の提案も無く、ひどい所は「あなたは自分でなんとかできる力をもっている。そのまま頑張って」と放り出されたところもありました。田舎ゆえに、専門の心療内科も近くになく、当時監視もされていたので行けるはずもなく、相談窓口も頼りなかったので、結局は自分で何とかするしかないと感じました。

【青少年】

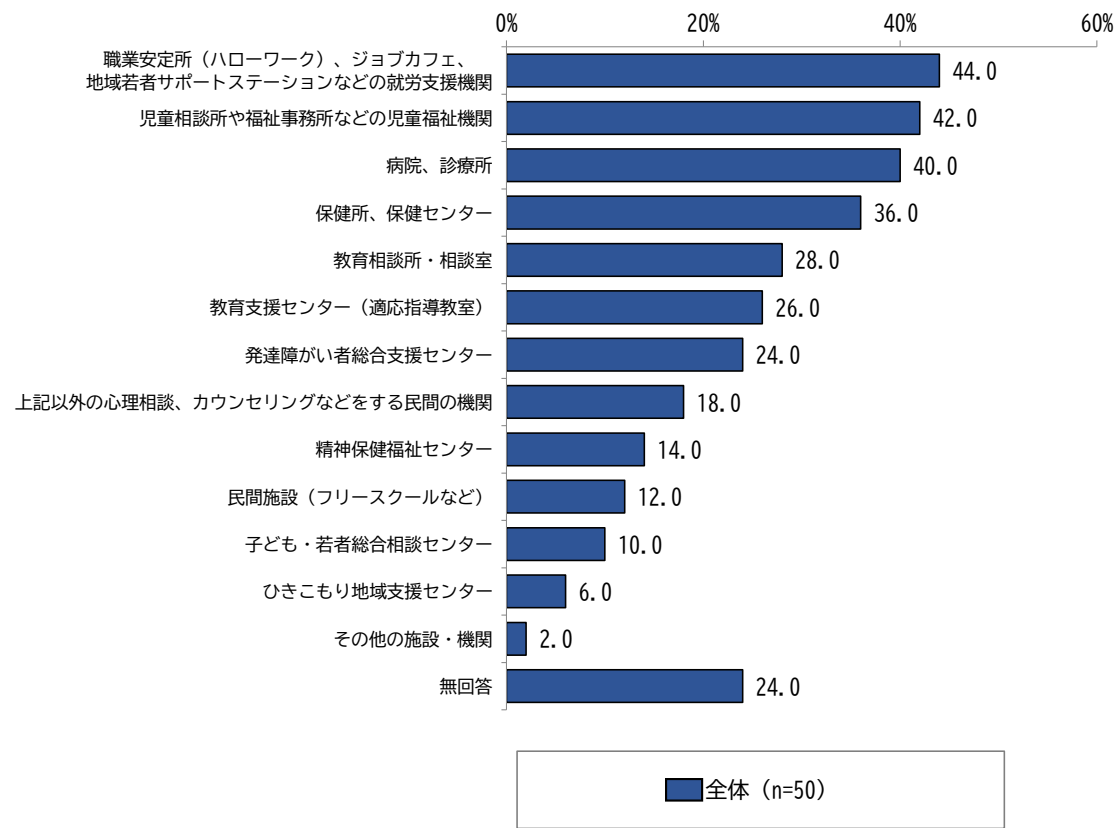
1	いじめについて相談しましたが、とくに力にはなってくれませんでした。(カウンセリング)
2	特に変化はありません。

⑥育成支援機関の認知度

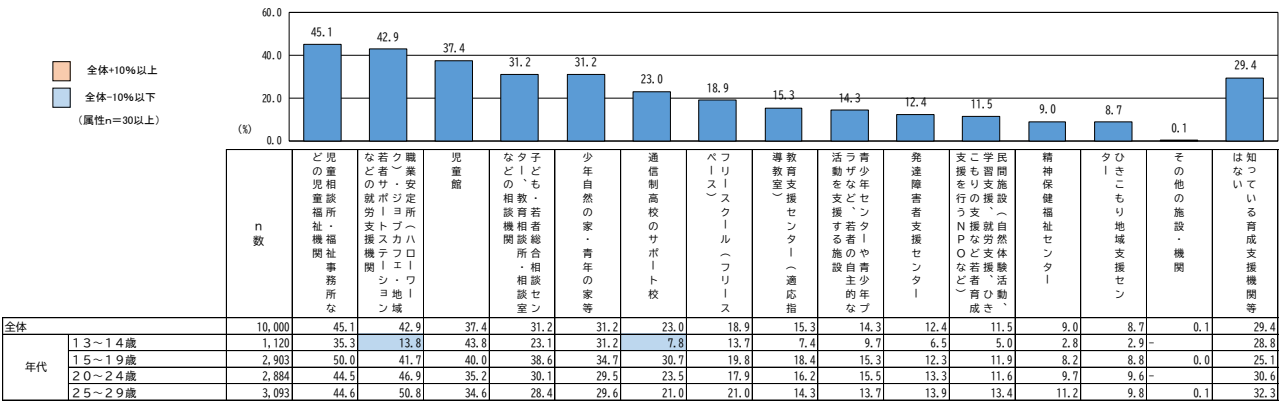
問3 2-カ. 子ども・若者を対象とした育成支援機関等について、知っているものをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

知っている育成支援機関にはどのようなものがあるのかについて、「職業安定所（ハローワーク）、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」（44.0%）が最も高く、次いで「児童相談所や福祉事務所などの児童福祉機関」（42.0%）、「病院、診療所」（40.0%）、「保健所、保健センター」（36.0%）が続いている。また、「ひきこもり地域支援センター」（6.0%）は1割未満と認知度が低い傾向となっている。

【育成支援機関の認知度】



【R1 国調査：育成支援機関の認知度】



※国調査（R1）参考までに掲載

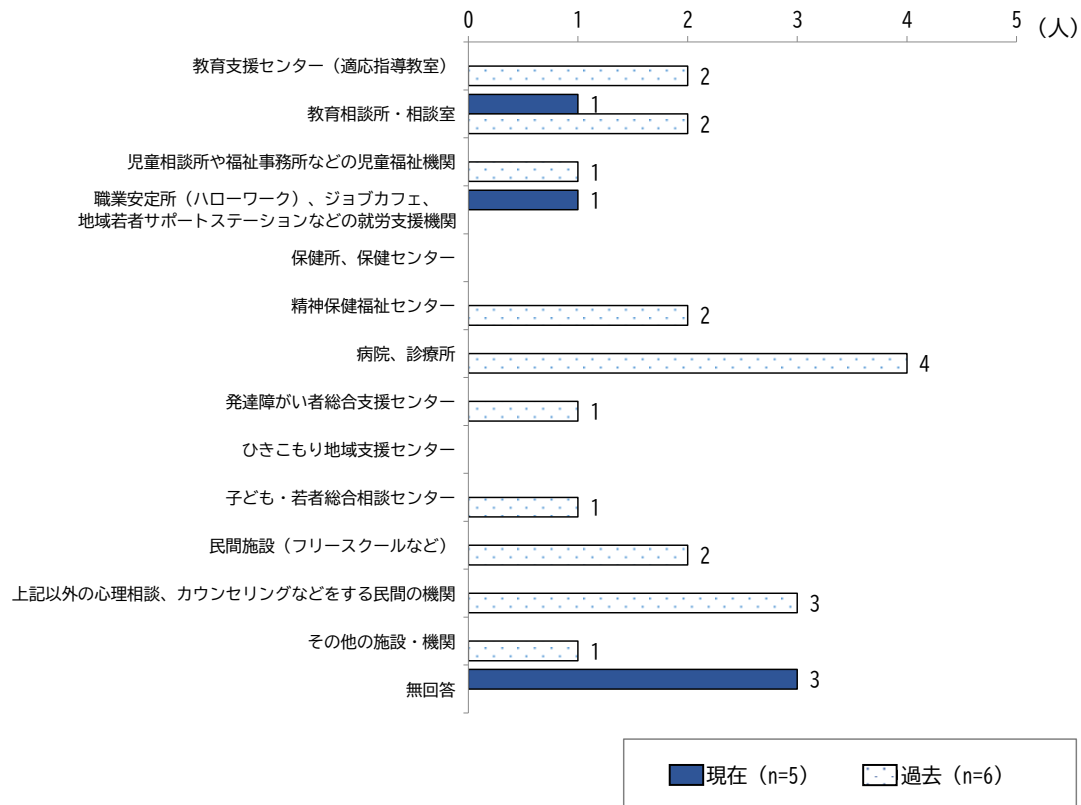
Ⅲ 調査の結果

⑦実際に相談した育成支援機関

問32-カ. また、前問エで「1 ある」と回答した方は、相談した機関を上記選択肢（1～13）からお答えください。（あてはまるものすべてを記入）

実際に相談した育成支援機関については、過去においては病院や教育センター等の施設を利用していたが、現在においては支援機関を利用しない傾向となっている。

【現在と過去の実際に相談した育成支援機関】



⑧外出するようになったきっかけ

問32-キ. 過去の5～8の状態から、1～4の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思いますか。ご自由にお書きください。

『引きこもり状態』から脱したきっかけとして「新しい良い友人の支え」、「進学と言う生活リズムが出来たから」、「高校のOCで良い先生に出会えたから」と、3件のご意見が得られた。

(3) 相談機関への相談意向

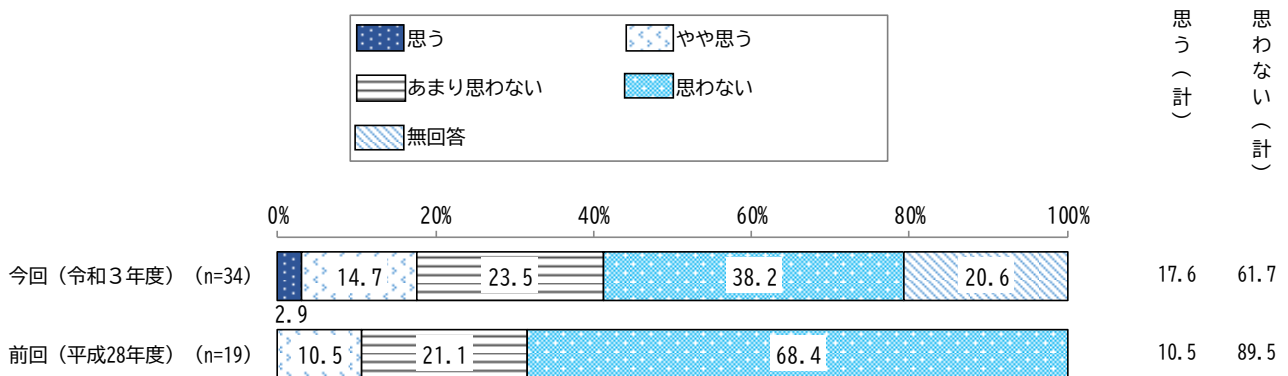
①相談意向の有無

問33-ア. 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(1つに○)

相談意向の有無については、現在の状態について相談したいと思う割合が17.6%と全体の約2割程度となっている。

前回調査と比較すると、現在の相談したいと『思う』(17.6%)が前回調査の相談したいと『思う』(10.5%)に比べて7.1ポイント増加しており、前回よりも相談機関へ相談したいと思う人の割合が増えている傾向となっている。

【H28 前回調査比較：相談意向の有無】



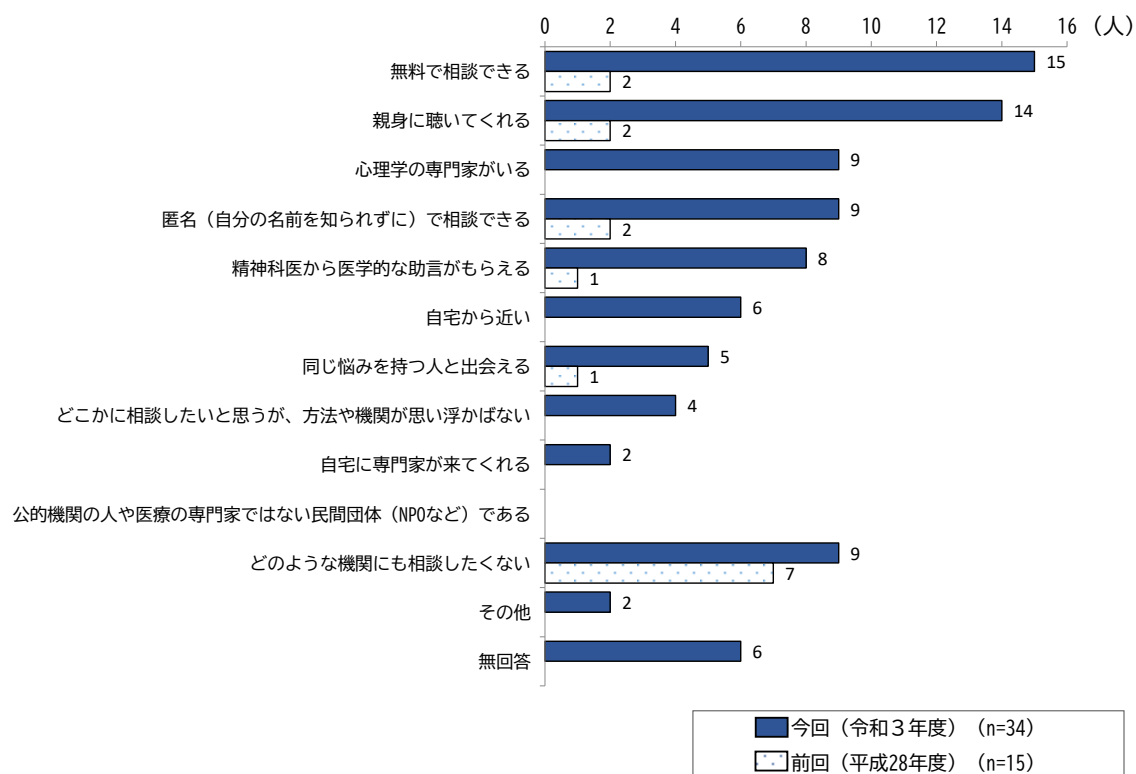
Ⅲ 調査の結果

②相談したいと感じる機関

問33-イ. 現在の状態について関係機関に相談するとすれば、どのような機関になら、相談したい
と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

相談したいと感じる機関について、「無料で相談できる」、「親身に聴いてくれる」の割合が高くなっている。また、「どのような機関にも相談したくない」と回答した回答者も多くなっており、前回と同様に相談したくないと考えている人が一定数いるのは変わらない結果となっている。

【H28 前回調査比較：相談したいと感じる機関】



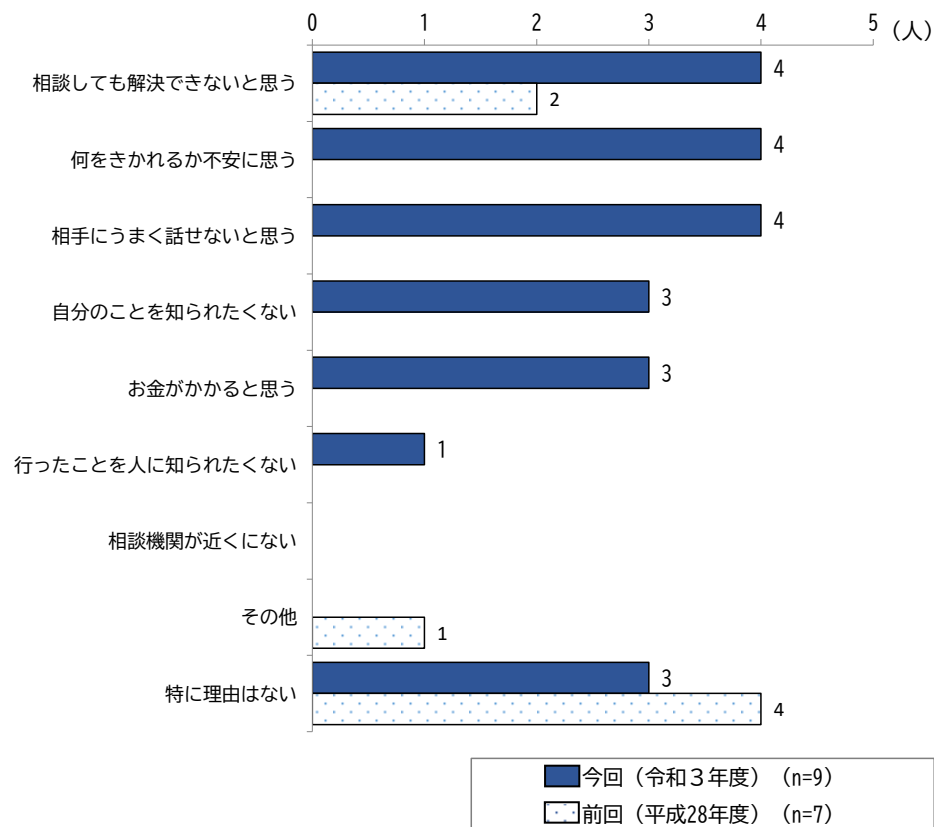
※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

③相談したくない理由

問33-ウ.【イで、「11 どのような機関にも相談したくない」に○をつけた方におたずねします。】
相談したくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

相談したくない理由については、全体をみると、「相談しても解決できないと思う」、「何をきかれるか不安に思う」、「相手にうまく話せないと思う」が最も多くなっている。また、「特に理由はない」と回答した回答者も多くなっており、前回と同様に相談しないことに特に理由はない人が一定数いるのは変わらない結果となっている。

【H28 前回調査比較：相談したくない理由】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

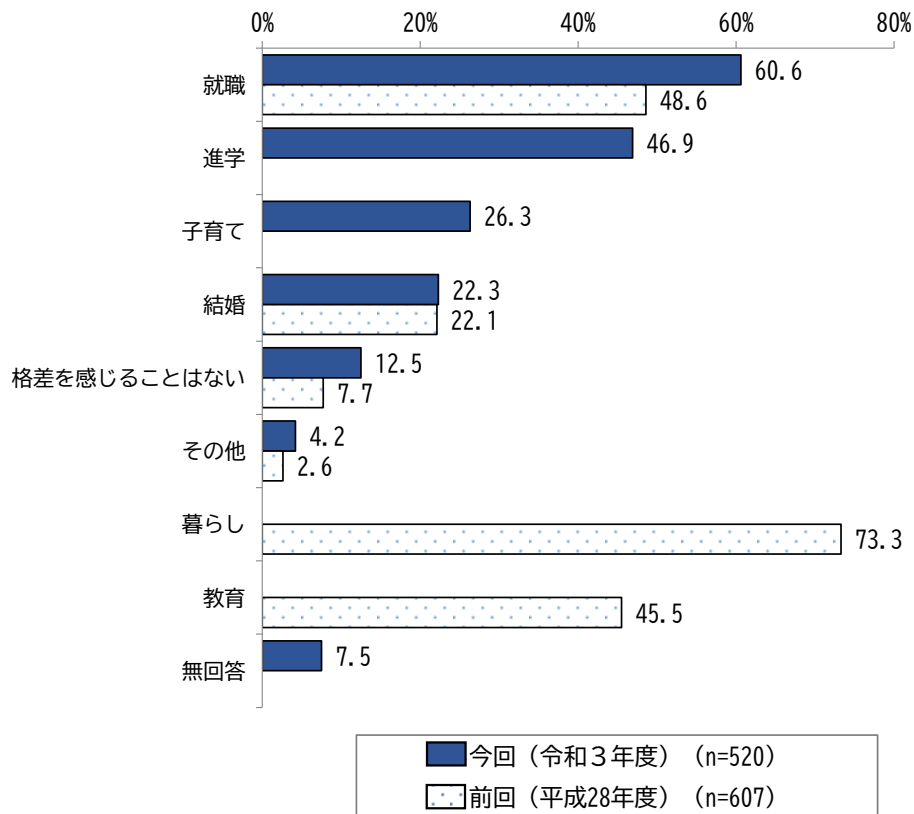
(4) 格差を感じる場面

問34. あなたは、どのような時に社会の格差を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

社会の格差を感じる場面については、全体をみると、「就職」(60.6%)が最も高く、次いで「進学」(46.9%)について格差を感じる人が約半数となった。

前回調査と比較すると、「就職」に関して最も格差を感じることは変わらない結果となっている。

【H28 前回調査比較：格差を感じる場面】



※前回調査とは項目が異なるが、参考までに記載

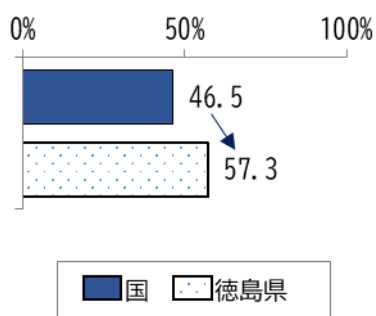
10. R1 国調査「子供・若者インデックスボード」との比較

内閣府が「子供・若者インデックス」名付けてまとめている、子供・若者の生育状況等に関する各種指標について、今回調査の結果から算出した指標と、R1 国調査に基づいた指標との比較を行った。

(1) 自己について

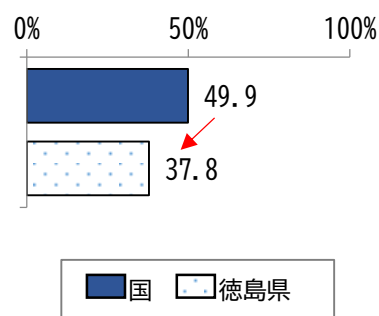
【自己肯定感】

今の自分が好きだ



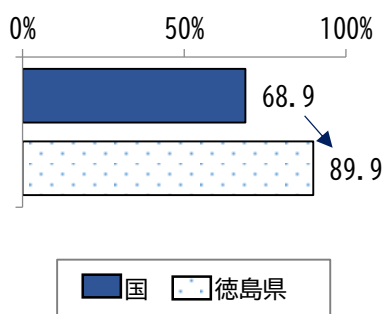
【自己有用感】

自分は役に立たないと強く感じる



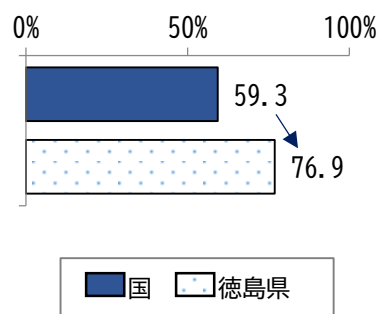
【今の充実感】

今の生活が充実している



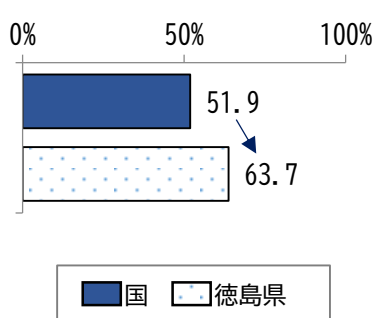
【将来への希望】

自分の将来について明るい希望を持っている



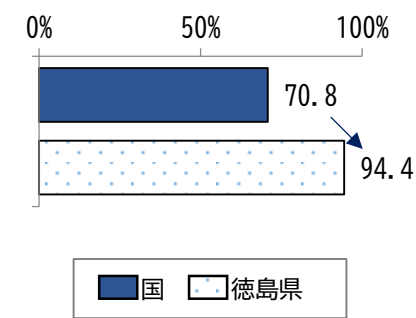
【チャレンジ精神】

うまくいくかわからないことにも
意欲的に取り組む



【社会貢献意欲】

社会のために役立つことをしたい



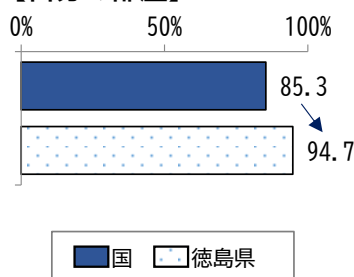
自己に関する6項目については、国調査と比較すると【自己有用感】を除く5項目で、徳島県の方が割合が高くなっており、国調査との差は【社会貢献意欲】で23.6%と最も大きく、次いで【今の充実感】(21.0%)、【将来への希望】(17.6%)、【チャレンジ精神】(11.8%)、【自己肯定感】(10.8%)の順になっている。【自己有用感】については、設問の回答割合が低いほど自己有用感が高いといえる。国調査よりも回答割合が12.1%低いことから、自己有用感についても全国的な傾向に比べて高いといえる。

Ⅲ 調査の結果

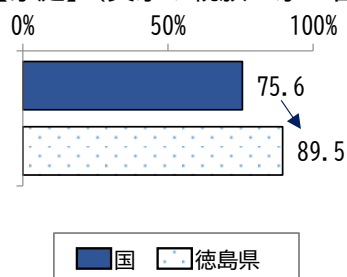
(2) 周囲について

①居場所－次の場所が、ほっとできる場所、居心地のよい場所になっている

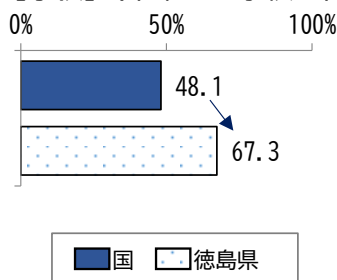
【自分の部屋】



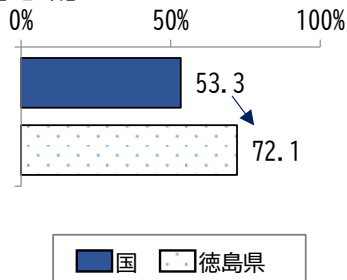
【家庭】（実家や親族の家を含む）



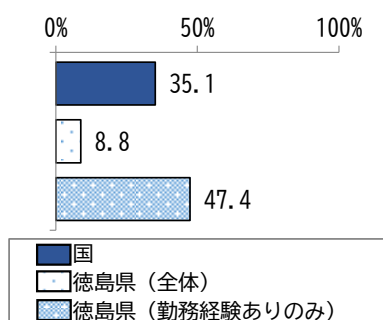
【学校】（卒業した学校を含む）



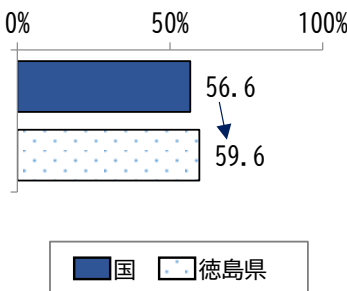
【地域】



【職場】

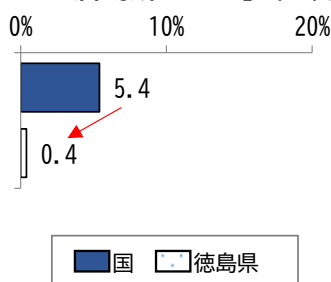


【インターネット空間】



※国は全数で割合を算出しているが、国調査に比べて学生の割合が高いため、参考に、勤務経験がある方のみの割合も示している。

【どこにも居場所がない】（上記のいずれにも居場所になっていない）



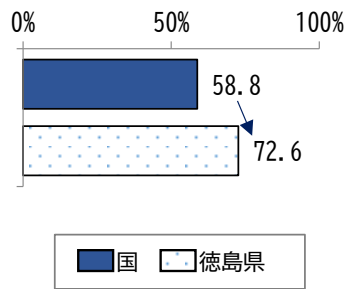
居場所については、国調査と比較すると【職場】を除く5項目で、徳島県の方が割合が高くなっており、国調査との差は【学校】で19.2%と最も大きく、次いで【地域】（18.8%）、【家庭】（13.9%）、【自分の部屋】（9.4%）、【インターネット空間】（3.0%）の順になっている。

また、6項目いずれについても居場所になっていないと回答した【どこにも居場所がない】の割合は、今回調査では0.4%とほとんどおらず、国調査と比較しても5.0%低くなっている。要因として、自分の部屋や家庭の割合が高いことに加え、学校や地域といった、家の外に居場所がある人が多いことが考えられる。

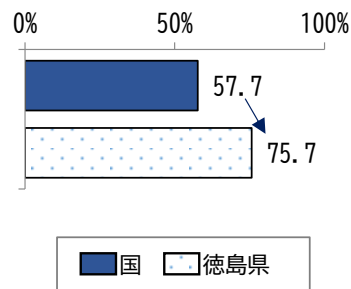
Ⅲ 調査の結果

②相談できる人一次の場所に、何でも相談できる人がいる

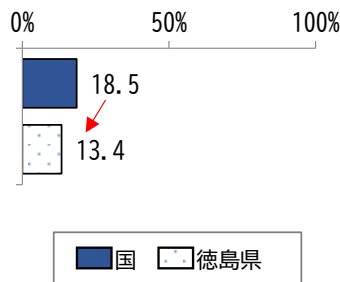
【家庭】（実家や親族の家を含む）



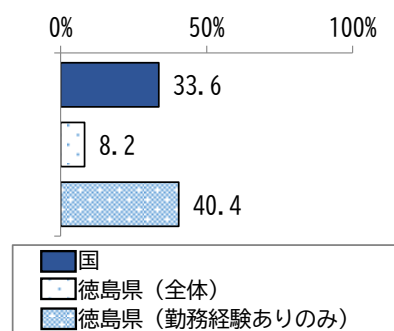
【学校】（卒業した学校を含む）



【地域】

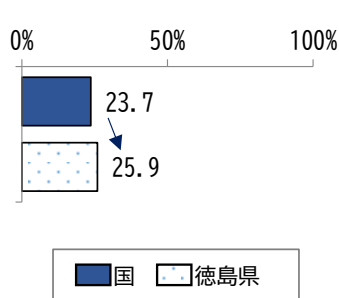


【職場】

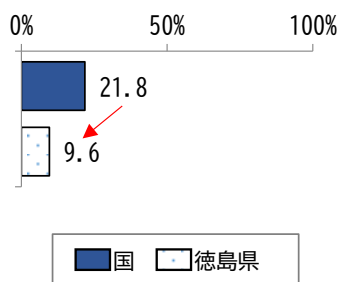


※国は全数で割合を算出しているが、国調査に比べて学生の割合が高いため、参考に、勤務経験がある方のみの割合も示している。

【インターネット空間】



【どこにも相談できる人がない】（上記のどこにも何でも相談できる人がいない）



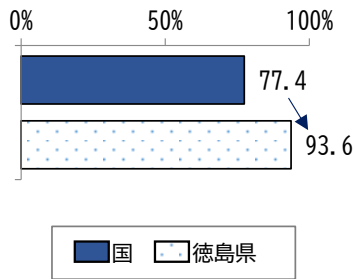
相談できる人については、【家庭】、【学校】で国調査の割合を大きく上回っており、その差はそれぞれ13.8%、18.0%となっている。【インターネット空間】も国調査の割合を上回っているが、その差は2.2%とわずかである。一方、【地域】、【職場】は国調査と比べて割合が低く、その差はそれぞれ5.1%、25.4%となっている。

また、6項目いずれについても相談できる人がいないと回答した【どこにも相談できる人がいない】の割合は、国に比べて12.2%割合が低くなっている。

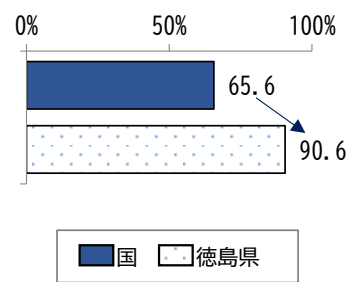
Ⅲ 調査の結果

③助けてくれる人一次の場所に、困ったときに助けてくれる人がいる

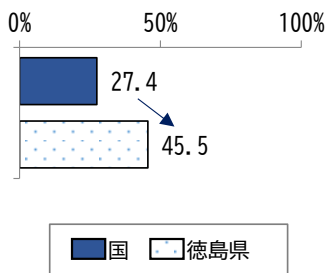
【家庭】（実家や親族の家を含む）



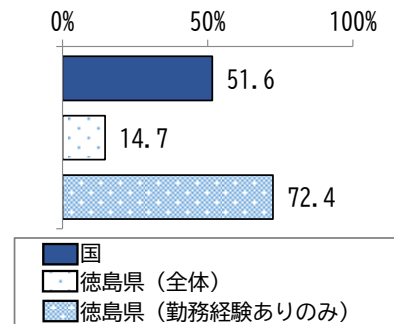
【学校】（卒業した学校を含む）



【地域】

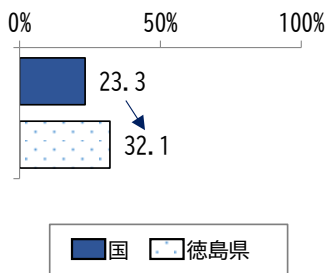


【職場】

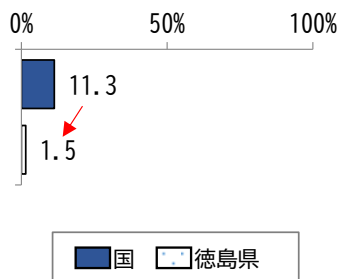


※国は全数で割合を算出しているが、国調査に比べて学生の割合が高いため、参考に、勤務経験がある方のみの割合も示している。

【インターネット空間】



【どこにも助けてくれる人がない】（上記のどこにも助けてくれる人がいない）

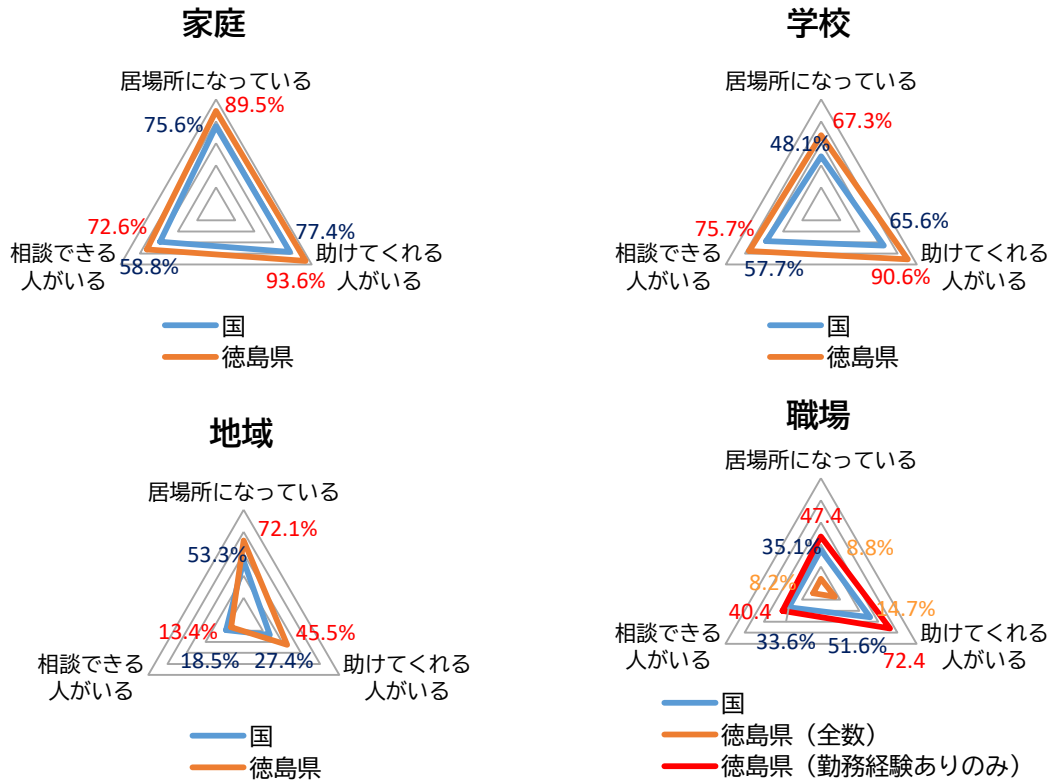


助けてくれる人については、国調査と比較すると【職場】を除く5項目で、徳島県の方が割合が高くなっており、国調査との差は【学校】で25.0%と最も大きく、次いで【地域】(18.1%)、【家庭】(16.2%)、【インターネット空間】(8.4%)の順になっている。唯一、国調査よりも割合の低い【職場】は国に比べて36.9%割合が低くなっている。

また、6項目いずれについて助けてくれる人がいないと回答した【どこにも助けてくれる人がいない】は、国に比べて9.8%割合が低い。

Ⅲ 調査の結果

④場ごとの認識



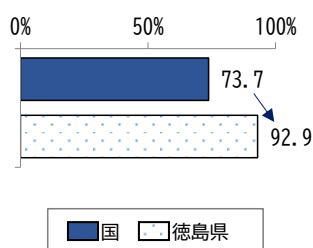
※国は全数で割合を算出しているが、国調査に比べて学生の割合が高いため、参考に勤務経験がある方のみ割合も示している。

【家庭】や【学校】については、国調査に比べて居場所・相談できる人・助けてくれる人、いずれも高い割合となっている。【いずれも該当なし】については、国調査よりも割合は低いものの、国調査と同様、相談できる人の割合が他2項目よりも高くなっている。

⑤人との関わり

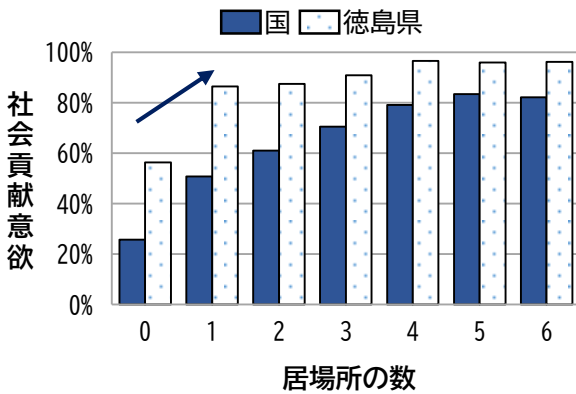
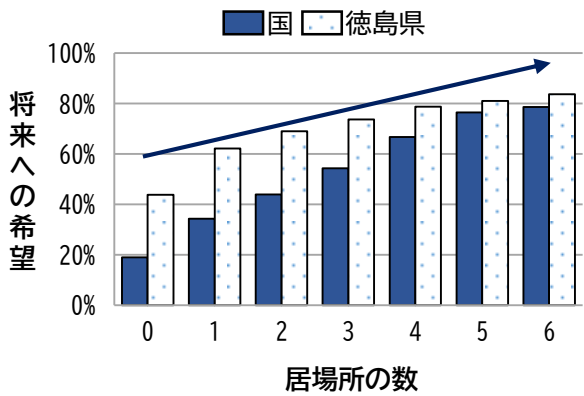
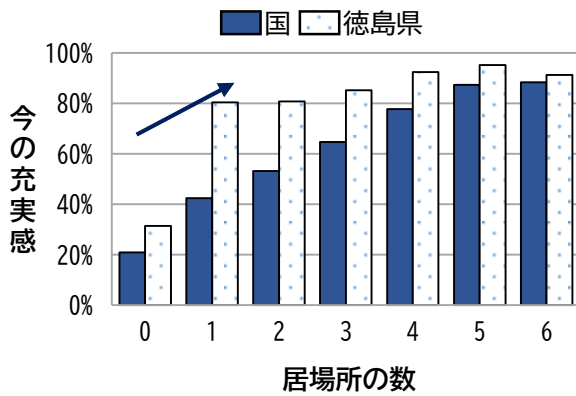
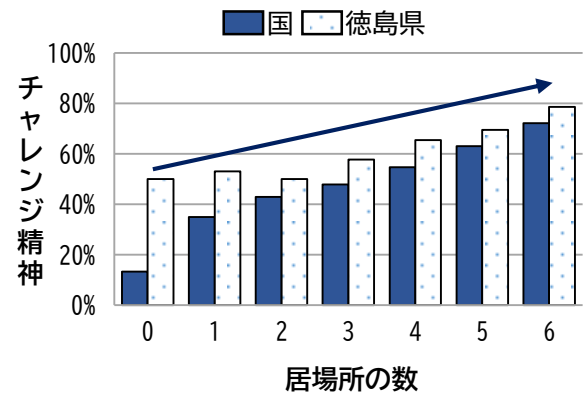
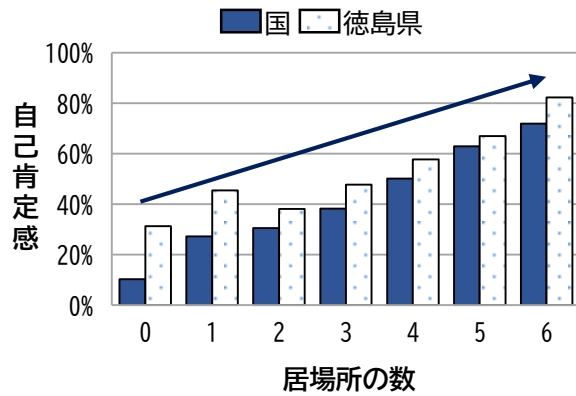
【親子関係】

自分の親（保護者）から愛されていると思う



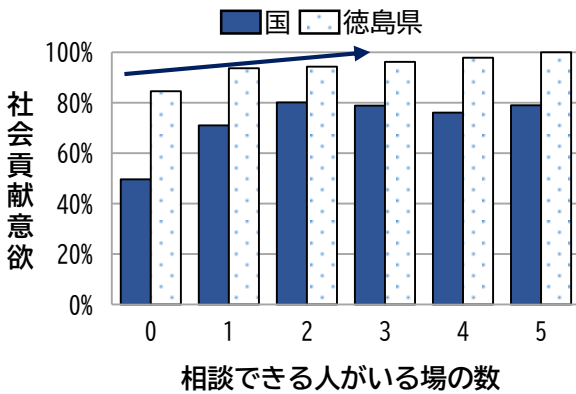
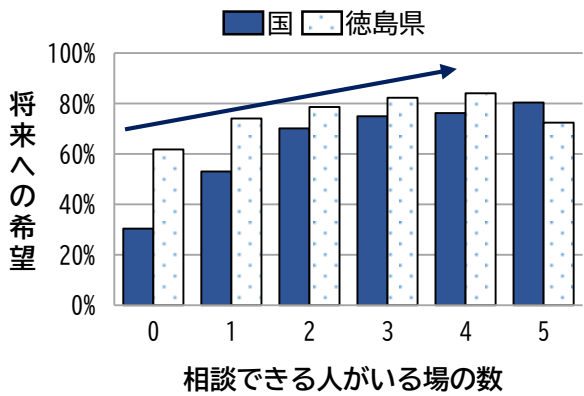
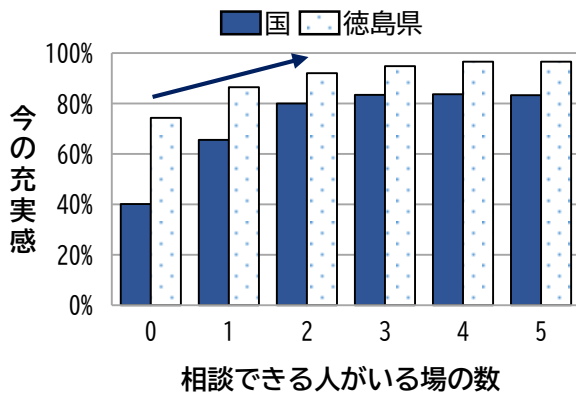
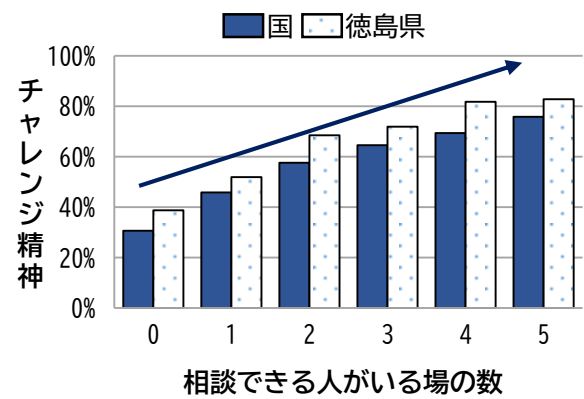
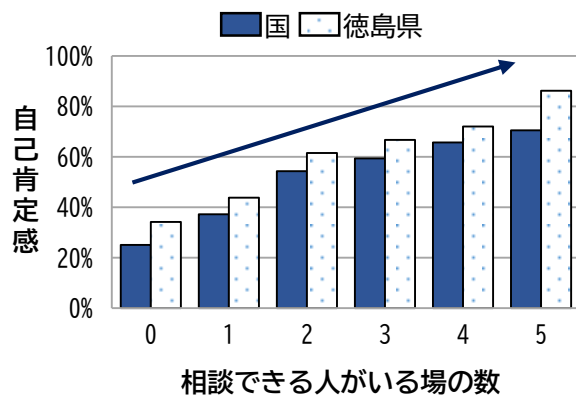
人との関わりについては、【親子関係】は国に比べて19.2%割合が高い。

⑥居場所の数と自己認識の関係



居場所（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、一部項目で国調査ほど顕著ではないものの、徳島県においても概ね相関がみられる。また、「今の充実感」や「社会貢献意欲」では、居場所がない人と、居場所がある人（1人以上の人）で大きな差がみられる。

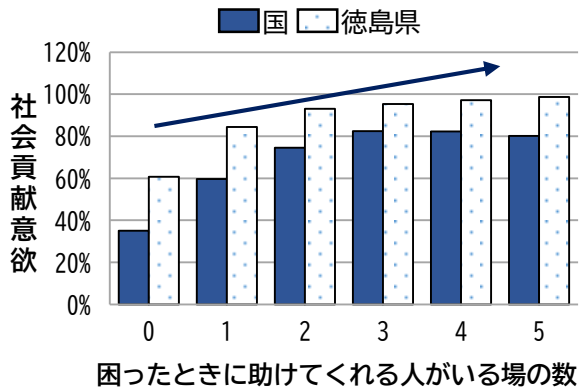
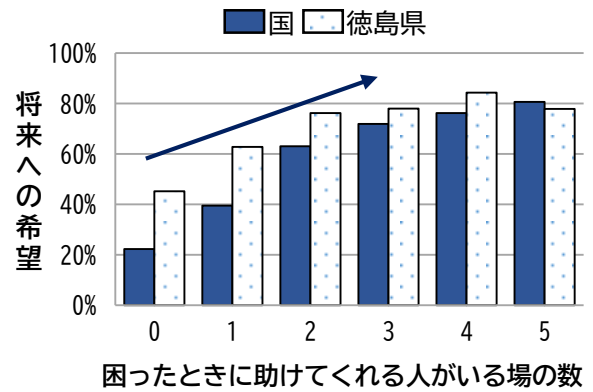
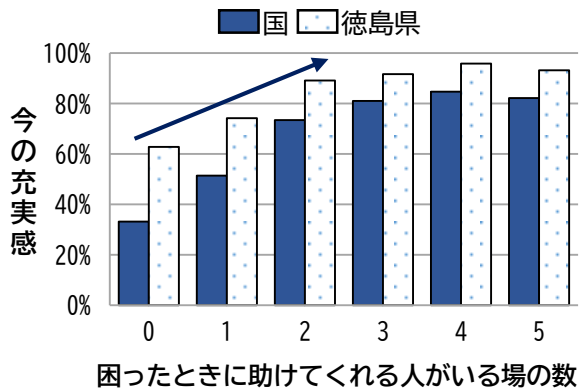
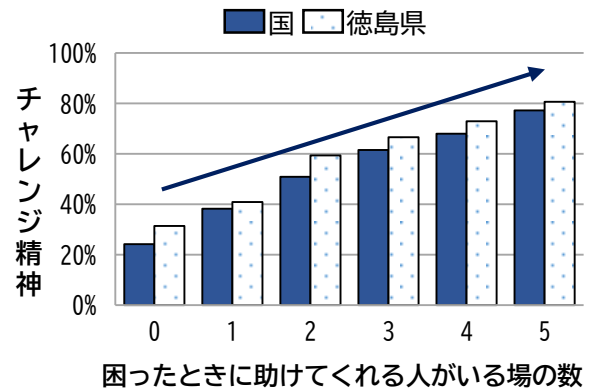
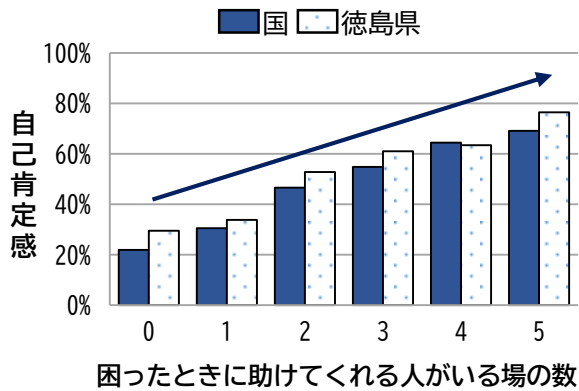
⑦相談できる人がいる場の数と自己認識の関係



相談できる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、国調査と同様、徳島県においても概ね相関がみられる。

Ⅲ 調査の結果

⑧困ったときに助けてくれる人がいる場の数と自己認識の関係



困ったときに助けてくれる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、国調査と同様、徳島県においても概ね相関がみられる。

11. 自由意見

問35. 最後に、県の青少年施策について、ご意見等ありましたら、自由にお書きください。

【成人】

No.	意見内容
1	同じ悩み等を抱える人達が、実際に会って情報交換などを出来る場所を作って欲しいと思います。
2	お金をかけなくても、等しく教育が受けられる県になると良いと思います。児童虐待を早期発見、解決をするために予算を多くとってほしいです。
3	県民が健やかに住めるよう、救急医療をもっと充実させてほしいと思います。県西部は3次救急が弱く、整形対応や脳外、循環器系が特に弱いです。当直をしている医師によって受け入れ率の差があまりにもあります。助かる命が助からないのが県西部の救急の実態です（特に夜間、休日）。
4	この様なアンケートを行うのであれば、県が必ずより良い地域社会の実現を目指してほしいです！
5	学童、保育園等に多くの人を通い、家庭の状況も様々で、もっと色々、臨機応変に対応できる場所も必要だと思います。全ての施設がそうなるべきとは思いませんが、どうしても、夜仕事が遅くなる場合や休みに仕事がある場合など、学童も（働く職員も大変なので）曜日ごと等、職員と預ける側両方が助け合える仕組みになるよう、行政がサポートしてくれればと思います。信用の繋がりでできる小さな学童的な（10～20人ぐらい）施設がたくさんあればいいと思います。
6	言ってしまうと申し訳ないのですが、県の青少年施策とは具体的に何を目標しているのか分かりません。青少年に対して何をしてくれようとしているのか不明だと私は感じます。
7	協調性、思いやりのある人材が必要です。
8	SNS（特にtwitter）の利用について年齢制限を設定した方が良いと思います。不確かな意見や画像が多く、また不特定多数の人と連絡が取りやすい（DMなど）ので危険性を感じます。18才や20才以上の利用に限るなど、ある程度の知識（犯罪や危険性が理解できる、又は学習など学校からの注意・教育がある）が必要だと思います。（実際に使っているのもそう思います）顔をみて、言葉を交わすコミュニケーションは積極的に取り入れた方が良くと思います。
9	私には中学2年生の妹がいるのですが、学校での人間関係に悩み登校することが少し辛いです。ですが勉強には大変意欲的に取り組んでおり、不登校にはなりたくないと言っています。そこで教室に行かずとも、みんなと同じように授業を受けることができる場（ICT技術を活用する等して）ができれば良いなと思います。そうすれば不登校の子や欠席者も同じように授業を受けられますので、タブレット等の導入には色々難しいところはあるとは思いますが、これからの進歩に期待しています。
10	どんな取り組みであるか分かりません。
11	興味がありません。

Ⅲ 調査の結果

12	現在、育児休業中です。復帰後に、育休前と変わらずフルタイムで働くことを考えると憂鬱になります。時短勤務制度の利用も可能ですが、利用すると周囲に迷惑と負担がかかりしわ寄せがいくことが目に見えています。男性や女性がもっと家庭と仕事を両立しやすい職場づくりを推進して頂きたいです。仕事は増えるが減ることがない状況で、時短を取ることは難しいです。コロナ期間中に、紙でのアンケートは大丈夫でしょうか。ネットの方が良かったのでは？
13	社会は不公平ですが、少なくとも子どものうちは平等な対応をしてもらい、そういう点で理不尽なことがないような県にしてほしいです。子どものうちから「どうせ頑張っても」と腐るようなことがないよう、教育の機会は特に平等だと良いと思います。
14	特にありませんが、徳島県として子供がたくさんの職場を見る機会があると、子供の将来がもっとイメージしやすくなると思います。
15	お年寄りに目がむいていますが、これからの徳島を背負っていく子どもに目を向け、お金をかけるべきだと思います。小学校等にもっと予算をつけるべきではないでしょうか。
16	覚悟して結婚しましたが、相手が傷付くと分かっているからお母さん（旦那の）の事で本音が言えず辛いです。
17	独身者同志のイベント、独身の人が生活しやすい環境作りをしてほしいです。
18	個性を認め合える学校や社会になってほしいです。
19	私は大阪出身で4年前に徳島に引越してきました。こちらに来てから知ったのは、徳島には根強い部落差別があるという事です。“差別はいけない”と教育する事が大事だとされているのかもしれませんが、教える事によって知らなくていい事まで知ってしまう危険もあると思います。大阪にもきっと存在するのですが、学校で教わる事がなかったので知らずに生活できていました。なくしたいという思いが本当にあるなら、あえて教育せず知らないままにいる事も大事なかなと思います。
20	お金のことや政治のことなど、大人になって日常生活に必要なことを学ぶ機会が子どもから大人までであると良いと思います。また、もっと日本の文化や伝統を学ぶ機会もあると良いと思います。国際交流をする中でも、自国のことを知っていることは重要だと思います。
21	ありがとうございました。良い方向に進んでいくことを願います。
22	発達障がいの子ども・大人が多い中、もっと暮らしやすく働きやすい環境を作っていくべきだと思います。発達障がいにもっと理解がある世の中になればいいと思います。発達障がいの子どもがいると将来が不安です。時間が自由になる仕事をしないといけなくて、心もお金も満足いきません。
23	中学校や高校で、行事等がなくなったり、部活動において無観客試合になったりと、「やりがい」を感じる機会が奪われすぎていると思います。子ども達のための施策を積極的に行ってほしいです。
24	祖母が1人での生活が困難になったときのことを思い出しました。数年前、祖母を施設に入れようかと考えていたときの事です。一時期、祖母がケガをして生活することが困難になったときにお世話になった施設が良いのではと考えました。そこで施設に直接聞いてみると、部屋が空いているので「いつでも大丈夫」と言ってくださいました。しかし、そこは地域（市？）が運営しているものなので、市役所への申請が必要だと伝

Ⅲ 調査の結果

	えられ、市役所へ申請をしに行きました。そこで、市の役員に「その施設は満員だから、なかなか入ることはできません。それでも申請を希望なら、この書類の必要項目に記入して下さい」と言って、11枚程の書類を渡されました。もう、すでに不快でした。「ウソを平気でつくんだ」と思いました。そして、書類も祖母より上の、私から見ればひい、ひい、ひい、ひい、祖母ぐらいまでの名前を書く家系図？もありました。こんなことを調べてくる人、調べられる人がいるのかと感じました。その時、家族の誰もがバカにされてると思い、くれた書類すべてには記入せず、(調べられず)、市役所に持っていきました。後日記入した書類と、身分証明書を持っていきました。案の定、書類は、中途半端に書いたものは受け取ってもらえませんでした。そして、身分証明書はコピーを取り返却されました。驚くのはここからです。書類については「分かるところまでで良いので、全て記入してきて下さい」と言われました。そして、また後日、記入した書類だけを持っていきました。身分証明書は先日コピーしていたので、一応書類は受け取ってもらいました。しかし、「こちらの書類と一緒に、身分証明書のコピーが必要となりますので、身分証明書をお出し下さい」と、前にコピーを取った同じ男性から言われました。私が一番不信感を募らせた事がこれです。個人情報のコピーした紙を忘れますか？最低です。初めから、私たちのことに関して、手続きをしようとしていなかったという風にしかとれません。そして、やはり祖母のその施設への入居は叶いませんでした。不快な気持ちだけが残りました。何回も足を運ばせ、書類を書かせ、あげくは不信感の残る出来事。もちろん、市役所は優しく対応してくれる方がほとんどだとも知っています。ですが、この出来事だけは理解できませんでした。一番は、個人情報をコピーした紙を紛失した可能性があるということです。お年寄り、またはそのご家族を助けたいのなら、審査をもっと軽くしても良いのではないかと思います。施設に入れようかと考え出した頃の祖母はもう歩けず、一人での生活はできない状態でした。比較的、祖母の家と近い私たちの家ですが、日中は全員仕事に行っているので面倒は見られませんでした。そこで頼った場所だったのに。疲れしました。この出来事を踏まえた上で、今後の施設への対応、活動のことなどを考えていって欲しいです。
25	学生等の青少年の意見や要望を県に提言しやすいように、相談窓口やインターネットを利用した書き込みページを開設し、これまで以上に声をあげやすい環境を作れば、様々な意見を施策に反映しやすくなると思います。
26	すべての元凶は雇用問題だと思います。何故これを無視して解決策を探しているのでしょうか。地方でも大企業の多い地域では非正規でも収入は多いです。徳島は所得が低すぎます。
27	知識や財力の少ない者は情報収集力に欠けるので、せっかくありがたい制度があったとしても利用することができません。知らないので恩恵にあずかれています。困ったときにはこのような支援が受けられる、というようなことを学校で教えてくれるとか、コンビニや駅などあらゆるところでパンフレットを置いてほしいです。昼間だけでなく、夜間も対応してくれる施設があれば良いなと思います。
28	徳島県には住みやすさがありますが、地域の人との繋がりはありません。また、スポーツや文化、イベント等もあまりに情報が少ないです。不登校を経験しましたが、その場合の解決法は、教師が登校を促すことしかありませんでした。他に助けられることはな

Ⅲ 調査の結果

	いのでしょうか。学生の時はあんなに人がたくさんいたのに。兵庫に引越して生活をしようと思っています。
29	県内に就職できるようにしてほしいです。地域で若者が参加できるような様々な活動がほしいです。
30	商業施設・文化やスポーツを気軽に楽しむ施設が少ないです。これといった特色がありません。
31	もう少し個性を重視するような施策を行ってもいいと思います。世の中、出る杭は打たれるというのでは、自分としてはつまらない人間を育成することに繋がっていると思うので。

【青少年】

No.	意見内容
1	とりあえず、飲酒運転をとりしまってください。
2	活気がある県になってください。
3	そもそも学校に来ない引きこもりの人は、このアンケートを受けるのかと疑問に思いました。
4	コロナの予防接種をもっと早くしたいです。
5	教育支援センター（適応指導教室）の数を増やしてください。ネットが普及していじめの発覚率はかなり上がってきているので、対応を考えて欲しいです。学校側のいじめのアンケート的なものをするのであれば、クラスでまとめてアンケートという形式ではなく、ネットでのアンケートにして先生やいじめっ子等に内容がばれない形式でお願いします。自分もかなり苦労してきているので是非お願いします。あと謝罪すれば解決等の考え方はやめて頂きたいです。
6	交通サービスの充実を願います。
7	児童生徒が活動で使えるようなスペース（ホール等）の整備を希望します。GIGAスクールにおける安全に使える機器の整備をお願いします。
8	がんばってください！
9	活力のあるまちづくりを目指して頂きたいです。
10	子供の居場所になるもの、特に中学生、高校生対象も増やしてあげてください。
11	交通の不便さにより時間と金銭の自由が減っています。
12	義務教育にかかる諸経費は全て無償化してほしいです。
13	青少年に関して何かするのであれば、予算を掛けなければ無意味だと思います。とりわけ教育に関する予算を削る時点で、青少年に関するアンケートを取っただけでは無意味です。
14	結婚に関する質問等で、異性愛しか想定されていない点が気になりました。
15	インターネットリテラシーに関する教育はもっと増やした方が良いと思います。ネットの使用層が若年層になった今では、インターネットの本当の恐ろしさを知らずに使用している人も多いと思います。親と一緒に学ぶのも良いかもしれません。

IV 調査票

属性

問ア あなたの年齢をお答えください。※令和3年4月1日現在

満

歳

問イ あなたのお住まいの市町村をご記入ください。

() 市 町 村

問ウ 現在、あなたと同居している人をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 父 | 2 母 |
| 3 きょうだい | 4 祖父母 |
| 5 配偶者 | 6 ご自身のお子さん |
| 7 その他の親族 | 8 同居人はいない（単身世帯） |
| 9 その他（ | ） |

問エ あなたは、現在学校へ行っていますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 学校へ行っている（休学を含む） | ⇒ 問オ ハ |
| 2 学校へ行っていない（卒業・中退を含む） | ⇒ 問カ ハ |

問オ 【問エで「1 学校へ行っている」と回答した方におたずねします。】

あなたが通っている学校は、どんな学校ですか。（1つに○）

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|--------|
| 1 中学校 | 2 高等学校 | 3 中等教育学校 | 4 専門学校 |
| 5 短期大学・高専 | 6 大学・大学院 | 7 その他の学校（ | ） |

問カ 【問エで「2 学校へ行っていない」と回答した方におたずねします。】

あなたの職業をお答えください。（1つに○）

- | | | |
|-------------|-----------|--------------|
| 1 農林漁業 | 2 自営業 | 3 会社役員・経営者 |
| 4 会社員・団体職員 | 5 公務員 | 6 派遣・契約社員 |
| 7 パート・アルバイト | 8 専業主婦・主夫 | 9 無職（退職者も含む） |
| 10 その他（ | | ） |

ご自身について

問1 あなたは、今の生活が充実していると思いますか。あなたの実感をお答えください。
(1つに○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 充実している | 2 どちらかといえば充実している |
| 3 どちらかといえば充実していない | 4 充実していない |

問2 あなたは、どんな悩みや心配なことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1 勉強や進学のこと | 2 就職のこと |
| 3 仕事（アルバイト含む）のこと | 4 家族のこと |
| 5 友だちや仲間のこと | 6 異性のこと |
| 7 結婚のこと | 8 お金のこと |
| 9 性格のこと | 10 容姿のこと |
| 11 政治や社会のこと | 12 健康のこと |
| 13 悩みや心配なことはない | 14 その他（ ） |

問3 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれ1つに○)

項目 \ 選択肢	あてはまる	どちらかといえ あてはまる	どちらかといえ あてはまらない	あてはまらない
1 自分には「自分らしさ」がある	1	2	3	4
2 自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ	1	2	3	4
3 今の自分を変えたい	1	2	3	4
4 将来よりも今の生活を楽しまたい	1	2	3	4
5 努力すれば希望する職業につくことができる	1	2	3	4
6 自分の将来は運やチャンスによって決まる	1	2	3	4
7 人生で起こることは自分に原因があると思う	1	2	3	4
8 他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だ	1	2	3	4
9 今の自分が好きだ	1	2	3	4
10 自分らしさを強調するより、他人と同じことをしているほうが安心だ	1	2	3	4
11 自分の親（保護者）から愛されていると思う	1	2	3	4
12 うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	1	2	3	4
13 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1	2	3	4
14 今の自分自身に満足している	1	2	3	4
15 自分は役に立たないと強く感じる	1	2	3	4

Ⅳ 調査票

問4 次の意見について、あなたはどのように思いますか。（それぞれ1つに○）

項目	選択肢			
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 世の中で大切なのは家庭生活であり、学校や職場や地域での生活より優先するべきである	1	2	3	4
2 世の中で一番価値のあるものはお金である	1	2	3	4
3 世の中は公平ではない	1	2	3	4
4 経済的にめぐまれていなくても、自由に楽しく暮らしたい	1	2	3	4
5 リーダーになって苦労するより、人に従っているほうが楽でよい	1	2	3	4
6 親孝行は、人としてとても大切なことである	1	2	3	4
7 自分のできる範囲で社会や他の人の役に立つことをしたい	1	2	3	4
8 社会にどんどん出ていって経験を増やし、多くの人と知り合いたい	1	2	3	4

問5 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（それぞれ1つに○）

項目	選択肢			
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 自分の部屋	1	2	3	4
2 家庭（実家や親族の家を含む）	1	2	3	4
3 学校（卒業した学校を含む）	1	2	3	4
4 職場（過去の職場を含む） ※働いた経験のある方のみ回答	1	2	3	4
5 地域（現在住んでいる場所やそこにある施設など）	1	2	3	4
6 インターネット空間	1	2	3	4

問6 あなたは、自分の将来について夢や希望を持っていますか。（1つに○）

1 夢や希望がある	2 どちらかといえば夢や希望がある
3 どちらかといえば夢や希望がない	4 夢や希望がない

問7 あなたは、将来結婚したいと思いますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 既に結婚している | 2 結婚したい |
| 3 どちらかといえば結婚したい | 4 どちらかといえば結婚したくない |
| 5 結婚したくない | 6 わからない |

問7-1 【問7で「4 どちらかといえば結婚したくない」「5 結婚したくない」のいずれかと回答した方におたずねします。】

あなたが、「どちらかといえば結婚したくない」、「結婚したくない」と思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1 仕事に打ち込むことができるから | 2 経済的に余裕のある暮らしができるから |
| 3 自分の趣味や娯楽を楽しむことができるから | 4 1人でも不便を感じないから |
| 5 異性とうまくつきあえないから | 6 家族を持つと責任が重くなるから |
| 7 結婚までの道のりが面倒だから | 8 結婚相手の親や親戚とのつきあいが大変だから |
| 9 周囲の人から、結婚や出産、子育ては大変だと聞くことが多いから | |
| 10 その他（ | ） |

家庭・家族について

問8 家族・親族とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれ1つに○）

項目	選択肢			
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
2 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
3 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
4 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
5 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
6 強いつながりを感じている	1	2	3	4
7 新型コロナウイルス感染症の影響で、家族・親族とのかかわりが強くなったと感じている	1	2	3	4

学校生活について

問9 あなたは、学校で勉強するのは何のためだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 自分をみがくため | 2 希望の進路（学校・会社）に進むため |
| 3 将来、自分の能力を社会に役立てるため | 4 生きる力をつけるため |
| 5 保護者が勉強するようにいうから | 6 学校の先生が勉強するようにいうから |
| 7 みんなが勉強しているのだから | 8 わからない、特に理由はない |
| 9 その他（ | ） |

問10 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生等）とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれ1つに○）

選択肢 項目	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
2 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
3 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
4 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
5 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
6 強いつながりを感じている	1	2	3	4
7 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校 で出会った友人とのかかわりが強くなった と感じている	1	2	3	4

地域づくり・地域への愛着について

問11 地域の人※とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれ1つに○）

選択肢 項目	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
2 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
3 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
4 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
5 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
6 強いつながりを感じている	1	2	3	4
7 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域 の人とのかかわりが強くなったと感じている	1	2	3	4

※地域の人：近所や町内会の人、習い事など、同じコミュニティに所属している人や、ボランティア活動などと一緒にいる人など。

問12 新型コロナウイルス感染症流行以前（2020年2月以前）の地域・社会活動※への参加頻度はどのくらいですか。（1つに○）

- 1 週に1回以上参加
2 月に1回程度参加
3 年に数回程度参加
4 年に1回程度参加
5 参加していない

※地域・社会活動：地域の祭り、ボランティア活動、文化・スポーツ等の団体活動 等の活動のこと。

問13 新型コロナウイルス感染症流行以降（2020年3月以降）の地域・社会活動への参加頻度はどのくらいですか。（1つに○）

- | | |
|------------|------------|
| 1 週に1回以上参加 | 2 月に1回程度参加 |
| 3 年に数回程度参加 | 4 年に1回程度参加 |
| 5 参加していない | |

問14 【問12、13のいずれかで「1～4（参加している）」と回答した方におたずねします。】

あなたが、最近2年ぐらいの間に、参加したり、行ったりした活動をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 地域のお祭りや運動会などのイベントへの参加（見物は除く）
- 2 地域の掃除や美化活動
- 3 自主防災活動や災害援助活動
- 4 ボランティア活動
- 5 チャリティバザー、募金活動（お金を寄付するだけは除く）
- 6 仲間が集まって行う文化・スポーツ、教養などの団体活動
- 7 子ども会、スポーツ少年団などの指導や世話
- 8 国際交流に関する活動
- 9 交通安全、青少年健全育成などの活動
- 10 その他（

問15 【問12で「5 参加していない」と回答した方におたずねします。】

あなたが地域・社会参加活動に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 活動の時間がないから 2 活動の情報がないから
3 自分がやりたい活動がないから 4 団体等にしばられたくないから
5 活動するのが面倒だから 6 興味・関心がないから
7 その他（ ）

問16 【問13で「5 参加していない」と回答した方におたずねします。】

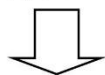
あなたが地域・社会参加活動に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 活動の時間がないから | 2 活動の情報がないから |
| 3 自分がやりたい活動がないから | 4 団体等にしばられたくないから |
| 5 活動するのが面倒だから | 6 興味・関心がないから |
| 7 新型コロナウイルス感染症の影響 | 8 その他（ ） |

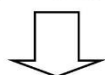
問17 あなたは、今住んでいる市や町や村が好きですか。（1つに○）

- 1 好き 2 まあ好き 3 あまり好きではない 4 きらい

問17ー1 その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



1または2を選んだ方



3または4を選んだ方

- 1 暮らしやすいから
- 2 自然が豊かであるから
- 3 町に活気があるから
- 4 地域の人々との関わりが多いから
- 5 地域活動が活発だから
- 6 食べ物がおいしいから
- 7 文化やスポーツを楽しむ場所が多いから
- 8 生まれ育った場所だから
- 9 その他（ ）

- 1 暮らしにくいから
- 2 自然が少ないから
- 3 町に活気がないから
- 4 地域の人々との関わりが少ないから
- 5 地域活動が活発ではないから
- 6 食べ物がおいしくないから
- 7 文化やスポーツを楽しむ場所が少ないから
- 8 引越し等で来て、なじみがないから
- 9 その他（ ）

問18 あなたは、将来も今の地域に住んでいたいと思いますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 住んでいたい | 2 どちらかといえば住んでいたい |
| 3 どちらかといえば移りたい | 4 移りたい |
| 5 移る予定があるが将来的には戻ってきたい | 6 わからない |

問19 あなたは、徳島県が将来どのような県になってほしいと思いますか。（主なもの3つに○）

- 1 文化・芸術活動やスポーツ等、趣味を楽しみ元気に暮らせる県
- 2 産業が盛んで誰もがいきいきと働ける、活力や賑わいのある県
- 3 水素エネルギー・自然エネルギー等の活用が進んだ、環境にやさしい県
- 4 犯罪などが少ない、安心・安全な県
- 5 防災・減災対策が進んだ、災害に強い県
- 6 道路や鉄道などの交通が整備された県
- 7 誰もが優しくいたわり合い、支え合える県
- 8 多様な生き方を認めあい、誰もが生きがいをもって暮らせる県
- 9 子どもやその家族への支援が充実した、子育てのしやすい県
- 10 福祉や医療サービスが充実し、安心して暮らせる県
- 11 空気や水がきれいでおいしい食材にも恵まれた、自然が豊かな県
- 12 ICTの活用など、学習環境のととのった県
- 13 その他（ ）

国際交流について

問20 あなたは、新型コロナウイルス感染症流行以前の1年間（2019年1月～2019年12月）に外国人と交流したことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 外国人と話したことがある
- 2 外国へ電話やメールをしたことがある
- 3 外国へ行ったことがある
- 4 外国に留学やホームステイをしたことがある
- 5 外国人を家に招いたり、留学生を受け入れたことがある
- 6 外国人と交流するイベントに参加したことがある
- 7 外国人と交流したことはない
- 8 その他（ ）

問21 あなたは、国際交流についてどう思いますか。(主なもの2つに○)

- 1 外国人と友達になりたい
- 2 外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい
- 3 外国に留学やホームステイをするなど外国で暮らしてみたい
- 4 外国人を家に招いたり、留学生を受け入れたりなど、一緒に暮らしてみたい
- 5 外国人と交流するイベントに参加したい
- 6 外国語をもっと勉強したい
- 7 外国の歴史や文化、政治、経済などについて、もっと知りたい
- 8 将来、国際的な仕事をしてみたい
- 9 特に興味はない・わからない
- 10 その他（ ）

就労への意識について

問22 あなたは、仕事を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。（主なもの3つに○）

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 やりがい | 2 自分の夢 |
| 3 家庭生活との両立 | 4 仕事の内容 |
| 5 収入 | 6 職場の雰囲気 |
| 7 専門的な知識や技術を活かせること | 8 仕事の社会的貢献度 |
| 9 将来性 | 10 安定性 |
| 11 通勤のしやすさ | 12 わからない |
| 13 その他（ ） | |

問23 あなたは、将来したい仕事やつきたい職業がありますか。（主なものを3つに○）

1 医療関係の職業	（例：医師、薬剤師、看護師、歯科医師）
2 教育関係の職業	（例：教員、保育士、塾講師、家庭教師）
3 文化・スポーツ関係の職業	（例：芸術家、俳優、スポーツ選手、ライター）
4 農林漁業関係の職業	（例：農業・林業・漁業自営、協同組合職員）
5 国際関係の職業	（例：通訳、翻訳家、外交官）
6 IT関係の職業	（例：エンジニア、プログラマー、Web デザイナー）
7 工業関係の職業	（例：大工、電気工、ペンキ工）
8 販売関係の職業	（例：小売店・卸売店等の店員）
9 サービス関係の職業	（例：飲食店の店員、美容師、客室乗務員）
10 上記以外の公務員	（例：自衛官、警察官、消防士、国・自治体職員）
11 上記以外の会社員	（例：事務職、営業職、管理職）
12 特になし、現在の職業に満足している	
13 その他（	）

問24 働いた経験のある方（パート・アルバイト含む）におたずねします。

職場・アルバイト関係の人（現在・過去含む）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれ1つに○）

項目	選択肢			
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
2 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
3 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
4 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
5 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
6 強いつながりを感じている	1	2	3	4
7 新型コロナウイルス感染症の影響で、職場・ アルバイト関係の人とのかかわりが強く なったと感じている	1	2	3	4

インターネットについて

問25 インターネット上における人やコミュニティとあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれ1つに○)

項目 \ 選択肢	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう思わない
1 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
2 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
3 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
4 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
5 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
6 強いつながりを感じている	1	2	3	4
7 新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネット上における人やコミュニティとのかかわりが強くなったと感じている	1	2	3	4

問26 あなたは、SNS等のネット上での誹謗中傷やいじめを見聞きしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1 経験したことがある	2 周囲の人が被害にあったことがある
3 ニュース等で見聞きしたことがある	4 見聞きしたことはない

問27 あなたは、インターネットの危険性(青少年に不適切なサイト、ネットいじめの問題等)について、これまで説明を受けたり学んだりしたことがありますか。(1つに○)

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

問28 あなたは、インターネットの危険性に関する学習について、どのような内容・形式で行われるのが良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 インターネットに関するトラブルについて、実例を紹介してほしい
- 2 インターネットに関するトラブルについて、対策を紹介してほしい
- 3 短時間で説明してほしい
- 4 時間をかけて説明してほしい
- 5 映像教材の視聴形式が良い
- 6 質問が可能な講義形式が良い
- 7 後でいつでも読める資料配布形式が良い
- 8 スマートフォンを活用したり、グループ討論を取り入れるなどの参加型形式が良い
- 9 その他（ ）

青少年の健全育成について

問29 あなたの世代の特徴について、あなたはどのように思いますか。（それぞれ1つに○）

項目	選択肢	1	2	3	4
	そう思う				
1 思いやりがある		1	2	3	4
2 意欲的である		1	2	3	4
3 夢がある		1	2	3	4
4 責任感がある		1	2	3	4
5 個性がある		1	2	3	4
6 忍耐力がある		1	2	3	4
7 自立心がある		1	2	3	4
8 社会に関心がある		1	2	3	4
9 誠実である		1	2	3	4

問30 あなたは、どのような活動に興味がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 新しいことを学ぶ活動
- 2 芸術・音楽活動
- 3 ボランティア活動
- 4 意見発表や討論活動
- 5 異なる世代の人との交流活動
- 6 県外（又は海外）の青少年との交流活動
- 7 物事の決定に参加できる活動（例：県の審議会に委員として参画する等）
- 8 わからない
- 9 その他（ ）

中学生・高校生の方 → 質問は以上です。

ご協力いただき、ありがとうございました。

中学生・高校生以外の方 → 問31にお進みください。

生きづらさについて

問31 あなたの現在（今の仕事・学校になってから）の外出頻度と、過去（中学生・高校生の頃）の外出頻度はどれくらいですか。下記の欄に それぞれ番号を1つずつ ご記入ください。

- 1 仕事や学校で、平日は毎日外出する
- 2 仕事や学校で、週に3～4日外出する
- 3 遊び等で、頻繁に外出する
- 4 人づきあいのために、ときどき外出する
- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室から、ほとんど出ない

現在		過去	
----	--	----	--

現在・過去、いずれも1～4と回答した方 → 問34（P.15）にお進みください。

現在・過去、いずれかで5～8と回答した方 → 問32（次ページ）にお進みください。

問32 現在（過去）の一方に5～8に該当した方は、下記の現在（過去）の欄に、あてはまる数値をご記入ください。現在と過去のどちらとも5～8に該当した方は、下記の現在と過去の欄どちらとも、あてはまる数値をご記入ください。

※過去の状態が現在まで継続している場合には、現在と過去の欄に同じ数字をご記入ください。

ア：現在あるいは過去の状態になったのは、あなたが何歳のころですか。

現在	歳のころ	過去	歳のころ
----	------	----	------

イ：現在の状態となってどのくらい経ちますか。あるいは、過去の状態はどれくらい続きましたか。

1 6ヶ月未満	2 6ヶ月～1 年未満	3 1 年～3 年未満
4 3 年～5 年未満	5 5 年～7 年未満	6 7 年以上
現在		過去

ウ：現在あるいは過去の状態になったきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてを記入）

1 不登校	2 学校になじめなかった
3 受験に失敗した	4 就職活動がうまくいかなかった
5 職場になじめなかった	6 友人関係がうまくいかなかった
7 家族関係がうまくいかなかった	8 病気になった
9 新型コロナウイルス感染症流行の影響	10 その他

現在		過去	
----	--	----	--

エ：現在あるいは過去の状態について、関係機関に相談したことはありますか。

1 ある				2 ない			
現在				過去			

オ：前問エで、「1 ある」と回答した方におたずねします。相談機関に相談した結果について、どのように感じましたか。ご自由にお書きください。

カ：子ども・若者を対象とした育成支援機関等について、知っているものをお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 教育支援センター（適応指導教室）
- 2 教育相談所・相談室
- 3 児童相談所や福祉事務所などの児童福祉機関
- 4 職業安定所（ハローワーク）、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関
- 5 保健所、保健センター
- 6 精神保健福祉センター
- 7 病院、診療所
- 8 発達障がい者総合支援センター
- 9 ひきこもり地域支援センター
- 10 子ども・若者総合相談センター
- 11 民間施設（フリースクールなど）
- 12 上記以外の心理相談、カウンセリングなどをする民間の機関
- 13 その他の施設・機関（具体的に： _____ ）

また、前問エで「1 ある」と回答した方は、相談した機関を上記選択肢（1～13）からお答えください。（あてはまるものすべてを記入）

現在		過去	
----	--	----	--

キ：【問31で、過去5～8・現在1～4と回答した方におたずねします。】

過去の5～8の状態から、1～4の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思いますか。
ご自由にお書きください。

問33 【問31で、現在5～8の状態と回答した方におたずねします。】

ア：現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。（1つに○）

- | | | | |
|------|--------|-----------|--------|
| 1 思う | 2 やや思う | 3 あまり思わない | 4 思わない |
|------|--------|-----------|--------|

イ：現在の状態について関係機関に相談するとすれば、どのような機関になら、相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 親身に聴いてくれる | 2 精神科医から医学的な助言がもらえる |
| 3 心理学の専門家がいる | 4 同じ悩みを持つ人と出会える |
| 5 無料で相談できる | 6 匿名（自分の名前を知られずに）で相談できる |
| 7 自宅に専門家が来てくれる | 8 自宅から近い |
| 9 公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体（NPO など）である | |
| 10 どこかに相談したいと思うが、方法や機関が思い浮かばない | |
| 11 どのような機関にも相談したくない | |
| 12 その他（ ） | |

ウ：【イで、「11 どのような機関にも相談したくない」に○をつけた方におたずねします。】
相談したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 自分のことを知られたくない | 2 相談しても解決できないと思う |
| 3 何をきかれるか不安に思う | 4 相手にうまく話せないと思う |
| 5 行ったことを人に知られたくない | 6 お金がかかると思う |
| 7 相談機関が近くにない | 8 特に理由はない |

問34 あなたは、どのような時に社会の格差を感じますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|----------|
| 1 進学 | 2 就職 |
| 3 結婚 | 4 子育て |
| 5 格差を感じることはない | 6 その他（ ） |

ご意見・ご要望

問35 最後に、県の青少年施策について、ご意見等ありましたら、自由にお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。